佐賀県文化財調査報告書第45集

牟田辻・中野遺跡

昭和54年3月31日

佐賀県教育委員会

はじめに

この調査報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、昭和53年度国庫補助金を得て実施した埋蔵文化財発掘調査のうち、唐津市の牟田辻遺跡と、鎮西町の中野遺跡の記録であります。

牟田辻遺跡では、縄文時代早期から前期にかけての土器類や石器類などの遺物で約14,000点が出土し、層位的に把握することができました。中野遺跡は、縄文時代晩期から弥生時代前期にかける住居址で、ともに学術的に貴重なものであります。この報告書が考古学研究の一助として広く活用されることを期待します。

なお、両調査に御協力いただいた文化庁、九州農政局上場農業水利事業所、県農林部をはじめ上場開発推進対策室その他の関係機関の御協力に対し感謝申し上げます。

昭和54年3月20日

佐賀県教育委員会
教育長　古　藤　　浩

総　も　く　じ

第Ⅰ部　　牟田辻遺跡……1

第Ⅱ部　　中野遺跡……73

第　I　部

牟田辻遺跡

═唐津市枝去木矢倉═

もくじ

1．発掘調査の経過……1
(1)　発掘調査団……1
(2)　発掘調査の経過……1
(3)　発掘調査日誌抄……2
2．牟田辻遺跡の位置と環境……3
(1)　地理的環境……3
(2)　歴史的環境……5
3．牟田辻遺跡の遺構と遺物……5
(1)　牟田辻遺跡の遺構……5
①　牟田辻遺跡の土層……5
②　牟田辻遺跡の遺構……5
1）炉　址……5
2）不定形土壙……6
(2)　牟田辻遺跡の遺物の分布……6
(3)　牟田辻遺跡の遺物……16
1）土　器……16
2）石　器……27
①　石　鏃……27
②　スクレーパー……28
③　石　斧……32
④　尖頭状石器……32
⑤　砥　石……33
⑥　磨石、敲石、凹石……33
⑦　石　皿……36
⑧　石　核……38
⑨　石　塊……39
4．おわりに……50

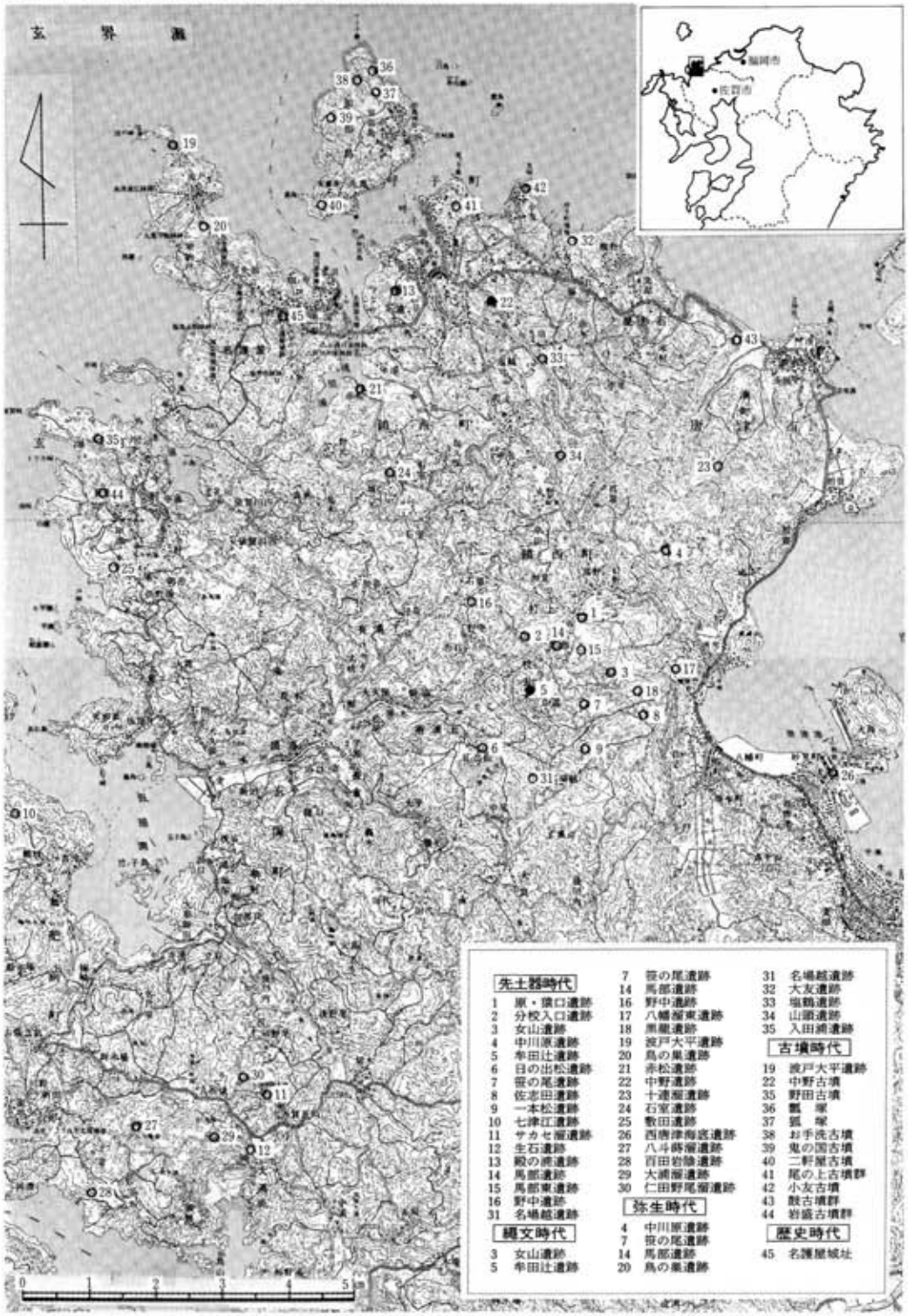
挿　図　も　く　じ

第１図　上場地区北部の地勢と遺跡の分布図……
第２図　牟田辻遺跡の地形と発掘地点……4
第３図　Ｓ区北壁の土層実測図……5
第４図　炉址実測図……6
第５図　土壙実測図……6
第６－１図　Ⅱ上層遺物分布図……7～8
第６－２図　Ⅱ下層遺物分布図……9～10
第６－３図　Ⅲ上層遺物分布図……11～12
第６－４図　Ⅲ下層遺物分布図……13～14
第７図　出土遺物組成一覧……15
第８図　A13・14ユニット遺物分布図……15
第９図　土器片層位別出土数一覧……16
第10－１図　牟田辻出土土器実測図・拓影図……19
第10－２図　牟田辻出土土器実測図・拓影図……20
第10－３図　牟田辻出土土器実測図・拓影図……21
第10－４図　牟田辻出土土器実測図・拓影図……22
第11図　石鏃計測一覧……23～26
第12図　石鏃形態分類一覧……27
第13図　スクレーパー一覧……29
第14図　磨石・敲石・凹石一覧……34
第15図　石核一覧……36～37
第16－１図　石鏃実測図……40
第16－２図　スクレーパー実測図①……41
第16－２図　スクレーパー実測図②……42
第16－３図　スクレーパー③（上段）・尖頭状石器（中段）・石斧（下段）実測図……43
第16－３図　砥石①実測図……44
第16－３図　砥石②石皿実測図……45
第16－４図　磨石・敲石・凹石実測図①……46
第16－４図　磨石・敲石・凹石実測図②……47
第16－４図　磨石・敲石・凹石実測図③……48
第16－５図　石核実測図……49

図　版　も　く　じ

図版１　牟田辻遺跡周辺の航空写真……52
図版２－１　遺跡の遠望……53
図版２－２　第一次発掘調査区……53
図版３－１　牟田辻遺跡の土層……54
図版３－２　遺物出土状況　(1)……54
図版４－１　遺物出土状況　(2)……55
図版４－２　遺物出土状況　(3)……55
図版５－１　遺物出土状況Ａ13・14ユニット　(4)……56
図版５－２　炉　　址……56
図版６－１　土器出土状況　(1)……57
図版６－２　土器出土状況　(2)……57
図版７－１　土器出土状況　(3)……58
図版７－２　石皿出土状況　(4)……58
図版８－１　発掘風景……59
図版８－２　土　　器　(1)……59
図版９－１　土　　器　(2)……60
図版９－２　土　　器　(3)……60
図版10－１　土　　器　(4)……61
図版10－２　土　　器　(5)……61
図版11－１　土　　器　(6)……62
図版11－２　石　　鏃　(1)……62
図版12－１　石　　鏃　(2)……63
図版12－２　石　　鏃　(3)……63
図版13－１　石　　鏃　(4)……64
図版13－２　スクレーパー　(1)……64
図版14－１　スクレーパー　(2)……65
図版14－２　スクレーパー　(3)……65
図版15－１　スクレーパー　(4)……66
図版15－２　石　　斧……66
図版16－１　尖頭状石器……67
図版16－２　砥　　石　(1)……67
図版17－１　砥　　石　(2)……68
図版17－２　磨石・敲石・凹石　(1)……68
図版18－１　磨石・敲石・凹石　(2)……69
図版18－２　磨石・敲石・凹石　(3)……69
図版19－１　石　　皿……70
図版19－２　石　　核　(1)……70
図版20－１　石　　核　(2)……71
図版20－２　石　　核　(3)……71

第１図　上場地区北部の地勢と遺跡の分布図



１．発掘調査の経過

上場地区では、農林省による上場水利事業と、県農林部による上場地区土地改良事業に伴う、農地造成、農地区画整理、農道新設、ダム工事等が数年前から実施されてきている。この工事に先だって、埋蔵文化財保護の見地から、52年９月に事業区内の踏査を行ない、その結果翌53年１月に遺跡確認のための予備調査を実施した。その結果、発掘調査を〈第一次〉８月22日より10月12日まで、〈第２次〉11月22日より12月９日にわたって行なった。地番は、唐津市枝去木大字矢倉909の13～909の19番地である。

(1) 発掘調査団

担　　当　佐賀県教育委員会
事 務 局　佐賀県教育庁文化課
調査主任　木下　　巧　県教育庁文化課文化財調査第二係長
調 査 員　堀川　義英　県教育庁文化課文化財調査第二係
　　七田　忠昭　県教育庁文化課文化財調査第二係
調査補助　田島　龍太　県教育庁文化課文化財調査第二係補助員
協　　力　富樹　憲次氏、唐津市教育委員会、唐津市開発課、九州農政局上場農業水利事業所、枝去木地区地元有志他

(2) 発掘調査の経過

国営事業「枝去木50団地」の事業区8.50haの踏査を昭和53年９月５日に実施し、２地点で遺物分布地を確認し、グレイバー、石鏃、スクレイパー、フレイク等の石器62点の遺物を採集した。

この結果、翌53年１月30日より２月６日まで範囲・遺跡包含層確認の発掘調査を実施した。グリッドは、２ｍ四方の４㎡マスを基準単位として設定し、28ヵ所の調査を行った。この結果、事業区の北端丘陵部に南北60ｍ東西30ｍにわたった２枚の遺物包含層を確認した。他の地区のほとんどは、上場典型の耕作土層の下は玄武岩の風化礫混層（基盤）が多く、包含層や遺構は確認できなかった。

本調査は、53年８月22日より実施した。従来からこの地区では、ナイフ形石器、台形石器等先土器時代の遺物も表採されているが、先土器時代の文化層は確認できなかった。縄文時代早期から前期にかけての遺物が、２層から３層にかけて出土した。２・３層とも土層情況が良好であったので、各々上下層に分けて調査した。第一次は10月12日まで行なったが、甘藷畑は第二次として、11月22日より12月９日まで実施した。二次で調査した区域はＴ７～９からＦ７～

10のグリッドである。一・二次を通して住居址の竪穴遺構や柱穴遺構は検出できなかったが、II層の上・下層、III層の上・下層から約12,600点（表土層より約1,300点）の石器・土器片が出土した。

(3) 発掘調査日誌抄

8月21日　器材搬入

8月22日　第一次調査開始。グリッドを設定し、V10からV17区の表土排除作業。II上層遺構検出掘り。V10区からの出土多し。

8月23日　南北へU区、W区を拡張する。II上層より、石鏃、砥石等出土。

8月27日　S・T（10～17）区の表土を排除しII上層の遺構検出掘り。II上層を剝ぐ。

8月30日　UVW区III上層の遺物出土状況の写真撮影を行なう。遺物取り上げ。Q・R（10～17）区の草刈り、表土排除作業。

9月1日　ST区のII上層の二回目掘り開始。

9月7日　UVW区のIII下層の一回目掘り。ST区のII下層を下げる。

9月9日　S区、QR区を西側へ拡張し、（S5～S9区）表土剝ぎ作業。W区III下層よりMブレイド等出土。

9月12日　O・P（5～9）区の表土排除を始める。

9月13日　UV区III最下層を下げる。Q12区II上層より、条痕文・無文の土器片出土。

9月18日　OP区のII下層になると出土とても少なし。基盤の風化礫層になる。

9月20日　Z～D（10～15）区の表土排除作業。

9月22日　LMNトレンチのII上層を下げる。炉址の実測。

9月25日　XY区III最下層出土多し。石鏃・刃器状剝片、剝片等出土。

9月27日　S区北壁土層断面実測。遺跡周辺の湧水地点調査。

9月30日　Z～D区のII下層、XY区III下層を下げる。

10月3日　Y区南壁土層断面実測。

10月6日　Z～A区のII下層の写真撮影、実測を行ない遺物取り上げ。出土遺物数1万点を越える。

10月7日　A（12・13）区、II上・下層のユニット確認。

10月9日　A区III上層より有茎尖頭器出土。

10月12日　E区南壁土層断面実測。写真撮影、平板・レベル測量終了。

11月22日　第二次調査開始、T～E（7～9）区のグリッドを設定し、表土排除作業。

11月24日　II上層の遺構検出掘り。

11月27日　II上層を下げる（一回目）。

11月28日　Ⅱ上層のユニット確認。平面・レベル実測。

11月29日　Ⅱ上層の２回目を下げる。

12月１日　Ⅱ上層２回目掘り終了。

12月６日　Ⅲ上層の遺構検出掘り。

12月７日　Ｆ（７～10）区を拡張する。

12月８日　Ⅲ下層のＵ８ユニット、Ｘ９ユニットを確認。

12月９日　土層断面図作製。写真撮影、調査完了。器材搬出。

12月10日より遺物整理作業。

２月８日より報告書執筆、編集作業。

２．牟田辻遺跡の位置と環境

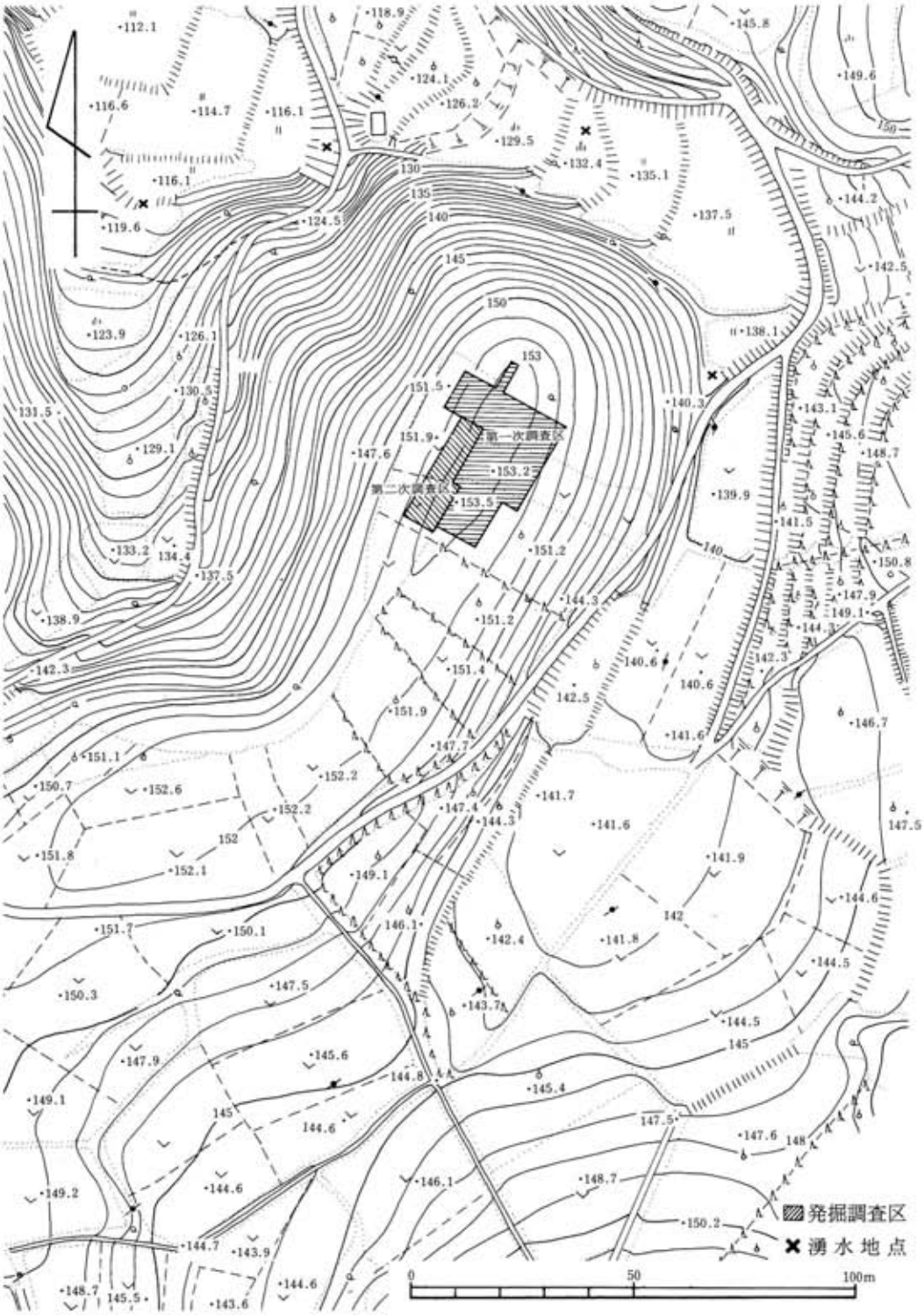
(1)　地理的環境

佐賀県の北西部に、玄海灘にむかって突き出したように位置している半島が東松浦半島である。この半島の北端から壱岐、対馬を経て、朝鮮半島・大陸につながるルートは、最も近距離であり、古くから往来も開けていたものと推察される。この東松浦半島は通称上場台地と呼ばれ、行政上は１市（唐津市）４町（呼子、鎮西、玄海、肥前）に分かれているが、交通、産業、文化的には、一体化している。上場地方は佐賀県のチベットと俗称され文化的・産業的にもとり残されてきたが、近年になって国鉄呼子線の敷設、上場開発水利事業、県営畑総などの事業で急ピッチに開発の波がおしよせている。

上場台地を地質的にみると、玄武岩が広く面状に噴出して、第三紀層を覆った平坦な台地であり、この玄武岩山地が浸蝕をうけて細長い谷ができた頃地盤が沈降して、現在みられるような複雑な海岸線があらわれたとされている。つまり湾入部が古い谷で、岬や島はその峰にあたっていた場所であるといえる。上場台地上の高い地点は、石高山の 262 ｍを最高に、野高山の260ｍ、熊の峯の228ｍなどがあげられるが、約 200 ｍラインの広い準平原状の高原が波状的に広がっている卓状台地といえる。

牟田辻遺跡は、この上場台地のほぼ中央部にある。半島東側の唐津湾に注ぐ浦川と半島西側の仮屋湾に注ぐ有浦川の分水嶺は遺跡の近くにある。遺跡は153.5ｍの丘陵の峯部にあり、周辺では最も高い位置に属する。丘陵は比高10～20ｍで、東、北、西は急斜して水田に至り、南方部はなだらかなスロープを画き、畑地が開けている。近隣には、丘陵縁端部に湧水地点が４ヵ所（冬季調査）あり、これらの湧水が約300ｍ西方で用水路を作り、有浦川の支流である上村川にと流れる。付近の水田は早期米が多く、畑地では甘藷、タバコ、牧草、白菜、麦、みかん等が栽培されている。

第２図　牟田辻遺跡の地形と発掘地点



(2) 歴史的環境

大陸に近い『上場台地』は、その歴史も古い。牟田辻周辺には先土器時代から縄文時代の遺跡が多い。先土器時代の遺跡として、原・猿口、分校入口、女山、笹の尾、馬部、馬部東、五反田、名場越、佐志田、日の出松、一本松、野中、縄文時代早期の遺跡として、笹の尾、馬部、野中、吉田、前期に八幡溜東、笹の尾、中期になると、女山、黒龍、晩期には黒龍、女山、八幡溜西、笹の尾等の遺跡があげられる。弥生時代にはいり、稲作農業が普及してくると、下場の唐津、北波多平野に生活の場は移っていったと推察され、遺跡の数は減る。中期から後期にかけて、笹の尾、馬部、名場越、加倉、西川、中川原遺跡等に遺物の分布がある。しかしまだ十分な調査は行なわれていない。

古墳時代になってもひき続き海岸線地帯が主な生活の舞台であったと思われ、古墳や集落遺跡等は、半島周縁部に片寄っている。

3．牟田辻遺跡の遺構と遺物

(1) 牟田辻遺跡の遺構

① 牟田辻遺跡の土層　（第3図）

上場台地の土層で一般的にいえることは、基盤である玄武岩質安山岩の風化土壌のローム層が薄く、従って表土からすぐ基盤に達する場所が多いということである。台地土の畑地では安山岩の風化礫が耕土の中に夥しくみられる所が多い。この風化土壌土層が遺物包含文化層といえよう。

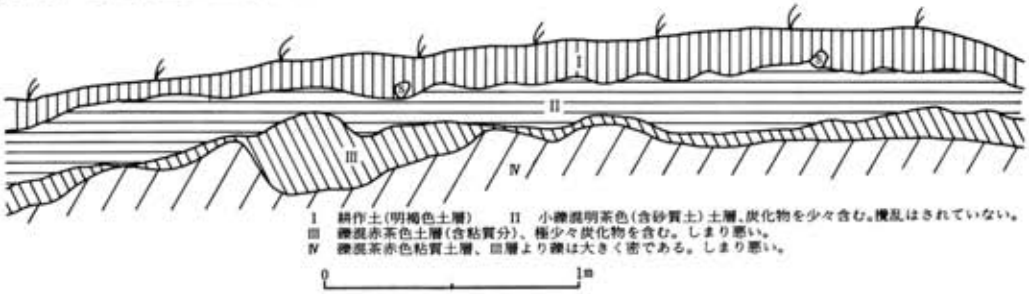
牟田辻遺跡の周辺でもこの傾向はみられ、遺物包含層であるローム質の土層が薄い。牟田辻遺跡の一般的な土層を第3図に示した。

② 牟田辻遺跡の遺構

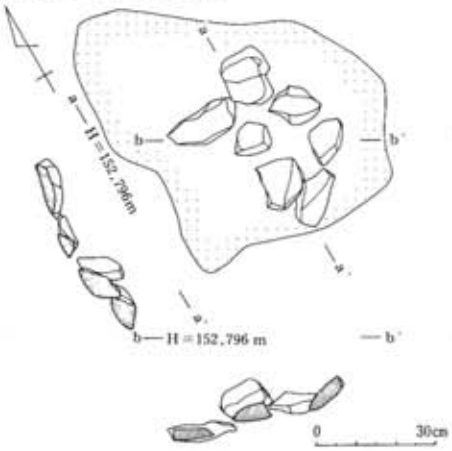
1）炉　址（第4図）

住居址や柱穴等の遺構は、確認されなかったが、S10区の第Ⅲ下層において炉址と思われる石組が検出された。S10区は、遺跡のある丘陵の峯部である。石組は、玄武岩の風化礫を7個

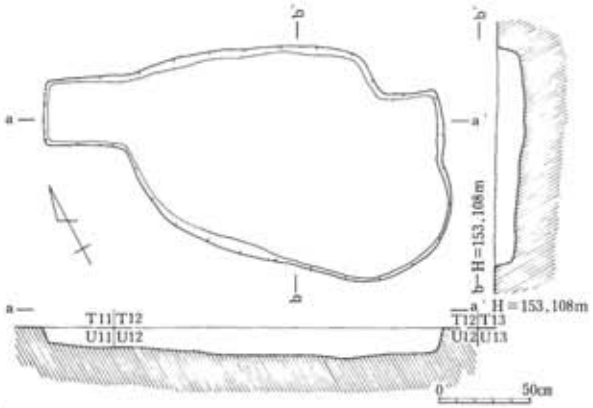
第3図　S区北壁の土層実測図



第4図　炉址実測図



第5図　土壙実測図



使用し、半皿状を呈する。4個の石が、平坦面を内側にむけ壁をなすように径50cmの半円状に並び、その底部を作るように3個の平石が据えてある。自然礫は、長径10cmから19cmのもので礫面は加熱によるものか赤茶色を呈している。この石組を囲むように、65cmから80cmの範囲内に炭化物細片が散布している。

2）不定形土壙（第5図）

T11・12区のII上層に不定形土壙が検出された。土壙は、東西約220cm、南北約130cmで、深さは8cmから17cmと平面状を呈する。覆土は、明茶褐色土で全体に炭化物小片が多く確認された。

(2)　牟田辻遺跡の遺物の分布（第6図）

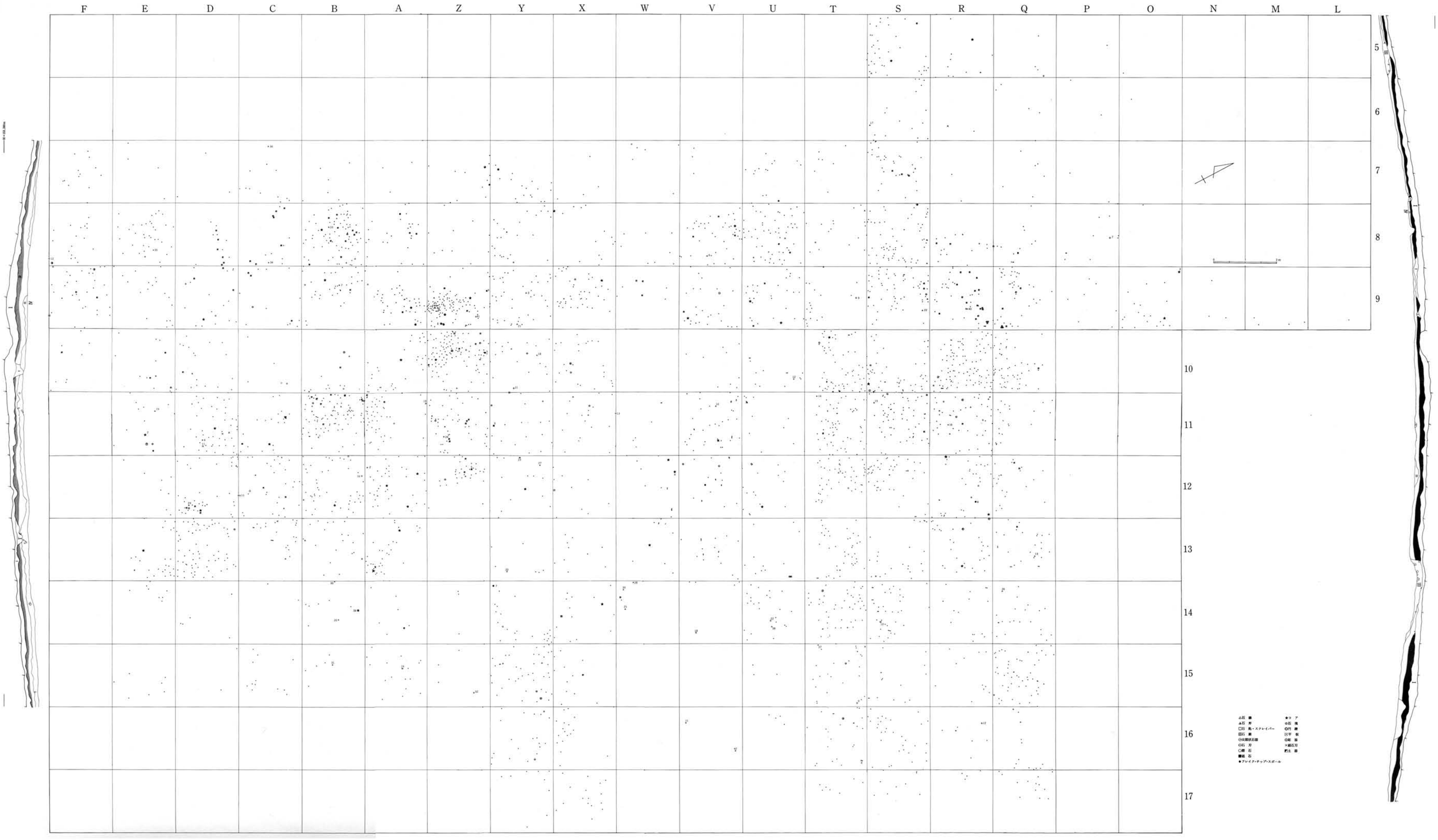
遺物はII層からIII層に包含されている。遺物包含層が浅い所もあるが深い所もあって、同じ層位であっても最上層と最下層に集中している例もあるので、各々上層と下層に分けて調査した。出土した遺物の組成一覧は第7図の通りである。

総遺物数は14,018点にも及んだ。内訳は、II上層より4,029点で全体の28.7%、II下層より4,920点で全体の35.2%、III上層より2,611点で全体の18.6%、III下層より1,163点で全体の8.3%が出土し、表土層から1,295点で全体の9.2%が出土した。即ち約64%がII層より、約27%がIII層より出土している。

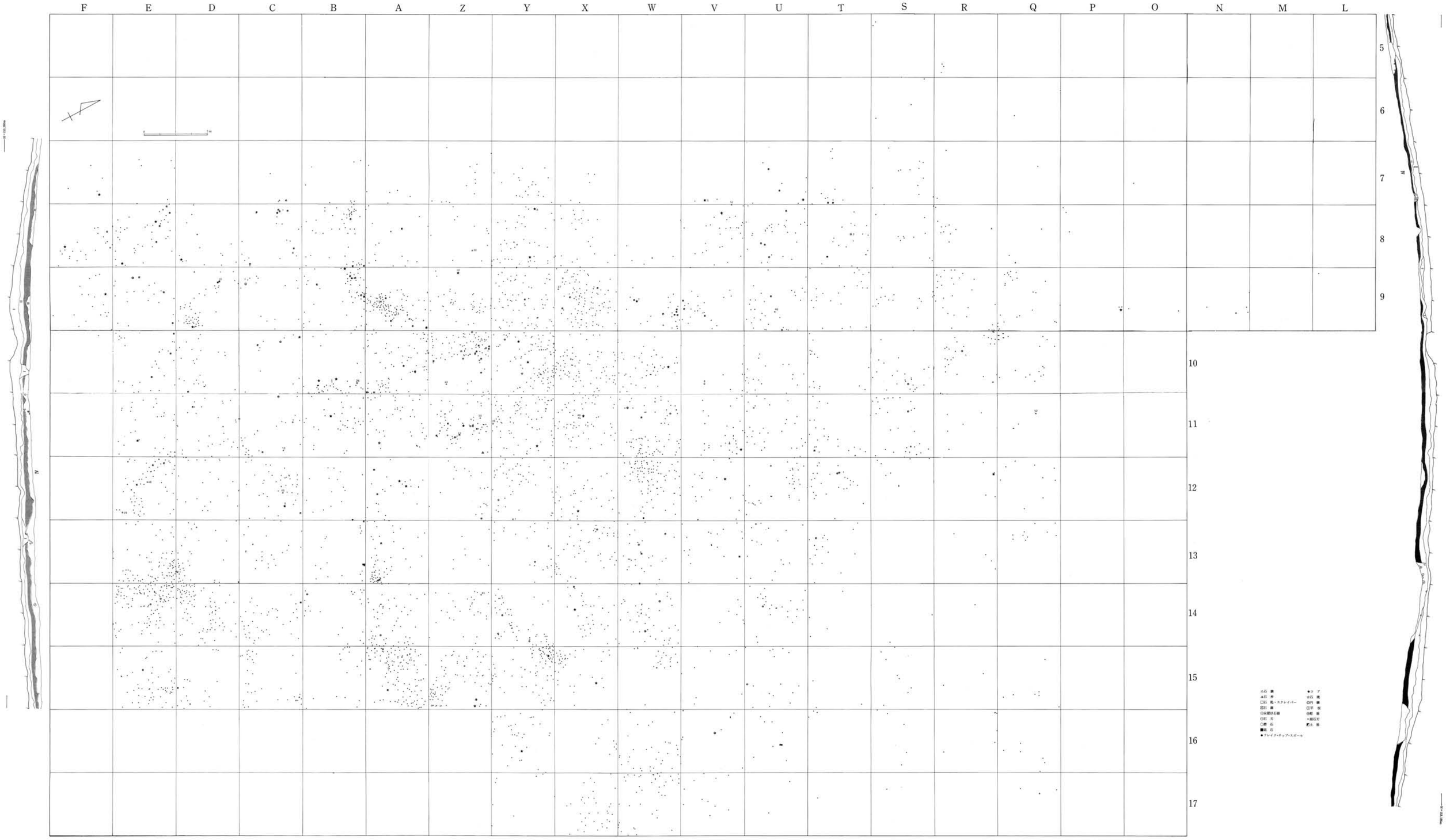
土器片は306点が出土したが、そのうちII上層より147点で全体の48%、II下層より107点の35%が出土した。

各層ごとの遺物分布は、第7図の通りである。III下層では、A13、14（第8図）、X9、X13、V14、U10区と遺跡の中央部に小範囲のユニットが点在する。ユニットは丘陵峰部から東斜

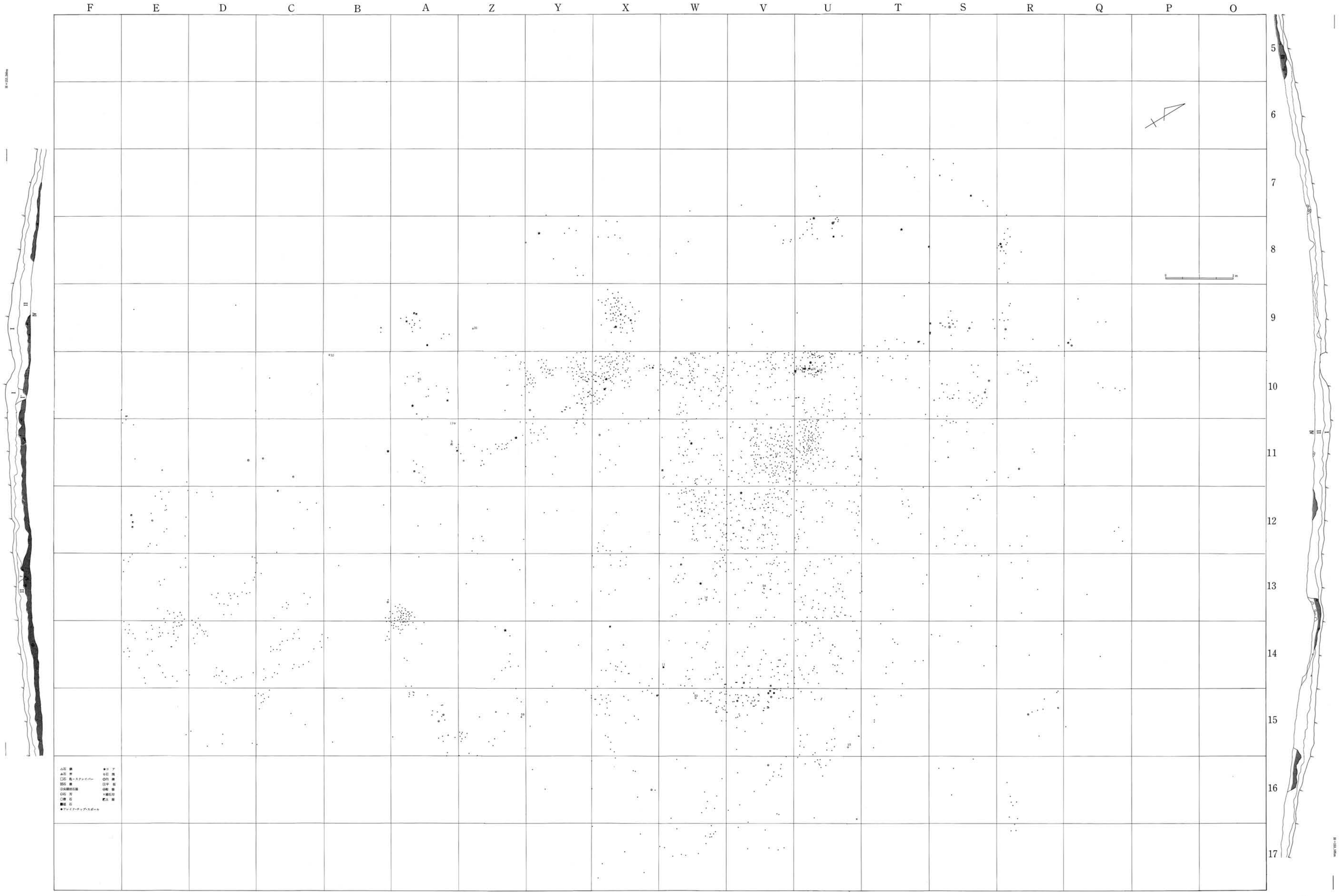
第６－１図　Ⅱ上層遺物分布図



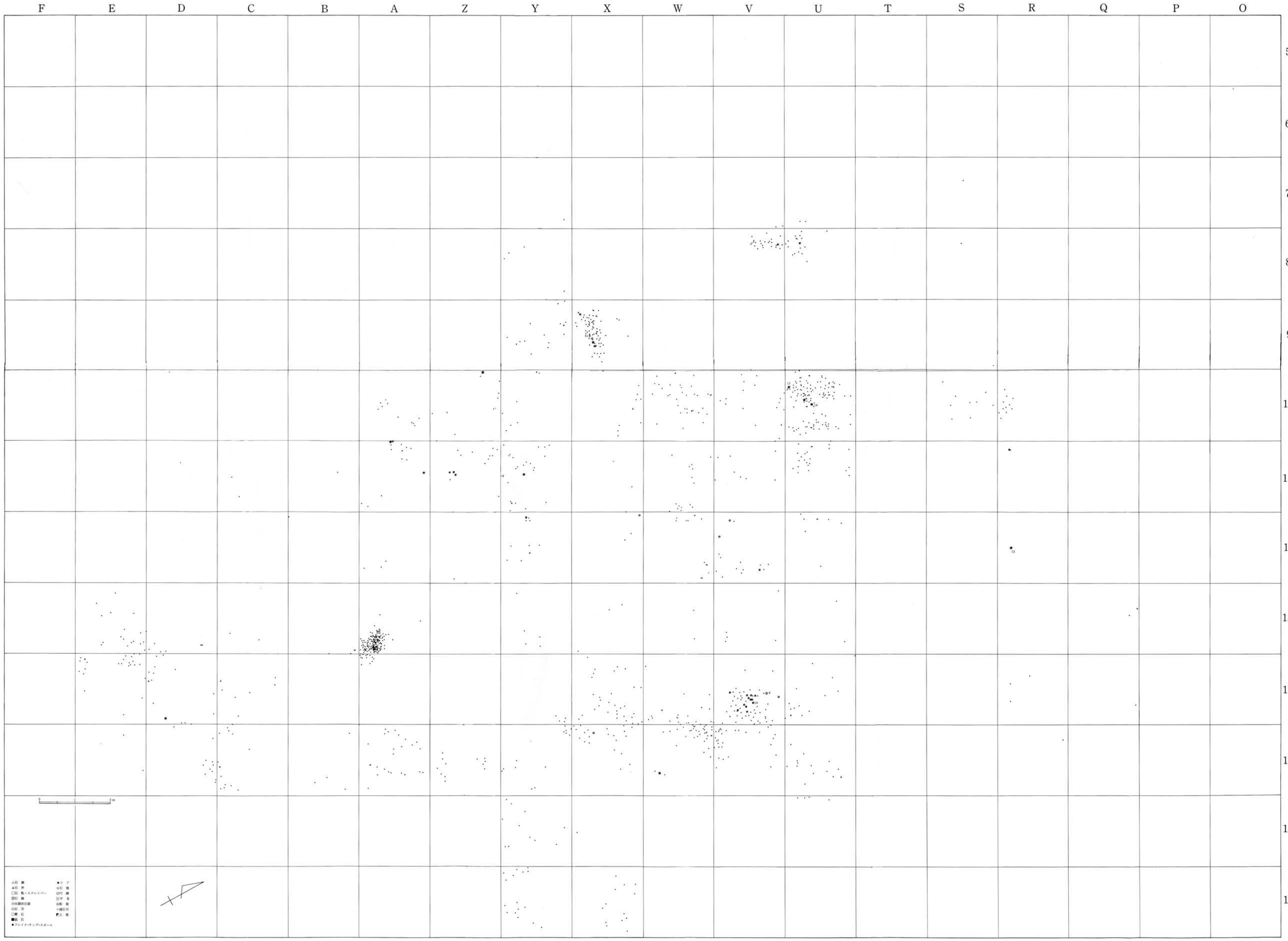
第6－2図　II下層遺物分布図



第６－３図　Ⅲ上層遺物分布図



第６－４図　Ⅲ下層遺物分布図



第７図　出土遺物組成一覧

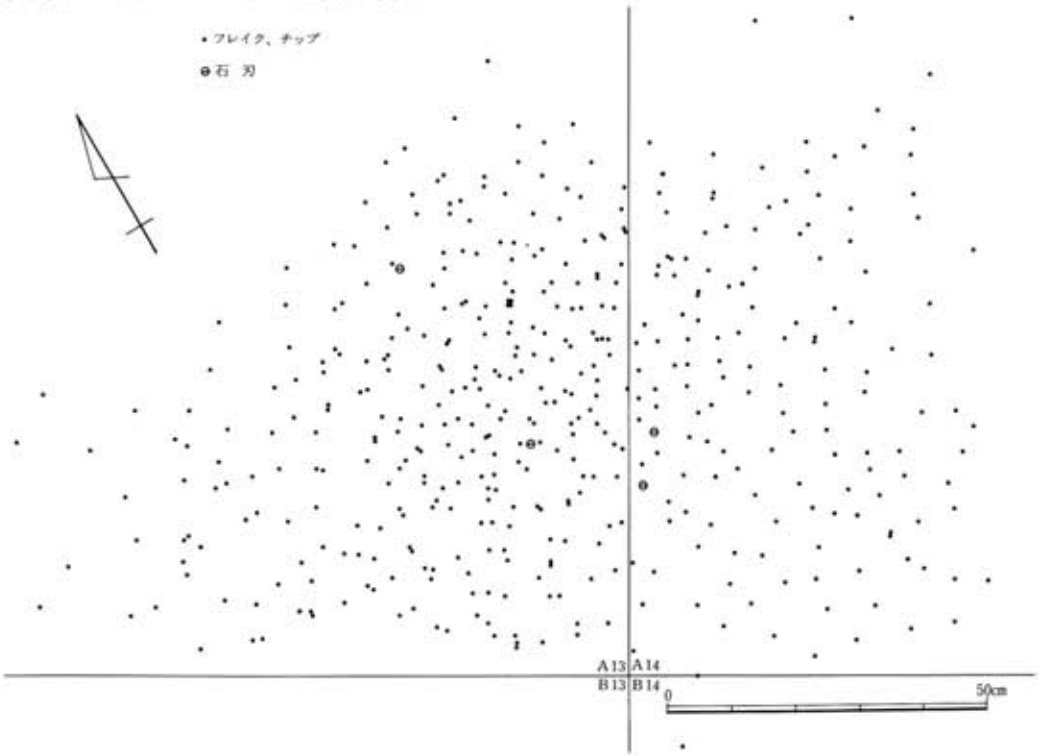
	石　鏃	スクレーパー	石斧	尖頭状石器	砥石	磨石 凹石 敲石	ブレイド	ユーフレ	石器計	コア	円礫石塊	フレイク チップ スポール	その他	石製品合計	土器片	総　計
Ⅰ　層	22 % 〈30.5〉	12 〈16.7〉	3 〈4.2〉	1 〈1.4〉	2 〈2.8〉	15 〈20.8〉	4 〈 5.6〉	13 〈18.0〉	72 % 〈100.0〉	15	12	1181	3	1283	12 % (3.9)	1295% (9.2)
Ⅱ上層	106 〈34.0〉	45 〈14.4〉	1 〈0.3〉	1 〈0.3〉	7 〈2.2〉	10 〈 3.2〉	41 〈13.2〉	101 〈32.4〉	312 〈100.0〉	59	20	3464	27	3882	147 (48.1)	4029 (28.7)
Ⅱ下層	59 〈36.2〉	15 〈 9.2〉	1 〈0.6〉	2 〈1.2〉	1 〈0.6〉	2 〈 1.2〉	29 〈17.8〉	54 〈33.2〉	163 〈100.0〉	34	6	4606	6	4813	107 (35.0)	4920 (35.2)
Ⅲ上層	43 〈36.1〉	6 〈 5.0〉	1 〈0.8〉	2 〈1.7〉	3 〈2.5〉	4 〈 3.4〉	21 〈17.7〉	39 〈32.8〉	119 〈100.0〉	13	1	2439	8	2580	31 (10.1)	2611 (18.6)
Ⅲ下層	8 〈36.4〉	0	0	1 〈4.5〉	2 〈9.1〉	0	1 〈 4.5〉	10 〈45.5〉	22 〈100.0〉	11	1	1115	5	1154	9 (2.9)	1163 (8.3)
合　計	238 % 〔34.6〕	78 〔11.3〕	6 〔0.9〕	7 〔1.0〕	15 〔2.2〕	31 〔4.5〕	96 〔14.0〕	217 〔31.5〕	688 〔100.0〕	132	40	12803	49	13721	306 % (100.0)	14018% (100.0)

面に下ろうとするスロープ上にある。。

Ⅲ上層には、Ｖ・11と12、Ｖ13ユニット、Ｖ10、Ｖ14、Ｙ10、Ｘ９、Ａ13ユニットが確認され遺跡の中心部分に広がりを持つ。

Ⅱ下層では、ＸＹＺ・10～11区を中心に大ブロックのユニットが広がり、Ｅ13・14、Ａ14・

第８図　Ａ13・14ユニット遺物分布図



15、Y15、T11、U8、E8等が囲む。ユニットの規模は急に質的にも量的にも増大している。

II上層では、S9・10、Z9・10、B11に密度の濃いユニットがみられ、T11、12、T14、V8、B8等にもユニットがある。それに小ユニットはQ15、S8、T・S16、X15、D11、D13、F9もあげられる。これらのユニットは、径10～15mの楕円周上に並ぶ傾向をみせている。全体の広がりはII下層と大きな変化はないが、II下層と比してユニットの盛衰が見られる。

(3) 牟田辻遺跡の遺物

1）土　器　（第9・10図）

牟田辻遺跡の土器出土状況は第9図の通りである。おもにII上下層からの出土であるが、III下層まで306点出土した。もっとも多いのが無文の土器であるが、これには無文土器と無文帯の無文部片とが含まれる。押形文土器は山形文が49点、楕円文が32点である。条痕文土器はII上下層からのみでIII層からは確認されなかった。他にも撚糸文、沈線文土器が少数出土した。層位別にみると、II上層より150点、II下層より104点で全体の83%をII層で占める。III上層からは10%で、III下層は3%と少ない。

II上層では、無文の43点(42%)がもっとも多く、それに山形文と楕円文の各々20点が続き、条痕文も14点と多い。II下層では、無文が減り山形文が増加している。III上層もII下層と同じく無文と山形文が並び、楕円文は下層になる程その割合は減少する。III下層は9点のみで無文・山形文・沈線文土器が出土している。

〈I層出土〉　1．口縁部は直口するが口唇部を欠失する。無文であり、内面はナデ調整を施す。器壁は8mmを計る。　2．胴部破片で外面に沈線と思われる横位の条痕を施す。色調は灰黄色を呈し、胎土に砂粒が多い。器壁は1.1cmを計る。　3．胴部破片で外面に粒径3mmの楕円文を横位に施す。焼成は良好。灰黄色を呈し、器壁は1cmと厚手である。

第9図　土器片層位別出土数一覧

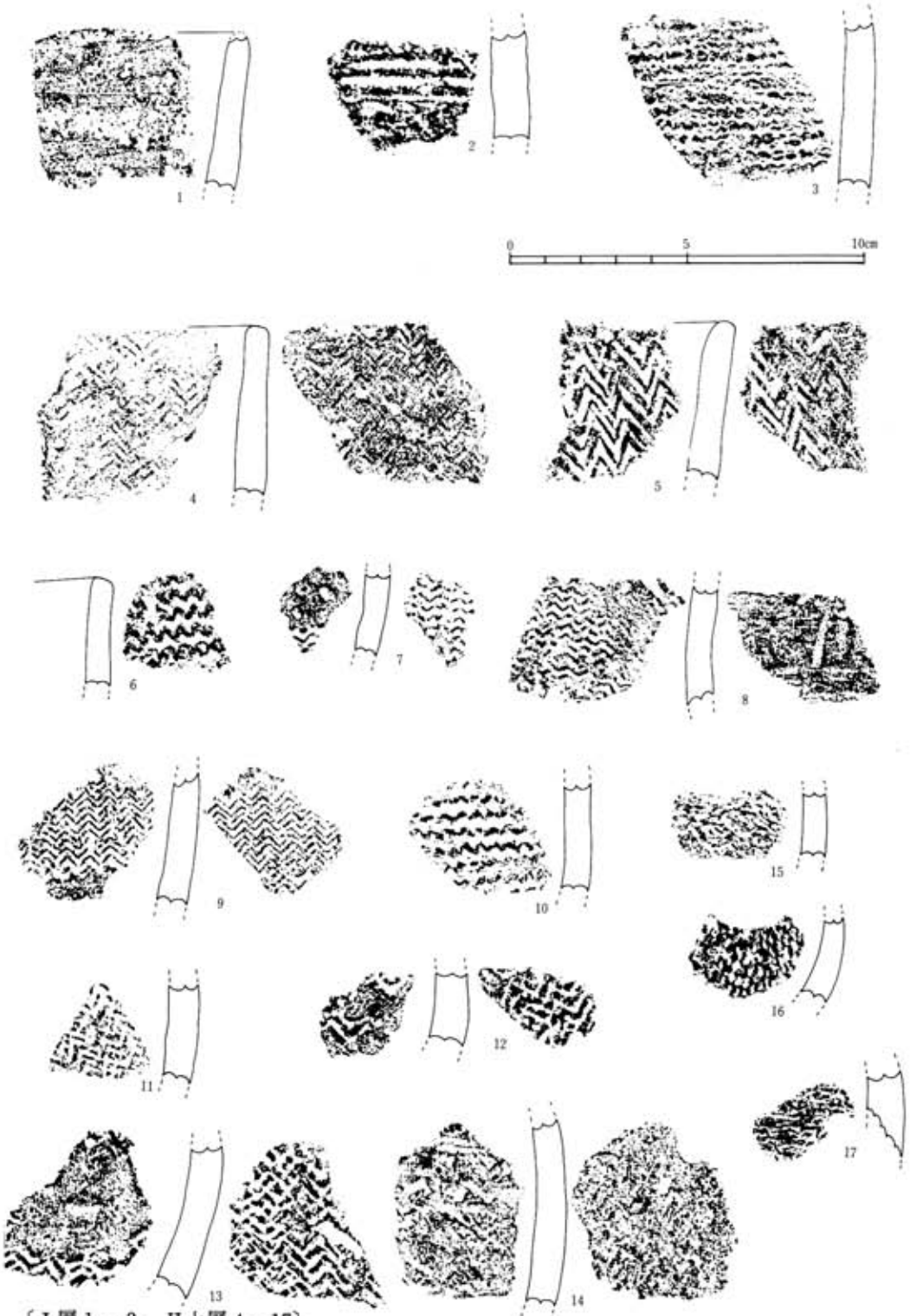
	山形押形文	楕円押形文	条痕文	撚紋	沈線文	無文	他	不明	計
I層	1 〈11%〉	1 〈11%〉	1 〈11%〉			6 〈67%〉		3 —	12 〈100%〉(3.9)
II上層	20 〈20〉	20 〈20〉	14 〈14〉	2 〈2〉		43 〈42〉	2 〈2〉	49 —	150 〈100%〉(49.1)
II下層	20 〈33〉	9 〈15〉	6 〈10〉	1 〈2〉	1 〈2〉	21 〈33〉	3 〈5〉	43 —	104 〈100%〉(34.0)
III上層	7 〈44〉	2 〈12〉				7 〈44〉		15 —	31 〈100%〉(10.1)
III下層	1 〈14〉				2 〈29〉	4 〈57〉		2 —	9 〈100%〉(2.9)
計	49	32	21	3	3	81	5	112	306 (100%)

〈II上層出土〉　4．直口する口縁で口唇部は平坦を呈する。内外面とも同一原体で横位に山形文を施す。山形文の波長10㎜、振幅3㎜を計る。色調は灰茶褐色で焼成良。器壁7㎜。　5．ほぼ直口する口縁部で、尖りぎみの口唇をもつ。内外面とも横位の山形文を施し、波長10㎜、振幅10㎜と大きい。器壁8㎜を計る。　6．ほぼ直口する口縁で、外面にのみ肉厚の山形文を横位に施す。赤褐色を呈し、器壁は8㎜を計る。　7．口縁部に近い胴部破片で、内面は無文帯の下位に山形文を施す。器壁は6㎜を計り比較的薄手である。　8．胴部破片。外面に波長5㎜、振幅2㎜の小さな山形文を横位に施文する。内面は条痕に近い調整を加える。器壁は7㎜を計り、黄褐色を呈する。胎土に砂粒を含む。　9．胴部片で、内外面ともに同一原体の山形文を施す。山形文の波長7㎜、振幅2.5㎜を計る。内面には山形文の下部に無文帯を置く。器壁は8㎜で、色調は赤褐色を呈す。　10．胴部片。外面のみに波長4.5㎜、振幅2㎜の波状に近い山形文を施す。黄褐色を呈し、器壁は7.5㎜を計る。胎土に砂粒多く、焼成はやや不良。11．胴部片。外面に波長8㎜、振幅5㎜の山形文を施す。灰褐色を呈し、焼成、胎土とも良好。12．底部に近い胴部片である。内外面とも山形文を施し、施文方法は右上がりの斜位。波長10㎜、振幅7㎜を計る。　13．底部に近い胴部片。内面には3㎝の無文帯をもつ。内外面とも横位に山形文を施す。波長12㎜、振幅4㎜となだらかな原体を用いる。色調は黄褐色を呈し、焼成は良。　14．底部に近い胴部片。外面には押形文を施文するが不明瞭。器厚は9㎜を計る。15．16．17．撚糸文と思われる施文をもつ胴部片で、16．17は底部に近い部分である。施文方法は横位、縦位、斜位と各々であるが、小片であるため明確でない。器壁は17を除き7㎜前後で薄手である。　18．刻目文と楕円文の施文をもつ口縁部でやや外反する。口唇部は尖りぎみに丸い。口縁内面の縦位刻目は長さ2㎝、幅4㎜を計る。外面は幅2.7㎝の無文帯の下位に、粒径3㎜の楕円文を右下がりの斜位に施文する。器壁は8㎜で、色調は茶褐色を呈す。　19．胴部片。外面は粒径2.5㎜の楕円文、内面は条痕文を横位に施す。器厚は7㎜と薄手である。20．口縁に近い胴部片。内外面とも粒径3㎜の楕円文を横位に施す。外面は下部に無文帯をもつ。　21．外反する口縁に近い破片。内外面ともに横位の楕円文を施文する。楕円粒径は3㎜を計り、内面に無文部をもつ。色調は赤褐色で、焼成は良。　22．胴部片で、外面に粒径3㎜の楕円文を横位に施す。楕円文はほぼ円形に近い。器壁は9㎜を計り、色調は茶褐色を呈す。23．内外面ともに、横位の径5㎜を計る楕円文を施文する。器壁は12㎜と厚手で、色調は黄褐色を呈する。　24．胴部片。外面に粒径2.5㎜の楕円文を施す。施文方法は一定せず横位、右上がりの斜位である。器厚は7.5㎜と比較的薄手である。色調は灰黄色を呈し、焼成は良好。25．胴部小片。外面に粒径6㎜の粗大な楕円文を施す。施文方向はほぼ横位と思われるが小片であるため不明瞭。器厚8㎜で、色調は茶褐色を呈す。　26．胴部片。外面に粒径4.5～7.5㎜の粗大な楕円文を施す。施文原体の刻文が一定していない。施文方法はほぼ縦位である。器壁は8㎜を計り、色調は茶褐色を呈す。　27．胴部片。外面に粒径4㎜の楕円文を横位に施す。

器壁は10㎜を計り厚手である。色調は灰黄色を呈し、焼成は良好。胎土に砂粒が多い。　28．胴部小片。外面に粒径5㎜の楕円文を横位に施文する。色調は茶褐色を呈し、焼成は良。29．底部に近い胴部片。外面に粒径3㎜の楕円文を横位に施す。器厚11㎜。色調は赤褐色で、外面にはススの付着が認められる。　30．底部片。尖底を成すと思われる破片で、外面に粒径3㎜の楕円文を施すが、磨滅が著しく、施文方法は観察し難い。色調は灰褐色で、胎土に砂粒を多く含む。　31．32．33．無文土器の口縁部で、外反し口唇部が肥厚するもの（31．32）と、軽く外反しほぼ平坦な口唇部をもつもの（33）がある。34．35．36．37．いずれも条痕文を施文する胴部片である。施文は内外両面にみられるが、35は内面のみである。色調は、35は茶褐色、36．37は暗褐色を呈する。器厚はいずれも10㎜内外である。

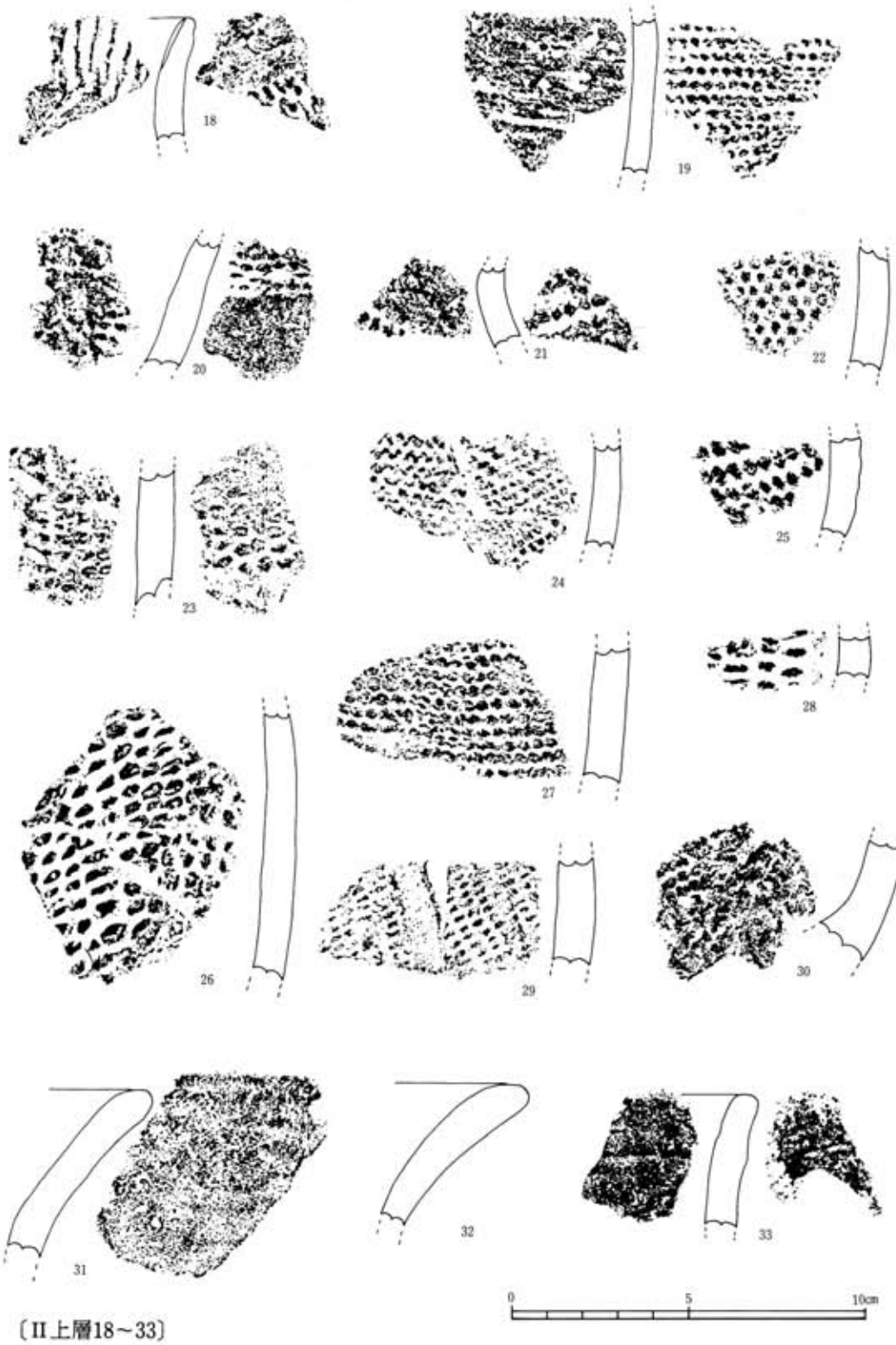
〈II下層出土〉　38．ほぼ直口する口縁部で口唇部は丸く尖る。内面に縦位の刻目文と楕円文を施す。刻目の長さ8㎜、幅2㎜で、楕円粒径は2㎜を計る。外面は口縁端から2.5㎝の無文帯があり、その下位に横位の粒径3㎜の内面よりやや大きめの楕円文を施す。口唇の一部にくびれが観察される。器壁は8.5㎜で、胎土に砂粒が多い。色調は灰黄色を呈す。　39．ほぼ直口する口縁部片で、内面に幅4㎜の縦位刻目文を施す。外面は磨滅が著しく不明。器厚7㎜を計る。　40．外反し肥厚する口縁部である。外面には3㎝の無文帯の下位に波長6㎜、振幅3㎜の山形文を横位に施文する。器厚は12㎜を計り厚手である。色調は黄褐色で、胎土に砂粒を多く含む。　41．口縁に近い胴部片である。内外面とも粒径3㎜の楕円文を横位に施す。外面は、楕円文の下位に無文帯を置く。器壁は8㎜。色調は茶褐色を呈し、焼成は良。　42．ほぼ直口する口縁部で、口唇は外面に向かって、平坦面をもって傾斜する。外面に粒径3㎜の楕円文を横位に施す。内面は口縁端に一条の楕円文を施すのみで、下部に無文帯をもっている。　43．やや外反ぎみに直口する口縁部で胴部にかけて外方に膨る。口唇は肥厚する平坦面をもつ。外面は口縁より3.5㎝の無文帯の下位に波長5㎜、振幅4㎜の肉厚の山形文を横位に施す。器厚11㎜で、色調は黄褐色を呈する。　44．胴部小片。内外面とも波長10㎜、振幅5㎜の同一原体の山形文を施す。器厚は8㎜。色調は黄褐色を呈す。焼成は良好で、胎土も精製されている。45．胴部片。粒径3㎜の楕円文をほぼ横位に施文する。器厚は10㎜で、色調は赤褐色を呈する。46．口縁部は内彎ぎみに直口し、口唇部は尖りぎみに丸い。波状口縁か。内外面とも波長10㎜、振幅6㎜の肉厚の山形文を施文する。器壁は7㎜と薄手である。色調は茶褐色を呈し、焼成は良好で、胎土は精製されている。　47．外面に粒径2.5㎜の楕円文を横位に施す。色調は暗褐色を呈す。　48．胴部片。内外面ともに波長10㎜、振幅10㎜の大きな山形文を施す。器厚は8.5㎜を計り、色調は暗褐色を呈する。胎土に砂粒を多く含む。　49．尖底部に近い破片。外面に粒径3㎜の楕円文を横位に施す。器厚は10㎜。色調は灰褐色を呈し、焼成は良く、胎土は精製されている。　50．底部に近い胴部片。赤褐色を呈し、器厚は8㎜を計る。　51．内面に条痕文、外面に山形文を施文する胴部片である。山形文の波長10㎜、振幅4㎜を計り、横位に施文

第10－1図　牟田辻出土土器実測図・拓影図



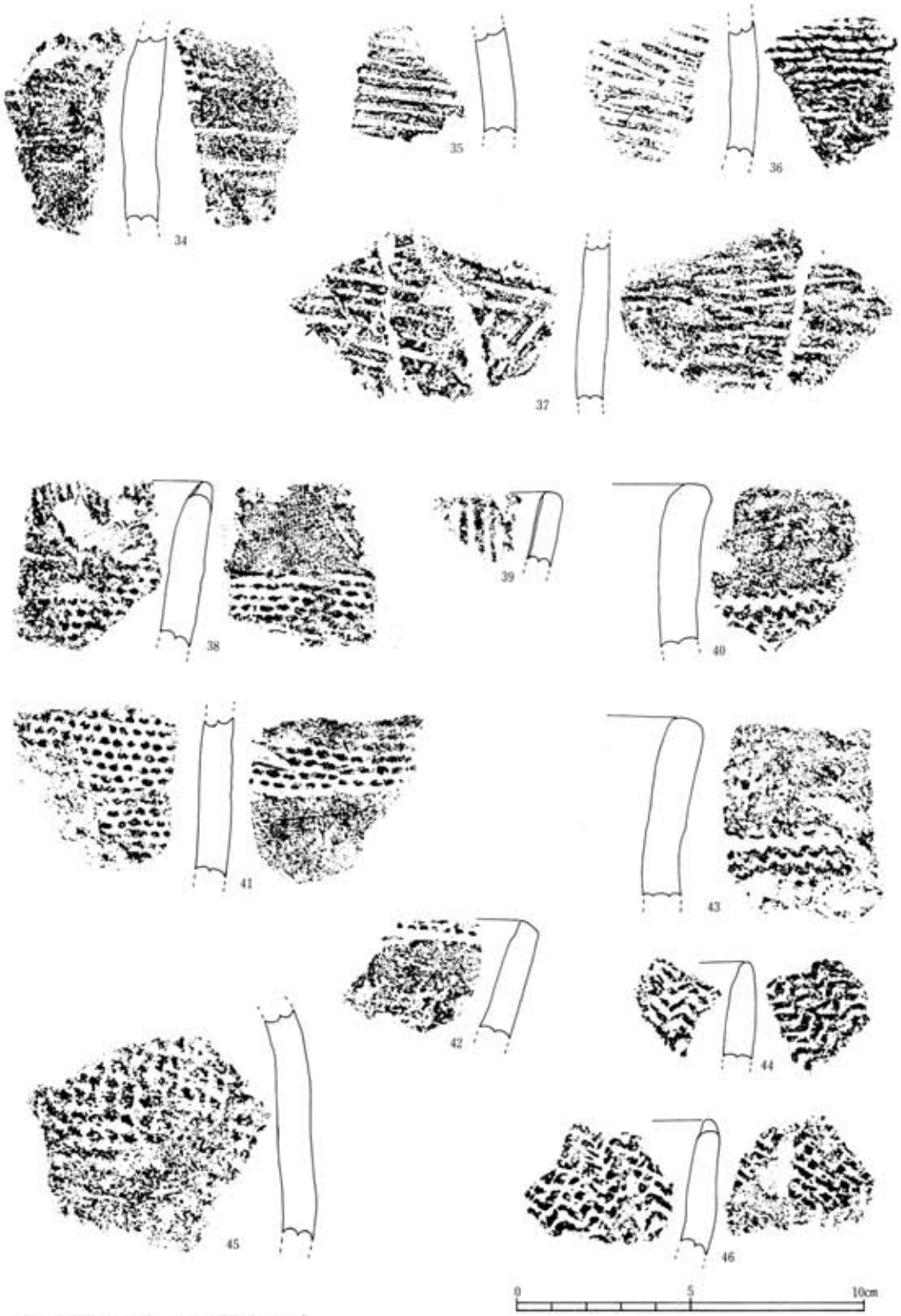
〔Ⅰ層1～3、Ⅱ上層4～17〕

第10－２図　牟田辻出土土器実測図・拓影図



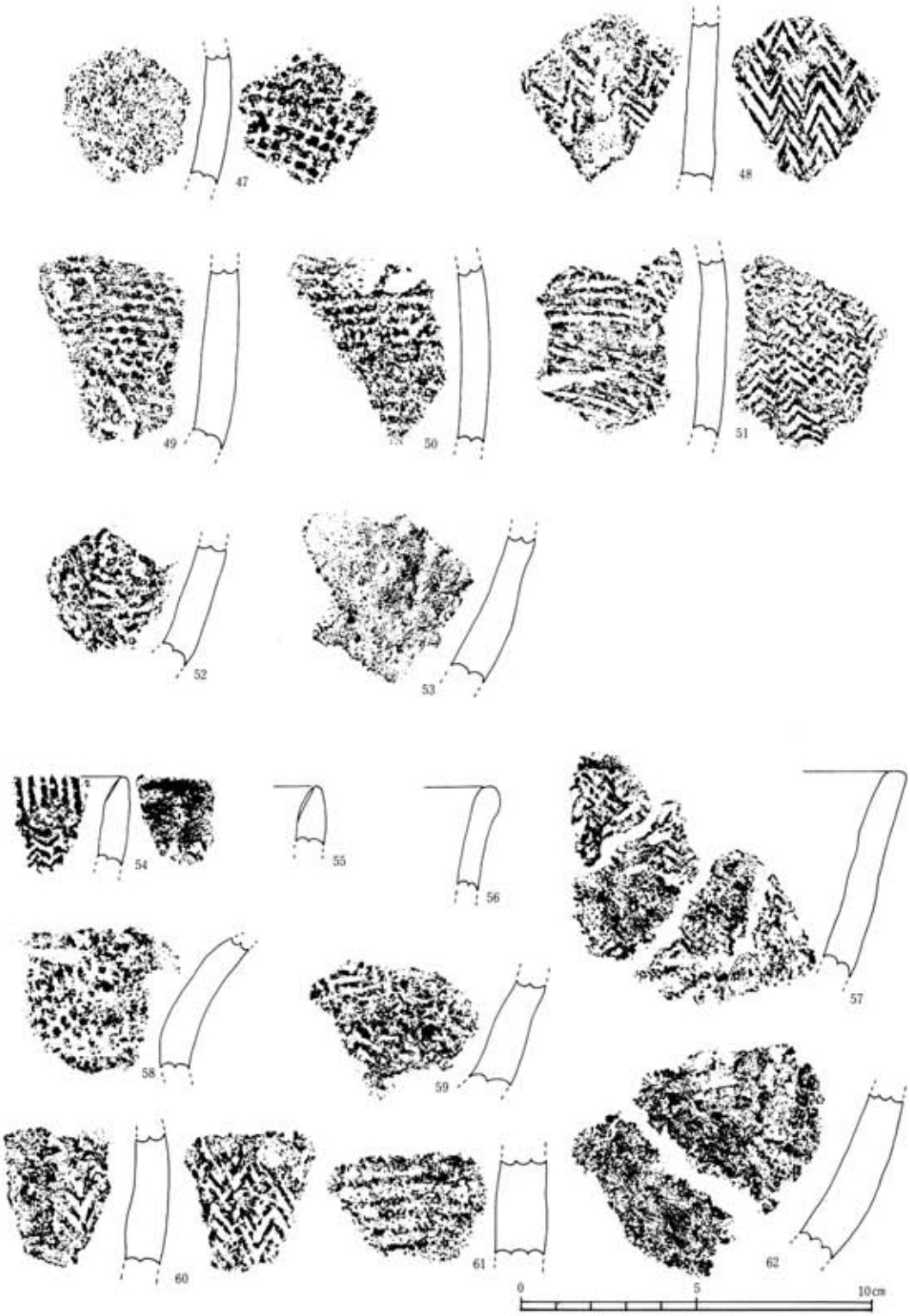
〔Ⅱ上層18～33〕

第10－３図　牟田辻出土土器実測図・拓影図



〔Ⅱ上層34～37、Ⅱ下層38～46〕

第10－４図　牟田辻出土土器実測図・拓影図



〔Ⅱ下層47～53、Ⅲ上層54～59、62、Ⅲ下層60、61〕

する。条痕文は横位、斜位をとる。原体は貝殻と推察される。器厚８㎜、焼成は良。　52．尖底部に近い胴部片。外面に押形文を施す。茶褐色を呈し焼成は不良。器厚は10㎜を計る。　53．尖底に近い部位の破片。外面は指圧で整形したと思われる。内外面とも無文。色調は灰褐色を呈し、焼成は良。

〈Ⅲ上層出土〉　54．内面に縦位刻目文と山形文を施す口縁部で、ほぼ直口を呈する。口唇部は尖りぎみに丸い。刻目の長さ10㎜、幅３㎜で、山形文は波長９㎜、振幅３㎜を計る。外面は２㎝の無文帯の下位に押形文を施すが詳細な点は判別し難い。　55．内面に長さ12㎜、幅３㎜の縦位刻目文を施す。口縁部は直口する。　56．やや外反する口縁部で口唇は肥厚する。外面に粗い左下がりの斜位の条痕文を施す。器厚は６㎜で薄手である。　57．外反する口縁で、胴部で外方にやや膨る。内外面ともに、波長７㎜、振幅４㎜の同一原体と思われる山形文を施す。器厚は９㎜。焼成は良く、色調は灰褐色を呈する。　58 .外反する口縁部で、外面は縦位、内面は横位の粒径４㎜の楕円文を施す。赤褐色を呈す。　59．尖底部に近い胴部破片である。外面に山形文を施すが磨滅が著しく不明瞭である。色調は赤褐色を呈する。　62．底部片、丸底ぎみの尖底と思われる。外面に押形文が施文されているが不明瞭である。色調は暗褐色を呈し、

第11図　石鏃計測一覧

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考
						㎜	㎜	㎜	g								㎜	㎜	㎜	g	
1			Aa	Ⅰ	Ob	20.55	(14.55)	4.45	(0.8)		18			？a	Ⅰ	Ob	(19.20)	(13.40)	3.50	(0.5)	
2			Ab	〃	〃	(18.60)	(11.45)	3.10	(0.4)		19			？a	〃	〃	－	－	－	－	脚部のみ
3			Ba	〃	〃	32.20	(20.60)	5.20	(2.6)		20			？b	〃	〃	－	－	－	－	脚部のみ
4			〃	〃	〃	－	－	－	－	脚部のみ	21			－	〃	〃	(25.00)	(22.90)	(3.60)	(1.8)	未製品
5			Bb	〃	〃	(16.55)	(13.80)	3.75	(0.5)		22			－	〃	〃	(30.20)	(19.15)	5.60	(2.2)	未製品
6			Bb_3	〃	〃	28.20	(16.00)	3.95	(0.9)		23	1	1	Aa	Ⅱ上	〃	23.30	15.90	4.00	0.8	
7			〃	〃	〃	21.00	15.15	3.40	0.7		24	2	2	〃	〃	〃	(25.70)	(15.60)	4.55	(1.1)	鋸歯鏃
8			〃	〃	〃	19.10	15.00	3.45	0.6		25	3	3	〃	〃	〃	23.80	14.70	4.85	0.8	
9			〃	〃	〃	(27.80)	(9.10)	4.30	(0.8)		26	4	4	Ab_2	〃	〃	(22.55)	(10.65)	2.65	(0.4)	剝片鏃
10			〃	〃	〃	(29.15)	(16.65)	3.65	(1.0)		27	5	5	〃	〃	〃	25.15	16.25	2.10	0.7	磨製鏃
11			〃	〃	〃	(13.25)	(11.85)	4.50	(0.7)		28	6	6	〃	〃	〃	21.10	14.50	3.05	0.6	
12			B？	〃	〃	20.00	16.15	4.45	1.2	剝片鏃	29	7	7	Ab_3	〃	〃	17.75	13.80	2.50	0.4	局部磨製
13			〃	〃	〃	27.75	(18.00)	4.25	(1.4)		30	8	8	〃	〃	〃	15.75	(11.90)	2.55	(0.3)	
14			Bb_2	〃	〃	16.95	14.30	3.10	0.4		31	9	9	A？	〃	〃	(26.35)	(15.45)	4.20	(1.1)	
15			－	〃		－	－	－	－		32	10	10	Ba	〃	〃	20.00	16.60	4.20	1.1	
16			C？	〃	〃	(18.60)	(14.90)	3.70	(0.5)		33	11	11	〃	〃	〃	(27.40)	(16.70)	4.30	(1.2)	
17			－	〃	〃	(18.60)	(19.80)	3.55	(1.2)	未製品	34	12	12	〃	〃	〃	16.90	14.05	3.30	0.5	細石鏃

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考
35	13	13	Ba	II上	Ob	17.90	16.00	2.60	0.6	局部磨製	69			A？	II上	Ob	(17.00)	(3.95)	(3.00)	(0.6)	
36	14	14	〃	〃	〃	(13.10)	15.35	3.05	(0.4)		70			〃	〃	〃	(12.35)	(4.25)	(2.25)	(0.4)	剥片鏃
37	15	15	〃	〃	Sa	(19.55)	17.60	4.40	(1.0)		71			〃	〃	〃	(18.30)	(15.00)	3.60	(0.5)	
38	16	16	〃	〃	Ob	17.60	16.45	4.20	0.9	剥片鏃	72			〃	〃	〃	(18.75)	(10.35)	2.00	(0.4)	局部磨製
39	17	17	〃	〃	〃	(21.85)	(18.25)	(6.65)	(1.7)	剥片鏃	73			〃	〃	〃	(36.70)	(17.20)	6.30	(2.2)	大形
40	18	18	〃	〃	〃	(22.45)	(7.50)	(3.00)	(0.8)	剥片鏃	74			Ba	〃	〃	30.15	(14.55)	5.25	(1.4)	
41	19	19	〃	〃	〃	(24.00)	(17.60)	(3.25)	(0.9)		75			Ba？	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
42	20	20	〃	〃	〃	(29.00)	(26.45)	(5.65)	(4.3)		76			Ba	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
43	21	21	〃	〃	〃	(30.15)	(16.40)	4.40	(1.2)		77			Bb_1	〃	〃	(2.25)	(12.20)	4.35	(1.0)	頭部片
44	22	22	Bb_2	〃	〃	26.45	(19.00)	(4.90)	(1.9)	剥片鏃	78			Bb_2	〃	〃	15.50	(10.50)	2.00	(0.3)	細石鏃
45	23	23	Ab_2	〃	〃	20.25	15.05	2.50	0.7	局部磨製	79			Bb_3	〃	〃	(24.30)	(14.00)	3.40	(0.8)	
46	24	24	Bb_2	〃	〃	20.60	16.80	3.75	1.1	局部磨製	80			〃	〃	〃	(14.10)	(16.25)	3.35	(0.6)	
47	25	25	Bb_3	〃	〃	24.00	(13.15)	4.05	(0.6)		81			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
48	26	26	〃	〃	〃	18.90	14.45	1.70	0.5	磨製鏃	82			〃	〃	〃	24.05	(13.45)	4.45	(0.7)	鋸歯鏃
49	27	27	〃	〃	〃	25.50	17.85	4.55	1.2		83			〃	〃	〃	27.10	(15.20)	4.00	(0.9)	
50	28	28	〃	〃	〃	(19.55)	(17.25)	3.10	(0.8)		84			〃	〃	〃	—	—	(4.70)	—	脚部のみ
51	29	29	〃	〃	〃	26.95	15.05	4.60	0.1		85			〃	〃	〃	(23.95)	(15.00)	4.05	(1.0)	
52	30	30	〃	〃	〃	(17.95)	(14.45)	(4.00)	(8.0)		86			〃	〃	〃	(19.55)	—	3.35	(0.5)	
53	31	31	〃	〃	〃	(30.80)	(10.41)	(4.95)	(1.4)		87			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
54	32	32	〃	〃	〃	13.00	17.25	4.20	1.1		88			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
55	33	33	〃	〃	〃	23.70	14.80	4.45	0.9		89			B？	〃	〃	(15.00)	(14.25)	3.95	(0.8)	
56	34	34	〃	〃	〃	28.40	18.45	4.60	1.5		90			〃	〃	〃	(19.00)	(11.25)	3.00	(0.5)	
57	35	35	〃	〃	〃	(22.20)	19.60	3.90	(1.0)		91			〃	〃	〃	20.45	20.90	7.55	2.5	
58	36	36	B？	〃	〃	(18.60)	(12.85)	(2.65)	(0.4)	鋸歯鏃	92			〃	〃	〃	(13.95)	(12.45)	(3.05)	(0.5)	剥片鏃
59	37	37	〃	〃	〃	13.60	8.60	2.60	0.3	小形局部磨製	93			〃	〃	〃	(23.35)	(16.50)	4.00	(1.2)	
60	38	38	Ca	〃	〃	(36.95)	(23.60)	5.00	(2.8)		94			〃	〃	〃	(22.85)	(14.55)	5.00	(1.2)	
61	39	39	Cb_3	〃	〃	(26.50)	(14.70)	2.20	(0.4)	鋸歯鏃	95			〃	〃	〃	(21.20)	(14.40)	4.90	(1.0)	
62	40	40	〃	〃	〃	18.85	14.30	3.85	0.5		96			〃	〃	〃	(23.10)	(15.55)	5.40	(1.2)	鋸歯鏃
63	41	41	〃	〃	〃	(34.80)	(14.45)	5.55	(1.1)		97			〃	〃	〃	(13.95)	(9.95)	(4.10)	—	脚部のみ
64	42	42	C？	〃	〃	(26.50)	(11.70)	(3.70)	(0.8)	鋸歯鏃	98			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
65			Ab_3	〃	〃	19.20	(12.30)	3.40	(0.4)		99			〃	〃	〃	(16.90)	(14.35)	4.15	(0.7)	
66			〃	〃	〃	25.75	(11.80)	4.00	(0.8)		100			Ca	〃	Sa	30.50	(13.80)	3.60	(1.0)	
67			〃	〃	〃	(17.00)	(10.15)	3.20	(0.4)		101			〃	〃	Ob	(22.25)	21.80	3.70	(1.3)	
68			A？	〃	〃	(3.55)	(3.95)	(2.20)	(0.3)	細石鏃	102			C？	〃	〃	(18.00)	(12.05)	(3.20)	(0.4)	

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考
103			C ?	II上	Ob	—	—	—	—	剥片鏃(脚部のみ)	137	51	51	Ca	II下	Ob	29.25	19.95	4.55	1.8	
104			? a	〃	〃	—	—	—	(0.5)	脚部のみ	138	52	52	Cb_3	〃	〃	26.90	19.60	4.95	1.3	
105			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	139	53	53	〃	〃	Sa	26.75	14.05	2.80	0.8	
106			—	〃	〃	(12.50)	(12.35)	(3.95)	(0.4)	頭部	140			Ab	〃	Ob	—	—	—	—	脚部のみ
107			—	〃	〃	—	—	—	—		141			Ab_3	〃	〃	25.20	17.20	4.45	1.1	
108			? b	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	142			B ?	〃	〃	17.50	13.65	4.90	0.6	
109			? a	〃	〃	(16.10)	(15.60)	3.75	(0.6)		143			〃	〃	〃	20.90	17.90	3.60	0.8	
110			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	144			A ?	〃	〃	13.60	12.65	3.35	0.3	頭部片
111			? b	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	145			〃	〃	〃	18.30	15.00	4.10	0.8	
112			—	〃	〃	(26.25)	(17.75)	(5.20)	(2.0)	未製品	146			〃	〃	〃	17.80	14.70	4.65	1.2	
113			—	〃	〃	(21.45)	(18.60)	5.50	(1.9)		147			〃	〃	〃	25.50	15.35	3.75	1.0	
114			—	〃	〃	—	—	4.80	—	頭部片	148			〃	〃	〃	24.35	15.60	4.25	0.9	剥片鏃
115			—	〃	〃	—	—	—	—		149			Ba	〃	〃	23.20	(13.60)	6.05	(1.2)	
116			—	〃	〃	—	—	—	—		150			〃	〃	〃	(25.00)	—	3.55	(0.7)	脚部のみ
117			—	〃	〃	—	—	7.00	(1.4)		151			〃	〃	〃	24.80	(17.80)	4.95	(1.2)	
118			?b_3	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	152			〃	〃	〃	19.75	12.40	4.00	0.8	
119			? b	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	153			〃	〃	〃	20.80	23.00	5.00	2.5	
120			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	154			Bb_2	〃	〃	24.80	16.10	5.50	1.4	
121			?b_3	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	155			〃	〃	〃	20.20	13.35	5.20	0.8	
122			—	〃	〃	(11.35)	(11.65)	3.90	(0.5)		156			〃	〃	〃	19.15	15.35	4.10	0.8	
123			—	〃	〃	(13.50)	(11.55)	(6.05)	—	頭部片	157			Bb	〃	〃	18.10	12.75	2.40	0.4	剥片鏃
124			—	〃	〃	(21.85)	(23.70)	4.15	(1.7)		158			Bb_3	〃	〃	16.00	(14.95)	2.40	(0.3)	
125			? b	〃	〃	—	—	—	—		159			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
126			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	160			B ?	〃	Sa	—	—	—	—	局部磨製
127			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	161			〃	〃	〃	(19.75)	(18.25)	4.15	(1.5)	
128			? a	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	162			〃	〃	Ob	(18.85)	(15.35)	3.80	(0.7)	
129	43	43	Aa	II下	Ob	19.65	(12.45)	3.00	(0.5)		163			〃	〃	〃	(16.25)	(13.10)	3.65	(0.5)	
130	44	44	Ba	〃	〃	28.50	22.90	4.15	2.2		164			〃	〃	〃	(16.20)	—	(2.35)	(0.3)	剥片鏃
131	45	45	〃	〃	〃	31.05	20.30	7.30	3.0		165			〃	〃	〃	17.50	13.65	4.90	0.6	
132	46	46	〃	〃	〃	16.40	15.75	3.45	0.7		166			〃	〃	〃	20.90	17.90	3.60	0.8	
133	47	47	Bb_2	〃	〃	24.30	16.25	3.95	1.0		167			Cb_3	〃	〃	30.15	17.80	3.90	1.1	
134	48	48	〃	〃	〃	14.50	15.40	7.00	1.8		168			B ?	〃	〃	12.40	16.35	4.00	1.2	
135	49	49	Bb_3	〃	〃	19.30	13.20	3.85	0.6		169			Cb_3	〃	〃	32.15	20.00	4.00	1.0	
136	50	50	Ca	〃	〃	30.40	21.20	5.25	1.6		170			C ?	〃	〃	(16.00)	(15.35)	4.05	(0.7)	

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考
171			C？	II下	Ob	(33.90)	(21.80)	4.25	(2.1)	鋸歯鎌	205			Ba	III上	Ob	(14.15)	14.85	3.90	(0.6)	
172			—	〃	Sa	—	—	—	—	脚部のみ	206			〃	〃	〃	(19.05)	(14.95)	3.95	(0.7)	
173			—	〃	Ob	—	—	—	—	脚部のみ	207			〃	〃	〃	31.60	(22.40)	4.10	(1.9)	剝片鎌
174			—	〃	〃	(14.80)	(22.90)	6.15	(2.0)	脚部のみ	208			〃	〃	〃	(19.55)	21.95	4.20	(1.5)	
175			?b_3	〃	〃	—	—	—	—		209			Ca	〃	〃	(22.60)	(24.50)	4.30	(0.9)	
176			—	〃	〃	—	—	—	—		210			Ba	〃	〃	13.85	(12.40)	2.90	(0.4)	
177			?b_3	〃	〃	—	—	—	—		211			〃	〃	〃	(17.65)	(10.10)	3.10	(0.4)	
178			?a	〃	〃	—	—	(4.25)	(0.6)	脚部のみ	212			〃	〃	〃	(17.75)	16.70	3.50	(0.6)	
179			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	213			Bb	〃	〃	(12.05)	(13.00)	3.55	(0.5)	
180			? b	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	214			Bb_3	〃	〃	18.50	(11.40)	2.70	(0.3)	
181			? a	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	215			Ab_3	〃	〃	(23.85)	(14.85)	4.00	(0.8)	
182			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	216			Bb_3	〃	〃	26.20	(11.15)	3.95	(0.8)	鋸歯鎌
183			?b_2	〃	〃	(20.75)	19.50	4.05	(1.5)		217			—	〃	〃	(18.95)	(17.95)	4.15	(1.0)	
184			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	218			B？	〃	〃	14.95	15.00	3.50	0.6	剝片鎌
185			? a	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	219			〃	〃	〃	(24.95)	(20.10)	5.00	(1.5)	
186			—	〃		—	—	—	—		220			C？	〃	〃	(17.40)	(16.05)	3.60	(0.8)	
187			—	〃		—	—	—	—		221			〃	〃	〃	(16.80)	(10.20)	2.40	(0.3)	
188	54	54	Aa	III上	Ob	19.65	13.80	3.65	0.6		222			?a	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
189	55	55	〃	〃	〃	(27.75)	18.85	3.95	(1.3)	剝片鎌	223			—	〃	〃	(20.95)	(16.00)	3.55	(0.7)	頭部片
190	56	56	Ba	〃	〃	17.35	15.65	4.20	0.8	剝片鎌	224			?b_3	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
191	57	57	Bb_1	〃	〃	20.35	16.00	4.20	1.2		225			—	〃	〃	(17.05)	(17.00)	4.50	(1.0)	
192	58	58	Bb_2	〃	〃	18.35	8.95	1.50	0.3	剝片鎌	226			—	〃		—	—	—	—	
193	59	59	Bb_3	〃	〃	16.50	14.05	3.70	0.4	局部磨製	227			—	〃	〃	—	(4.55)	3.25	(0.5)	頭部片
194	60	60	B？	〃	〃	(16.20)	(13.20)	2.55	(0.4)	剝片鎌	228			—	〃	〃	—	—	—	—	
195			Aa	〃	〃	23.50	(13.00)	4.20	(0.7)		229			—	〃	〃	(3.45)	(11.55)	(3.60)	(0.4)	頭部片
196			〃	〃	〃	28.15	(14.05)	4.90	(1.6)		230			—	〃	〃	(3.05)	(3.15)	(3.25)	(0.5)	頭部片
197			Ab_2	〃	Sa	21.20	(10.80)	2.35	(0.6)	磨製鎌	231	61	61	Aa	III下	Ob	25.20	17.55	5.40	1.3	
198			Ab_3	〃	Ob	23.45	(12.85)	3.30	(0.6)	剝片鎌	232	62	62	Ba	〃	〃	24.30	17.65	4.75	1.5	剝片鎌
199			A？	〃	〃	20.00	(11.40)	3.10	(0.5)	局部磨製	233			Ab_1	〃	〃	(19.80)	—	3.45	(0.8)	
200			〃	〃	〃	21.70	(12.70)	5.10	(1.2)		234			A？	〃	〃	24.55	(19.20)	3.85	(1.2)	
201			〃	〃	〃	(12.95)	(12.85)	3.20	(0.5)	剝片鎌	235			Ba	〃	〃	(23.60)	(13.95)	(3.75)	(0.8)	
202			Ba	〃	〃	25.60	(13.50)	4.40	(0.8)	鋸歯鎌	236			?b_2	〃	〃	(15.40)	(12.55)	3.60	(0.4)	
203			〃	〃	〃	(22.90)	22.50	4.20	(1.6)		237			—	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ
204			〃	〃	〃	22.95	16.00	4.65	1.2		238			—	〃	〃	—	—	—	—	

焼成は良い。

〈Ⅲ下層出土〉　60．胴部破片。内外面ともに、波長10㎜、振幅８㎜の山形文を横位に施文する。色調は暗褐色を呈し、焼成は良。　61．外面にヘラ状の沈線を横位に施す。器厚14㎜と厚手である。色調は黄褐色を呈し、焼成良好で、胎土に砂粒を多く含む。

２）石　器

石器は総計688点出土した。Ⅱ上層より312点、Ⅱ下層より163点、Ⅲ上層より119点、Ⅲ下層より22点である。フレイク、チップまで加えると13,700点余りにも及ぶ膨大な量である。（第７図参照）　688点中石鏃が238点（石器合計の約35％）でもっとも多く、Ｕフレの217点（約32％）がそれに続く。スクレーパー78点（約11％）、磨石・凹石・敲石31点(4.5％）の組成率の高いのも目立つ。砥石15点、尖頭状石器７点、石斧６点が出土した。ブレイドは96点で14％である。なお先土器時代のマイクロブレイドも42点出土した。

①　石鏃　（第16－１図）

石鏃は表土層からⅢ下層まで238点出土したが、多くが一部または半分以上を欠損している。238点のうち、剝片鏃が24点、局部磨製鏃11点、他は普通の打製石鏃である。層位別の出土数はⅡ上層の106点、Ⅱ下層の59点、Ⅲ上層の43点、Ⅲ下層の９％と続く。Ⅱ上下層から全体の約７割が出土している。

石鏃の形態を、岩谷口第１岩陰遺跡を参照にして、側縁の形態と基部の形態とに分けた。即ち側縁のまっすぐなものをＡ、丸くふくらむか屈折するものをＢ、その他をＣとする。また基部については基本的には茎の有るものと無いものとに分けるべきであるが、本遺跡出土の石鏃には有茎の例がないので、この分類はとらない。基部の形態の場合に考えなければならないのは、石鏃に矢柄を着装した際に、基部の両端が逆刺としての役目を果たしえるか否かというこ

第12図　石族形態分類一覧

〈　〉剝片鏃　（　）局部磨制・磨製鏃

	A 類						B 類						C 類							
	Aa	Ab_1	Ab_2	Ab_3	A?	計	Ba	Bb_1	Bb_2	Bb_3	B?	計	Ca	Cb_1	Cb_2	Cb_3	C ?		総計
Ⅰ 層	1		1			2 (11.8%)〈4.7%〉	2		1	6	5(1)	14 (82.3%)〈12.0%〉					1 (5.9%)〈4.8%〉	1	17(1)(0) (100%)
Ⅱ上層	3		3(1)(1)	5(1)	7(1)(1)	18 (22.0)〈41.9〉	15(3)(1)	1	4(1)(2)	21(1)	14(2)(1)	55 (67.0)〈47.0〉	3			3	3〈1〉 (11.0)〈42.8〉	9	82(9)(8) (100%)
Ⅱ下層	1			3	6〈1〉	10 (23.3)〈23.2〉	8		5〈1〉	3	9(1)(1)	25 (58.1)〈21.4〉	2			4	2 (18.6)〈38.1〉	8	43(3)(1) (100%)
Ⅲ上層	4(1)		1(1)	2(1)	3(1)(1)	10 (29.4)〈23.2〉	11〈2〉	1	1〈1〉	4〈1〉	4〈2〉	21 (61.8)〈17.9〉	1				2 (8.8)〈14.3〉	3	34(10)(1) (100%)
Ⅲ下層	1	1			1	3 (60.0)〈7.0〉	2〈1〉					2 (40.0)〈1.7〉					0 (0.0)〈0.0〉		5(1)(0) (100%)
計						43 〔23.8〕〈100%〉						117 〔64.6〕〈100%〉					21 〔11.0〕〈100%〉		181(24)(18) 〔100%〕

とであろう。そこで逆刺としての役目を果たさないと考えられるものをａ、果たすと考えられるものをｂとし、さらにｂ類を、基部に抉りをもたずまっすぐなもの、浅い抉りをもつもの、深い抉りをもつものとに分け、各々b_1、b_2、b_3とする。従って、側縁の形態と基部の形態の組み合わせによって、石鏃の形態はAa、Ab_1、Ab_2、Ab_3、Ba、Bb_1、Bb_2、Bb_3、Ca、Cb_1、Cb_2、Cb_3の12タイプに分類できる。238点中分類可能な181点についての類別は第11図の通りである。

全体では、Ｂ類が約65％を占め、それにＡ類の24％、Ｃ類はわずか１割強である。これを層位別にみると、Ⅱ上層はだいたい全体と同じ傾向を示し、Bb_3（側縁がふくらみ深い抉りをもつ）タイプが21点、Ba（側縁がふくらみ逆刺の役目をもたない）タイプが15点と断然多い。Ⅱ下層では、Ｂ類が若干減りＣ類が増える。Bb_3が大きく減り Ba タイプが多い。Ａ類ではやはりAb_3（側縁がまっすぐで深い抉り）タイプが多い。Ｃ類でもCb_3が多い。Ⅲ上層ではＡ類がいくらか増える傾向を示す。Ⅱ層と大きくかわるのは、ＡＢＣ類ともb_3タイプよりａタイプが多いことである。Ⅲ下層は出土数が少ないため信ぴょう性が低いが、Ｂ類が減りＡ類が大きく増える。ｂタイプにａタイプが代わっているといえよう。

② スクレーパー　（第16－２図）

スクレーパーと呼ばれている石器には、掻器、削器、石匙、皮剝ぎ、二次加工のある石器等が含まれている。これらの石器は、それぞれの製作段階での加工技術が異なり、できあがった時点での形態も異なっているが、ここでは、大道端遺跡の分類を参照にした。原則として、正面裏面に刃部調整を施した石器をスクレーパーと規定しておく。そして刃部の位置、状態を分類の規準とし、素材の違いはその規準としなかった。主なスクレーパーについては、第12図に示した。

刃部の位置が縁辺の二辺に刃部を仕上げたものをＡ類とした。その中で右側辺から左側辺にＶ字形に刃部を調整したものをＡⅠ類、上辺下辺の二辺を調整したものをＡⅡ類、上下辺のどちらか一辺と左右側辺のどちらか一辺に刃部調整を施したものをＡⅢ類とした。剝片の左右側辺のどちらか一辺に刃部調整を施したものをＢⅠ類とした。剝片の先端部、あるいは頭部の一辺に刃部調整を施したものをＣ類とした。その中で先端部のみに刃部調整を行なっているものをＣⅠ類、頭部に施したものをＣⅡ類、主に先端部であるが、いくらか左右両側辺にも及ぶ浅いＵ字状に刃部調整を施しているものをＣⅢ類とした。剝片の三辺に刃部調整を施しているものをＤ類とした。その中で、剝片の左右両側辺と下辺の三辺に刃部調整を施したものをＤⅠ類、その他の三辺に調整を施しているものをＤⅡ類とした。刃部調整が剝片の全辺に及んでいるものをＥ類とし、その中でも、円盤状ないし四角形を呈しているものをＥⅠ類とし、その他の形態のものをＥⅡ類とした。

１．〈ＣⅠ類〉横剝ぎの大形剝片を素材にしている。先端部に片面のみ二次加工の刃部調整

第13図　スクレーパー一覧表

No.	図番	図版	器種	類別	出土層位	素材	素材 最大長	素材 最大幅	素材 最大厚	二次加工の状態	重さ	石質	自然面	備考
1	1	1	Scraper	C－I	I	横剝ぎ	98.7mm	62.9mm	18.1mm	刃部のみ片面	118.0g	サヌカイト		
2	2	2	〃	C－I	〃	〃	70.1	110.4	21.7	〃	172.0	〃		未製品
3	3	3	〃	C－II	〃	縦剝ぎ	74.8	73.8	16.0	刃部両面・片面	126.0	〃		
4	4	4	Core－Scraper	A－III	〃	core	35.6	42.3	18.0	全周加工	31.0	〃		
5	5	5	Scraper	C－III	〃	縦剝ぎ	38.0	47.6	11.2	刃部両面・片面	28.0	〃	○	
6	6	6	〃	A－III	〃	〃	73.5	49.2	12.0	刃部のみ両面	46.0	〃	○	
7	7	7	Core－Scraper	A－II	〃	core	46.7	90.2	27.2	刃部のみ片面	91.0	〃	○	
8	8	8	Scraper	D－I	〃	縦剝ぎ	43.9	34.4	9.7	両面加工	17.0	〃		
9	9	9	Core－Scraper	E－II	II上	core	133.6	88.7	31.3	刃部両面・片面	338.0	〃	○	石斧状
10	10	10	〃	D－II	III上	〃	58.2	96.2	14.3	刃部のみ両面	142.0	〃	○	
11	11	11	〃	C－III	II上	横剝ぎ	49.1	82.3	15.0	〃	62.0	〃	○	
12	12	12	〃	E－II	〃	縦剝ぎ	38.0	77.5	13.9	刃部のみ両面	40.0	〃		
13	13	13	Core－Scraper	A－I	〃	core	51.2	61.8	17.9	刃部のみ片面	57.0	〃	○	
14	14	14	剝片	A－III	〃	横剝ぎ	59.5	38.6	10.2	刃部のみ両面	28.0	〃		
15	15	15	Scraper	E－I	〃	不定形	37.5	46.5	8.8	全面加工	16.0	黒曜石		
16	16	16	〃	A－III	〃	縦剝ぎ	48.1	38.3	9.6	刃部のみ片面	16.0	サヌカイト		
17	17	17	Core－Scraper	A－III	〃	core	32.7	34.5	8.8	両面加工	9.0	黒曜石		
18	18	18	Scraper	D－I	〃	横剝ぎ	35.5	52.1	8.4	刃部のみ片面	17.0	〃		
19	19	19	Core－Srraper	A－III	〃	core	29.2	36.9	10.6	〃	9.0	〃		
20	20	20	Scraper	E－I	〃	縦剝ぎ	39.2	27.9	8.8	全面加工	9.3	〃		
21	21	21	Core－Scraper	A－III	〃	core	33.5	45.1	14.7	刃部のみ片面	19.0	〃		
22	22	22	Scraper	D－II	〃	横剝ぎ	21.1	37.4	5.9	刃部両面・片面	45.0	〃		
23	23	23	Scraper	B－I	〃	縦剝ぎ	54.0	56.6	14.2	刃部のみ両面	53.0	サヌカイト	○	
24	24	24	〃	D－II	〃	〃	20.3	22.4	4.3	全面加工	1.7	黒曜石		
25	25	25	Core－Scraper	D－II	II下	core	84.4	103.8	20.5	刃部のみ両面	197.0	サヌカイト		
26	26	26	Scraper	B－I	〃	横剝ぎ	120.0	83.0	27.9	〃	289.0	〃	○	
27	27	27	〃	C－I	〃	不定形	51.4	30.5	16.7	〃	22.0	黒曜石	○	
28	28	28	〃	E－II	〃	縦剝ぎ	25.1	31.8	5.9	両面加工	4.3	〃		
29	29	29	〃	A－III	〃	〃	39.7	27.1	9.6	刃部のみ両面	8.7	〃	○	
30	30	30	縦長剝片	E－I	〃	縦剝ぎ	60.3	35.7	10.5	両面加工	22.0	〃		
31	31	31	Scraper	E－I	III上	〃	32.3	24.6	9.0	〃	6.4	〃		
32	32	32	Core－Scraper	D－I	〃	core	32.2	55.9	8.2	刃部のみ片面	17.5	サヌカイト	○	
33	33	33	Screper	D－I	〃	不定形	19.0	25.3	8.8	両面加工	3.9	黒曜石		

を施している。サヌカイト製。

2．〈CⅠ類〉サヌカイト製の大形剝片を素材にし、片面からのみ刃部調整を施している。上面の左右面に礫面を残すが、下辺に刃部作製の調整が観察できる。未製品と考えられる。

3．〈CⅡ類〉原石から最初に剝離された薄手縦剝ぎの大形剝片を用いる。打面調整を施し、刃部調整は、先端部から左右側辺の4分の1から3分の1位まで行なう。先端部は、両面から左右側辺は片面の調整である。サヌカイト製。

4．〈AⅢ類〉サヌカイト製の丁寧に剝離された小形石核を素材にしている。打面に刃部調整を施している。刃部は下辺から左辺に及んでいる。

5．〈CⅢ類〉最初に剝離された剝片を素材にしている。刃部調整は下辺は両面から、左右側辺は主要剝離面に施している。サヌカイト製の小形製品である。

6．〈AⅢ類〉第一打剝離の薄手縦長剝片を用いている。左側辺と頭部に二次加工を施している。刃部調整は荒いが、表裏両面より行なっている。気泡の多いサヌカイト製。

7．〈AⅡ類〉サヌカイト製の横剝ぎ剝片を剝った石核を素材にしている。右辺は礫面を残す。片面からの刃部調整を施している。両面とも左辺側に使用痕が著しい。

8．〈DⅠ類〉小形サヌカイト製の縦長剝片を素材にしている。正裏面に刃部調整を施す。

9．〈EⅡ類〉サヌカイト製の横剝ぎ剝片を剝離した扁平の石核を利用している。裏面には大きく自然面を残す。刃部加工は全周にわたって施され、左辺中央部と上辺中央部が片面のみ、他は両面からの交互剝離である。刃部角度は全体的に鋭い。角のはった卵型を呈する大形スクレーパーとしているが、石斧の未製品とも考えられる。

10．〈DⅡ類〉サヌカイト製の楕円形の石核を素材にしている。断面は凸レンズ状を呈する。裏面に礫面を大きく残す。やや大形のスクレーパーである。刃部剝離は下辺、左右側辺の三辺に両面より交互に施し、角度は全体的に鋭く、整った刃部である。

11．〈CⅢ類〉横剝ぎのサヌカイト剝片を素材にしている。上辺に自然面を帯状に残す。断面は楔形を呈する。刃部加工は下辺から左右側辺まで及ぶ。調整は両面から細かく丁寧に施し、刃部角度は鋭い。

12．〈EⅡ類〉原石より第一回剝離によって得られた縦長剝片を用いている。サヌカイト製で三日月形を呈する。刃部剝離は荒く、四辺とも両面より交互に施している。右辺の外彎部の調整はややていねい。

13．〈AⅠ類〉サヌカイト製の円礫より得られた石核を利用している。刃部加工は左右辺に一面からのみ施している。剝離は荒く、刃部角度は鈍い。

14．〈AⅢ類〉、サヌカイト製の横剝ぎ剝片を素材にし、中央部から切断した左半分を用いている。刃部調整は上辺と左側辺に両面から交互剝離を施している。

15．〈EⅠ類〉黒曜石製の剝片を用いている。刃部調整は剝片をほぼ全周し、表裏両面から

細かく施している。上辺から右辺にかけて使用痕が著しい。

16．〈AⅢ類〉薄手の縦剝ぎ剝片を用い、右側辺と下辺に刃部調整を施している。調整は主に正面からのみである。良質のサヌカイト製で、隅丸の三角形を呈する。

17．〈CⅠ類〉黒曜石製の小形薄手石核を素材にしている。刃部調整は下辺に正裏両面よりていねいに施されている。隅丸の三角形を呈する。

18．〈DⅠ類〉気泡の多い黒曜石製の横剝ぎ剝片を素材にしている。バルブ調整を行ない、台形を呈する。刃部調整は左右辺、下辺は主要剝離面に、右側辺は正面に一方からのみ施されている。

19．〈AⅢ類〉漆黒の黒曜石の石核を用いている。刃部調整は主に片面からのみで、細かく施している。特に下辺の調整は丁寧であり、隅丸の三角形を呈する。

20．〈EⅠ類〉良質の黒曜石製剝片を素材にしている。正裏両面とも、表面を全面加工している。刃部加工調整は交互に荒く行なっている。使用痕は両側辺の下方に著しい。

21．〈AⅢ類〉良質の黒曜石製石核を利用している。刃部調整はほとんどが片面からのみで、右辺下方と下辺中央部が両面から施している。右辺と、下辺左半分に使用痕が観察できる。

22．〈DⅡ類〉漆黒良質の黒曜石製で、上辺部が欠損している。A面の右側辺は正裏面から、下辺は右半分、B面の下辺半分に刃部調整を施している。

23．〈BⅠ類〉サヌカイト製の縦剝ぎの剝片の先端部をカットしたものを用いている。半円形で、礫面を右辺全縁に残す。刃部加工は左辺を両面から細かく行ない、鋭い。

24．〈DⅡ類〉不純物の混じる黒曜石で、上下辺と左側面に入念な刃部調整を施している。右側辺を欠損しているが、三角形状の小形製品と思われる。

25．〈DⅡ類〉横剝ぎの良質の剝片が剝離されているサヌカイト製の扁平の石核を利用している。刃部調整は上下辺と左側辺に施された楕円形の大形スクレーパーである。刃部は三辺とも両面から細かく加工されている。特に下辺と左辺下半分は丁寧であるが、刃部角度は鈍い。この部分の剝離面の稜が擦れ、使用痕と思われる。

26．〈BⅠ類〉サヌカイト製の横剝ぎ大形剝片を素材にしている。上・下部に平坦な礫面が二か所残る。刃部調整は、左側辺に両面より交互剝離を施している。刃部角度は鋭い。

27．〈CⅠ類〉漆黒良質の黒曜石製石核を利用している。裏面には礫面を多く残す。刃部調整は、先端部に両面から細かく施されている。

28．〈EⅡ類〉漆黒良質の黒曜石製である。上辺と下辺右隅を欠失しているが、三角形状を呈するものと思われる。正裏両面から入念な調整が施されている。

29．〈AⅢ類〉上辺、右側面に礫面を残す。黒曜石縦長剝片を素材にしている。刃部調整は、自然面以外の側辺にくまなく入念に正裏両面より施されている。

30．〈EⅠ類〉良質の黒曜石を素材にした縦形のスクレーパー。つまみ部分の作り出しは行

なわれていないが、いわゆる石匙である。A面では、上辺を除いた三辺より平坦剝離を施した後、四辺に刃部調整を施している。頭部に、二か所礫面を残す。B面では左下辺より平坦剝離を施しその後、左、右、下辺の三辺より刃部調整を施している。器長6.1㎝、器幅3.6㎝、最大器厚は刃部側にあり、1.1㎝を計る。

31. 〈E I 類〉ほぼ台形状を呈する小形掻器。刃部調整加工は、全側辺より施されている。全辺刃角は鋭いが、中央部は部厚い。灰黒色に風化した黒曜石製。

32. 〈D I 類〉薄手横長の剝片を用いている。上縁に三角形状の礫面を残すが、刃部調整は三辺の片面にのみ施している。サヌカイト製。

33. 〈D I 類〉小形黒曜石製。上側辺に礫面を残す不定形の剝片を素材にしているが、刃部加工は入念に施している。左右側辺、下辺に正面裏面より調整を行なっている。

③ 石　斧　(第16－2図)

石斧は、II層の上層、下層とIII上層より各1点ずつと、表土層からの3点で計6点が出土した。これは石器総数の0.9%にあたる。

1. (I層)磨製石斧である。断面は右寄りに最厚部をもつ卵形を呈する。頭部には大きな抉りがあり、調整打痕を多く残す。刃部を欠失する。

2. (I層)片刃石斧で頭部を欠損する。刃部の幅1.3㎝刃部角度は71°である。

3. (II下層)磨製石斧。刃部は両面からよく研磨されて刃角は鋭く、65°を呈する。正面裏面とも研磨痕がみられ、使用痕が観察される。

④ 尖頭状石器　(第16－2図)

尖頭状石器は、II上層より1点、II下層より2点、III上層より2点、III下層より1点、I層より1点の計7点が出土した。これは石器総数の1.0%にあたる。

1. (I層)黒曜石製。剝離調整は、両面に入念に施し、整っている。先端部のみである。

2. (III上層)漆黒の良質黒曜石を用いる。基部側を大きく欠損している。調整は両面に入念に施す。

3. (II下層)良質黒曜石製剝片を素材にしている。調整はラフであるが正裏両面より施し、整っている。先端部、基部とも欠損する。

4. (III下層)横広のサヌカイト製剝片を素材にしている。正裏両面に大きく第一次剝離面を残す。刃部調整は、主に右側辺は正面より左側辺は裏面より施し、整った形状を呈す。器長6.55㎝、器幅4.96㎝、重さ23.9ｇを計る。

5. (III上層)厚手の良質黒曜石製縦長剝片を素材にしている。左側辺は先端部までほぼ直線状を呈するが、右側辺は大きく外彎し、先端部が右に片寄る。刃部調整はA面片面だけであるが、左側辺は全辺に、右側辺は上半円部に施す。基部は右側辺が大きく内彎する。打瘤除去はなされていない。器長6.93㎝、器幅2.96㎝、最大器厚1.26㎝、重さ18.7ｇを計る。

⑤ 砥　石　（第16－３図）

砥石は、Ⅱ上層より７点を最高に、Ⅲ上層より３点、Ⅲ下層より２点、Ⅱ下層より１点、表土層２点を合わせると計15点出土している。

１．（Ⅰ層）板状砥石である。正裏両面とも右辺側より左辺部に傾斜する。また、両面とも敲打による凹みがある。正面の凹みは皿状を呈し、長径2.4㎝深さ３㎜。裏面の凹みは不定形だが最深部で３㎜を計測する。

２．（Ⅰ層）薄い扁平な砥石である。正裏両面を砥石として使用している。側辺にも磨痕が見られる。裏面右部に深さ1.5㎜の凹みがみられる。

３．（Ⅱ上層）円盤形砥石。正裏両面はよく研砥されている。約４分の３が欠失している。

４．（Ⅱ上層）比較的部厚い。隅丸の方形に近い断面をもつ板状砥石である。正裏両面に研砥面をもち、中央部に向かったゆるやかな傾斜を呈する。右側辺に面取りがある。

５．（Ⅱ上層）隅丸の三角形の扁平な礫を素材にしている。正裏両面に研砥が観察される。

６．（Ⅱ上層）長楕円形の砥石。正面は特に研砥頻度が高く、中央部分がわずかに凹んでいる。下辺右寄りに深さ約１㎜の有孔条痕がある。側辺は三辺とも研砥されている。右部を欠失している。

７．（Ⅱ上層）正裏両面に研砥痕がみられる。周縁より中央部に向かった凹みがある。正面に深さ１㎜の敲打痕と思われる使用痕がある。四辺を欠失している。

８．（Ⅱ上層）正裏両面を使用した楕円形の砥石である。

９．（Ⅱ上層）板状の砥石である。研砥面は、正面の一面のみで中央部が、ゆるやかな傾斜をもつ。

10．（Ⅱ下層）研砥面を三面にもつ板状砥石。正裏両面には、幅１～２㎜の浅い有孔条痕が走る。両面とも研砥のため中央部が傾斜している。接合資料である。側面は大きく内反している。

11．（Ⅲ上層）正裏両面に研砥面をもつ楕円形の砥石で半欠している。左部より中央にむけてゆるやかに両面とも傾斜している。正裏面とも溝状の研砥痕が上下に走る。Ａ面中央寄りの溝は長さ5.6㎝深さ1.3㎜。Ｂ面中央部の溝は長さ6.3㎝深さ２㎜のＵ字状を呈する。

14．（Ⅲ下層）接合資料である。有孔砥石片である。直方体形の断面隅丸の方形で正裏両面を研砥面として用い、中央部が浅く凹む。正面には溝幅0.3㎝長さ2.8㎝と溝幅0.9㎝長さ2.6㎝の溝が二本ある。裏面には幅0.1㎝長さ6.6㎝（最長溝）の溝が10数条ある。

⑥ 磨石、敲石、凹石　（第16－４図）

本遺跡の石器組成の一要素として、磨石、敲石、凹石がある。表土層より15点、Ⅱ上層より10点、Ⅱ下層より２点、Ⅲ上層より４点で計31点が出土した。これは石器総数の4.5％にあたる。これらの石器は単独に用いられたのでなく、兼用または転用して利用されているものと推

第14図　磨石、敲石、凹石一覧

No.	図番	図版	計測							備考
			最大長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	正(A)面	裏(B)面	側面	
1	1	1	112.0	93.2	34.0	537.0	凹石	磨石	敲打・擦磨痕	併用
2	2	2	111.9	88.0	33.0	508.0	磨石	〃	擦石	
3	3	3	95.2	76.8	42.8	482.0	〃	〃	−	
4	4	4	(112.0)	91.0	45.7	622.0	〃	〃	敲打痕	磨石から敲石に転用
5	5	5	131.2	82.2	27.7	367.0	凹石	凹石	〃	不定形
6	6	6	−	−	16.8	−	〃	〃	〃	
7	7	7	133.3	118.2	50.4	1129.0	磨石	磨石	磨石	
8	8	8	89.0	61.7	38.5	284.0	〃	〃	磨石・敲打痕	
9	9	9	58.1	44.7	30.9	104.0	〃	〃	敲石	小形
10	10	10	131.1	67.6	37.5	432.0	〃	〃	−	不定形
11	11	11	108.8	80.0	47.9	552.0	〃	〃	磨石	
12	12	12	117.4	72.7	30.9	516.0	〃	〃	〃	
13	13	13	111.9	81.0	36.5	470.0	〃	凹石	〃	
14	14	14	101.9	78.9	48.4	580.0	〃	磨石	〃	
15	15	15	106.4	−	(46.0)	−	〃	〃	磨石・敲打痕	
16	16	16	118.9	79.3	62.5	777.0	〃	〃	〃	
17	17	17	102.1	69.6	50.0	502.0	〃	〃	磨石	
18			118.35	99.30	45.00	717.5	〃	〃	〃	
19			118.15	110.00	51.05	964.0	〃	〃	−	円形
20			111.10	79.00	43.65	618.0	〃	〃	磨石	
21			95.65	60.30	39.50	(307.0)	〃	〃	〃	
22			95.25	76.30	(35.99)	(313.0)	〃	−	〃	
23			(104.20)	(52.15)	(30.90)	(314.0)	〃	磨石	〃	
24			(86.30)	(74.65)	(38.20)	(318.0)	〃	〃	〃	
25			(80.50)	(63.65)	(47.65)	(316.0)	〃	〃	磨石・敲打痕	
26			−	−	(43.20)	(151.2)	〃	−	−	
27			−	−	(43.00)	(196.0)	〃	磨石	敲打痕	
28			−	−	(40.80)	250.2	〃	〃	−	
29			130.00	95.00	50.00	927.0	〃	〃	磨石	
30			121.85	99.70	44.45	706.0	〃	〃	〃	
31			−	−	(40.30)	(158.0)	〃	〃	〃	
32			−	−	(35.40)	(168.5)	〃	−	−	
33			−	−	(42.05)	(238.0)	〃	磨石	−	
34			108.65	92.40	49.95	706.0	〃	−	−	
35			120.35	88.30	37.90	650.3	〃	磨石	磨石	
36			(124.05)	(81.00)	47.20	(718.0)	〃	〃	〃	
37			(80.50)	(73.80)	(33.40)	(225.0)	〃	−	〃	
38			114.00	91.70	44.05	637.0	〃	−	〃	
39			117.40	(78.50)	(36.40)	(493.0)	〃	磨石	〃	

察される。第13図に計測一覧を示した。

1．楕円形の円礫を用いる。A面は最深部で約4㎜の皿状凹みがほぼ中央部にある。凹みは敲打痕と思われ、凹みの周りにも敲打痕が観察できる。B面は使用頻度の高い擦石として兼用されている。上辺左側面と下辺右側面がよく擦れている。左右側面は敲打と擦磨の併用と思われる頻度の高い擦痕が観察される。

2．楕円形磨石である。両面、側面とも使用頻度が高い。両面とも上左隅が大きく擦磨されている。左右側面、上下側面とも使用されているが、後者より前者の使用頻度が高い。

3．小形でやや厚手の石鹸形を呈する磨石である。上下面、左右面とも平均した力で使用されたためか、磨面のねじれは見られない。裏面は節理部からの欠落がある。

4．正裏両面とも周辺部には磨研痕が、中央部には敲打痕が観察できるが、これは磨石として使用した後に敲石に転用したためであろうか。左右側面は敲石として使用されたらしく、敲打痕が著しい。楕円形を呈する。

5．扁平な卵形の異形の凹石である。凹みの最深部は表面で4㎜、裏面で5㎜ある。凹みは敲打痕と思われ、不定形である。右側面には敲打痕が著しい。

6．やや小形の凹石である。右辺の一部と下半分を欠落している。正裏両面とも凹みを有する。凹みの深さは正面は4.5㎜、裏面は2.5㎜を計測する。側面に敲打痕が観察される。

7．楕円形を呈する大形擦石。正裏両面とも擦石として使用されている。特に正面、左右両側面の擦磨痕は使用の頻度が高い。裏面の擦磨の方向は長軸と一致する。

8．小形擦石である。正裏両面、左右両面とも擦石として使用されている。表面の擦面は彎曲しているが、裏面はほぼ平坦面である。左右側面はともに平面に近い。左下隅の側辺部の欠落は敲打によるものと思われる。

9．小形の擦石である。正面が擦磨頻度がとても高い。左右側面、上下側面とも敲打痕が観察されるが、左右両側面の中央部に敲打痕が少ないのは素材が小さいためであろうか。

10．不定形の磨石と思われる。正面の中央部から下辺にむけて凹みがあり、下側辺は線状を呈す。裏面は全面にわたって擦磨されている。左右側辺には研砥石はみられないが平面状を呈す。

11．楕円形を呈する擦石である。表裏面、左右側面とも擦面を観察できる。正面は曲面を呈するが、裏面は平坦面を呈し擦磨の頻度が高い。正裏面とも左上隅と右下隅がよく擦磨されている。上下側面にも磨面がある。

12．隅丸長方形を呈する磨石である。正裏両面とも擦石として使用されて、周辺には擦痕が四方に走る。左上隅と右下隅がよく擦磨されている。左、右、下側面も平坦面を呈する。四側面には敲打痕が観察できる。下側面の敲打頻度が高い。

13．楕円形を呈する擦石である。正面には約2㎜の浅い皿状の凹みを有するが擦石としても

使用されている。裏面は擦石としてのみ使用されている。左右側面の擦磨の頻度は低い。

14．使用頻度の高い磨石である。正裏面のねじれが大きい。右上隅の平坦面は異なった磨法による磨滅と考えられる。

15．中央部から左側辺にかけて欠損しているが、円形を呈する擦石と思われる。正裏面の擦磨は頻度が高い。側面の磨石も整った帯状を呈し敲打痕が著しい。

16．厚手の磨石である。正面は擦石として使用され磨面は上部に片寄り長軸の方向と一致している。左右側面は平坦に近いが敲打痕が著しい。裏面には中央部に敲打痕が少し観察できる。

17．使用頻度の低い磨石である。磨擦は正裏両面に観察できるが正面の方が進んでいる。左右側面にも同じことがいえ、右面に平坦な磨面が表れている。

⑦　石　皿　（第16－3図）

E11区II上層より出土した大形石皿である。上辺右部から右側辺にかけて大きく欠失している。現状で、最大長37.4cm最大幅29.2cm最大器厚8.9cmを計る。中央部が浅い皿状に凹み、最深部で0.8cmある。この凹みは上辺端まで達する。また右下隅にも深さ0.45cmの浅い帯状を呈す

第15図　石核一覧

No.	図番	図版	類別	出土層位	石　質	計測				自然面
						最大長	最大幅	最大厚	重　さ	
1	1	1	A I	I	サヌカイト	106.40mm	173.00mm	63.90mm	1328.0g	○
2	2	2	B I	II上	黒　曜　石	44.20	36.30	18.50	47.1	○
3	3	3	D I	〃	〃	50.10	48.00	21.00	37.8	○
4	4	4	D II	〃	サヌカイト	57.65	48.00	55.65	140.5	○
5	5	5	A III	II下	〃	75.20	52.65	32.55	153.9	○
6	6	6	D I	〃	黒　曜　石	55.00	26.90	25.60	27.1	
7	7	7	〃	〃	〃	40.00	56.70	24.65	42.8	○
8	8	8	D II	〃	〃	53.00	30.40	18.20	35.5	○
9	9	9	D I	〃	〃	60.35	19.65	20.60	26.5	○
10	10	10	D II	〃	〃	37.55	40.00	17.40	29.4	○
11	11	11	D I	III上	〃	40.35	29.50	18.35	26.7	○
12	12	12	〃	III下	〃	33.70	35.00	18.70	24.0	○
13	13	13	〃	〃	〃	43.50	45.75	18.20	25.1	
14	14	14	D II	〃	〃	31.00	48.70	25.75	33.5	○
15			B II	I	サヌカイト	47.00	67.01	24.00	83.5	○
16			〃	〃	黒　曜　石	27.20	47.00	10.60	13.7	○
17			B III	〃	サヌカイト	88.20	130.00	36.30	432.0	○
18			D I	〃	黒　曜　石	44.30	61.95	10.70	35.4	○
19			〃	〃	サヌカイト	110.30	60.90	40.50	217.0	○

No.	図番	図版	類別	出土層位	石　質	計測				自然面
						最大長	最大幅	最大厚	重　さ	
20			D I	I	サヌカイト	100.60mm	42.30mm	31.70mm	137.1 g	○
21			〃	〃	黒　曜　石	35.30	55.00	19.00	35.1	○
22			〃	〃	〃	36.30	31.40	21.40	26.5	○
23			〃	〃	〃	32.70	63.40	16.85	24.5	○
24			D II	〃	サヌカイト	64.60	72.30	29.20	162.0	○
25			D I	II上	黒　曜　石	41.50	59.70	14.00	31.6	○
26			〃	〃	〃	22.90	33.20	12.40	23.3	○
27			〃	〃	〃	45.50	29.35	25.40	15.4	○
28			〃	〃	〃	45.50	44.00	19.00	51.8	○
29			〃	〃	〃	28.60	43.30	13.20	26.7	○
30			〃	〃	〃	33.00	24.30	32.25	11.0	○
31			〃	〃	〃	55.20	53.00	18.00	79.0	○
32			〃	〃	〃	35.55	22.80	18.60	14.5	○
33			D II	〃	〃	55.75	31.30	17.80	59.4	○
34			〃	〃	〃	36.70	34.00	20.20	16.6	○
35			〃	〃	サヌカイト	37.00	42.80	14.45	28.9	○
36			〃	〃	黒　曜　石	40.00	29.00	19.30	14.1	○
37			〃	〃	〃	29.00	32.40	14.40	15.8	○
38	38	38	D I	〃	〃	44.10	60.30	18.85	39.2	○
39			A I	〃	〃	60.00	23.70	17.60	27.3	○
40			D I	II下	〃	52.10	37.90	32.00	29.8	○
41			〃	〃	〃	37.50	42.40	12.40	50.5	○
42			〃	〃	〃	38.70	45.00	10.40	17.8	○
43			D II	〃	〃	31.10	46.60	11.75	11.9	○
44			〃	〃	〃	36.10	60.45	15.00	24.6	
45			〃	〃	サヌカイト	44.35	65.85	23.00	46.7	○
46			〃	〃	黒　曜　石	40.00	37.85	27.30	23.4	○
47			〃	〃	〃	34.55	28.25	16.20	20.6	○
48			〃	〃	〃	26.75	44.20	19.50	17.0	○
49			A II	III上	〃	37.20	36.60	15.40	25.6	○
50			D I	〃	〃	35.00	29.40	21.80	19.1	○
51			〃	〃	サヌカイト	52.65	50.30	9.00	60.8	○
52			〃	〃	黒　曜　石	25.40	27.40	18.00	7.6	
53			〃	〃	サヌカイト	58.50	71.40	19.60	74.0	○
54			B I	II下	黒　曜　石	33.95	36.70	19.60	18.4	○
55			D I	〃	〃	33.85	34.10	16.00	25.8	○
56			D II	〃	〃	31.90	39.00	10.30	11.1	○
57			D I	III上	〃	32.45	53.70	16.10	33.7	○

る凹みがある。側面は下側面のみが平坦状を呈するが加工したものと思われる。裏面は自然面のままで、安定性を欠く。器面の風化がはげしい。

⑧ 石 核 （第16－5図）

石核は、II上層から59点、II下層から34点、III上層から13点、III下層から11点、表土層から15点の計132点が出土した。これらの石核を次の基準で分類した。

打面が線状になっている石核をA類とし、その中でも両面剥離を行なっているものを〈AI類〉、片面のみの剥離を行なっているものを〈AII類〉、あとから側面からも剥離を行なっているものを〈AIII類〉とした。一定の打面をもつものを〈BI類〉とし、その中でも全側面に及んでいるものを〈BII類〉、あとで剥離面を打面に利用しているものを〈BIII類〉とした。上下面に打面をもつものを〈CI類〉とした。打面調整を行なっていない石核を〈D類〉とし、礫面からのみ剥離を行なっているものを〈DI類〉、あとで剥離面も打面に利用しているものを〈DII類〉とした。石核一覧は第14図の通りである。

1．〈AI類〉大形のサヌカイトの円礫原石を素材にしている。楕円の長孤面にAB両面より打面作り出しの剥離を施しているが、打面は線状である。正裏面より横広剥片を剥離している。A面から第一回剥離によって得られた剥片は最大幅11.9㎝で、B面の剥片は最大長9.9㎝、最大幅14.8㎝を計測できる。

2．〈BI類〉打面作出の剥離を1回施した後、剥片剥離を行なっている。

3．〈DI類〉不定形の黒曜石角礫を素材にしている。礫面からの1回のみの剥片剥離に終わっている。

4．〈DII類〉サヌカイト製の角礫から自然面を打面にして、一定の大きさの剥片を有効に剥離している。

5．〈AIII類〉サヌカイトの円礫を素材にしている。打面を上辺、右側辺に線上に作出し、その後両面とも剥片剥離を行なっている。良い剥片が得られないためか左側辺の自然面を打面にした剥離も見られる。

6．〈BIII類〉打面を作出し、三側面に剥離を施している。終わりにはその剥離面も打面に利用している。黒曜石製。

7．〈DI類〉良質の黒曜石角礫を素材にしている。剥離は正面のみに施され、上面右側面から行なわれている。

8．〈DII類〉良質の黒曜石円礫を素材にしている。4回の剥片剥離が施されている。

9．〈DI類〉気孔の多い黒曜石角礫を素材にしている。剥片剥離は上面、右側面の自然面を打面にして、4回施されている。

10．〈DII類〉節理のある黒曜石角礫を素材にしている。剥離の方向は一定していない。

11．〈DI類〉黒曜石製小形の卵形円礫を素材に、礫面を打面に正裏面に各々1個ずつの縦

長剝片を得るための剝離を施している。

12．〈ＤＩ類〉小形の黒曜石円礫を素材にしている。礫面を打面に２回の剝片剝離が施されている。

13．〈ＤＩ類〉良質の漆黒の黒曜石角礫を素材にしている。自然面を打面に側面からも剝離している。

14．〈ＤII類〉黒曜石製。自然面・剝離面を打面に４回の縦長・横広剝片剝離を行なっている。

38．〈ＤＩ類〉漆黒の良質黒曜石円礫を素材にしている。剝片剝離は四方の自然面から中央部に向かって施されている。正面のみの剝離である。

⑨　石　塊（原石）

磨石、敲石や凹石等に用いられると思われる円礫の自然石が多数出土した。また剝片石器を得るための黒曜石石塊も２点出土した。

１．円礫。長径12.15㎝、短径10.53㎝、厚さ5.77㎝、重さ965ｇを計る。III上層出土。

２．黒曜石円礫で、長径5.29㎝、短径3.99㎝、厚さ2.97㎝、重さ86.1ｇを計る。II上層出土。

３．黒曜石の円礫。長径8.27㎝、短径6.96㎝、厚さ3.93㎝、重さ 322 ｇを計る。II下層出土。

参考文献

○乙益重隆他「縄文時代」日本の考古学II　1965

○松岡　史「唐津市史・古代」唐津市　1962

○片岡　肇「岩谷口遺跡群の発掘調査」

○副島邦弘他「大道端遺跡の石器について」福岡県教委　九自道報告書14　1977

○賀川光夫他「黒山遺跡緊急発掘調査」大分県文化財調査報告第17輯　1967

○八幡一郎・賀川光夫「早水台」大分県文化財報告III　1955

○坂田邦洋「成仏岩陰遺跡の調査」国東町教委　1972

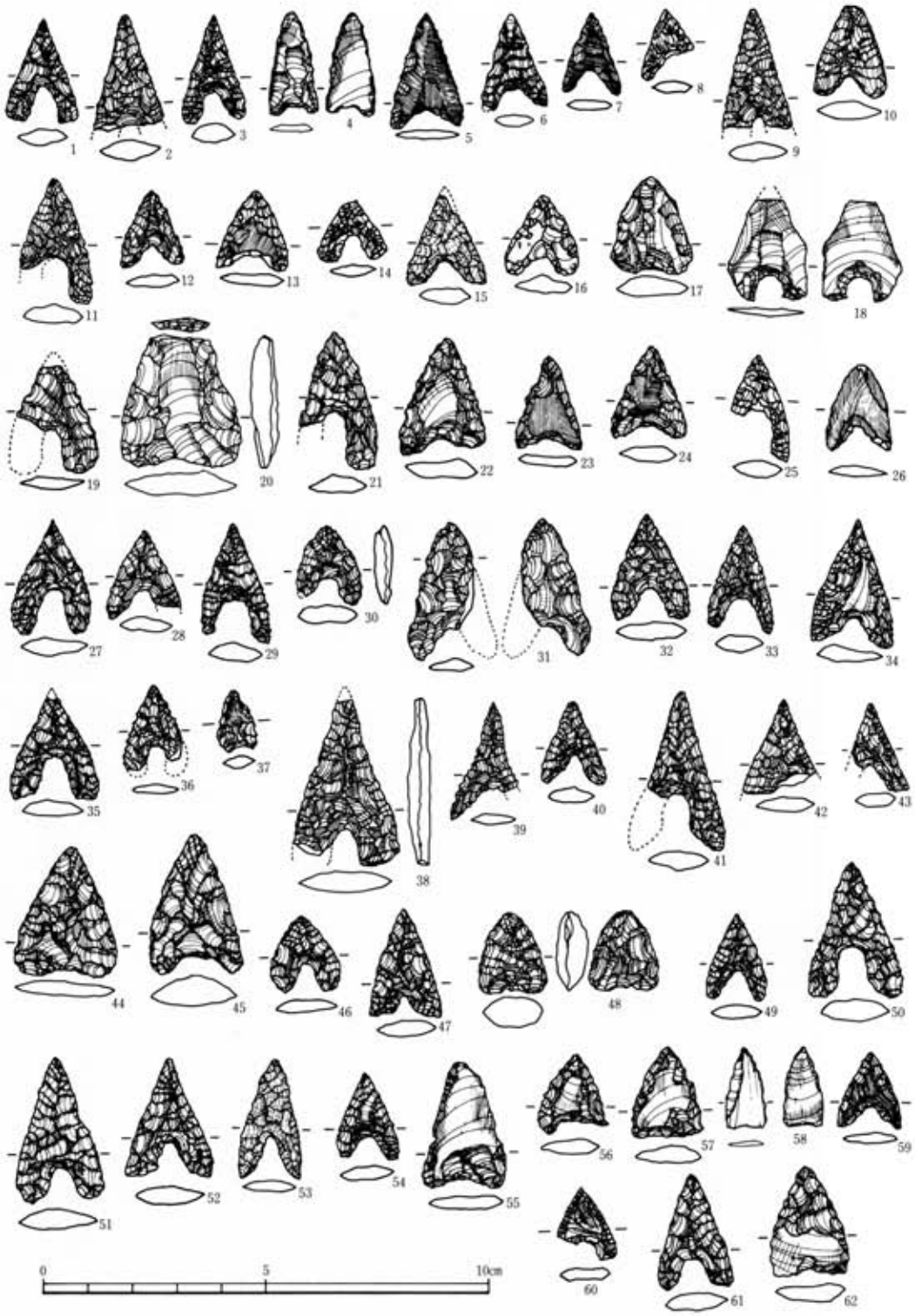
○賀川光夫他「稲荷山遺跡緊急発掘調査」大分県文化財調査報告20・21号　1970

○橘　昌信・木下　修「深原遺跡の調査」山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告８　1978

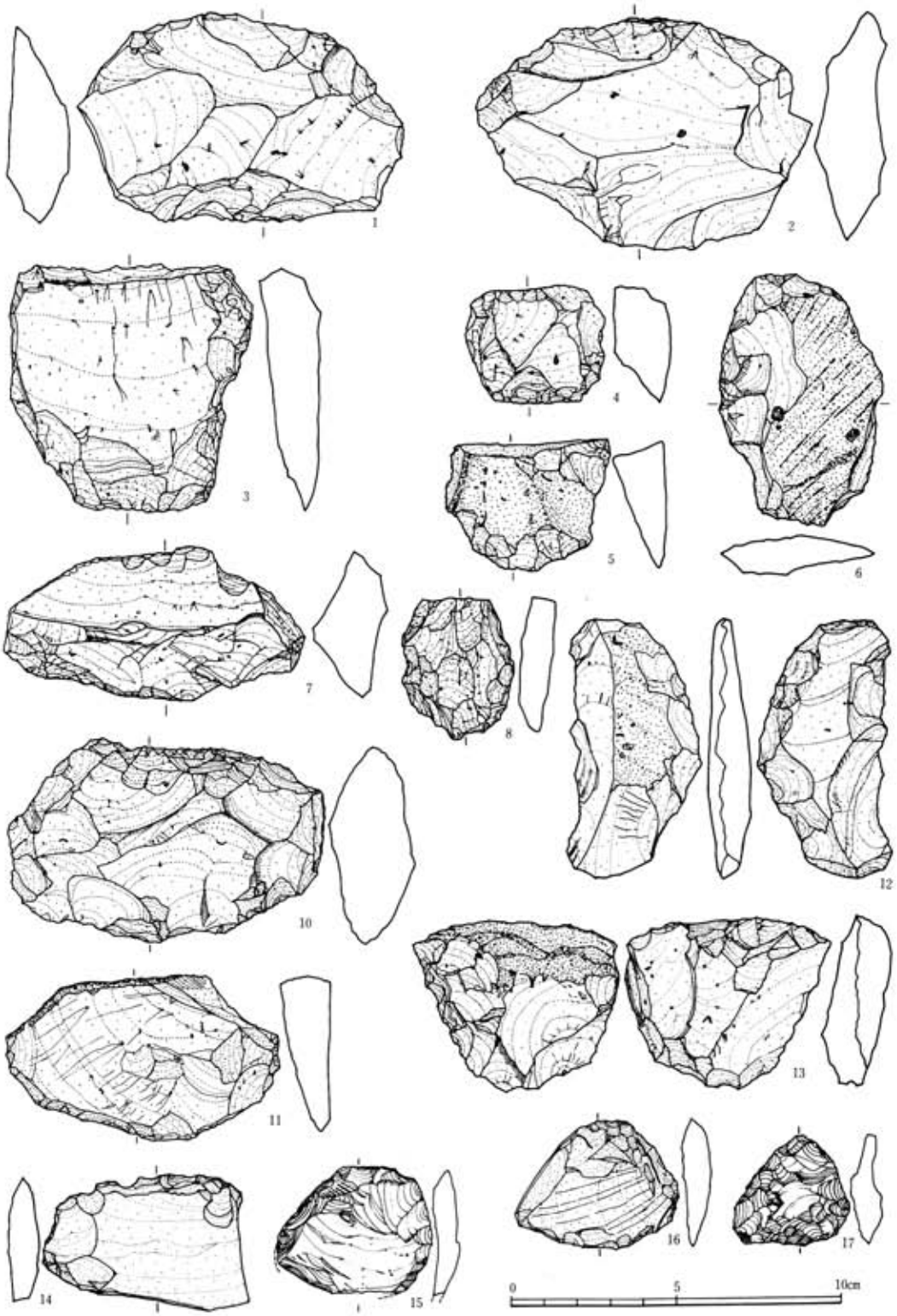
○堀川義英「生石遺跡」佐賀県文化財報告43集　1978

○岩尾松美・酒匂義明「原田洞穴の調査」大分県地方史34号　1964

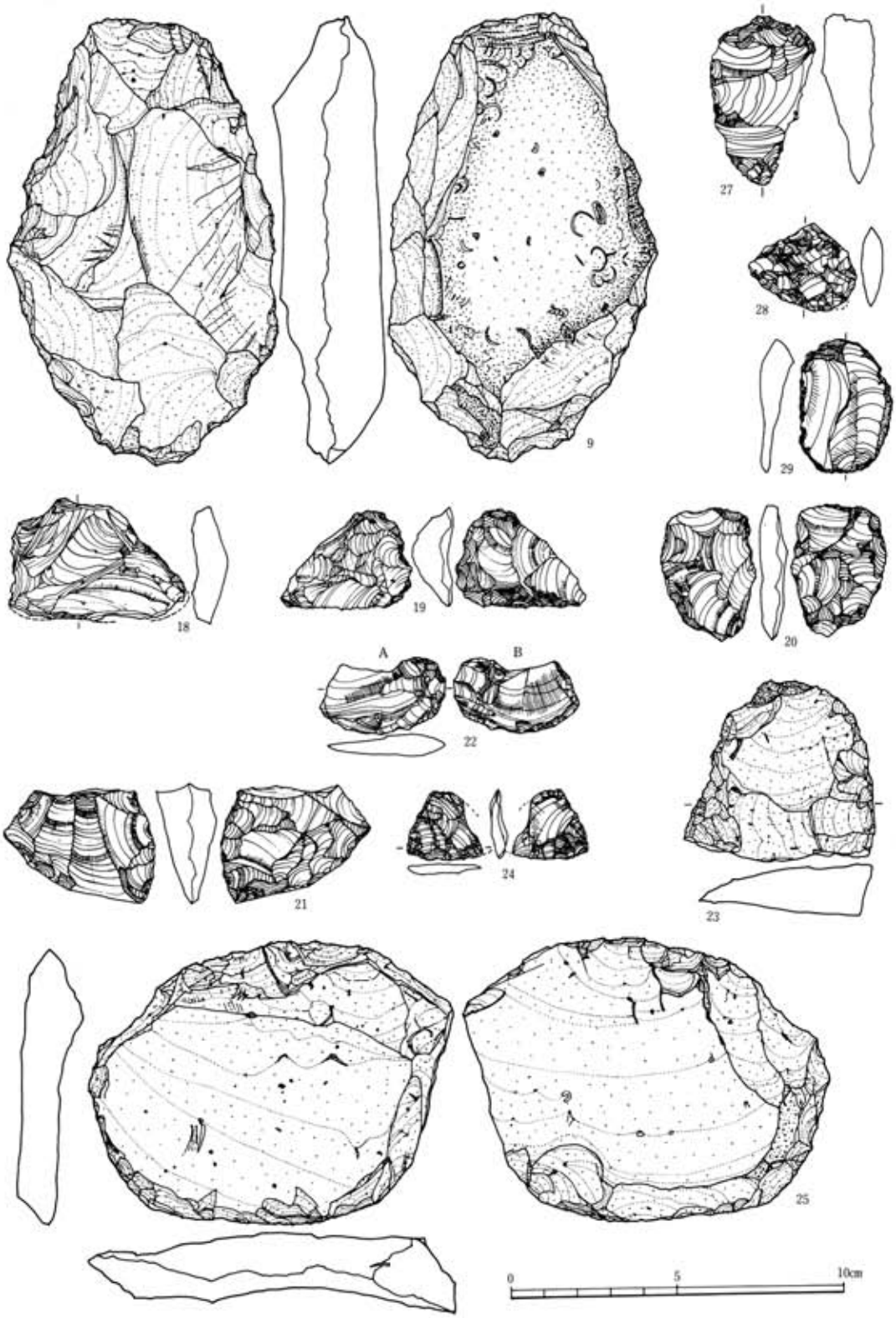
第16－1図　石鏃実測図



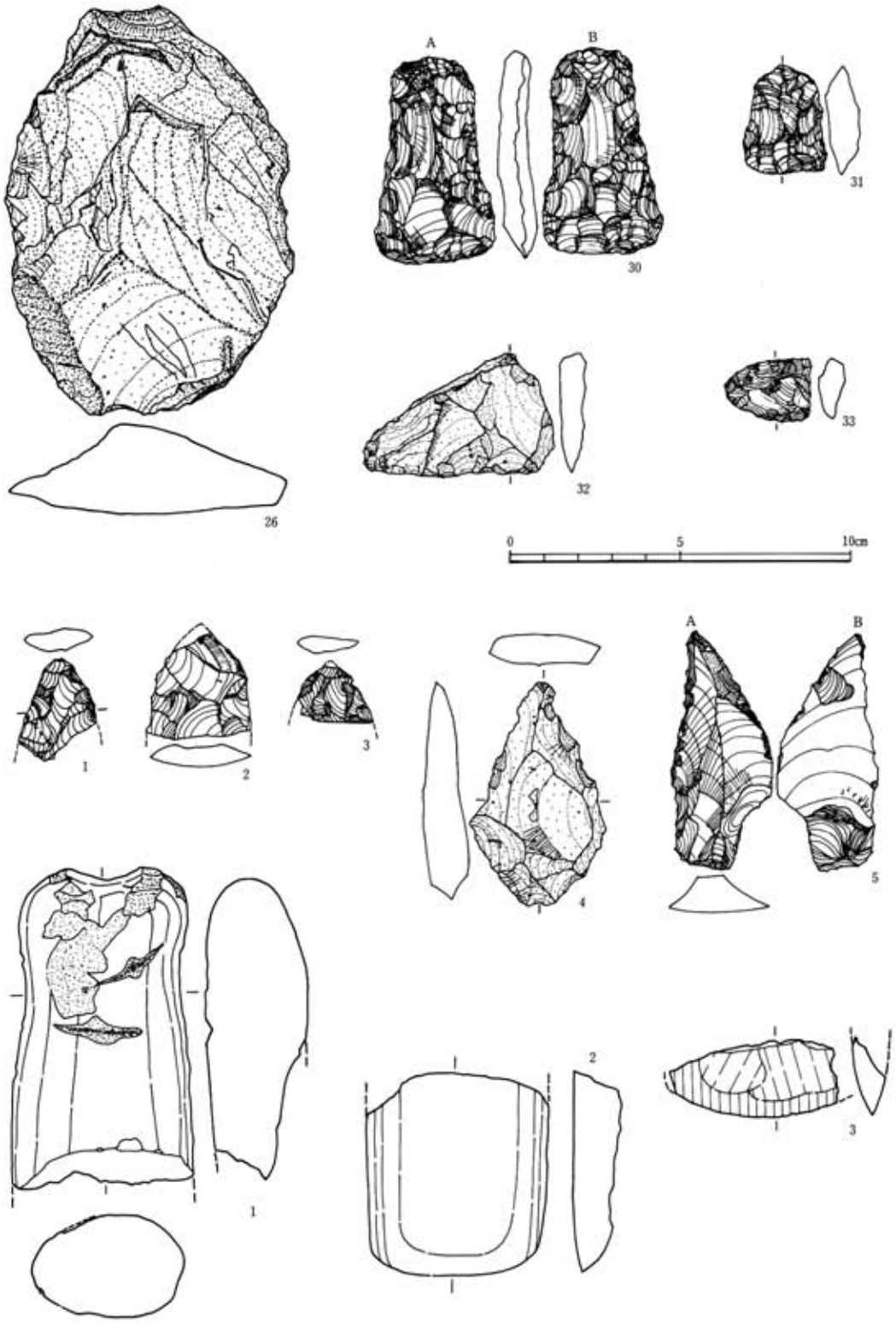
第16－２図　スクレーパー実測図①



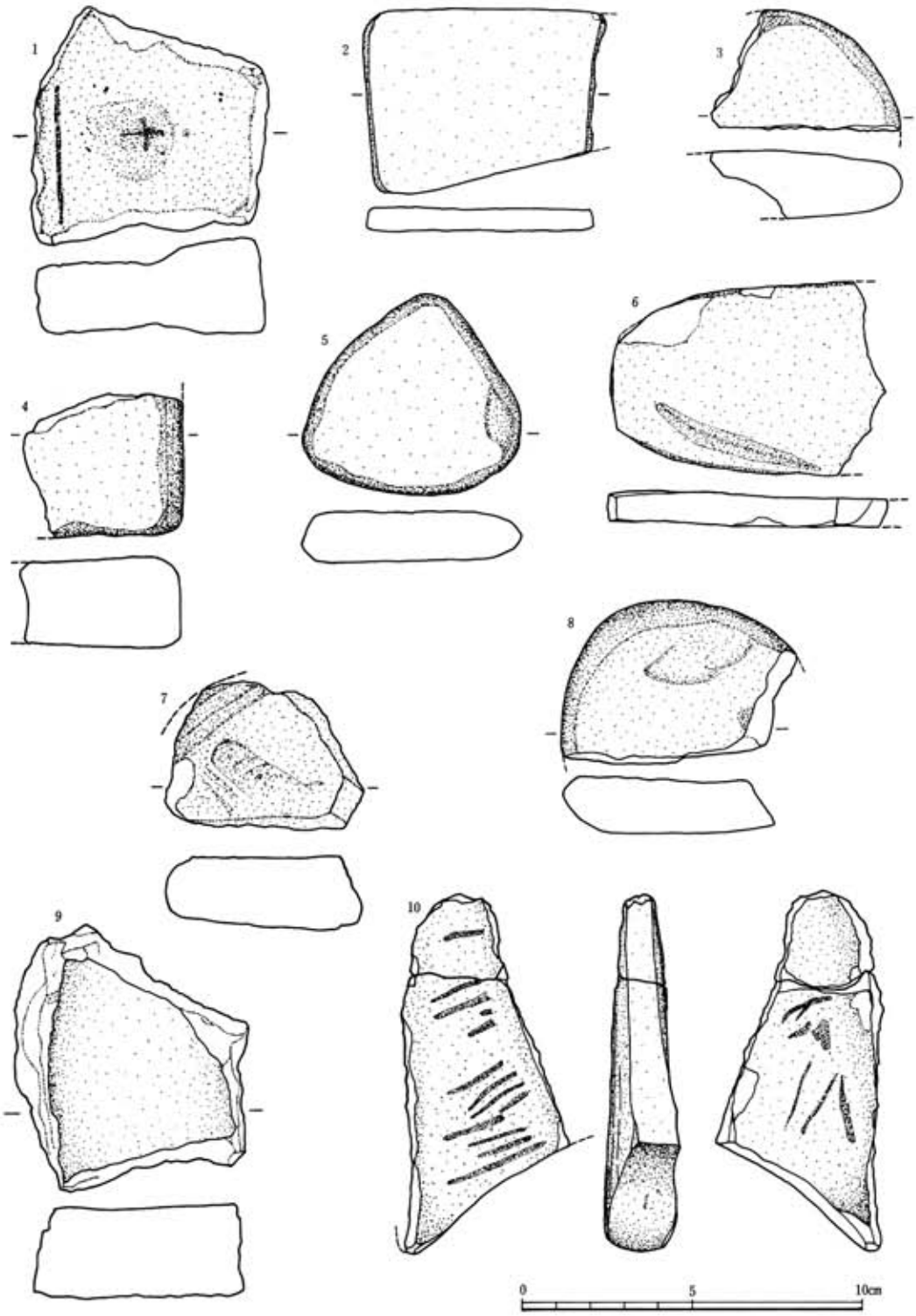
第16－２図　スクレーパー実測図②



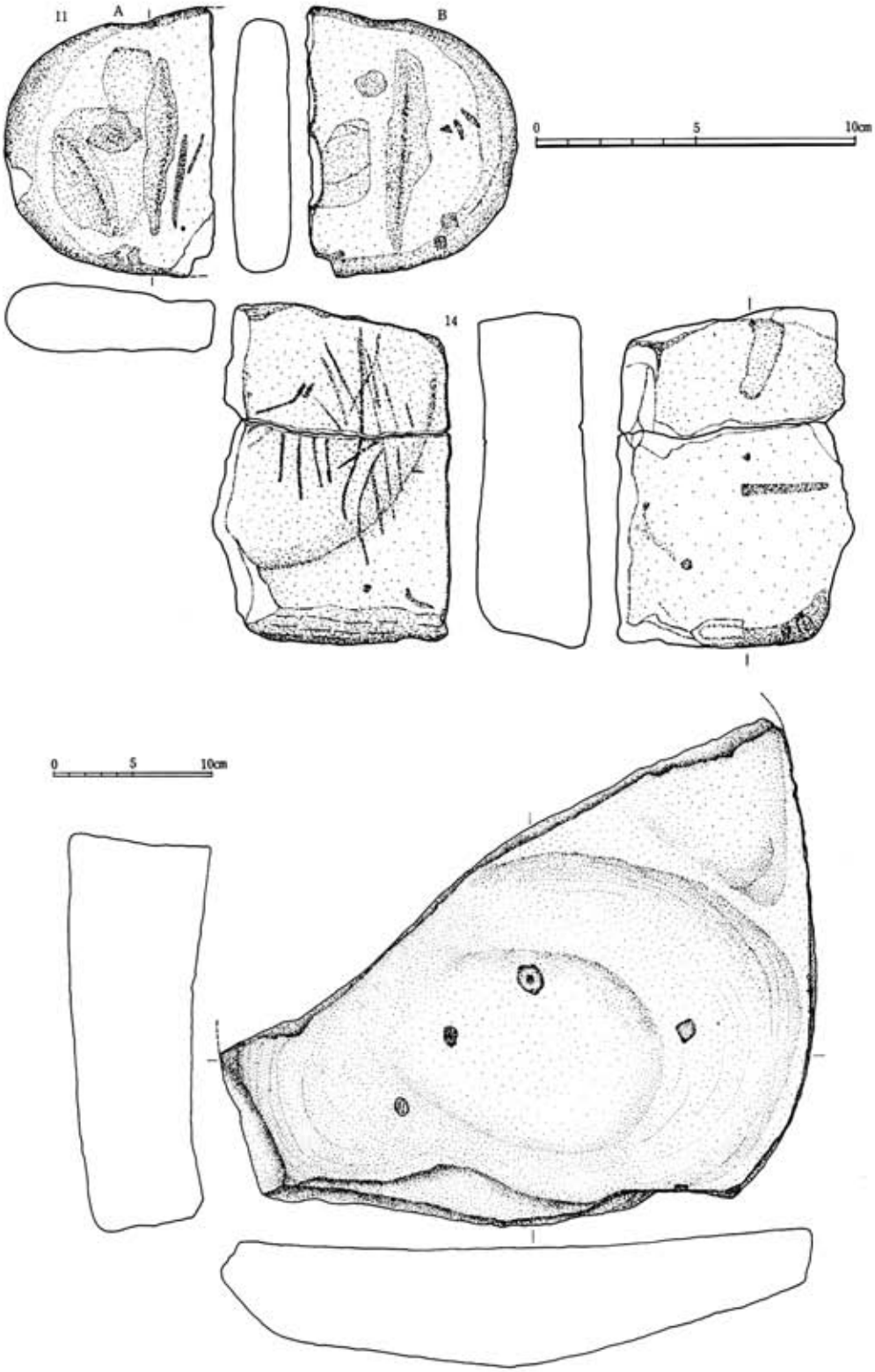
第16－2図　スクレーパー③（上段）・尖頭状石器（中段）・石斧（下段）実測図



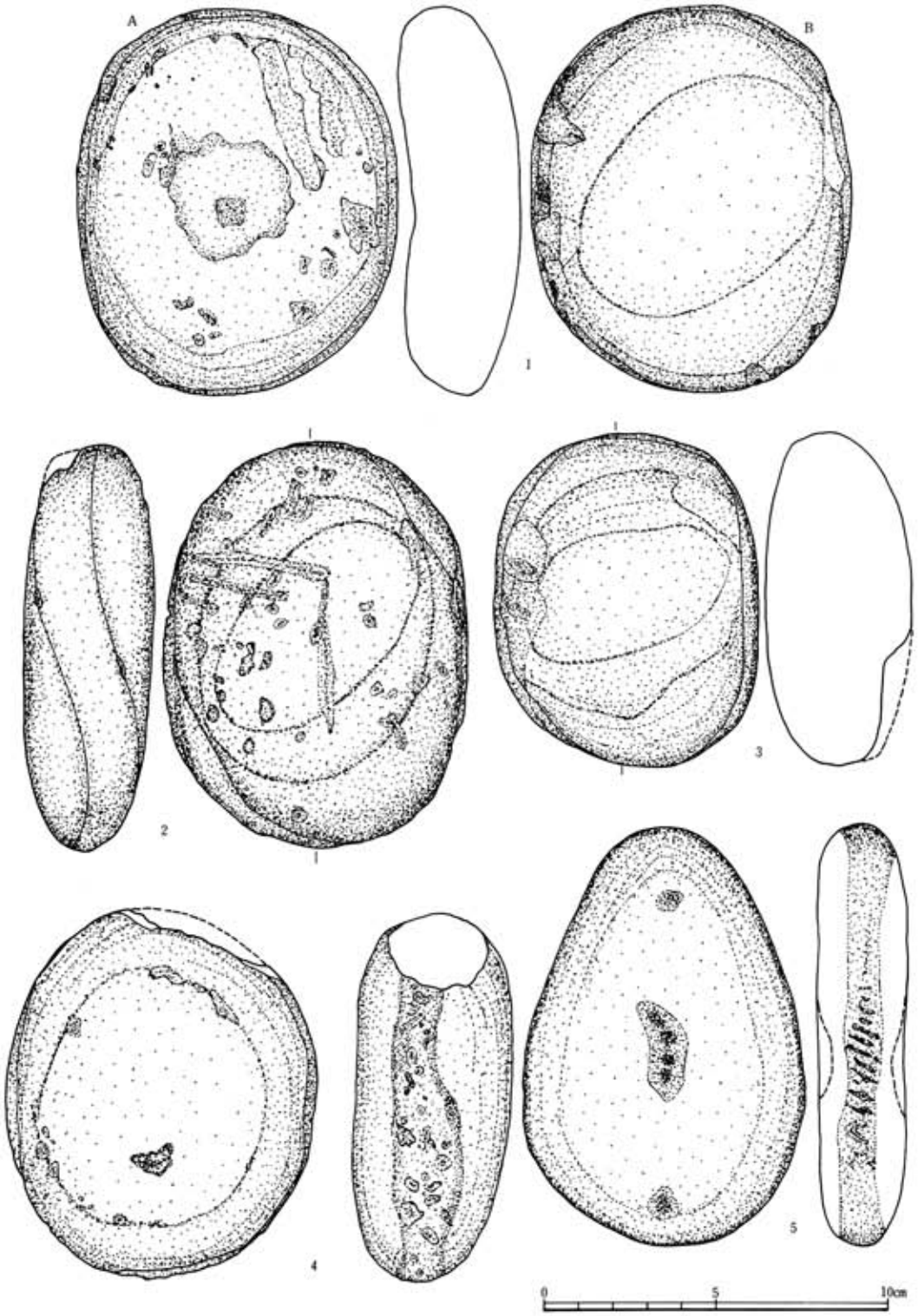
第16－３図　砥石①実測図



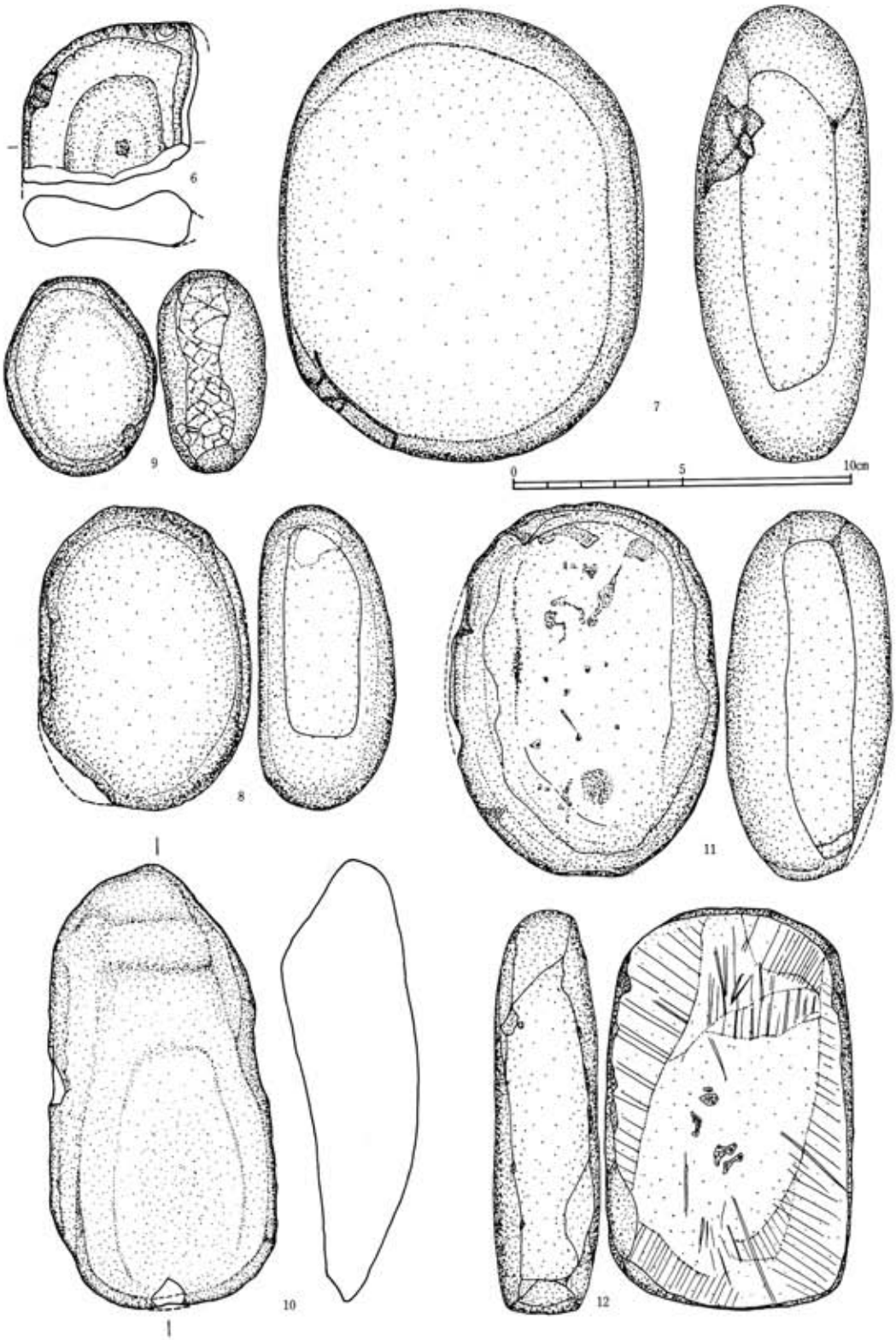
第16－3図　砥石②、石皿（下）実測図



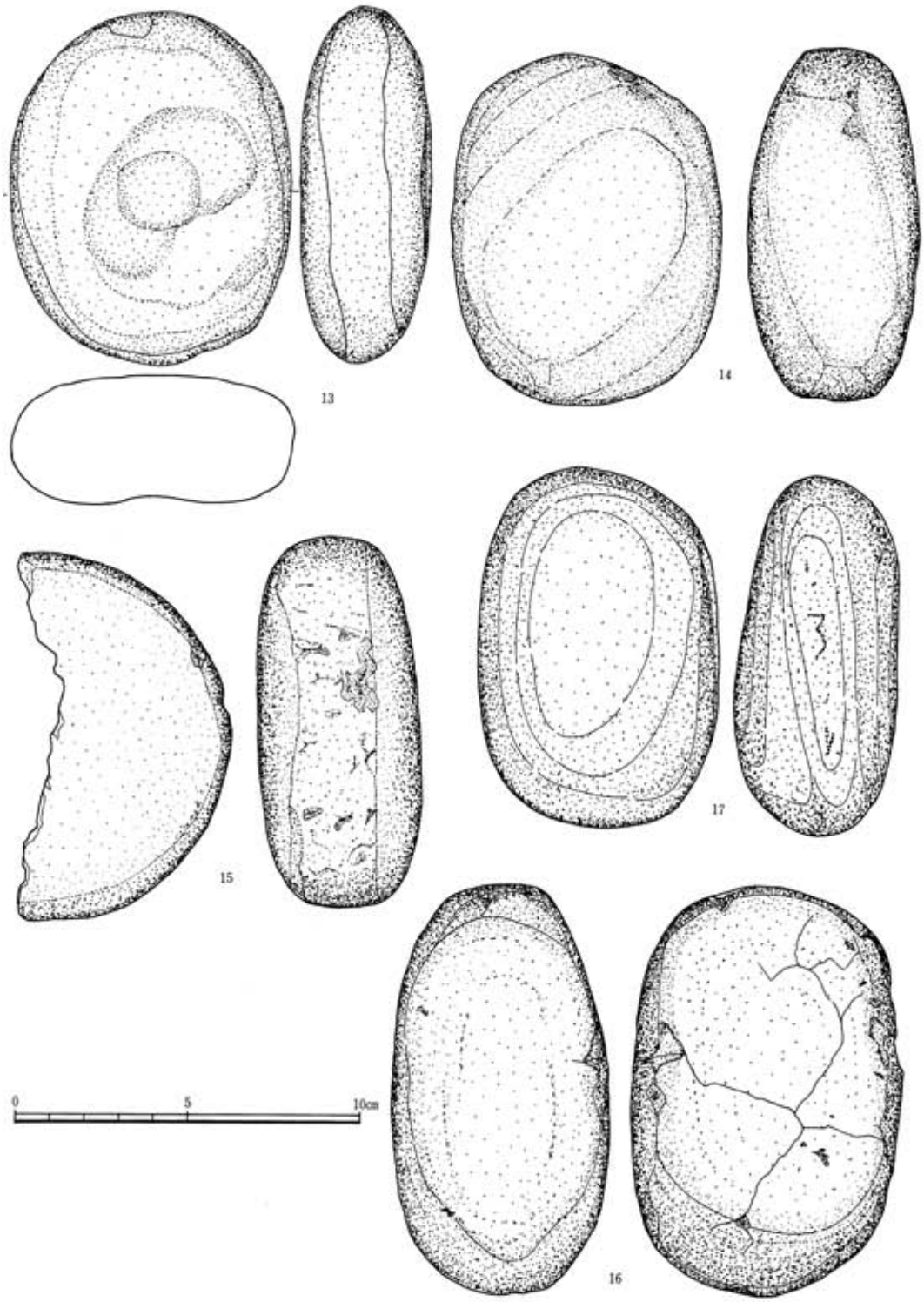
第16－4図　磨石・敲石・凹石実測図①



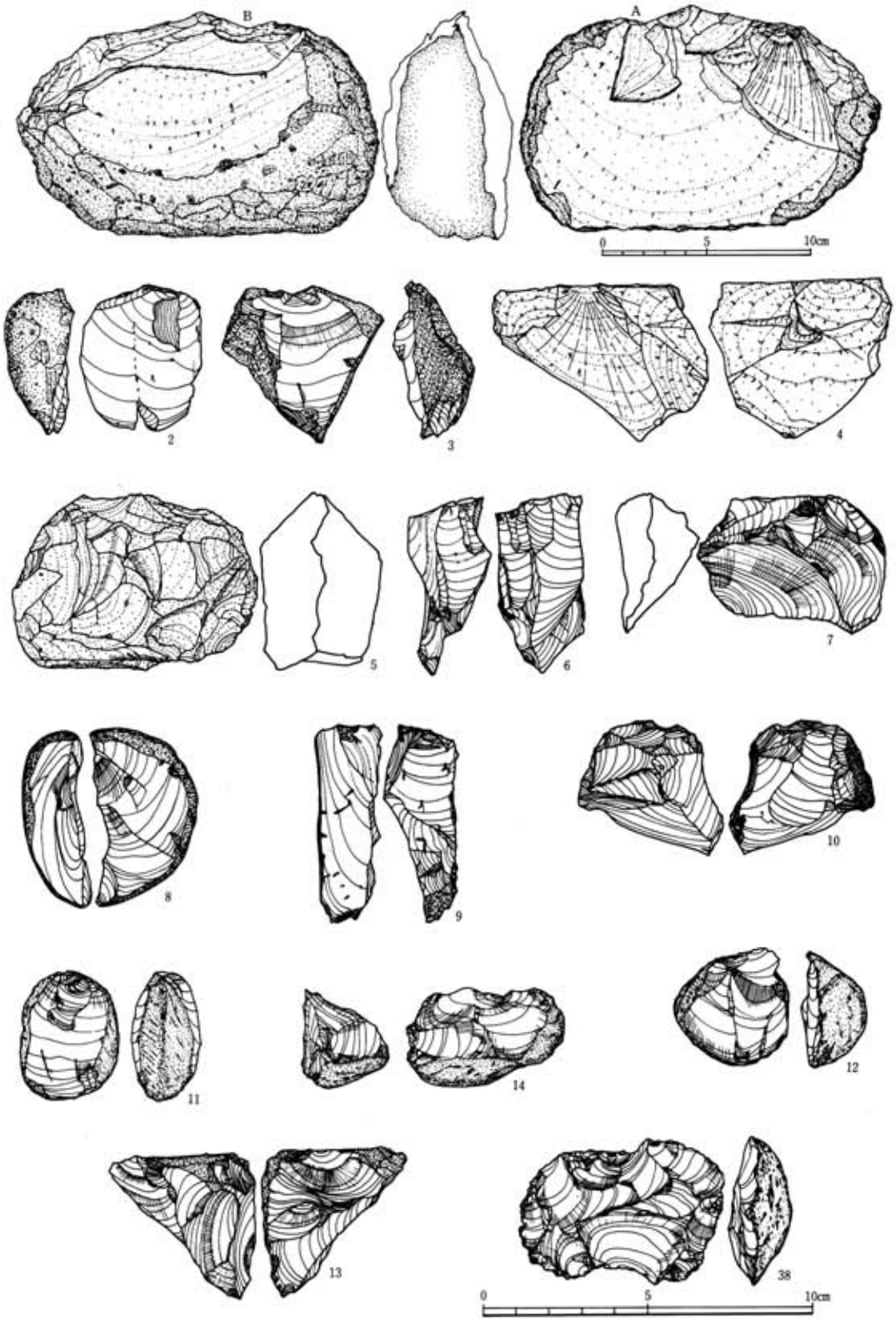
第16－4図　磨石・敲石・凹石実測図②



第16－4図　磨石・敲石・凹石実測図③



第16－5図　石核実測図



4．お　わ　り　に

最近、上場台地での農業水利事業が大規模に行なわれていることが示すように、毎年水不足に悩まされている。しかし湧水や河川をフルに求めたのであろうと思われるが、先土器時代から縄文時代にかけて数多くの遺跡が見られる。これには、三面を魚貝類の豊富な海に囲まれていることや、大陸交易の拠点になる地理的要因も大きく影響しているものと推察される。

今回発掘調査を行なった牟田辻遺跡は、縄文時代早期から前期にかけての押形文土器を伴う包含層を主体とするものであったが、最下層より炉址石組を確認できたことは注目されよう。また周辺には、住居址や埋葬地が推察されるが、今後の調査を待ちたい。

上場では先土器時代と縄文時代の複合遺跡が多い。牟田辻遺跡でも従来から、ナイフ形石器やトラピーズ等が表採されていたし、今回もマイクロブレイドが出土したが、層位的に把握することができなかった。

12月9日に調査を終了したため、十分な整理・検討・分析ができなかったことをお詫びしたい。

（昭和54年3月14日記）

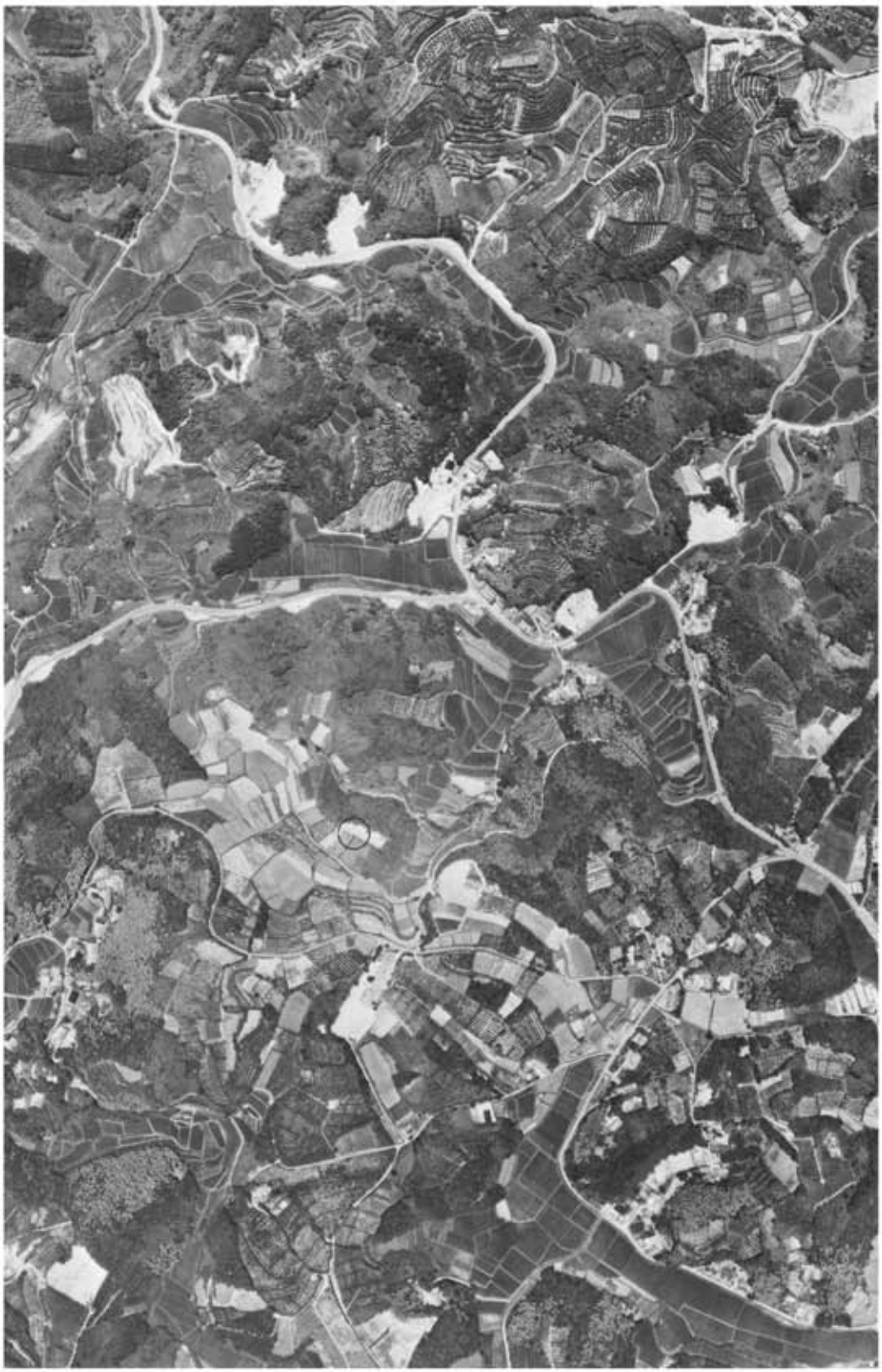
第Ⅰ部

牟田辻遺跡

図

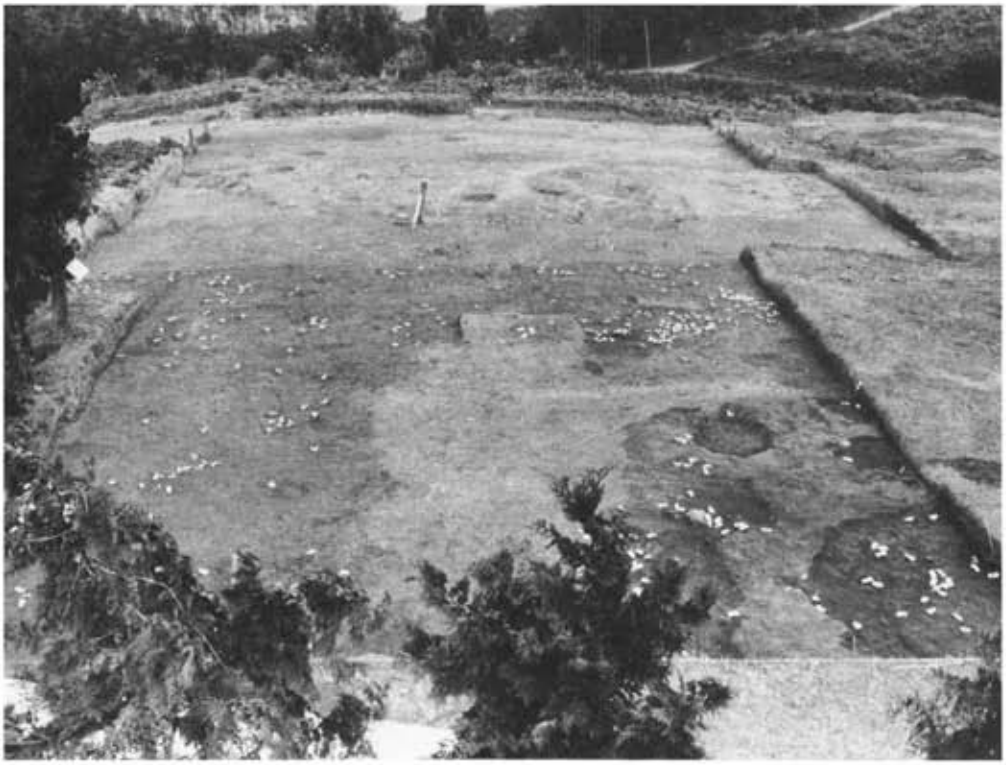
版

図版１　牟田辻遺跡周辺の航空写真

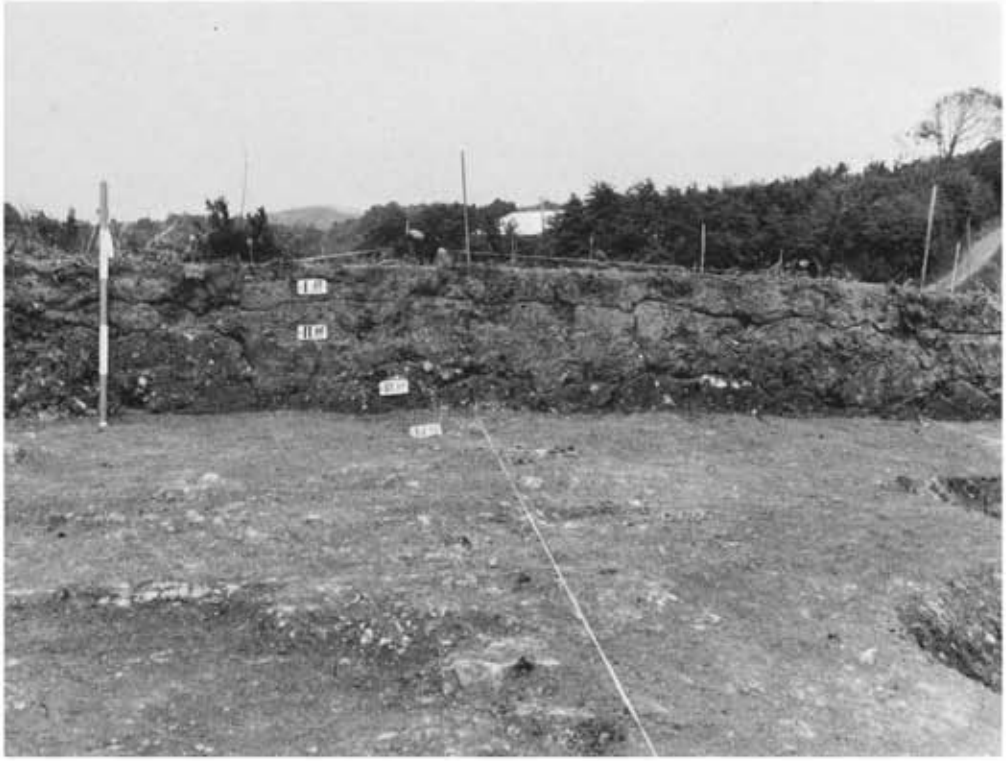


図版２－１　遺跡の遠望（東側より）

図版２－２　第一次発掘調査区

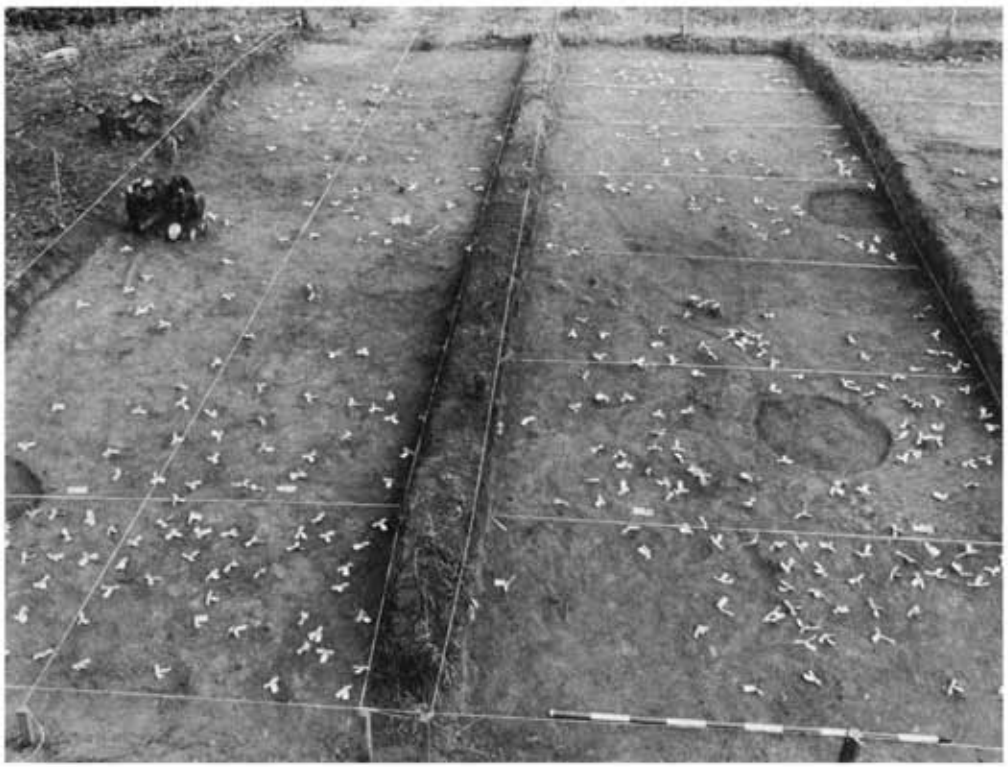


図版３－１　牟田辻遺跡の土層

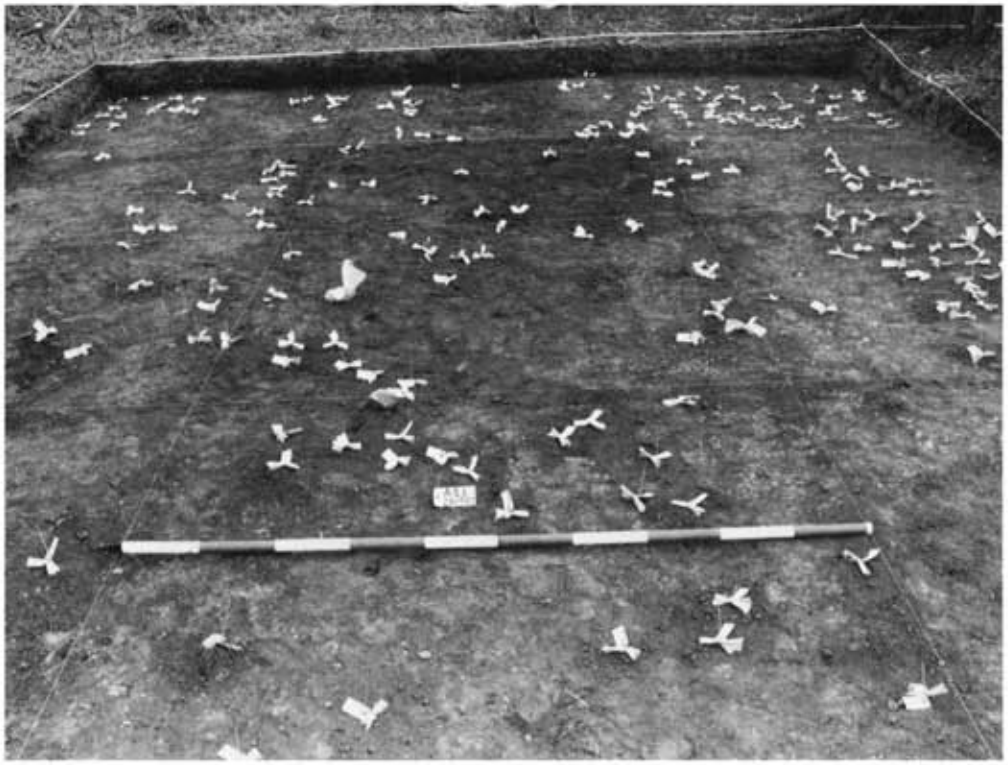


図版３－２　遺物出土状況　(1)

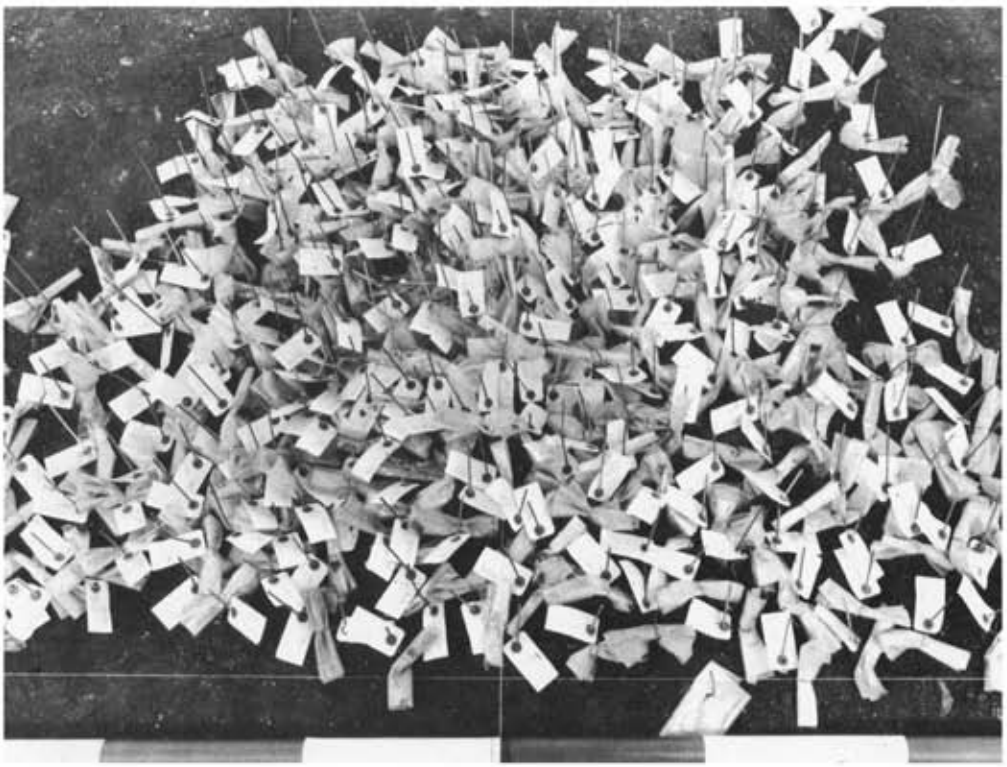
図版４－１　遺物出土状況　(2)



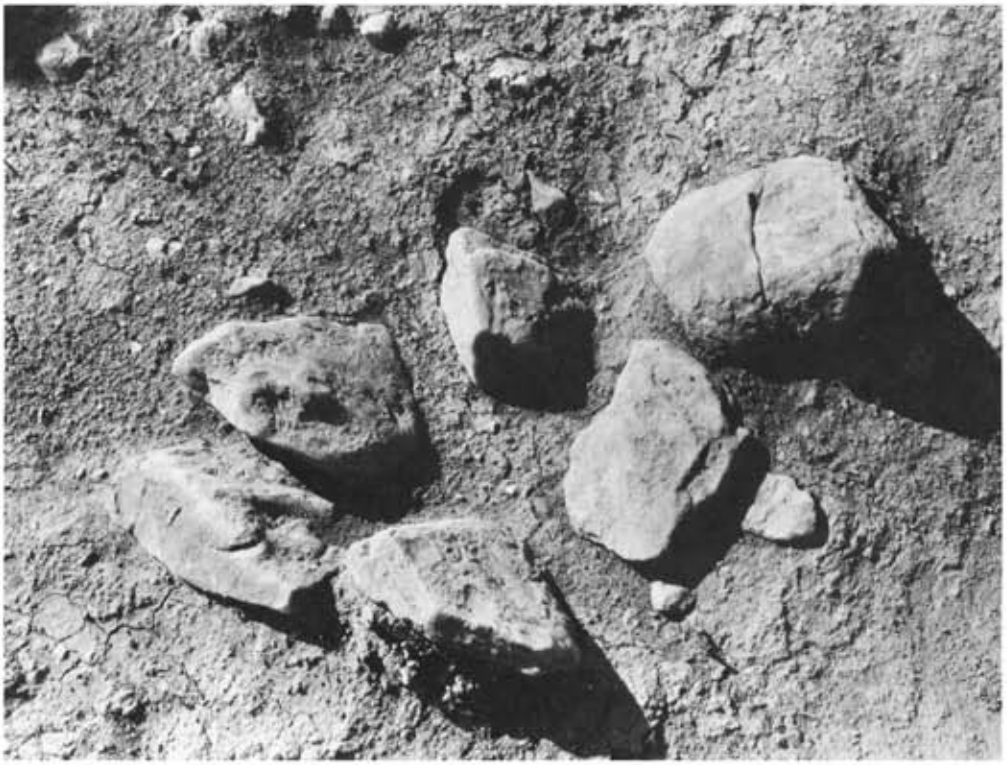
図版４－２　遺物出土状況　(3)



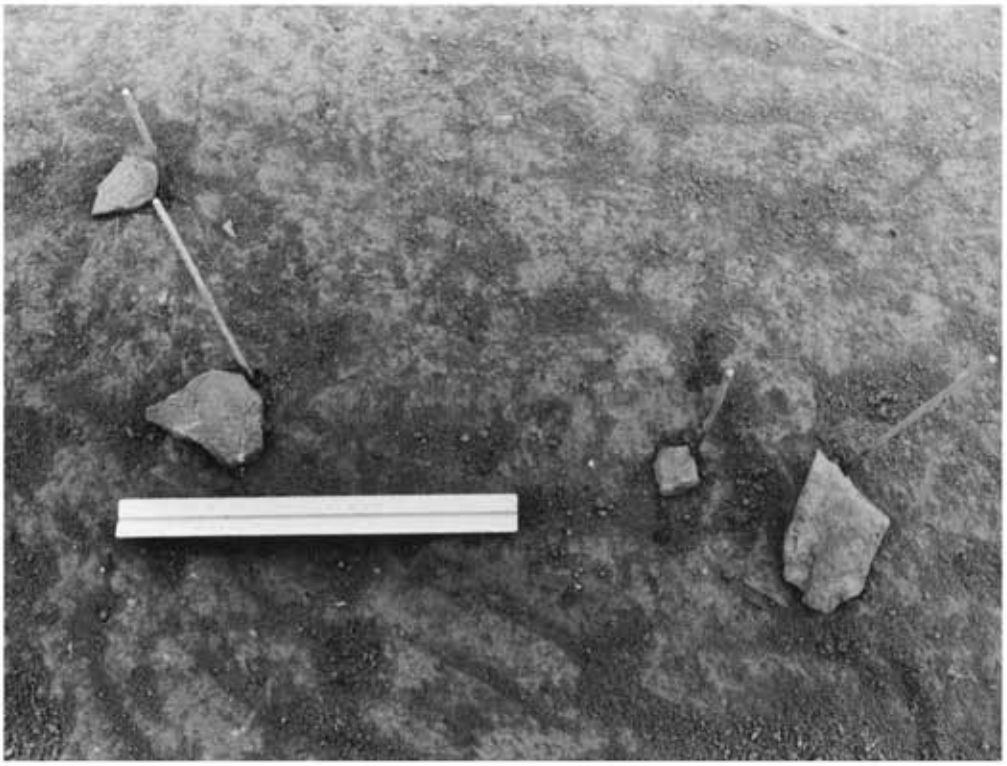
図版５－１　遺物出土状況Ａ13・14ユニット（4）



図版５－２　炉　　址



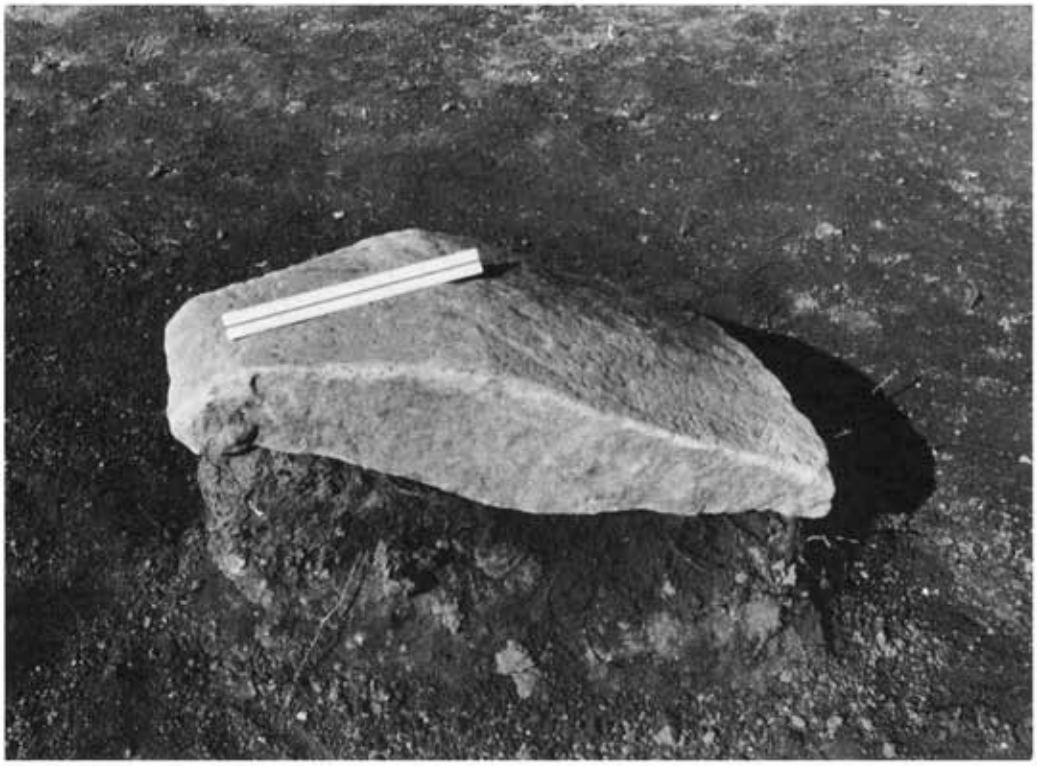
図版６－１　土器出土状況　(1)



図版６－２　土器出土状況　(2)

図版７－１　土器出土状況　(3)

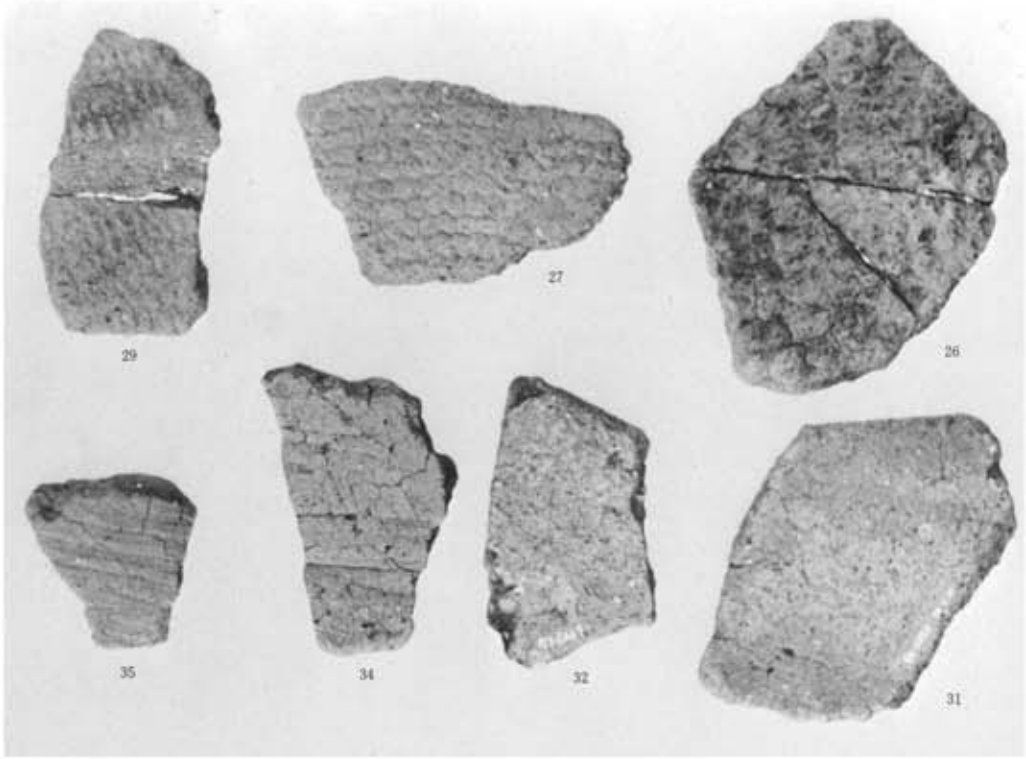
図版７－２　石皿出土状況　(4)



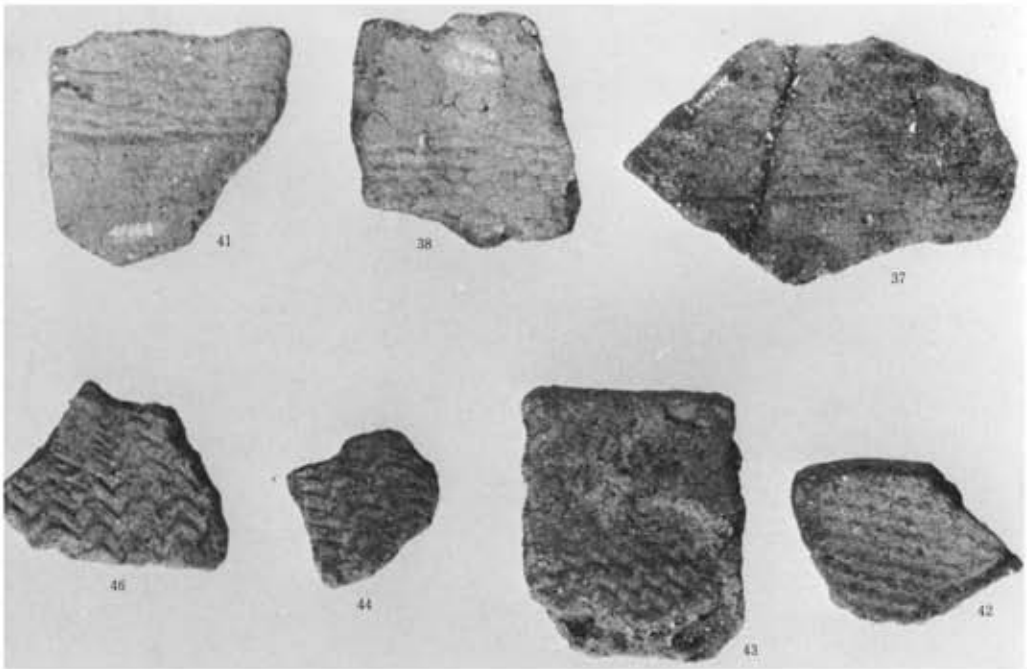
図版８－１　発掘風景

図版８－２　土　　器 (1)

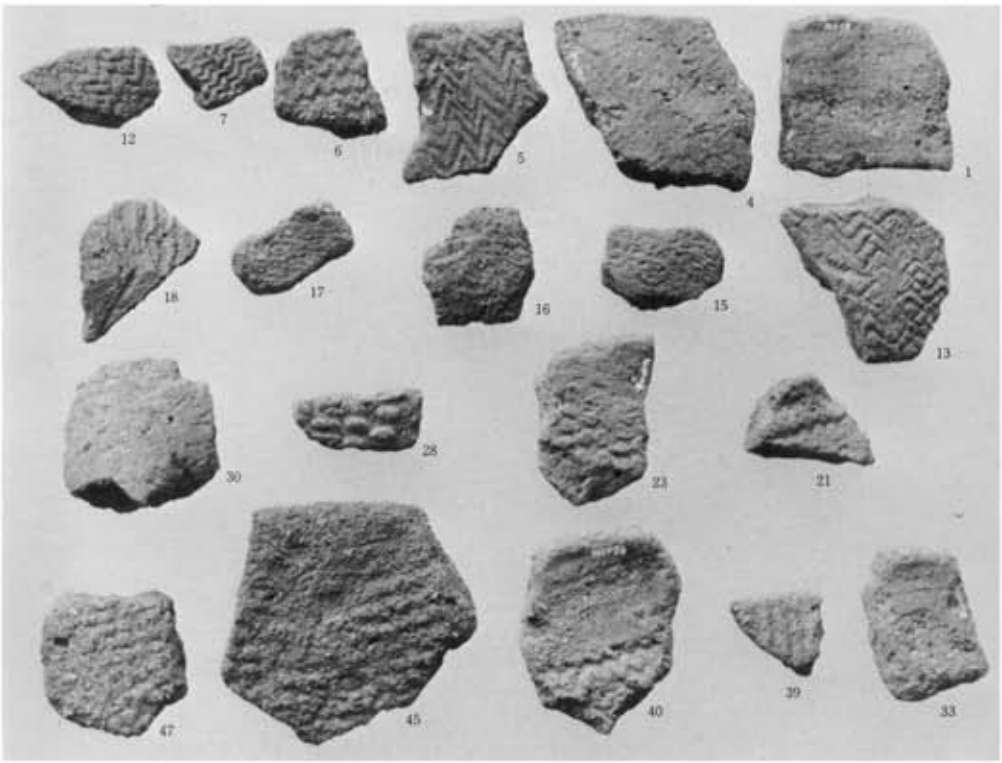
図版９－１　土　　器 (2)



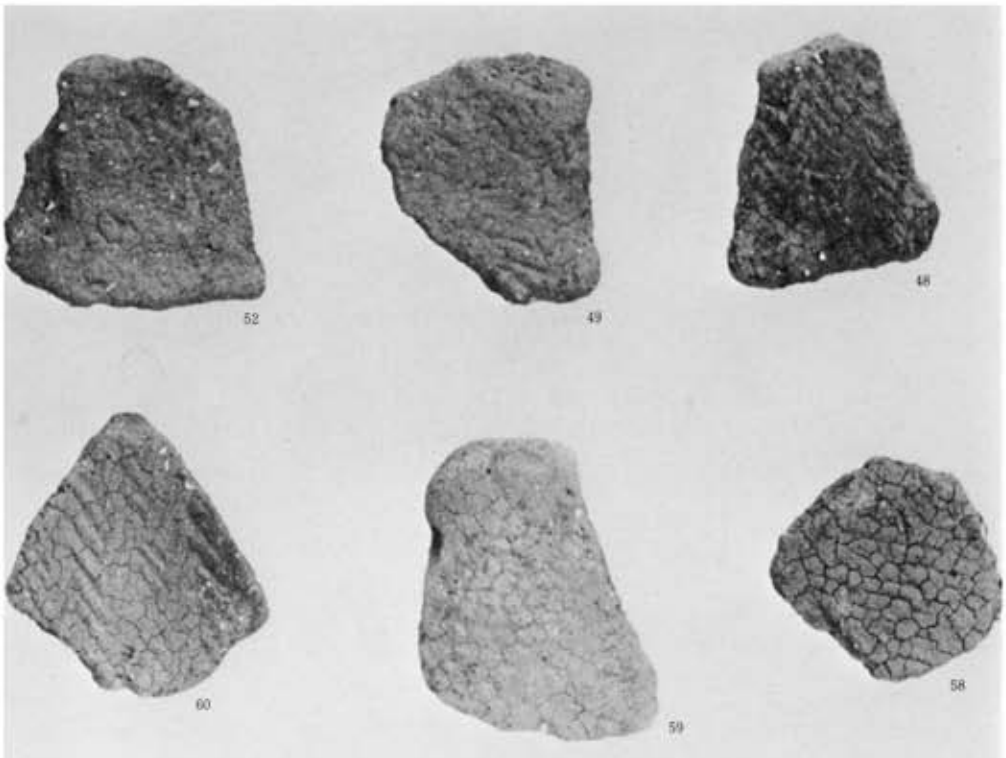
図版９－２　土　　器 (3)



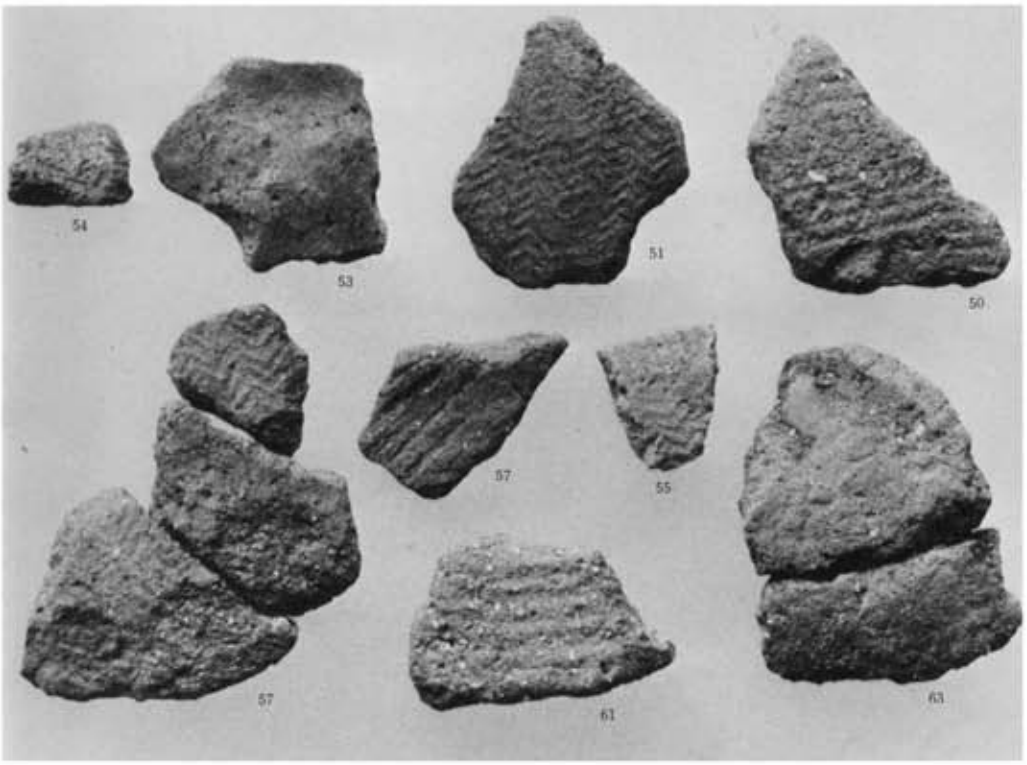
図版10－1　土　　器 (4)



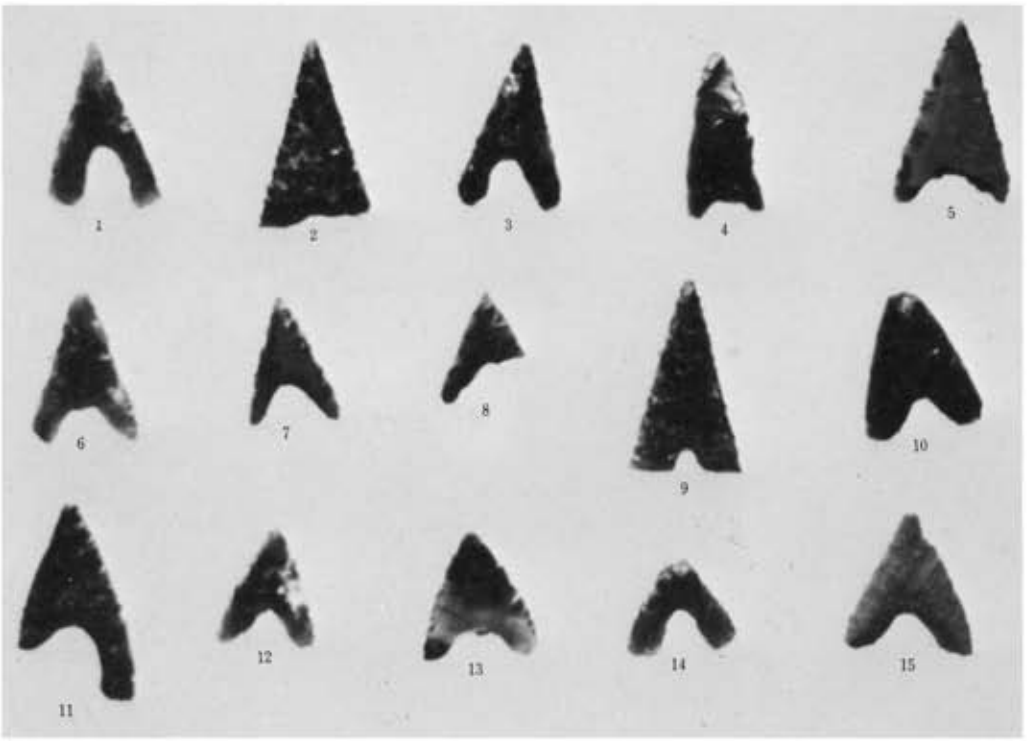
図版10－2　土　　器 (5)



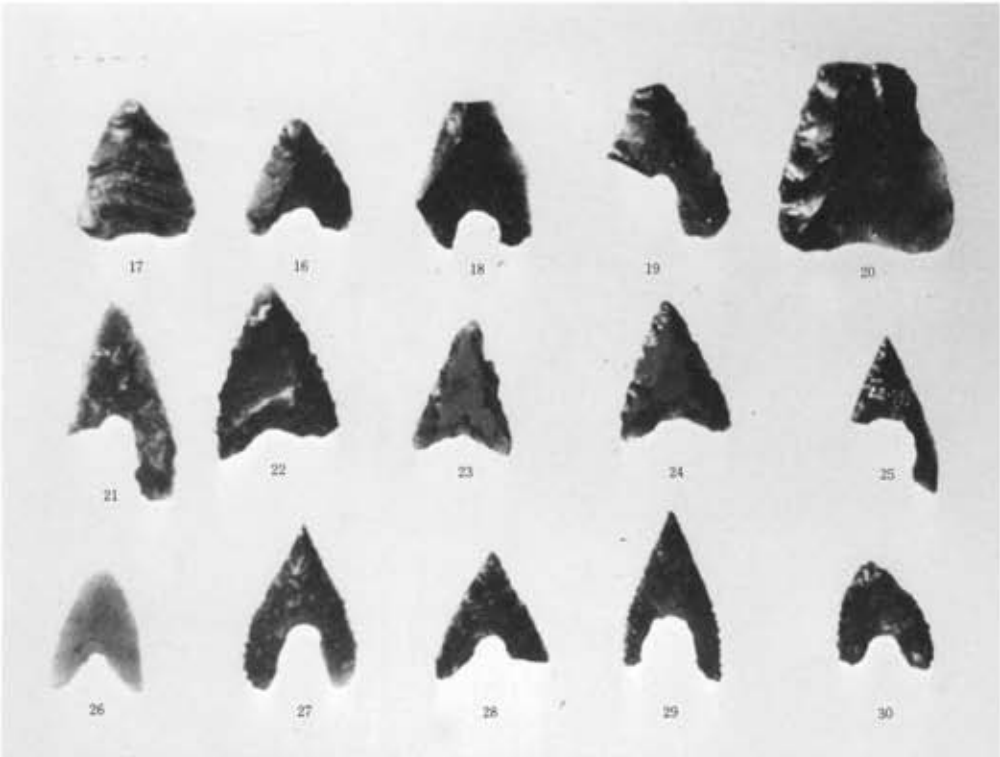
図版11－1　土　　器 (6)



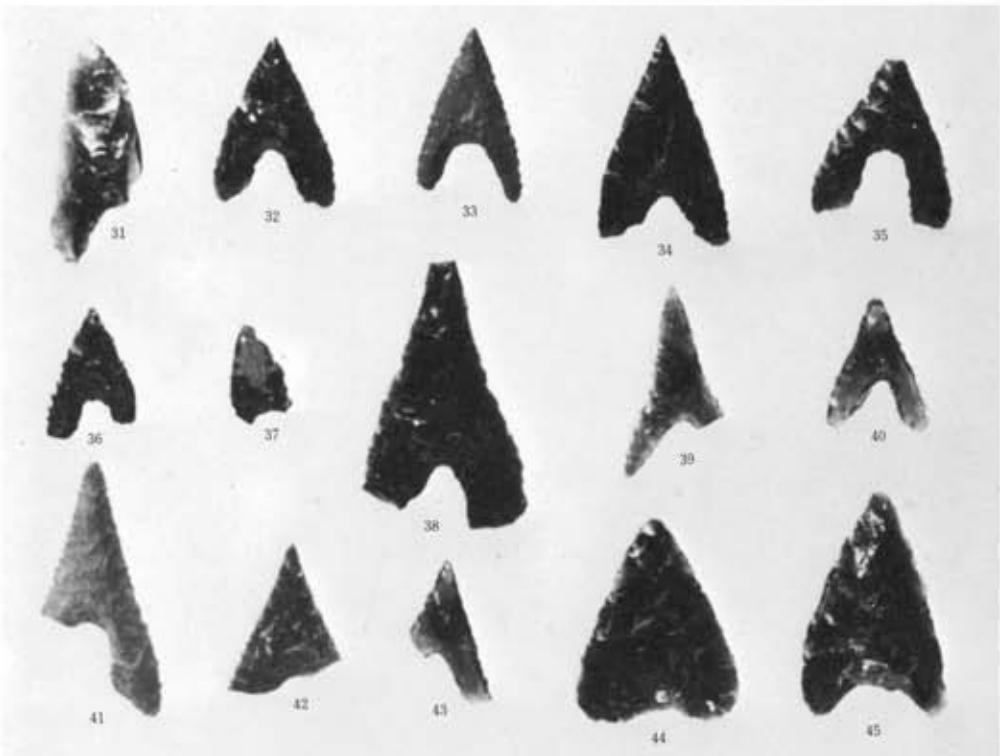
図版11－2　石　　鏃 (1)



図版12－1　石　　鏃 (2)

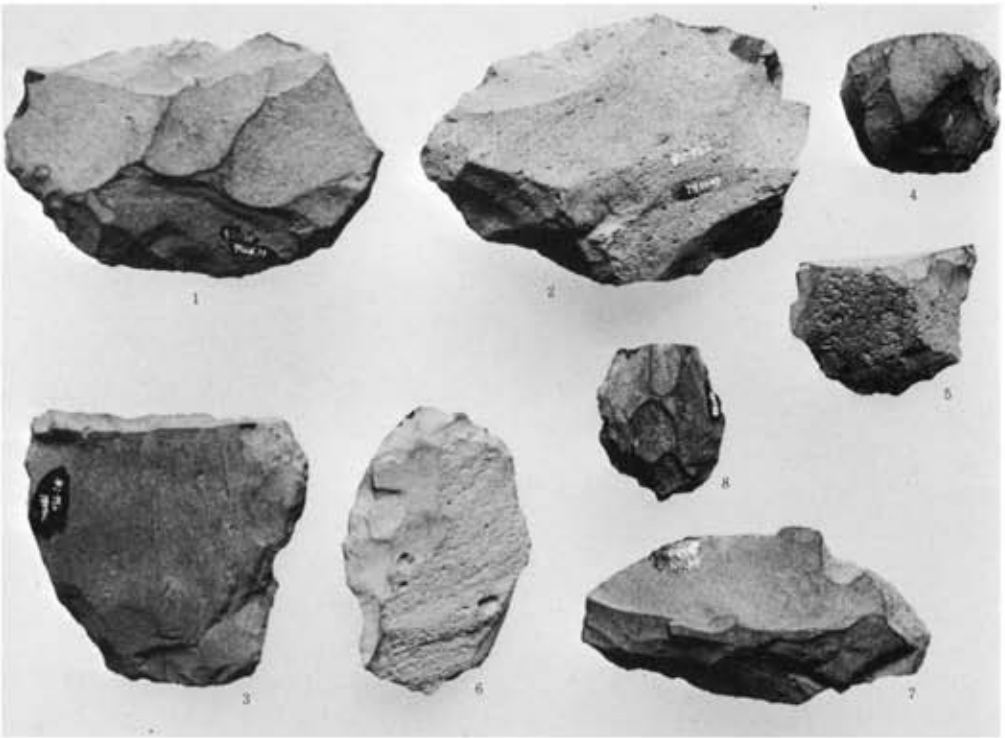


図版12－2　石　　鏃 (3)

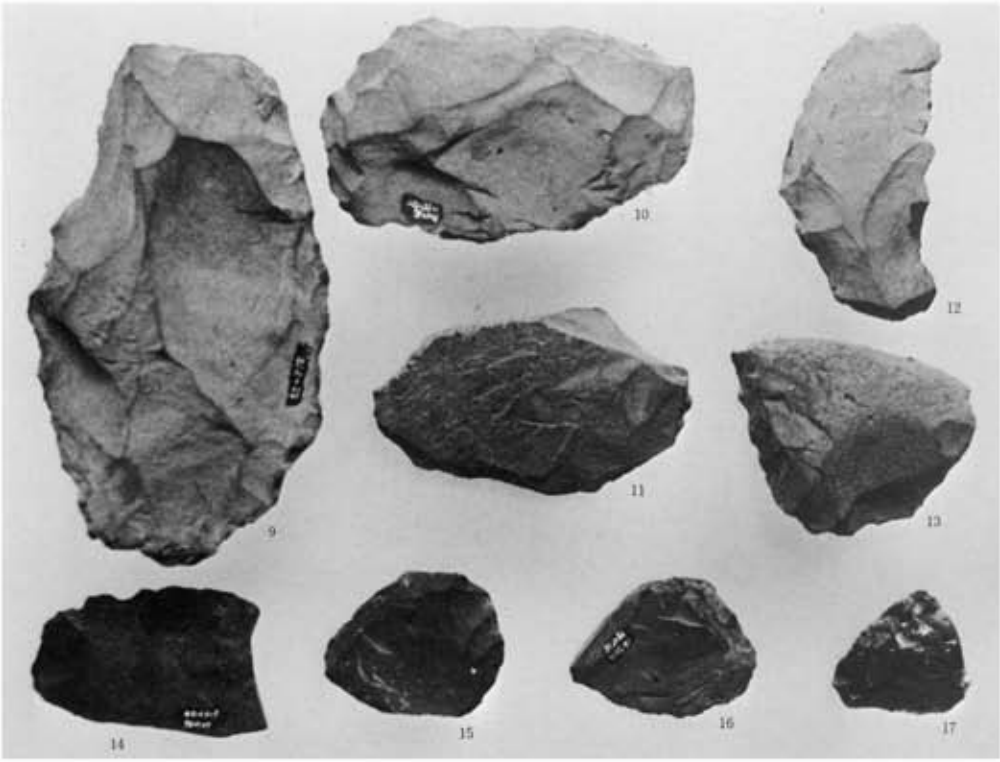


図版13－1　石　　鏃 (4)

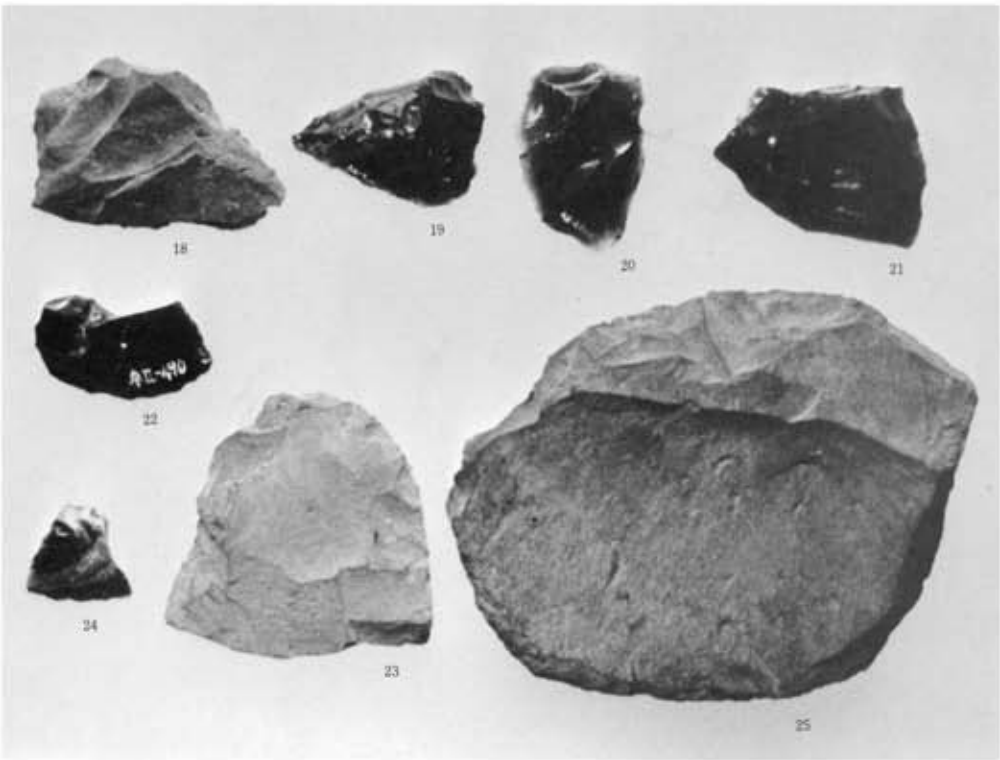
図版13－2　スクレーパー (1)



図版14－1　スクレーパー　(2)

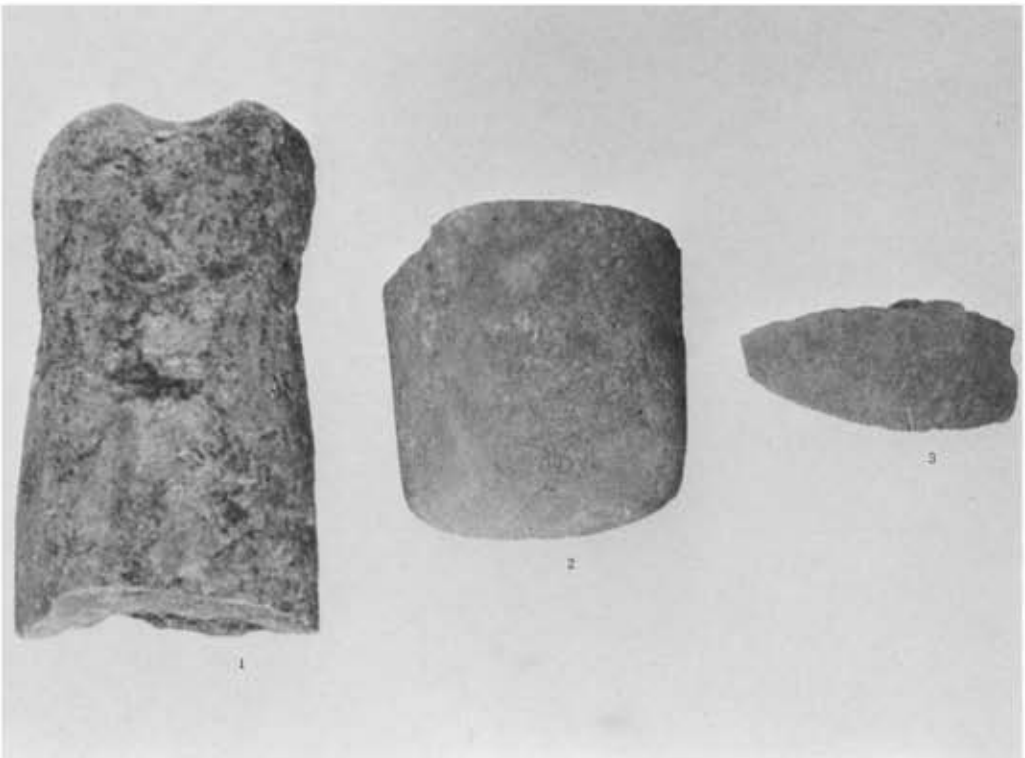


図版14－2　スクレーパー　(3)

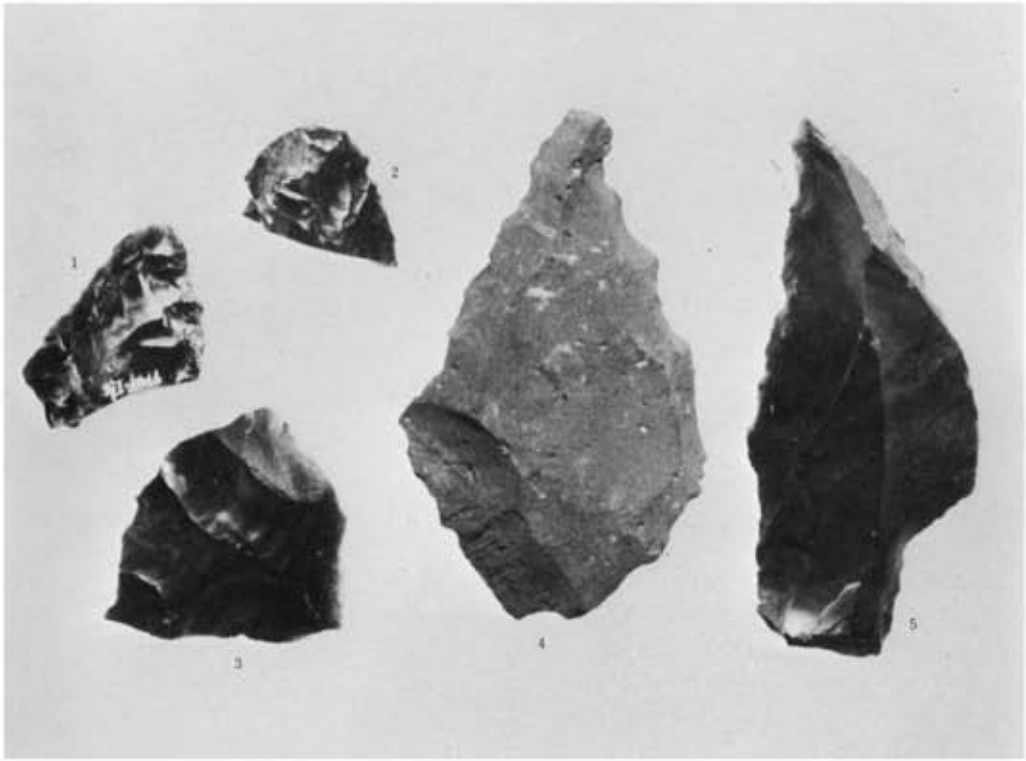


図版15－1　スクレーパー　(4)

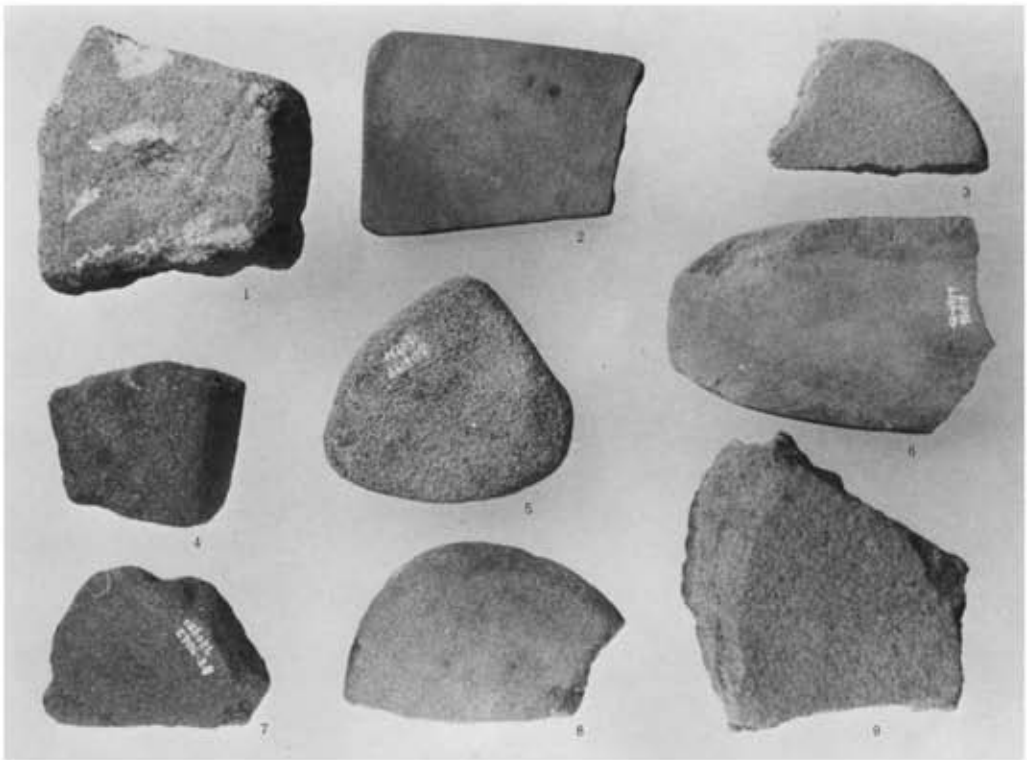
図版15－2　石　　斧



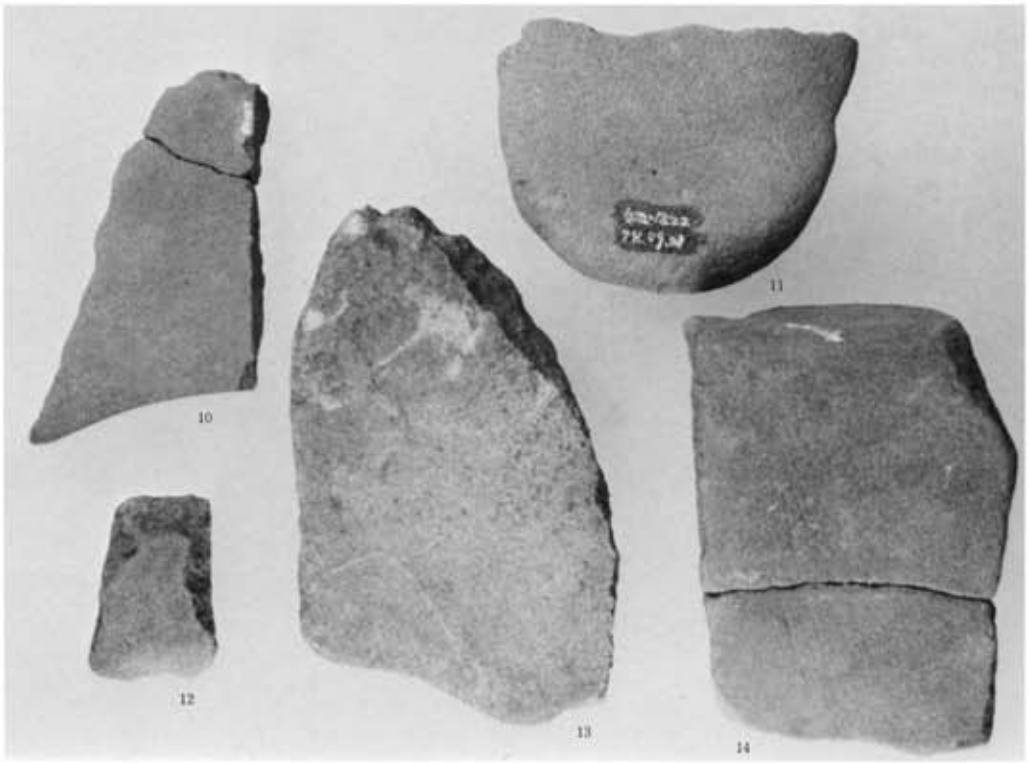
図版16－1　尖頭状石器



図版16－2　砥　　石 (1)



図版17－1　砥　　石 (2)



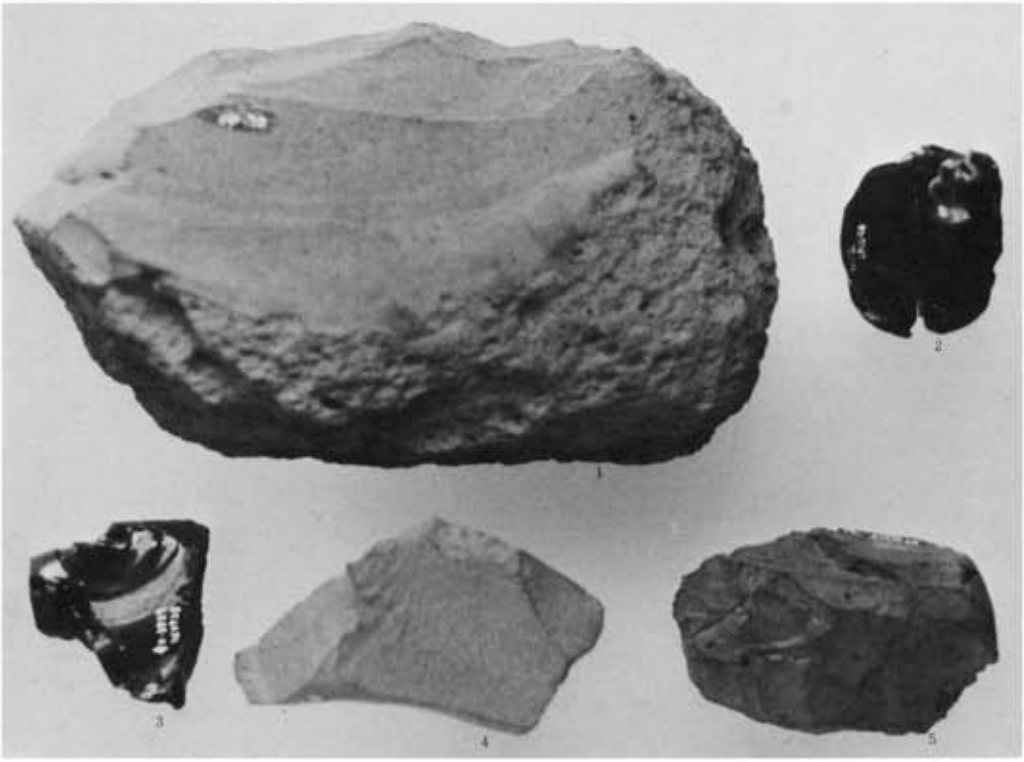
図版17－2　磨石・敲石・凹石 (1)

図版18－1　磨石・敲石・凹石　(2)

図版18－2　磨石・敲石・凹石　(3)

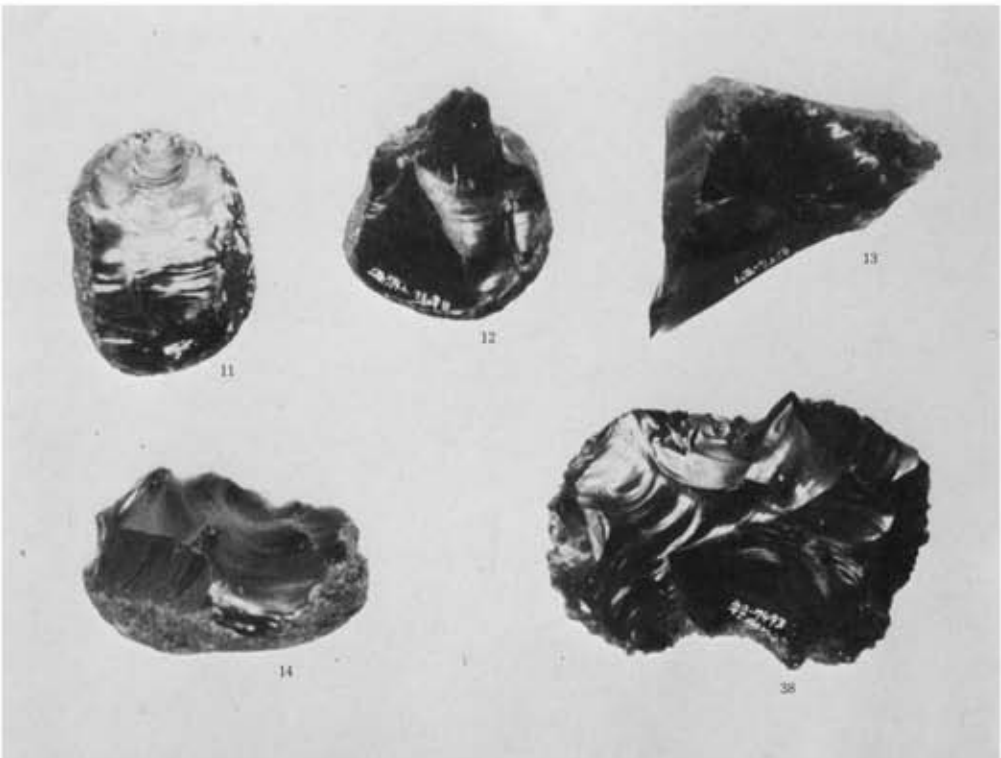
図版19－1　石　　皿

図版19－2　石　　核 (1)



図版20－1　石　　核 (2)

図版20－2　石　　核 (3)



第　II　部

中　野　遺　跡

＝東松浦郡鎮西町中野出口＝

もくじ

1．発掘調査の経過……77
(1)　発掘調査団……77
(2)　発掘調査の経過……77
(3)　発掘調査日誌抄……77
2．中野遺跡の位置と環境……78
(1)　地理的環境……78
(2)　歴史的環境……78
3．中野遺跡の遺構……83
(1)　中野遺跡の土層……83
(2)　中野遺跡の遺構……83
1）掘立柱建物址……83
2）土　壙……86
4．中野遺跡の遺物……87
(1)　石　器
①　石　鏃……87
②　石　錐……93
③　サイド・ブレイド……98
④　スクレーパー……100
⑤　石　斧……101
⑥　尖頭状石器……101
⑦　砥　石……102
⑧　磨　石……102
⑨　凹　石……102
⑩　石　皿……102
⑪　その他の石器……103
(2)　土　器……103
5．おわりに……120

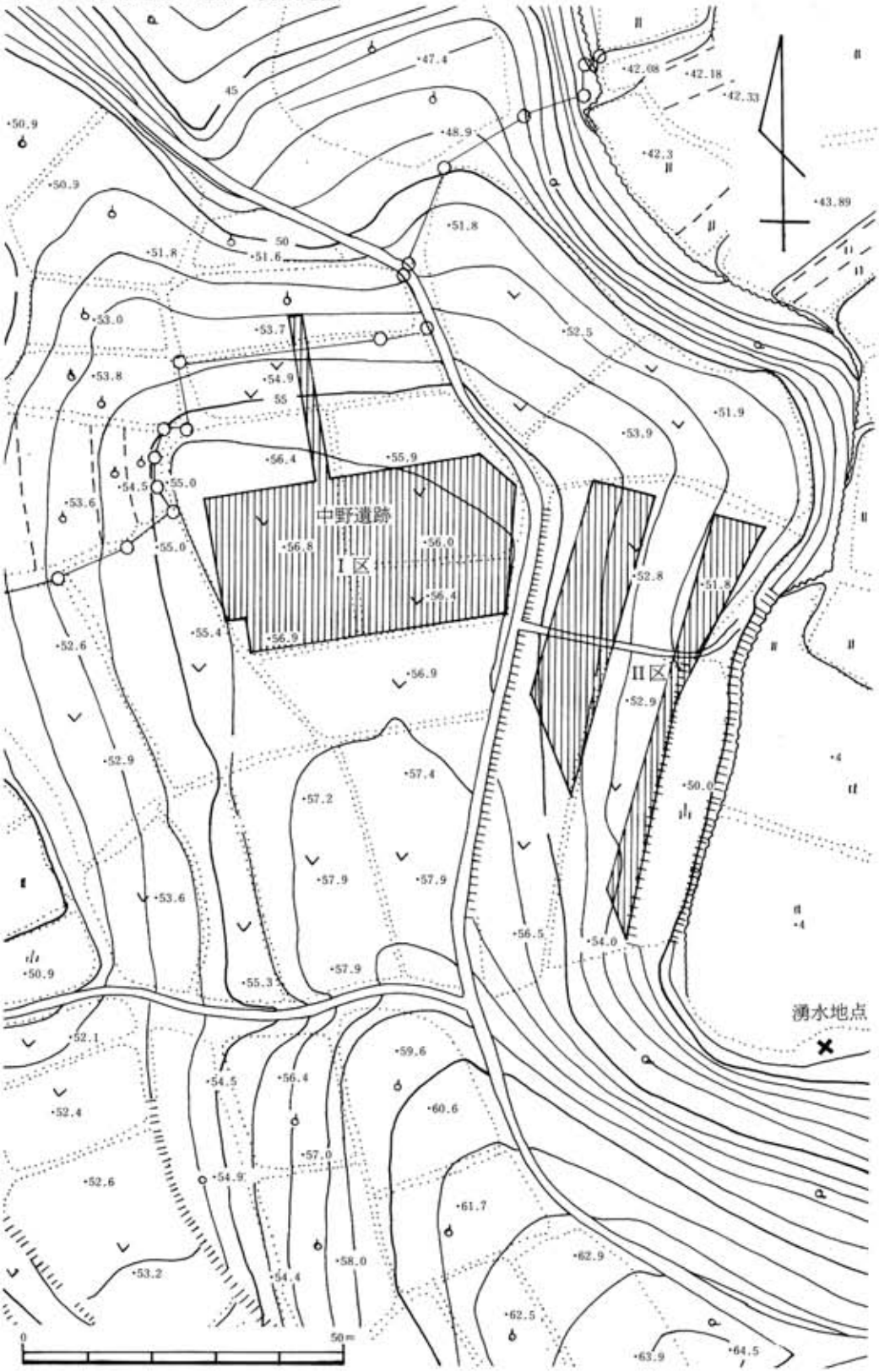
挿　図　も　く　じ

第１図　中野遺跡の地形と発掘地点……76
第２図　中野遺跡Ｉ区遺構配置図……79～80
第３図　中野遺跡II区遺構配置図……81～82
第４図　中野遺跡北トレ東壁土層実測図……83
第５図　第１号掘立柱建物址……84
第６図　第２号掘立柱建物址……85
第７図　第３・５号掘立柱建物址……86
第８図　第４号掘立柱建物址……85
第９図　掘立柱建物址計測表……87
第10図　Ｐ29不定形土壙……88
第11図　Ｐ 123不定形土壙……88
第12図　中野遺跡遺物一覧……89～92
第13図　石鏃形態分類一覧……93
第14図　中野石鏃計測一覧……94～97
第15図　サイドブレイド一覧……98
第16図　スクレーパー一覧……99
第17図　磨石・凹石一覧……102
第18－１図　石鏃実測図……108
第18－２図　石錐・サイドブレイド実測図……109
第18－３図　スクレーパー実測図……110
第18－４図　石斧実測図①……111
第18－４図　石斧②尖頭状石器実測図……112
第18－５図　砥石（上）・石皿（下）実測図……113
第18－６図　石皿実測図……114
第18－７図　磨石実測図……115
第18－８図　凹石（左上）・有茎磨製石鏃（左下）・その他の石器実測図……116
第19図　土器実測・拓影図①……117
第19図　土器実測・拓影図②……118
第19図　土器実測・拓影図③……119

図　版　も　く　じ

図版１　中野遺跡周辺を空より…… 122
図版２－１　遺跡の遠望…… 123
図版２－２　中野遺跡の遺構（Ⅰ区）①…… 123
図版３－１　中野遺跡の遺構（Ⅱ区）②…… 124
図版３－２　第１号掘立柱建物址…… 124
図版４－１　第２号掘立柱建物址…… 125
図版４－２　第３号掘立柱建物址…… 125
図版５－１　第４号掘立柱建物址…… 126
図版５－２　第５号掘立柱建物址…… 126
図版６－１　遺物出土状況①…… 127
図版６－２　遺物出土状況②…… 127
図版７－１　遺物出土状況③…… 128
図版７－２　遺物出土状況④…… 128
図版８－１　遺物出土状況⑤…… 129
図版８－２　遺物出土状況⑥…… 129
図版９－１　発掘風景…… 130
図版９－２　石　鏃　１…… 130
図版10－１　石　鏃　２…… 131
図版10－２　石　鏃　３…… 131
図版11－１　石　錐…… 132
図版11－２　サイド・ブレイド…… 132
図版12－１　スクレーパー①…… 133
図版12－２　スクレーパー②…… 133
図版13－１　スクレーパー③…… 134
図版13－２　石　斧　①…… 134
図版14－１　石　斧　②…… 135
図版14－２　尖頭状石器…… 135
図版15－１　砥　石…… 136
図版15－２　磨　石…… 136
図版16－１　凹石（左）・石皿（右）…… 137
図版16－２　石　皿…… 137
図版17－１　有茎磨製石鏃…… 138
図版17－２　その他の石器…… 138
図版18－１　土　器　①…… 139
図版18－２　土　器　②…… 139
図版19－１　土　器　③…… 140
図版19－２　土　器　④…… 140
図版20－１　土　器　⑤…… 141
図版20－２　土　器　⑥…… 141

第１図　中野遺跡の地形と発掘地点



1．発掘調査の経過

(1) 発掘調査団

担　　当　佐賀県教育委員会

調査主任　木下　　巧　県教育庁文化課文化財調査第二係長

調 査 員　堀川　義英　県教育庁文化課文化財調査第二係

調査補助　田島　龍太　県教育文化課文化財調査第二係（補助員）

協　　力　県農林部、唐津農林事務所、鎮西町教育委員会、鎮西町開発課、中野区

(2) 発掘調査の経過

県農林部の計画による上場地区土地改良事業の『中野団地(区画整理)』事業区内の踏査を、昭和52年９月16日より22日にかけて実施した。45地点において遺物散布地を確認した。この結果、唐津農林事務所、鎮西町教育委員会、開発課と協議を行ない、昭和53年１月９日より18日まで遺跡確認のための発掘調査を実施した。しかしほとんどの分布地では、耕作土の下層は地盤である玄武岩の風化礫層になっていたが、事業区の西北部に三か所の遺物包含層・遺構を確認した。その後の農林部との協議によりⅢ区は埋土にして保存するということで、発掘調査地区から除外した。Ⅰ・Ⅱ区の発掘調査を昭和53年10月17日より11月25日迄25日間実施した。中野遺跡の地番は、東松浦郡鎮西町中野大字出口6185、6187の２、6189番地である。

(3) 発掘調査日誌抄

10月14日　器材搬入

10月17日　グリッドを設定し、Ⅰ区の表土排除作業。表土層からの遺物出土多し。

10月19日　Ⅱ層上面の検出掘り。第１号掘立柱建物址確認。

10月20日　柱穴遺構、不定形土壙を多く検出。

10月24日　粘質の土は固く、湧水池の水をかけながらの作業。遺構掘り開始。

10月25日　第２号掘立柱建物址検出。方柱状石斧出土。

11月４日　北拡張トレンチの表土排除作業。遺構実測開始。大形石皿、磨石等出土。

11月６日　Ⅱ区の表土排除作業。

11月７日　Ⅰ区の遺構掘りを終了し、遺物を取り上げる。Ⅱ区遺構検出掘り。北区は地盤上層にあたり礫多し。

11月10日　Ⅰ区写真撮影。

11月14日　Ⅱ区に柱穴、不定形土壙が多い。

11月16日　Ⅱ区西トレンチの遺構実測、遺物取り上げ。

11月18日　Ⅰ区南壁土層実測。

11月20日　写真撮影。遺構覆土土層実測。

11月22日　遺構実測。土層断面実測。

11月25日　写真撮影。遺物取り上げ。実測終了。

11月26日より遺物整理作業

２月８日より報告書執筆、編集作業

２．中野遺跡の位置と環境

(1)　地理的環境

中野遺跡は東松浦半島の北端部に位置する。標高150～200ｍラインの上場台地が、玄海灘にむかって北斜するなだらかなスロープ上に遺跡は存在しているといえる。呼子湾に注ぐ江頭川は、遺跡の西側約200ｍを流れる。直線距離にして、約１㎞から2.5㎞で三方に広がる海岸線に達する。遺跡の周辺は準平原状に広がり、畑地、果樹園、水田に開墾されている。遺跡は北に伸びる比高７～10ｍの低丘陵上の標高約50ｍに位置し、東西の凹地には帯状に棚田が並ぶ。遺跡近隣の湧水はこの水田耕作を賄っている。

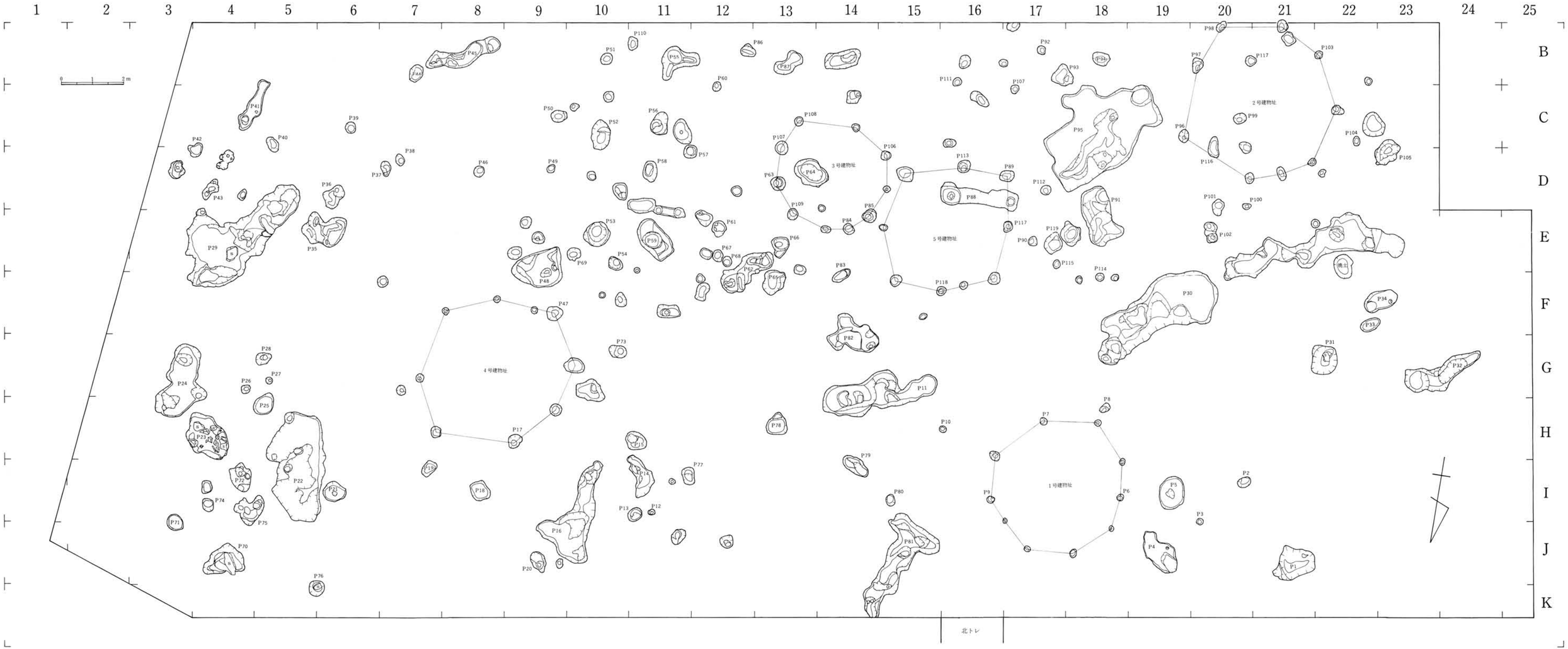
上場台地を地質的にみると、古い順に、第三紀層→玄武岩質岩脈の貫入→洪積層→玄武岩層→沖積層となる。第三紀層は、砂岩と頁岩の石層からなるが上部では前者が、下部では後者が優勢な地層である。玄武岩質岩脈の貫入方向は第三紀層の走向とほぼ直角で、幅２～４ｍをなしている。洪積層は第三紀層とは不整合をなし、厚さ50～150㎝で均質の砂質層からなる。玄武岩については、上場台地では６～７枚の玄武岩質溶岩流が認められるという。風化すると暗紫灰色か赤褐色になり土壌化していく。雨が降ればぬかるみとなり、乾けば灰かぐらとなる。いわゆる上場独特の様相をなす。沖積層の分布は狭く、入江の根元等の川の河床や海岸の波うち際などに分布し広くはない。

上場地方では、この玄武岩の風化土層が遺物や遺構を包含する文化層といえよう。

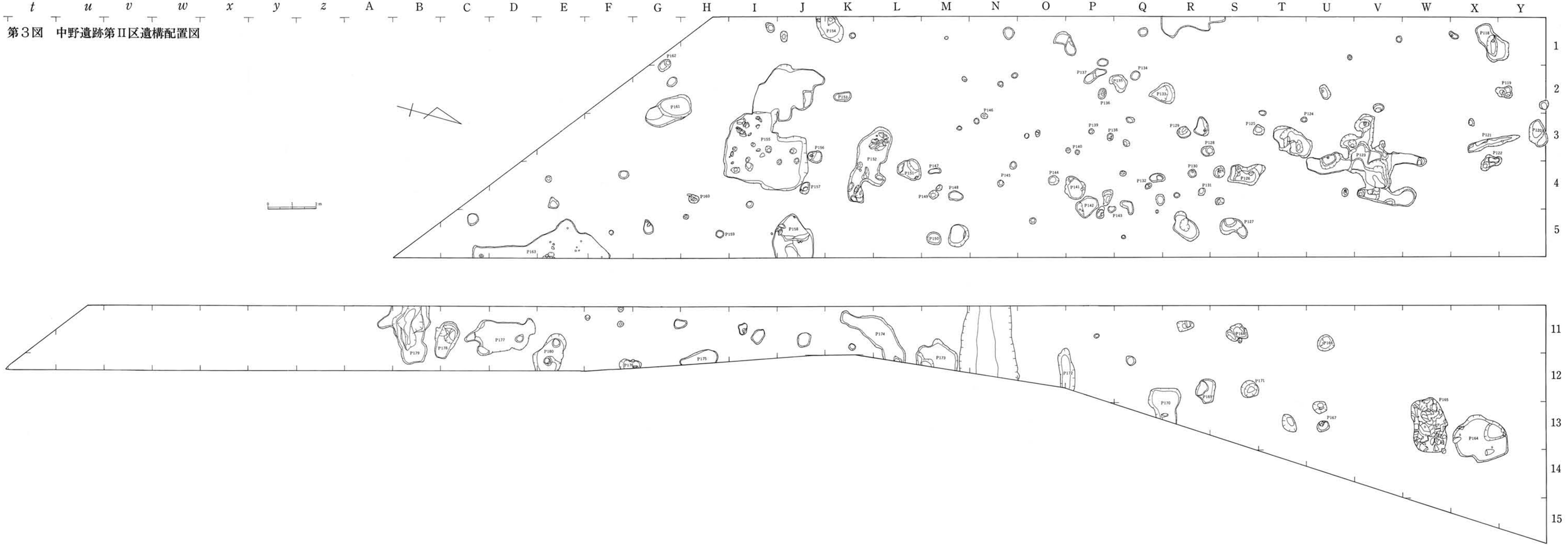
(2)　歴史的環境

上場北部をみても、その歴史は古い。先土器時代の遺跡として、小川島遺跡、馬渡切立遺跡、殿の浦遺跡、中野周辺遺物分布地等がある。縄文時代になると、石室（早期）、赤松（中～晩期）、殿の浦西（後期）、小川貝塚（後～晩期）、波戸（晩期）、加部島（晩期）遺跡やその他小友や大久保遺跡等があげられる。弥生時代の遺跡として、鼓（前期）、塩鶴（中期）、大友（中期）、鳥の巣（中期）、馬渡島（中期）遺跡や加部島、山頭、屋形石遺跡等がある。古墳時代の遺跡として、鼓古墳群（中、後期）、加部島古墳群（後期）、神集島鬼塚（後期）や尾の上古墳群、中野古墳、大友古墳、小友古墳等が存在する。奈良・平安時代に、呼子の浦が

第２図　中野遺跡第Ⅰ区遺構配置図



第３図　中野遺跡第Ⅱ区遺構配置図



博多～大陸間の海上交流の離着港として利用されたことが推測される。13世紀から16世紀頃迄、朝鮮沿岸より東支那海に渡って活躍した上松浦党の根拠地は、この松浦沿岸の港であった。16世紀末、豊臣秀吉が朝鮮進政の本営を名護屋に定めて脚光をあびた。藩政時代にはいり、呼子を拠点とした捕鯨業は、玄海漁民の活路を開いたが、畑作に生きる農民達は台地農業の苦しさから脱却できずに現代に及んでいる。

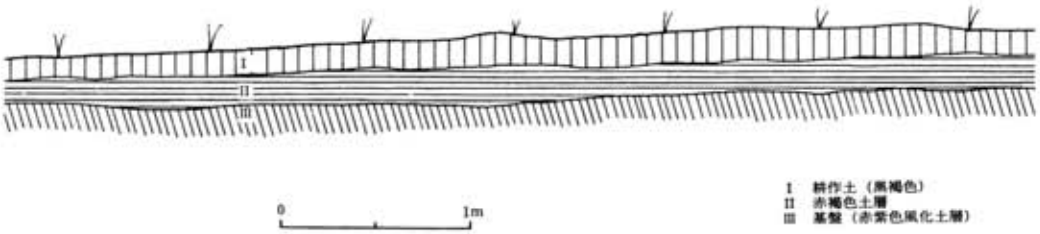
3．中野遺跡の遺構

調査区の全域に竪穴状土壙や柱穴が分布しているが、低丘陵上の峰部に位置しているため、当時の生活面は畑地造成・耕作により相当削平されていると思われる。耕作土層に夥しい量の石器や土器類の遺物が散布していることからも推察される。

(1) 中野遺跡の土層（第4図）

最上層は18cmから30cmぐらいの深さの耕作土である表土層からなる。II層は薄くI区内では10cm以内である。赤褐色を呈し粘質性である。北拡張部のトレンチではこのII層の下にやや黄味がかったやはり粘質性の赤褐色土層が確認された。三層は基盤である赤紫色の礫混層である。I区内では、この基盤層の上に耕作土がのっている所も多く見られた。遺物包含層はII層であり、遺構は基盤層に達する。

第4図　中野遺跡北トレ東壁土層実測図



(2) 中野遺跡の遺構

1）掘立柱建物址（第5～9図）

今回の調査で、竪穴住居址は確認できなかったが、掘立柱建物址と思われる遺構が5棟検出された。

① 1号掘立柱建物址（第5図）

I区北部の西寄りに位置する。柱穴は10本で、すべて素掘りである。東西4.20m（P1－P6）、南北4.25m（P4－P9）でほぼ円形を呈する。建物内の遺構は確認されなかった。

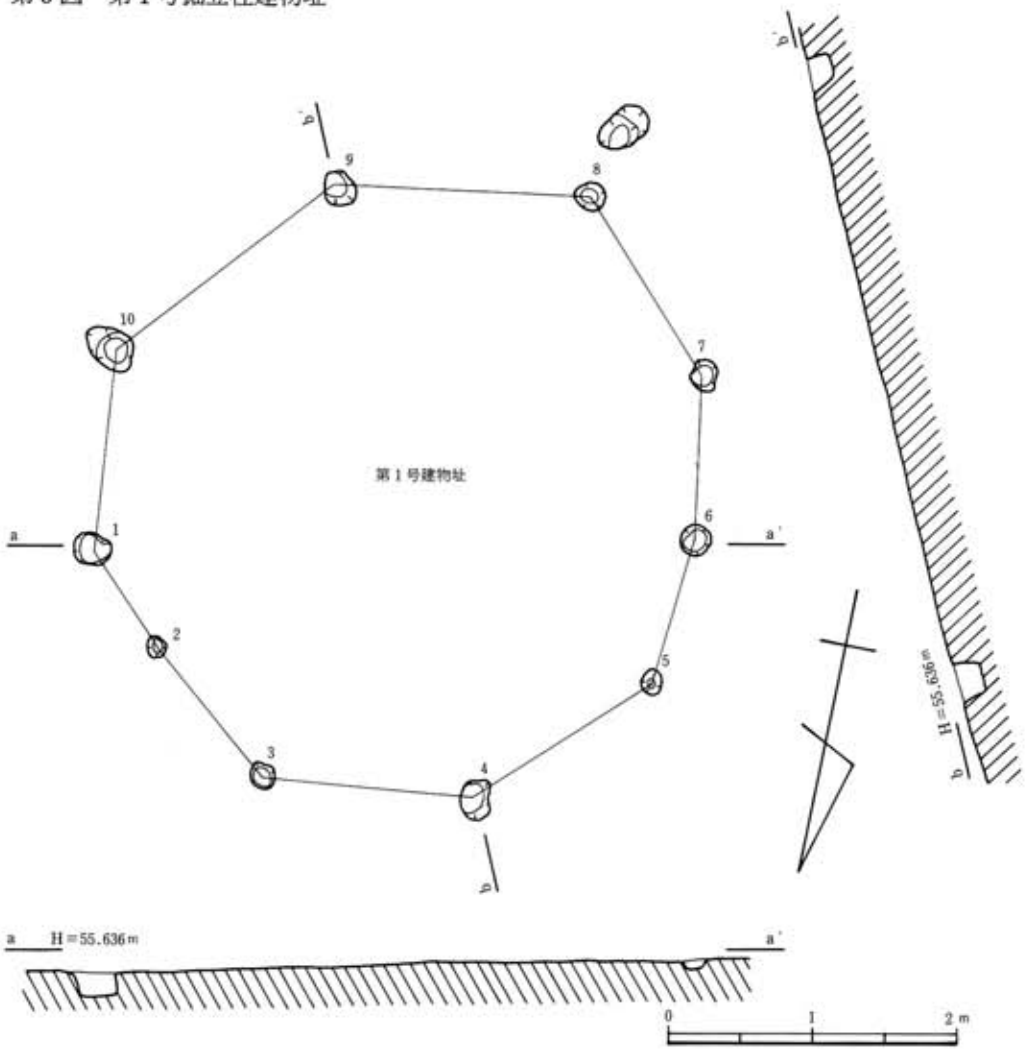
② 2号掘立柱建物址（第6図）

２号建物址は遺跡の南西隅に位置する。柱穴は９本ですべて素掘りである。東西4.70ｍ（Ｐ３－Ｐ７）、南北4.66ｍ（Ｐ１－Ｐ５）を計り、ほぼ円形を呈する。Ｐ10とＰ11は、各々Ｐ２とＰ８、Ｐ４とＰ７の線上に位置するが詳細は不明である。２号建物址の北３.０ｍに炉址と思われる焼土が検出された。

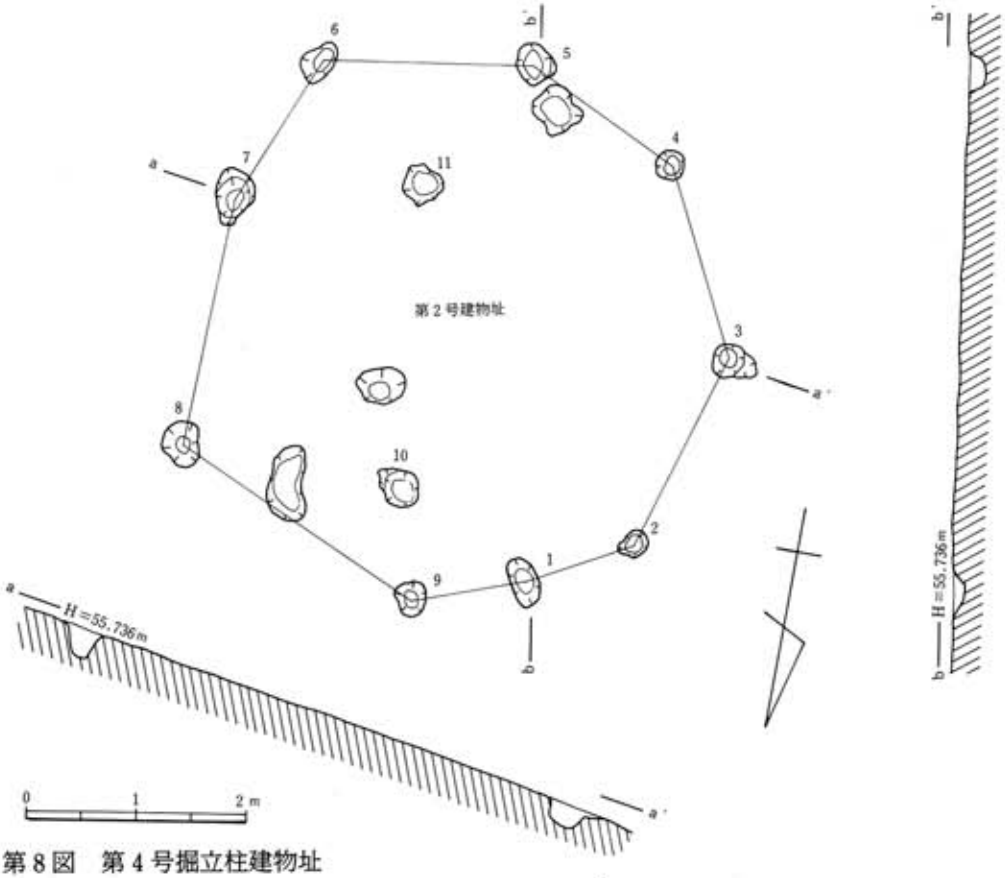
③　３号掘立柱建物址（第７図）

３号建物址は中央部の南寄りに位置し、西側に５号建物址が近接している。建物址は東西3.56ｍ（Ｐ４－Ｐ９）、南北3.37ｍ（Ｐ１－Ｐ６）のほぼ円形を呈する。柱穴は10本で素掘りである。建物址内の東寄りに竪穴土壙（径110×88㎝深さ43㎝）がある。

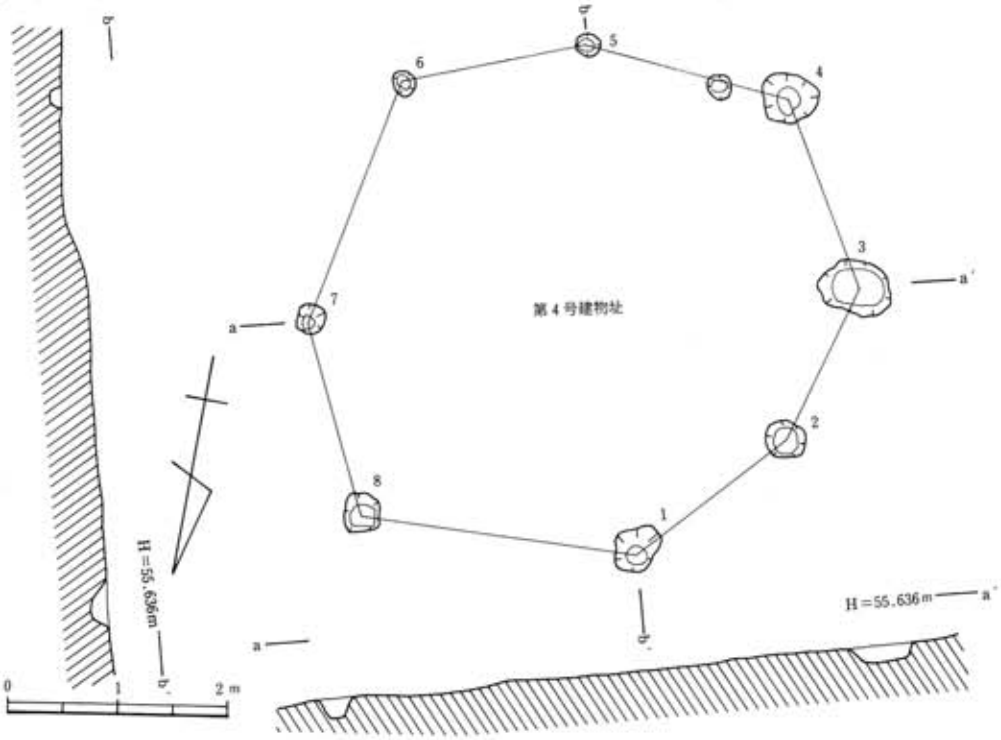
第５図　第１号掘立柱建物址



第6図　第2号掘立柱建物址



第8図　第4号掘立柱建物址



④　4号掘立柱建物址（第8図）

4号建物址は中央部東寄りに位置する。建物址は東西4.97m（P3－P7）、南北4.62m（P1－P5）でほぼ円形を呈する。柱穴は8本あり、P3、P4の掘り方が広くP5とP6が狭い。建物内に遺構は確認されなかった。

⑤　5号掘立柱建物址（第7図）

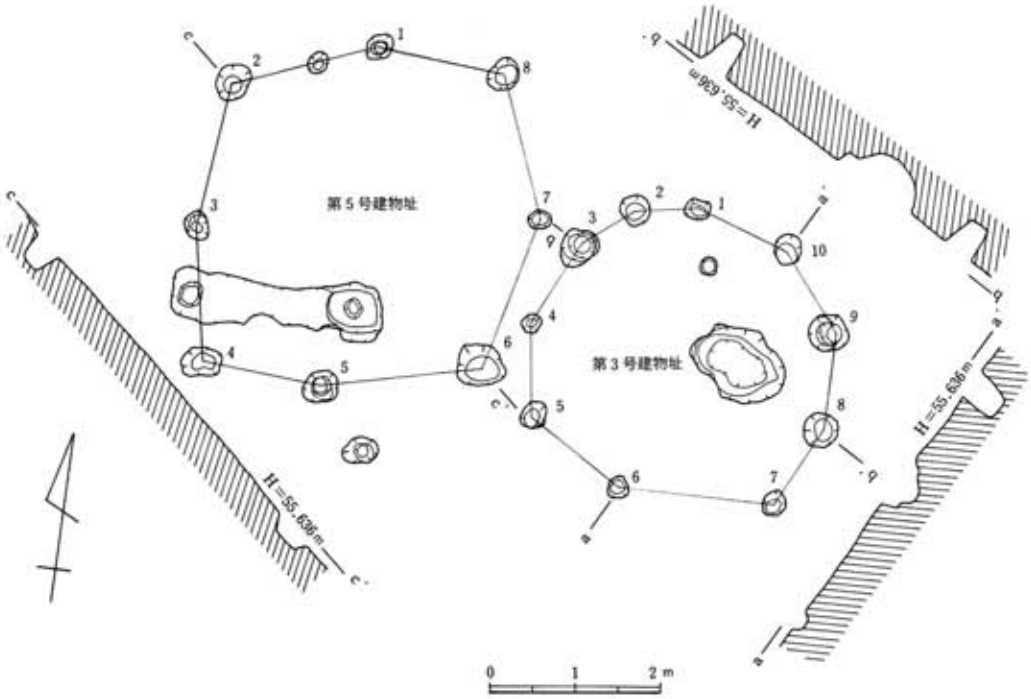
5号建物址はほぼ中央部にあり、2号と3号の間に位置する。建物址は他の4棟と異なりほぼ方形を呈し（掘り方が大きめのP2・P4・P6・P8）、柱間の外寄り中間部に4本（P1・P3・P5・P7）が補強されている形をとる。東西3.28m（P4－P6）、南北3.40m（P6－P8）を計る。建物内の南側中央から西にかけて両端に深みをもつ溝状遺構が確認された。

2）土　壙

①　P29不定形土壙（第10図）

E4区に中心をもち、大形で溝状の不定形を呈する。長径の軸は北東の方向に向き5.55m、短軸は2.45mを計る。土壙中にピットが5か所みられる。覆土中より石皿、磨石、柱状石斧、磨製石斧、石鏃、夜臼式土器片等多数が出土した。

第7図　第3・5号掘立柱建物址



第9図　掘立柱建物址計測表

第1号　掘立柱建物址					
柱間距離		柱穴番号	掘り方 巾	掘り方 深さ	覆土内出土遺物
P1−P2	82.0cm	P1	23.0×20.0cm	15.5cm	チップ11
P2−P3	118.0	P2	16.0×14.0	9.5	
P3−P4	146.0	P3	20.0×14.0	18.5	
P4−P5	147.0	P4	28.0×20.0	15.0	
P5−P6	103.0	P5	18.0× 4.0	11.5	
P6−P7	115.0	P6	22.0×19.0	8.0	チップ1
P7−P8	147.0	P7	22.0×17.0	11.0	
P8−P9	177.0	P8	23.0×19.0	20.0	
P9−P10	192.0	P9	26.0×22.0	18.5	フレイク3　チップ9
P10−P1	140.0	P10	37.0×25.0	12.5	
第2号　掘立柱建物址					
P1−P2	107.0	P1	46.0×25.0	7.0	
P2−P3	189.0	P2	28.0×21.0	7.5	
P3−P4	182.0	P3	41.0×32.0	21.5	
P4−P5	156.0	P4	27.0×25.0	15.5	フレイク2　チップ8
P5−P6	192.0	P5	39.0×37.0	14.5	
P6−P7	149.0	P6	41.0×24.0	21.0	コーフレ1　チップ1
P7−P8	228.0	P7	50.0×38.0	23.0	チップ2
P8−P9	251.0	P8	43.0×33.0	19.5	チップ7　土器2
P9−P1	104.0	P9	33.0×25.0	11.0	
		P10	34.0×29.0	13.0	
		P11	36.0×35.0	9.0	
第3号　掘立柱建物址					
P1−P2	75.0	P1	31.0×22.0	8.5	
P2−P3	74.0	P2	36.0×32.0	15.5	フレイク1　チップ　土器片11
P3−P4	109.0	P3	49.0×38.0	26.5	コア1　コーフレ1　チップ15　フレイク1　土器片2

柱間距離		柱穴番号	掘り方 巾	掘り方 深さ	覆土内出土遺物
P4−P5	110.0cm	P4	24.0×20.0cm	13.0cm	
P5−P6	131.0	P5	33.0×26.0	17.5	フレイク1　チップ6
P6−P7	185.0	P6	25.0×24.0	7.5	
P7−P8	105.0	P7	30.0×26.0	27.0	フレイク3　土器片1
P8−P9	114.0	P8	43.0×38.0	38.0	フレイク1　チップ7
P9−P10	111.0	P9	48.0×41.0	58.0	
P10−P1	115.0	P10	37.0×31.0	25.0	コア1　フレイク1　チップ4
		土壙	110.0×84.0	43.0	石鏃1　スクレイパー1　フレイク10　石斧1　コア1　チップ22　土器片5
第4号　掘立柱建物址					
P1−P2	172.0	P1	44.0×33.0	15.5	フレイク1　チップ1
P2−P3	153.0	P2	36.0×32.0	12.0	
P3−P4	180.0	P3	65.0×47.0	16.5	
P4−P5	191.0	P4	50.0×46.0	16.0	チップ3
P5−P6	169.0	P5	22.0×20.0	15.0	
P6−P7	235.0	P6	25.0×19.0	11.0	
P7−P8	182.0	P7	27.0×25.0	11.0	
P8−P1	252.0	P8	35.0×31.0	11.5	
第5号　掘立柱建物址					
P2−P4	325.0	P1	30.0×28.0	37.0	石鏃1　フレイク6　土器片1　コア1　チップ14
P4−P6	329.0	P2	42.0×39.0	30.0	
P6−P8	344.0	P3	33.0×26.0	35.0	
P8−P2	321.0	P4	46.0×33.0	19.5	チップ1
P1−P5	400.0	P5	42.0×37.0	37.5	磨石1　チップ6　土器片2
P3−P7	405.0	P6	56.0×47.0	17.5	
		P7	28.0×20.0	9.0	
		P8	38.0×36.0	19.5	
		P9	71.0×67.0	27.5	

②　P123不定形土壙（第11図）

II区V3・4に中心をもつ土壙である。約10か所程のピットが複合した形を呈する。最長部で東西約3m50cm南北約5m10cmを計る。出土遺物は覆土中より別表に示す遺物が出土した。

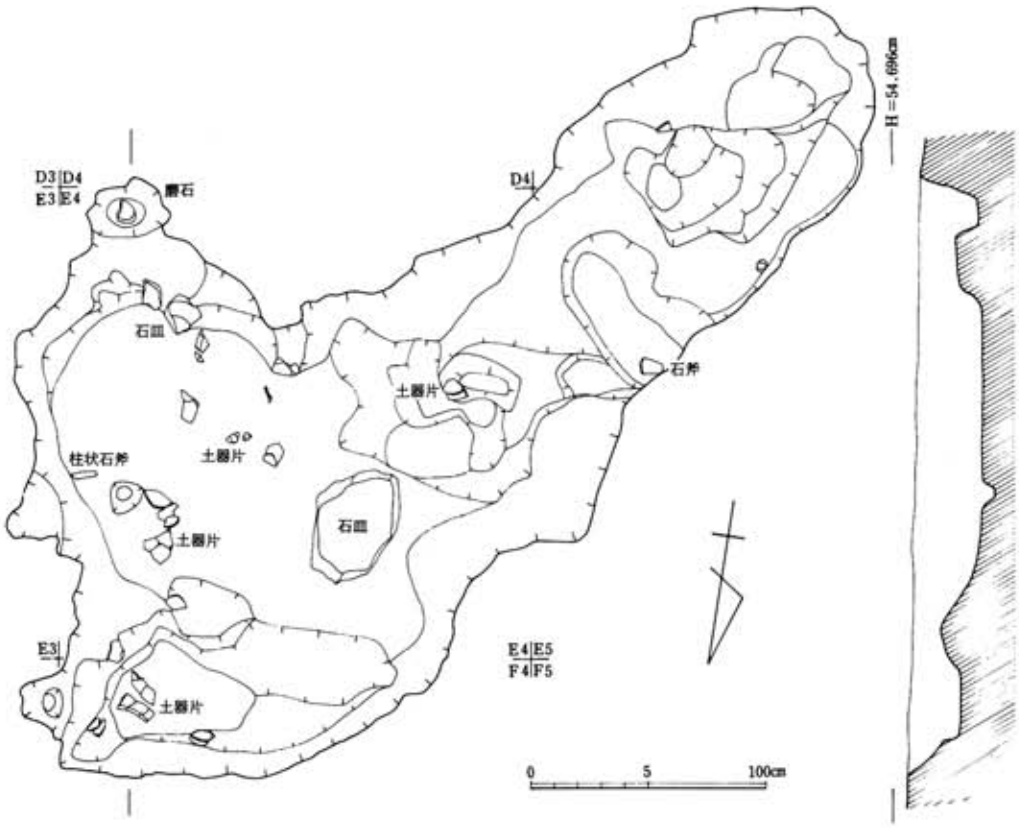
4．中野遺跡の遺物（第12図）

中野遺跡からの遺物の出土は28,565点である。層位別にみると表土層より21,853点、II層より630点、遺構内より6,082点である。また土器片は1,709点（総数の6％）で他は石製品である。石製品の内訳は、石器が738点（石器率は2.75％）、石核296点、原石・石塊16点、フレイク・チップ等25,805点となる。石器をみると石鏃270点（36.7％）、スクレーパー68点(9.2％)、石錐19点(2.6％）、サイドブレイド7点、石斧13点でありUフレが43.9％の324点を占める。

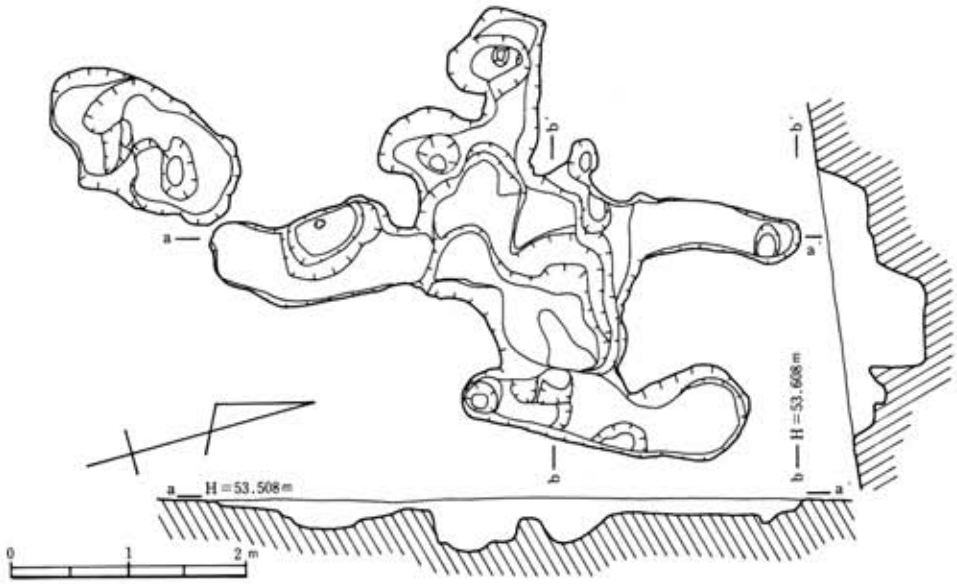
①　石　鏃　（第13．14．18−1図）

石鏃は270点出土したがそのうち199点は表土層からの出土である。II層より9点で遺構内からは62点である。遺構内からの出土はP29から12点、P16から11点、P123から6点などが多い。石鏃の形態を牟田辻遺跡（P○参照）と同じく側縁の形態と基部の形態とに分けた。（第13図）分類可能な153点のうちB類（側縁がふくらむタイプ）が約76％を占め、A、C類は14％、10

第10図　P29不定形土壙



第11図　P123不定形土壙



第12図　中野遺跡遺物一覧

土層・遺構番号	石鏃	石錐	サイドブレイド	スクレーパー	石斧	尖頭状石器	磨石凹石	U・フレ	ブレイド	その他	石器計	コア	円礫石塊	フレイクチップ他	土器片	総計
I 層	199	12	5	56	4	5	マ 1	190	16	2	488	139	8	20,720	498	21,853
II 層	9	1	1	2				18			31	11		580	8	630
Pit 1	2	1	1					1						66	20	
2														3		
3												1		3		
4	2											1		3		
5														16		
6														1		
7														12		
8														1		
9														11		
10								1						7	3	
11					1			2				4		70	11	
12												1				
13														3		
14														13	2	
15														20		
16	11				1			8				4		218	40	
17														2		
18														2		
19												1		4	1	
20												1		16	1	
21														25		
22	2			1				6						151	10	
23														12		
24			1					1				2		20	2	
25														11	11	
26														1		
27														3	5	
28														7		
29	12	1			1	1	2	60	2	3		33	3	1,133	520	
30				1				1				2	1	55		
31								1						20	16	
32								1						8		
33														1		
34	1													7		
35														11	8	
36														7	10	
37	1													3		
38										1				1		
39														1	1	
40														3	1	
41												1		2		
42														1		
43														5		

土層・遺構番号	石鏃	石錐	サイドブレイド	スクレーパー	石斧	尖頭状石器	磨石凹石	U・フレ	ブレイド	その他	石器計	コア	円礫石塊	フレイクチップ他	土器片	総計
Pit 44														4		
45	1	2		1				1				1		49	30	
46														13		
47														3		
48														1		
49														4		
50														4		
51	1			1				1				1		9		
52	1											1		35	4	
53														27		
54														16	1	
55														3	1	
56														2	3	
57				1										42	12	
58														23	1	
59	1				1				1			5		129	1	
60														1	2	
61														10	1	
62														9		
63	2											2		59		
64	1			1	1							1		32	5	
65								1						2		
66	2							4						17	2	
67														13		
68														5		
69												1		3		
70														3	1	
71														4		
72														6	1	
73														33		
74		1												8	1	
75								1						22	1	
76	1				1									13	2	
77														3	1	
78														5	1	
79															1	
80														4		
81	2			1				2	1			3		63	16	
82								1				2		43	7	
83														3	1	
84														12	2	
85								1				1		16	2	
86								1						3	1	
87												3		98		
88												1		15	1	
89														1		
90														7	1	

土層・遺構番号	石鏃	石錐	サイドブレイド	スクレーパー	石斧	尖頭状石器	磨石凹石	U・フレ	ブレイド	その他	石器計	コア	円礫石塊	フレイクチップ他	土器片	総計
Pit 91								2				2		71	26	
92														4		
93														4		
94														4		
95	1			1	2			6				8		194	17	
96														7	2	
97														2		
98								1						1		
99														2		
100														1		
101														10		
102														5		
103														10		
104														2		
105				1				1				1		26	6	
106														7		
107														8		
108														3	1	
109												1		5		
110														2		
111														2		
112								1						6	1	
113							マ 1							6	2	
114														8		
115														1	1	
116														14		
117								1						5		
118	1											1		6		
119												1		20	1	
120														6		
121								1				1		3		
122														18	4	
123	6							4				16	1	221	182	
124														2		
125												1		6	5	
126												1		1		
127														4		
128								1				1		6	12	
129														9	6	
130														7	2	
131							ク 1								4	
132														1		
133	1													1		
134														13	2	
135	1							1		1				20	9	
136		1			1								1	34	20	
137								1						11	4	

土層・遺構番号	石鏃	石錐	サイドブレイド	スクレーパー	石斧	尖頭状石器	磨石凹石	U・フレ	ブレイド	その他	石器計	コア	円礫石塊	フレイクチップ他	土器片	総計
Pit 138														1		
139														1	2	
140															2	
141															2	
142														2		
143														2	1	
144														4	4	
145														3	2	
146														1		
147														1		
148														4		
149														5	2	
150														1	1	
151	2													33	1	
152														8		
153														1		
154	1													7	3	
155	1									1		11	2	151	19	
156												1		9	2	
158	1			1								2		4	1	
159														13		
160														3	1	
161														3		
162														1		
163	1											4		53	4	
164														1	2	
165												1		13		
166												1		22		
167														1		
168														4		
169														3	23	
170								1						8	4	
171														14		
172														6		
173														5		
174								1				1		7		
175												1		16	4	
176														22		
177	1											9		152	6	
178														14		
179	2			1				1				8		262	45	
180														12		
181														1		
遺構内出土分合計	62	6	3	11	9	1	4	119	4	6	219	146	8	4,505	1,203	6,082
総計	270 % (36.7)	19 (2.6)	8 (0.9)	69 (9.2)	13 (1.8)	6 (0.8)	5 (0.5)	324 (43.9)	20 (2.7)	8 (0.9)	738 % (100)	296	16	25,805	1,709	28,565

%と少ない。しかし遺構内出土分は、A・C類が約20%を占めている。基部については抉りの深いb3タイプはみられず、抉りの浅いb2タイプと、抉りのないb1タイプが半ばしている。

剝片鉄や磨製鏃（局部磨製も含む）は主に表土層から出土しているが、前者17点、後者7点である。また有茎の磨製鏃が2点ある。（第18－8図）

1．（表土層）鏃身のみが残っているが、磨製鏃である。器幅1.15㎝器厚0.5㎝を計る。両面には斜行する研磨痕が観察される。

2．（P29出土）有茎磨製鏃である。先端部分を欠損しているが、現状で器長5.96㎝最大幅1.31㎝最大厚0.61㎝を計測する。両面とも入念に研磨され、正裏面に稜が一本走る。

② 石　錐　（第18－2図）

石錐は、II層より1点、遺構より6点、表土層より12点出土した。両面を丹念に調整を施しているタイプと、剝片に簡単な刃部調整を施したタイプとがある。

1．（I層）黒曜石製で三角形状を呈す。錐部を両側面より抉り出している。ラフであるが、両面全体に調整を行なっている。

2．（I層）黒曜石製の薄手である。両面より入念に調整を施している。基部左右端部を欠損している。

3．（I層）黒曜石製の小形石錐。両面に第一次剝離面を大きく残し、周縁部のみに調整を施している。錐部は短い。

4．（I層）良質の扁平な黒曜石製剝片を素材にし、入念な調整剝離が行なわれている。錐先部は基部にむけて表裏より調整し、鋭く長く作出している。基部は薄く安定している。

5．（I層）縦長の黒曜石製の剝片を素材にしている。調整は正面のみで、先端部のみ主要剝離面にも施している。先端部よりやや左寄りに稜を作出している。

6．（I層）黒曜石製でやや脹らみがある。入念な調整でイチジク形に仕上げている。調整は正裏面より施し錐先部は薄く欠失している。

第13図　石鏃形態分類一覧

〈 〉剝片鏃　（ ）局部磨製・磨製鏃

	A 類						B 類						C 類						
	Aa	Ab_1	Ab_2	Ab_3	A?	計	Ba	Bb_1	Bb_2	Bb_3	B?	計	Ca	Cb_1	Cb_2	Cb_3	C?	計	総 計
I 層		7 (1)	2		4	13 (12.1)〈61.9〉	16〈4〉	24〈1〉(3)	17〈3〉		27〈5〉(1)	84 (78.5)〈72.4〉		2			8	10 (9.4)〈62.5〉	107〈13〉(5) (100)%
II 層			1(1)			1 (8.3)〈4.8〉	2〈1〉	1〈1〉	3〈1〉		5	11 (91.7)〈9.5〉						0 (0)〈0〉	12〈2〉(2) (100)%
遺構内		2	3		2	7 (20.6)〈33.3〉	4	4	7〈1〉	1	5	21 (61.8)〈18.1〉	3〈1〉	1	3		1	6 (17.6)〈37.5〉	34〈2〉(8) (100)%
計	0	9	6	0	6	21 〔13.7〕〈100〉%	22	29	27	1	37	116 〔75.8〕〈100〉%	1	3	3	0	9	16 〔10.5〕〈100〉%	153〈17〉(7) 〔100〕%

第14図　中野石鏃計測一覧

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長	器幅	器厚	重さ	備考
						mm	mm	mm	g								mm	mm	mm	g	
1	1	1	Ab₂	I	Ob	20.75	(19.35)	3.00	(0.9)	局部磨製	35			Ba	I	Ob	(15.50)	(18.20)	(3.95)	(1.1)	剥片鏃
2	2	2	Ba	〃	〃	25.75	19.30	4.50	1.7	剥片鏃	36			〃	〃	〃	21.05	(12.20)	4.05	(0.8)	
3	3	3	〃	〃	〃	19.35	13.85	3.35	0.7	剥片鏃	37			〃	〃	〃	(17.90)	12.25	2.30	(0.5)	剥片鏃
4	4	4	〃	〃	〃	19.20	18.05	5.10	1.5		38			〃	〃	〃	21.25	(16.15)	(3.55)	(1.0)	剥片鏃
5	5	5	〃	〃	〃	24.00	12.55	4.55	1.8		39			〃	〃	〃	24.55	(20.30)	6.70	(2.8)	
6	6	6	〃	〃	〃	12.90	9.00	2.80	0.3	細石鏃	40			〃	〃	〃	18.55	17.15	4.05	1.1	
7	7	7	〃	〃	〃	19.55	14.35	3.35	0.8		41			〃	〃	〃	22.20	15.30	4.55	1.6	
8	8	8	Bb₁	〃	〃	19.10	14.15	3.70	0.9		42			〃	〃	Sa	25.45	21.15	6.70	3.8	
9	9	9	〃	〃	〃	20.55	16.65	3.00	0.8		43			〃	〃	Ob	(18.35)	17.70	3.60	(1.2)	
10	10	10	Bb₂	〃	〃	17.95	15.75	3.20	0.8		44			Ab₁	〃	〃	(12.80)	13.60	2.65	(0.5)	
11	11	11	〃	〃	〃	16.95	14.65	2.55	0.6	局部磨製	45			〃	〃	〃	(14.90)	(14.05)	3.20	(0.5)	
12	12	12	〃	〃	〃	15.80	15.75	3.20	0.7	局部磨製	46			〃	〃	〃	17.45	(16.95)	5.00	1.1	
13	13	13	〃	〃	〃	27.90	19.00	3.90	1.6		47			Ab₁	〃	〃	23.90	(20.40)	4.25	(1.8)	
14	14	14	〃	〃	〃	19.00	15.15	3.40	0.8		48			Ab₂	〃	〃	17.00	15.05	4.05	0.8	
15	15	15	〃	〃	〃	15.20	15.80	3.70	0.6	半磨製	49			Bb₁	〃	〃	(14.05)	(10.70)	2.00	(0.4)	
16	16	16	〃	〃	〃	19.10	15.10	3.80	0.8	剥片鏃	50			〃	〃	〃	(14.00)	(13.35)	3.40	(0.7)	局部磨製
17	17	17	〃	〃	〃	22.00	17.80	4.05	1.1		51			〃	〃	〃	(9.80)	(15.00)	(2.40)	(0.3)	剥片鏃
18	18	18	B ?	〃	〃	18.60	(15.00)	3.60	(0.8)		52			〃	〃	〃	200.0	(12.75)	2.75	(0.6)	
19	19	19	Cb₁	〃	〃	22.40	16.30	3.85	1.2		53			〃	〃	〃	(9.80)	17.60	2.95	(0.6)	
20	20	20	C ?	〃	〃	22.85	16.80	4.70	1.5		54			〃	〃	〃	(14.10)	15.05	3.00	(0.5)	
21	21	21	〃	〃	〃	(25.35)	(18.55)	3.15	(1.0)		55			〃	〃	〃	23.20	21.25	5.60	2.2	
22	22	22	—	〃	〃	(20.75)	(16.35)	3.60	(1.0)		56			〃	〃	〃	19.00	(12.15)	3.10	(0.5)	
23			Ab₁	〃	〃	(17.00)	(10.25)	3.00	(0.5)		57			〃	〃	〃	(16.45)	(16.00)	3.50	(0.8)	
24			〃	〃	〃	(15.45)	(12.20)	(2.40)	(0.3)		58			〃	〃	〃	16.00	14.10	3.10	0.7	
25			〃	〃	〃	15.00	14.10	3.10	0.5		59			〃	〃	〃	(24.35)	(19.00)	5.35	(1.9)	
26			〃	〃	〃	(12.80)	13.60	2.65	(0.5)		60			〃	〃	〃	26.20	(16.45)	3.85	(1.1)	側縁突起
27			〃	〃	〃	(14.90)	(14.05)	3.20	(0.5)		61			〃	〃	〃	15.60	15.00	3.45	0.7	
28			〃	〃	〃	17.45	(16.95)	5.00	(1.1)		62			〃	〃	〃	(15.75)	(15.60)	2.45	(0.6)	
29			Ab₁	〃	〃	23.90	(20.40)	4.25	(1.8)		63			〃	〃	〃	(10.90)	14.45	3.10	(0.6)	
30			Ab₂	〃	〃	17.00	15.05	4.05	0.8		64			〃	〃	〃	(15.80)	17.40	3.00	(0.7)	
31			A ?	〃	〃	(19.85)	(12.45)	(2.95)	(0.4)		65			〃	〃	〃	(16.30)	(20.00)	3.25	(1.1)	
32			〃	〃	〃	(17.00)	(11.20)	3.10	(0.6)		66			〃	〃	〃	16.30	18.50	3.20	(0.8)	局部磨製
33			〃	〃	〃	(21.10)	(12.25)	3.00	(0.7)		67			Bb₂	〃	Sa	(20.50)	19.20	3.85	(0.9)	
34			〃	〃	〃	(15.00)	(10.45)	2.65	(0.3)		68			〃	〃	Ob	(21.05)	14.90	3.80	(0.7)	

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考
69			Bb_2	I	Ob	(19.30)	16.70	4.20	(1.0)		103			C？	I	Ob	(18.20)	(17.40)	3.35	(0.7)	
70			〃	〃	〃	(10.95)	17.50	2.60	(0.5)		104			〃	〃	〃	14.60	12.40	3.20	0.5	
71			〃	〃	〃	15.20	(11.95)	2.60	(0.5)	半磨製	105			—	〃	〃	(17.40)	(21.95)	4.95	(1.5)	
72			〃	〃	〃	(21.15)	(15.80)	4.00	(1.1)		106			—	〃	〃	(12.55)	(13.30)	(3.00)	(0.4)	
73			〃	〃	〃	(13.35)	(15.35)	2.20	(0.6)	側面縁	107			—	〃	〃	—	—	—	—	
74			〃	〃	〃	(22.30)	(17.45)	3.95	(1.3)		108			—	〃	〃	(20.05)	15.90	4.55	(1.5)	
75			〃	〃	〃	18.60	18.60	3.60	(1.4)		109			$?b_1$	〃	〃	(15.05)	(9.35)	(3.70)	(0.4)	
76			B？	〃	〃	(15.50)	5.20	3.80	(0.8)		110			—	〃	〃	(13.00)	(17.60)	3.30	(0.7)	
77			〃	〃	〃	(13.75)	16.35	2.85	(0.7)	局部磨製	111			C？	〃	〃	(17.55)	(23.50)	3.25	(1.0)	
78			〃	〃	〃	(15.90)	(10.95)	2.50	(0.3)		112			—	〃	〃	21.30	20.05	4.42	1.6	
79			〃	〃	〃	(12.50)	(15.20)	3.00	(0.5)		113			—	〃	〃	(11.60)	(20.05)	3.50	(0.9)	
80			〃	〃	〃	13.20	12.45	3.25	0.7		114			$?b_1$	〃	〃	(11.60)	16.00	3.35	(0.7)	
81			〃	〃	〃	(15.90)	(26.30)	(4.75)	(1.7)		115			—	〃	〃	(12.50)	(14.35)	(3.25)	(0.6)	
82			〃	〃	〃	(4.30)	(12.95)	(3.00)	(0.5)		116			—	〃	〃	(11.20)	(13.20)	2.30	(0.4)	
83			〃	〃	〃	(10.60)	(14.50)	(3.35)	(0.5)	剝片鏃	117			$?b_2$	〃	〃	(15.10)	14.00	3.05	(0.7)	
84			〃	〃	〃	(15.45)	(13.40)	5.05	(0.8)		118			〃	〃	〃	(12.50)	(13.50)	2.60	(0.5)	
85			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	119			—	〃	〃	(10.10)	(11.25)	2.50	(0.2)	
86			〃	〃	〃	(16.95)	(11.05)	2.90	(0.4)		120			—	〃	〃	(11.50)	(10.65)	(2.70)	(0.2)	
87			〃	〃	〃	—	—	—	—	脚部のみ	121			—	〃	Sa	18.65	23.05	10.70	3.7	未製品
88			〃	〃	〃	24.30	19.85	4.85	2.0	剝片鏃	122			—	〃	Ob	—	—	—	—	
89			〃	〃	〃	(18.70)	16.60	4.60	(1.3)	剝片鏃	123			—	〃	〃	—	—	—	—	
90			〃	〃	〃	(15.00)	(13.60)	3.15	(0.5)		124			—	〃	〃	—	—	—	—	
91			〃	〃	〃	(13.80)	(13.20)	2.40	(0.3)		125			—	〃	〃	—	—	—	—	
92			〃	〃	〃	(13.15)	(10.00)	2.95	(0.3)		126			Bb_2	〃	〃	15.80	15.75	3.20	0.7	
93			〃	〃	〃	(24.00)	(20.65)	4.65	(2.2)		127			—	〃	〃	17.35	16.85	3.10	0.6	
94			〃	〃	〃	(23.00)	(18.55)	3.60	(1.3)	剝片鏃	128			—	〃	〃	—	—	—	—	
95			〃	〃	〃	(16.00)	(14.80)	3.75	(0.9)		129			—	〃	〃	19. 15	(16.55)	3.10	(0.8)	
96			〃	〃	〃	(13.40)	16.30	3.35	(0.7)		130			—	〃	〃	(20.25)	22.00	6.20	(2.4)	
97			〃	〃	〃	(25.20)	(16.45)	5.20	(1.4)	剝片鏃	131			—	〃	〃	18.95	13.85	3.05	0.7	
98			〃	〃	〃	(17.65)	(12.50)	3.10	(0.6)		132			B？	〃	〃	18.60	(15.00)	3.60	(0.8)	
99			Ca	〃	〃	23.35	16.70	5.25	1.6		133			—	〃	〃	—	—	—	—	
100			C？	〃	〃	—	—	—	—		134			—	〃	〃	—	(16.60)	3.30	—	基部
101			〃	〃	〃	(12.70)	(22.35)	(3.90)	(0.9)		135			—	〃	〃	(15.10)	(14.55)	(3.35)	(0.5)	
102			〃	〃	〃	(19.05)	17.00	3.25	(1.0)		136			—	〃	〃	—	—	2.50	(0.3)	脚部のみ

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考	番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考
137			−	I	Ob	−	−	−	−	脚部	171			−	I	Ob	(14.05)	18.90	3.65	(1.1)	
138			−	〃	〃	(12.25)	(16.55)	3.00	(0.7)	局部磨製	172			−	〃	Sa	(22.60)	(15.50)	3.15	(1.0)	
139			−	〃	〃	−	−	(2.30)	(0.2)		173			Bb₁	〃	Ob	13.00	9.00	2.80	0.3	細石鏃
140			−	〃	〃	(15.00)	(12.40)	(3.00)	(0.5)		174			−	〃	〃	18.20	(14.45)	2.95	(0.8)	
141			−	〃	〃	(17.05)	14.55	2.75	(0.7)		175			−	〃	〃	−	−	(4.90)	(1.2)	
142			−	〃	〃	(12.55)	(16.95)	2.50	(0.5)		176			−	〃	〃	(19.00)	16.15	4.55	(1.2)	
143			?b₁	〃	〃	(17.25)	(14.85)	(2.40)	(0.6)		177			−	〃	〃	(16.70)	(10.70)	(5.25)	(0.6)	
144			−	〃	〃	(12.70)	(13.00)	(3.30)	(0.4)		178			−	〃	〃	(13.00)	(11.95)	(2.50)	(0.3)	
145			−	〃	〃	(14.20)	(10.80)	2.95	(0.4)		179			−	〃	〃	(17.15)	(14.35)	5.95	(1.6)	
146			−	〃	〃	(11.55)	(11.45)	3.20	(0.3)		180			−	〃	〃	(14.60)	(12.65)	3.60	(0.6)	局部磨製
147			?a	〃	〃	(15.75)	(14.00)	3.55	(0.9)		181			−	〃	〃	(15.60)	(14.00)	(4.65)	(0.8)	剥片鏃
148			−	〃	〃	(22.60)	(21.50)	6.90	(2.4)		182			−	〃	〃	−	−	(4.40)	(1.0)	未製品
149			−	〃	〃	(23.80)	(17.10)	5.75	(2.3)		183			?b₂	〃	〃	(10.95)	14.00	2.55	(0.4)	局部磨製
150			−	〃	〃	(26.15)	(16.35)	4.70	(2.0)		184			−	〃	〃	(17.20)	(15.25)	3.20	(0.8)	
151			−	〃	〃	−	−	−	−		185			−	〃	〃	−	−	4.20	(0.7)	脚部
152			−	〃	〃	(24.60)	(14.65)	3.50	(1.1)		186			−	〃	〃	(15.70)	(16.65)	3.00	(0.9)	
153			−	〃	〃	(21.70)	(21.45)	6.54	(1.9)		187			−	〃	〃	(11.95)	(14.90)	3.30	(0.7)	
154			−	〃	〃	(21.80)	20.00	4.90	(2.1)		188			−	〃	〃	(15.45)	(14.10)	3.15	(0.8)	
155			−	〃	〃	(23.70)	(17.80)	4.35	(1.7)		189			−	〃	〃	(16.75)	(14.70)	3.45	(0.6)	
156			−	〃	〃	(15.00)	(10.70)	2.40	(0.4)		190			−	〃	〃	−	−	−	0.1	
157			−	〃	〃	(18.10)	(15.25)	4.50	(0.7)		191			−	〃	〃	−	−	−	0.3	
158			B?	〃	〃	(24.85)	(23.70)	7.65	(3.5)	厚手	192			−	〃	〃	−	−	−	0.5	
159			−	〃	〃	(20.50)	(22.50)	5.05	(2.4)		193			−	〃	〃	(16.40)	(19.55)	5.25	(1.1)	
160			−	〃	〃	(21.90)	(19.30)	4.15	(1.5)		194			−	〃	〃	(24.05)	(14.20)	(3.50)	(1.0)	
161			?b₁	〃	〃	(21.10)	(18.00)	5.45	(1.8)		195			−	〃	〃	(20.85)	28.20	6.10	(3.0)	
162			−	〃	〃	(21.25)	(16.70)	3.55	(1.1)		196			−	〃	〃	(16.75)	21.95	4.30	(1.4)	
163			−	〃	〃	(19.10)	14.95	4.10	(1.2)		197			Bb₂	〃	〃	(12.05)	16.75	2.90	(0.6)	
164			−	〃	〃	17.00	15.94	3.20	0.7	剥片鏃	198			Bb₁	〃	〃	21.95	(16.50)	3.80	(1.2)	
165			?b₁	〃	〃	(15.55)	(17.05)	3.00	(0.9)		199			−	〃	〃	(25.80)	(20.40)	5.05	(2.2)	
166			−	〃	〃	(13.80)	(12.00)	2.50	(0.3)		200			Ab₂	II	Sa	29.50	19.95	4.95	2.5	局部磨製
167			−	〃	〃	(24.55)	(19.70)	6.20	(2.3)	未製品	201			Ba	〃	Ob	(22.70)	21.50	5.9	(1.9)	
168			−	〃	〃	23.75	20.20	7.05	2.4	未製品	202			〃	〃	〃	25.70	16.30	4.7	(0.9)	剥片鏃
169			−	〃	〃	(25.95)	23.60	7.35	(3.3)		203			Bb₁	〃	〃	23.60	17.80	4.3	1.6	剥片鏃
170			?b₂	〃	〃	12.05	(16.35)	3.50	(0.7)		204			Bb₂	〃	〃	19.80	15.50	3.35	1.0	局部磨製

番号	図番	図版	分類	層位	石質	器長 mm	器幅 mm	器厚 mm	重さ g	備考
205			Bb₂	II	Ob	(26.10)	(22.35)	5.75	(2.5)	
206			〃	〃	〃	18.50	(15.00)	3.15	(0.8)	
207			B ?	〃	Sa	21.10	18.25	4.40	1.4	
208			〃	〃	Ob	23.00	15.05	3.10	0.8	
209	23	23	Ab₁	P29	〃	20.15	19.25	2.40	1.0	
210	24	24	Ab₂	P16	〃	18.70	15.60	3.30	0.8	
211	25	25	〃	P29	〃	(24.40)	(14.15)	3.25	(0.7)	
212	26	26	〃	P135	〃	20.60	(17.65)	3.30	(0.9)	
213	27	27	A ?	P16	〃	22.20	(14.35)	3.65	(0.7)	
214	28	28	Ba	P55	〃	(29.60)	14.00	4.50	(2.0)	柳葉鏃
215	29	29	〃	P133	Sa	24.50	18.70	4.10	1.9	
216	30	30	Bb₁	P66	Ob	20.25	19.00	3.35	0.9	
217	31	31	〃	P95	〃	(20.05)	15.95	3.50	(1.0)	
218	32	32	Bb₂	P22	〃	34.70	21.45	5.95	3.5	
219	33	33	〃	P123	〃	19.80	19.50	4.00	1.4	
220	34	34	Bb₃	〃	〃	(24.95)	18.40	5.40	(1.8)	
221	35	35	B ?	P29	〃	22.95	19.10	3.10	1.2	
222	36	36	〃	P51	〃	18.60	(17.20)	3.85	(0.7)	
223	37	37	Cb₁	P29	〃	23.35	17.50	4.05	1.1	
224	38	38	Cb₂	P24	〃	(20.25)	(17.25)	3.60	(0.7)	
225	39	39	〃	〃	〃	23.70	22.65	3.75	1.8	
226	40	40	〃	P81	〃	17.90	14.45	4.50	1.0	
227			Ab₁	P16	〃	21.00	(21.70)	3.05	(1.0)	
228			Ba	P 4	〃	(24.70)	(23.15)	4.65	(2.1)	
229			Cb₂	P81	〃	17.90	14.45	4.50	1.0	
230			Bb₁	P135	〃	(19.70)	15.20	4.05	(1.2)	
231			〃	P154	〃	23.85	21.90	6.50	3.2	
232			Bb₂	P16	〃	(11.35)	15.05	(2.55)	(0.5)	
233			〃	P66	〃	(22.15)	(19.80)	4.75	(1.9)	
234			〃	P29	〃	17.60	19.90	3.50	1.3	剝片鏃
235			〃	P76	〃	(20.00)	(13.00)	2.95	(0.5)	
236			〃	P64	〃	(16.25)	(15.20)	4.15	(0.9)	
237			B ?	P34	〃	(16.60)	(14.10)	3.60	–	
238			〃	P123	〃	(13.90)	16.70	3.00	(0.6)	
239			B ?	P179	Ob	(24.30)	(18.00)	4.85	(2.0)	
240			A ?	P16	〃	(19.35)	(19.80)	4.80	(1.6)	
241			–	P 1	〃	(22.65)	(23.05)	5.70	(1.9)	
242			–	〃	〃	(11.00)	(15.15)	(3.10)	(0.4)	
243			–	P 4	〃	–	–	–	–	
244			A ?	P16	〃	(26.70)	(15.25)	2.40	(0.7)	
245			–	〃	〃	(13.20)	(14.90)	2.50	(0.5)	
246			–	〃	〃	(15.00)	(8.00)	(2.45)	(0.3)	
247			–	〃	〃	(11.70)	(14.35)	2.80	(0.5)	
248			–	〃	〃	–	–	–	(0.1)	
249			–	〃	〃	–	–	(2.15)	(0.2)	
250			–	P22	〃	(23.40)	(15.25)	4.05	(1.2)	
251			?b₁	P29	〃	(11.65)	(20.15)	3.65	(0.8)	
252			–	〃	〃	–	–	(2.35)	(0.4)	
253			–	〃	〃	(13.10)	(12.00)	3.40	(0.5)	
254			–	〃	〃	(10.30)	(17.40)	2.65	(0.4)	
255			–	〃	〃	–	–	–	–	
256			–	P30	〃	–	–	3.85	–	
257			–	P37	〃	–	–	2.35	(0.1)	
258			C ?	P45	〃	(17.70)	(14.45)	3.85	(0.6)	
259			?b₂	P59	〃	(16.35)	15.40	3.20	(0.6)	
260			–	P118	〃	(16.60)	(18.85)	3.35	(0.8)	
261			–	P123	〃	–	–	(3.35)	(0.3)	脚部のみ
262			?b₁	〃	〃	(11.40)	15.55	(2.65)	(0.5)	
263			–	〃	〃	–	–	(3.85)	(0.4)	剝片鏃
264			–	P151	〃	(27.25)	(22.00)	6.45	(3.3)	未製品
265			?b₁	〃	〃	(11.50)	15.40	3.30	(0.6)	
266			Ca	P158	〃	25.50	24.00	6.45	2.07	剝片鏃
267			–	P163	〃	(22.45)	(20.55)	(6.50)	(2.1)	
268			–	P177	〃	(13.15)	(12.60)	2.30	(0.5)	
269			Bb₂	P179	〃	(13.55)	15.00	3.00	(0.6)	
270			Ba	P22	〃	12.90	1.00	2.80	–	紐石鏃

7．（Ⅰ層）不定形な縦長剝片を用いている。表裏両面から刃部調整を入念に施している。先端部に打面が残っているので未製品と思われる。黒曜石製。

8．（Ⅰ層）小形薄手の黒曜石製。錐先はやや細く長い。両面より入念な調整が施されている。先端部を欠失している。

9．（P 1）黒曜石製の剝片を素材にしている。基部が右側面だけに大きく張り出している。錐部調整は両面より細かく施している。正面に自然面を、裏面に第一次剝離面を残している。

10．（Ⅰ層）半透明の乳灰色黒曜石製。ラフではあるが、正面には四方より調整を施す。裏面は第一次剝離面を残すが、側辺より刃部調整を施す。

11．（Ⅰ層）漆黒の縦長剝片を素材にしている。錐部加工は主要剝離面側よりほぼ垂直に施す。調整は正面のみである。基部を一部欠損する。

12．（Ⅱ層）小形で薄手の石錐である。正裏両面に入念な調整を施し、先端部を欠失している。黒曜石製。

13．（P 29）良質の黒曜石製で薄手である。基部は幅広く、錐部は鋭い。基部両側辺を欠失している。

14．（P 45）黒曜石製の薄手剝片を素材にした石錐。両面とも一次剝離面を大きく残し、刃部加工は錐部に両辺より施す。錐部加工は両面にみられる。

15．（P 136）やや厚手の縦剝ぎ剝片を素材にしている。正面は四方より入念な調整を施し、主要剝離面は錐部のみの調整に終わっている。黒曜石製。

③　サイドブレイド　（第18－2図）

サイドブレイドは、Ⅱ層より1点、P 1より1点、P 24より1点、表土層より5点の計8点が出土した。長方形のタイプと隅丸方形のタイプがある。

1．（Ⅰ層）黒曜石製の縦長剝片を素材にし、三側辺に入念な平坦剝離調整を施している長方形に近いサイドブレイド。下辺には浅い抉りを一か所入れ、上辺は左方約3分の1が張り出している。断面はやや部厚い凸レンズ状を呈する。

第15図　サイドブレイド一覧表

番号	図番	図版	計測				出土層
			器長	器幅	器厚	重さ	
1	1	1	18.75㎜	30.90㎜	6.70㎜	3.7㌘	Ⅰ
2	2	2	22.55	24.90	5.35	3.1	Pit 1
3	3	3	30.90	(18.00)	6.20	(3.3)	Ⅰ
4	4	4	(19.90)	12.80	4.50	(1.4)	〃
5	5	5	24.20	24.15	3.95	2.2	〃
6	6	6	14.30	18.00	3.10	0.9	Ⅱ
7	7	7	(28.70)	(32.10)	10.15	(9.5)	Pit 24
8	8	8	12.40	13.10	4.30	1.0	Ⅰ

2．（P 1）黒曜石製の薄手縦剝ぎ剝片を素材にしている。調整はラフであるが三辺に施されている。下辺に二か所抉りがある。

3．（I 層）黒曜石製の縦長剝片を素材にしている。左半分を欠損しているが、隅丸の長方形に近いサイドブレイドになると思われる。断面は凸レンズ状を呈し刃部調整は三辺に施されている。

4．（I 層）漆黒の黒曜石剝片を素材にしている。A面右半分を欠失している。刃部調整は三辺より施されている。

5．（I 層）良質の黒曜石縦長剝片を素材にしている。薄手で長方形を呈する。A面では左右側辺に欠損がみられるが平坦剝離が入念に施されている。B面には刃部調整は上辺のみラフに

第16図　スクレーパー一覧表

番号	図番	図版	計測			
			器長	器幅	器厚	重さ
1	1	1	57.90㎜	37.50㎜	19.70㎜	39.0㌘
2	2	2	48.85	40.65	14.45	29.8
3	3	3	48.10	50.00	13.90	38.3
4	4	4	61.95	21.50	15.35	20.6
5	5	5	58.80	29.65	17.50	33.8
6	6	6	24.00	53.70	10.50	14.9
7	7	7	(47.15)	17.40	10.95	(8.2)
8	8	8	18.50	21.80	4.20	1.5
9	9	9	12.30	(14.80)	2.20	(0.5)
10	10	10	12.90	22.60	3.70	1.2
11	11	11	21.00	28.20	5.90	3.0
12	12	12	11.18	17.00	3.00	0.6
13	13	13	27.00	36.75	9.90	9.5
14	14	14	29.00	35.00	9.05	7.5
15	15	15	46.30	64.30	18.15	47.0
16	16	16	66.65	83.85	18.00	103.0
17			22.45	25.25	7.20	3.3
18			15.40	28.10	4.05	1.7
19			16.80	35.10	8.10	4.5
20			21.00	34.00	6.30	4.6
21			26.00	27.00	8.00	5.2
22			22.35	33.10	7.45	4.8
23			32.50	22.00	9.00	7.2
24			30.00	23.30	10.06	4.6
25			29.40	16.70	6.10	3.2
26			32.25	20.00	8.70	4.5
27			21.80	21.40	7.10	3.4
28			20.60	25.60	5.70	2.5
29			18.70	22.20	6.15	3.6
30			20.80	21.35	6.35	2.8
31			(13.10)	(16.05)	(1.05)	(0.8)

施されている。

6．（II層）小形の縦長剝片を素材にしている。両面とも全面に入念な調整を行なっている。下辺には浅い抉りを一か所入れ、鋸歯状を呈し断面は整った凸レンズ状を呈する。黒曜石製。

7．（P24）厚手の縦長剝片を素材にしている。上辺に自然面を残し調整は荒いが、左側辺と下辺に施されている。右側辺を欠損している。黒曜石製。

8．（I層）漆黒の黒曜石を用いる小形のサイドブレイド。隅丸の長方形を呈し、正裏両面とも四辺より刃部調整を入念に施している。

④　スクレーパー　（第18－3図）

スクレーパーは、II層より2点、遺構内より11点、I層より55点の計69点である。スクレーパーは9.2％の石器率になる。

1．（I層）サヌカイト製の楕円形スクレーパーである。A面下辺は第一次剝離面を利用しているが、A面上辺及びB面全周辺は荒い刃部調整が施されている。整ってはいるが部厚い。

2．（I層）サヌカイト製の部厚い円形状のスクレーパーである。刃部調整はラフであるが正裏両面より全周縁に施している。上側辺に一部礫面を残している。

3．（I層）サヌカイト製の部厚い剝片を素材にしている。刃部調整は両側辺にV字状に施す。調整はラフであるが正裏両面より行なっている。刃部角度は鋭い。

4．（I層）サヌカイト製。部厚い断面の台形状のスクレーパーである。刃部調整は頭部と右側辺に施している。裏面はパルプ除去を行ない正面と同様に頭部と左側面に調整を施す。刃角は鈍い。

5．（I層）サヌカイト製で自然面を残す部厚いスクレーパーである。刃部調整はAB両面より施すがラフである。下端部はいくらか入念に施す。

6．（I層）サヌカイト製。刃部調整は両側辺をV字状に正裏両面より施している。

7．（I層）サヌカイト製である。下辺と両側辺を両面より刃部調整を施している。両端部が欠損している。刃部角度は鈍い。

8．（I層）黒曜石製小形スクレーパー。全縁辺に正裏両面より刃部調整を施し、半円形を呈する。

9．（I層）黒曜石製小形薄手のスクレーパー。四辺とも両面より刃部調整剝離を入念に施す。半月形を呈する。

10．（I層）黒曜石製の小形で半円形を呈する。断面は凸レンズ状で、全辺に正裏両面から刃部調整を施す。礫面を一部残す。

11．（I層）良質、半透明の黒曜石剝片を素材にしている。正面に第一次剝離面、裏面に礫面を残す。未製品とも考えられる。刃部に両面調整を施す。

12．（I層）半円形の超小形のスクレーパーである。刃部は入念な両面からの調整を施してい

る。

13．（Ⅰ層）厚手の黒曜石製の剝片を素材にしたスクレーパー。刃部調整は正裏両面より両側面に施す。刃部角度は鈍い。

14．（P30）漆黒の不純物の混じる黒曜石剝片を素材にしている。刃部調整は正面で左側辺を除いた三辺に、裏面で下辺と右側辺下半分に施している。

15．（P45）サヌカイト製の不定形剝片を素材にしている。自然面に残す刃部調整はラフで下辺に施す。刃部角度は大きい。

16．（P81）サヌカイト製大形スクレーパー。上辺に自然面の打面を残し、ラフな剝離である。刃部調整は下辺のみに正面に施している。

⑤ 石　斧　（第18－4図）

石斧は13点出土した。遺構内より9点で他は表土層からである。

1．（Ⅰ層）両刃石斧。器面の風化はひどい。裏面では刃部面が平坦状に中央部まで達する。

2．（1層）両刃磨製石斧。頭部を欠失している。側縁に敲打調整痕が残る。刃部は鈍い。

3．（Ⅰ層）両刃磨製石斧。器面は風化している。刃部は鋭い。

4．（Ⅰ層）扁平片刃磨製石斧。刃部左辺のみが残る。正面裏面とも入念に加工されている。

5．（P11－1）大型蛤刃石斧の表皮破片。刃部角度は鈍いと推測される。

6．（P16－1）磨製石斧の表皮破片。

7．（P29－1）柱状片刃石斧の完形品である。長さ12.95㎝最大幅は刃部元部にあり2.9㎝、厚さ中央部で3.88㎝、刃部の幅2.1㎝を計測する。刃角は72度である。

8．（P64）扁平両刃磨製石斧で短冊型を呈する。周縁は敲打調整痕が残り、中央部はよく研磨されている。黄灰色に風化している。

9．（P95）扁平片刃石斧の完形品。全長7.15㎝、最大幅4.6㎝、厚さ1.2㎝を測る。刃部の縦断面は外彎し、刃部の幅4.6㎝、刃部角度68°。頭部に着柄痕と思われる剝落痕が観察される。

10．（P95－3）バチ形を呈する半磨製石斧で刃部を欠損している。側縁部を敲打で調整し、研磨している。研磨面は左半分に顕著にみられる。

⑥ 尖頭状石器　（第18－4図）

尖頭状石器は、P29から1点と表土層からの5点と計6点が出土した。

1．（Ⅰ層）A・B両面とも、第一次剝離面を残す。刃部調整はラフではあるが両面に両側辺より施されている。基部調整も行なわれている。黒曜石縦長剝片を素材にしている。

2．（Ⅰ層）やや厚手の黒曜石剝片を用いる。尖端部を少し欠失している。基部に自然面を残す。A面の右側辺は内彎している。両面とも側辺より入念に刃部調整を施す。

3．（Ⅰ層）黒曜石製。石核より初回剝離で得られた横広剝片を素材にしている。A・B両面とも側辺より刃部調整を施しているがラフである。A面基部は大きく抉られ、そのため左右の

均衡を失っている。

4．（Ⅰ層）縦長剝片を素材にしている。正面の四方から平坦剝離を施している。先端部には入念に刃部調整を施し、左右上端部にも施している。裏面には第一次剝離面が大きく残るが、先端部に刃部調整を、左下辺に打瘤除去の剝離を施している。器長7.86㎝最大幅4.74㎝最大厚は0.9㎝を計測する。

⑦ 砥　石　（第18－5図）

砥石の出土は、P29からとP155の2点のみである。

1．（P29）周縁を欠損し、特に正面右半分を大きく欠損している。両面から研砥で中央部が大きく凹んでいる。A面には縦に十数条の条痕が走る。

2．（P155）砥石の小片である。正面はよく研磨されている。裏面にも一部研磨痕がある。

⑧ 磨　石　（第18－7図）

磨石は、P29より2点、P113より1点、表土層より1点の計4点が出土した。

第17図　磨石・凹石一覧表

番号	図番	図版	出土層	器　種	計測			
					器　長	器　幅	器　厚	重　さ
1	1	1	Ⅰ	磨石	(143.00) ㎜	(102.60) ㎜	50.45㎜	(1,082.0)g
2	2	2	P29	〃	(76.00)	(99.70)	33.40	(383.0)
3	3	3	〃	〃	83.50	66.80	45.00	390.0
4	4	4	P 113	〃	112.10	92.00	62.95	997.0
5	1	1	P 131	凹石	147.30	105.25	54.70	1,220.0

1．（Ⅰ層）大形の磨石。3分の1程度を欠損していると思われる。正面は擦磨の頻度が高いが裏面にはほとんど観察されない。下端部には敲打痕が著しい。磨石が敲石に兼用されているものと思われる。

2．（P29－2）正面裏面とも研磨が見られる。正面の頻度が高い。半欠品であり先端部には敲打痕がある。敲石との兼用。

3．（P29－2）小形円礫を用いている。正面の擦磨痕は平坦状をなす。裏面にも観察できるが頻度は低い。左側面にもわずかに認められる。上下辺、右側辺には使用痕はない。

4．（P11－3）膨らみのある円礫を用いている。使用頻度は低く、上面のみ擦磨痕がみられる。

⑨ 凹　石　（第18－8図）

凹石はP131から出土した1点のみである。

1．（P131）凹石の完形石。長円の礫の中央に径約6㎝深さ2.4㎝の凹みをもつ。この凹みは磨かれたというよりも敲かれて生じたと思われる。

⑩ 石　皿　（第18－5．18－6図）

石皿はP29とP135から1個ずつ出土した。

1．I区P29の覆土内最上層より出土した大形石皿である。最大器長43.1㎝最大器幅40.4㎝厚さ12.1㎝を計測する。右寄りにある皿部は礫面を最大限に利用し、縦長楕円形を呈する。皿部は二段からなり、利用頻度の大きいことを示している。皿部の長径約31.5㎝短径約22.0㎝深さ2.9㎝である。内側の凹みは下辺部は外皿と重なり、長径約31.0㎝短径約18.0㎝を呈する。左上部は不安定な平坦状であるが磨耗度が著しい。敲打痕と思われる凹みが中央部に集中する。左上部も使用頻度は低いが使用されている。皿部中央には横位に走る溝状の条痕が、左上平坦面には斜めに走る溝状の条痕がみられる。

2．（P135）石皿で下半分を欠損している。正面中央部に稜が通り、下縁辺をほぼ中央断面とする皿状を呈する。深さは約5㎜を計る。稜から上辺の間は右斜めに沿った研磨面が通る。中央の凹みは1.5㎜を計る。両側面も擦磨がみられる。

⑪　その他の石器（第18－8図）

1．（I層）黒曜石縦長剥離片を素材にしている。正裏面とも第一次剥離面を大きく残し、基部に礫面を残す。刃部調整は左右両側辺より入念に施し、基部が突出する。先端部に打瘤を残す。石錐の未製品とも考えられる。

2．（I層）薄手の良質黒曜石剥片を素材にしている。下辺端を欠損する。両面とも入念な平坦剥離加工を施している。A面の右側辺の下辺寄りにつまみ部状凸起を、右側辺中央部に三角形状凸起をもつ。スクレーパーとも考えられる。

3．（P29－2）磨製石器で先端部を大きく失損する。基部は着柄しやすいように加工している。A面には稜が一本走り、左右側面にも研磨痕がみられる。B面は平坦状に研磨されている。

4．（P38）磨製石器。器長は13.2㎝を呈するが、先端部を剝落しているので13.8㎝ぐらいになると推察される。断面は凸レンズ状を呈する。

⑵　土　器（第19図）

〈I層出土土器〉　1．壺。ゆるく外反する口縁で、端部は不明瞭な段を残す。内外面ともに丹が塗られ、外器面は横刷毛目の調整がみられる。色調は淡黄褐色を呈し、胎土に石英粒を含む。焼成良。板付I式か。　2．口縁部である。器形は不明。内面に条痕が横位に施されるが外面は剝落が著しく不明。黒褐色を呈し、焼成良好。　3．刻目突帯をもつ口縁部片。突帯は口縁とほぼ同高で、やや口縁に覆いかぶさりぎみ。刻目は整然と細く施される。外面は横ナデ調整。黒褐色を呈し焼成良。夜臼式。　4．口縁部より下がった突帯に刻目が施される。刻目は篦状工具で施されたものと思われる。黒褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。夜臼式。　5．壺形土器の口縁部片。内傾し、上端が外反する口縁部である。赤褐色を呈し、焼成は良。胎土に砂粒を含む。　6．外反する壺形土器の口縁部である。内面に浅い沈線が横位に走る。外面は

淡黄褐色、内面は黒褐色を呈し、焼成は良。板付ⅠかⅡ式。　7．浅鉢形土器の口縁部。口縁は内傾し、上部で小さく外反する。胴部は「く」の字状に反転する。灰褐色を呈し焼成良。胎土は緻密。夜臼式。　8.浅鉢。「く」の字状に反転する胴部破片。灰褐色を呈し焼成良。胎土に砂粒を含むが緻密。夜臼式。　9．浅鉢の胴部破片。外面の反転は不明瞭であるが、内面の内向は強い。器面に磨研が施される。黒褐色を呈し、焼成良。胎土は砂粒を含むが緻密。夜臼式。　10．浅鉢の胴部破片。胴部が内彎して膨れるが、「く」の字状の反転はみられない。黒褐色を呈し、焼成良。胎土に微砂粒を多く含む。夜臼式。　11．壺形土器の頸部片と思われる。外面に横位の刷毛目が施される。内面は赤褐色、外面は黒色を呈し、焼成は良好。板付Ⅰ式か。12．13．「く」の字状反転部に刻目をもつ甕形土器の胴部片である。夜臼式。12は反転が著しく、突帯は不明瞭。黒褐色を呈し、焼成は良。胎土は精製されている。13の突帯は下部に向かって貼り付けるため上端に明瞭な段を残す。刻目は粗大で篦状工具による。赤褐色を呈し、突帯部は茶褐色を呈する。焼成は良く、胎土に石英粒を多く含む。　14．15．16．17はいずれも底部。14．15．16は断面三角形に張り出し上げ底を呈する。胎土に石英粒を含むが焼成は良。夜臼式の甕形土器の底部と思われる。14の底面に条痕に似た圧痕が認められる。17には木葉圧痕がみとめられる。黒褐色を呈する。焼成良。胎土に石英粒を含む。

〈Ⅱ層出土土器〉　18～20は刻目突帯をもつ甕形土器の口縁部である。夜臼式。　18．突帯は口縁に接して、やや下向きの傾斜面をもつ。刻目は棒状工具によると思われる。外面は茶褐色で内面は黒色を呈す。焼成良。　19．口縁にほぼ同高の突帯で口縁端に被いかぶさり気味。刻目は浅い。黄褐色を呈し、焼成は良。胎土は精製される。　20．突帯が口縁端より下がる。刻目は篦状の工具によると思われる。口唇直下にも斜位に刻目が施される。内外面ともに横なで調整である。黒色を呈し、焼成良。胎土に砂粒を含むが緻密。　21・22．「く」の字状の反転部に刻目をもつ甕形土器の胴部片。夜臼式。　21．刻目は下部より押し上げ気味に施される。器面は条痕で調整されているが明確でない。黒褐色を呈し、焼成良。胎土は精製されている。22．反転部の屈曲は強くない。刻目は篦状の工具で施されたものか。黒褐色を呈し、胎土に砂粒が多い。

〈遺構内出土土器〉　23（Pit16）壺形土器の肩部破片。接合部の内側は肥厚せず、外側の段も明瞭でない。黄褐色を呈し、焼成良。胎土に石英粒が多い。板付Ⅱ式か。　24～26（P29）口縁に刻目突帯をもつ甕形土器。夜臼式。　24．突帯は、口縁に同高で、やや口縁端にかぶさり気味。刻目は細く、間隔は6㎜を計る。内外面とも条痕調整するが、方向は横位、斜位と一定しない。茶褐色を呈し、焼成良。胎土に石英粒を含む。胴部は内彎ぎみに膨るが刻目突帯は認められない。　25・26は同一個体と思われる。突帯は口縁に接してやや下向きの傾斜面をもち、突帯の上部端に篦状工具によると思われる刻目を施す。外面に横位の条痕が施される。黒褐色を呈し、焼成良。胎土に若干砂粒を含み精製されている。　27～30．Pit29出土の壺形土

器。　27．外反する口縁部である。口縁下に段がつく。内外面とも丹塗の痕が残る。焼成は良好。淡黄褐色を呈し、胎土は石英粒を含むも精製されている。板付ⅠかⅡ式。　28．外反する口縁で、口縁外側に貼り付けて肥厚させるため、明瞭な段をもつ。内外面とも丹塗りを呈する。器面は横なで調整。淡褐色を呈し、焼成良好。胎土は石英粒を含む。板付ⅠかⅡ式。　29．外反する口縁部で肥厚しない。器面は横なで調整。赤褐色を呈し、石英粒を含む。板付Ⅱ式か。　30．外反する口縁部で、口縁下に段をもつ。器面は横なで調整。淡褐色を呈し、胎土は石英粒を含む。焼成は良好。板付ⅠかⅡ式。　31（P29）浅鉢口縁部、口径の復元推定は18cmである。屈折部より内向し、口縁付近でやや外反する。赤褐色を呈し、胎土は微砂粒を含むが精製されている。焼成良。夜臼式か。　32（P29）断面台形状の貼付円盤の底部で壺形土器の底部か。底面に花弁状の圧痕が見られる。焼成良。胎土に石英粒を多く含む。　33（P29）壺形土器の胴部片。器面は横なで調整。赤褐色を呈し、焼成は悪い。胎土に石英粒を多く含む。　34（P45）貼付円盤の平底部である。黒褐色を呈し、胎土に石英粒を多く含む。焼成良好。　35（P65）壺形土器の口縁部。内傾ぎみであるが、口縁端部でわずかに外反する。赤褐色を呈し、焼成は良。胎土は砂粒を含むがほぼ良。　36（P82）壺形の手捏土器、胴径4.5cm、器高4.2cm（現存）を計る。頸部はやや内傾し、肩部の外面接合部の段は不明瞭である。浅い沈線が横位に一条走る。外面は横なで調整が施され、内面は指圧調整される。底部は丸底ぎみの平底。暗褐色を呈し、焼成は良。胎土は砂粒を含むも良。板付Ⅰ式か。　37（P75）内傾ぎみに立ち上がる壺形土器の頸部片。内外面とも丹塗がみられる。剝落が著しいがなで調整が施される。淡褐色を呈し、胎土に砂粒が多い。焼成良。夜臼式。　38（P56）甕形土器の胴部片。逆「く」の字状に反転する胴部に篦状の工具で切りとった刻目をもつ。器面の調整で内外面とも条痕が施される。赤褐色を呈し、胎土に石英粒が多く、焼成はわるい。夜臼式。　39（P91）浅鉢。逆「く」の字状に反転する屈折は大きい。器面は磨研調整され、暗褐色を呈する。胎土は緻密で、焼成は良。　40（P113）甕形土器。口縁部に刻目突帯をもつ。突帯は口縁に接し、下向きの傾斜面をもつが、刻目は小さい。胴部は内彎ぎみにやや膨る。内外面とも弱い条痕で調整。黒褐色を呈し、胎土は石英粒を含む。焼成良。外面にススの付着がみとめられる。　40．41．P123出土の浅鉢口縁部である。　41．口径は復元で16.7cmを測る。口縁は内向し、口縁端付近でわずかに外反する。器面は磨研調整される。灰褐色を呈し、焼成良。胎土に砂粒含むも緻密。　42．口径は復元で24.7cmを計る。わずかに外反する短い口縁部の下部で、逆「く」の字状に反転するが、肥厚し外面に明瞭な段がつく。調整は横なで。暗褐色を呈し、胎土は石英粒が多く、焼成もわるい。　43．44．P123出土の甕形土器の口縁部で、いずれも突帯は口縁端より下がる。43は棒状の工具による押し上げぎみの刻目を施す。器面は横なで調整。黒褐色を呈す。胎土は砂粒を含むも良。焼成良。　44．棒状のもので刻目は施され、大きい。器面はなで調整か。灰褐色を呈し、胎土に砂粒多く、焼成は良。　45．（P123）外反する壺形土器の口縁部。器面はな

で調整し、赤褐色を呈する。胎土に石英粒を含む。焼成良。　46・47．P123出土の甕形土器。46．逆「く」の字状の反転部に刻目突帯をもち、屈折は強くない。刻目は棒状のもので押し上げぎみに施される。器面は横位の弱い条痕。暗褐色を呈し、胎土に砂粒を含む。焼成良。47は反転部の屈折が弱く、直接的に立ち上がる。刻目は篦状のもので切り取る。内外面とも条痕が横位に施される。外面は茶褐色、内面は黄褐色を呈し、胎土に石英粒が多く含まれる。焼成良好。　48（P123)内向し、わずかに口縁付近で外反する浅鉢形土器。器面は内外面とも磨研調整される。黒色を呈し、胎土に砂粒を含むも緻密。　49（P123)逆「く」の字状の反転部に刻目突帯をもつ。器面は弱い条痕。暗褐色を呈し、焼成はわるい。　50（P123)壺形土器の肩部で、頸部接合部との段は不明瞭。器面調整は剝落のため不明確。黄褐色を呈する。胎土に微砂粒を含む。焼成良。　51（P123)断面台形の円盤貼付の底部でやや上げ底を呈す。壺の底部か。茶褐色を呈し、ススの付着がある。丹の痕が若干みとめられる。夜臼式。　53（P123)断面三形に張り出す平底である。甕の底部か。茶褐色を呈し、石英粒を含む。夜臼式。　55（P130)断面台形の平底。褐色を呈す。　56（143)円盤貼付の平底である。壺の底部と思われる。板付Ⅰ式か。　57（P 155)甕の底部。板付Ⅰ式と思われる。赤褐色を呈す。底面にススの付着がみとめられる。　52（P123)内外面に条痕をもつ胴部片。黒色を呈し、胎土は緻密。　54（P128)甕の口縁部。口縁に接し下向きぎみに傾斜面をもつ突帯に刻目を施す。内外面とも刷毛目状の条痕がみられる。黒褐色を呈す。胎土は精製され、焼成は良好。　58～60．夜臼式の甕形土器である。　58（P151)口縁突帯は口縁端をやや肥厚させるにとどまる。刻目は篦状工具によるものか細い。内外面とも弱い条痕がみられる。暗褐色を呈し、胎土に石英粒を混じえる。59（P155)口縁端より下がった位置に突帯を付け、太目の刻目を施す。暗褐色を呈し、胎土は精製されているが、焼成はややわるい。　60（P151)突帯は口縁端に被いかぶさりぎみで、太い刻目を施す。褐色を呈し、焼成は良好。　61（P155)粗製の甕で内傾ぎみに立ち上がる胴部上半の破片である。外面は粗い条痕が施される。外面は黒色。内面は暗褐色を呈する。胎土に石英粒が多く混じり、焼成はわるい。　62（P151)器面は内外面ともになで調整が施される。赤褐色を呈す。板付Ⅰ式か。　63（P166)浅鉢。口径20cm（復元値）を計る。屈折部より内向し、口縁付近でわずかに外反する。器面になで調整が施される。灰褐色を呈す。焼成は良好。64（P170)浅鉢。口径19cm（復元値）を計る。逆「く」の字状の反転部はやや肥厚し、口縁は内向して口縁端付近で外反する。器面は内外とも磨研調整が施される。外面は黒色、内面は灰褐色を呈す。胎土は精製され、焼成も良好。　65（P169)壺形土器の口縁。やや内傾する口縁で、端部はわずかに外反する。器面は内外面ともに横位の弱い条痕が施される。外面は暗褐色内面は黒色を呈す。胎土に石英粒が多く、焼成はわるい。夜臼式。　66（P163)胴部から収束ぎみで張り出しが弱い平底である。底面の器厚は5㎜を計る。外面は赤褐色、内面は暗褐色を呈す。砂粒が多く、焼成はやや悪い。板付ⅠかⅡ式。　67（P155)粗製の甕形土器。内傾ぎみ

に立ち上がる胴部上半部と思われる。外面は粗い箆状のものによる条痕が横位、斜位に施される。内面には指圧による調整。60と同一個体と思われる。　68・69はＰ 179 出土の壺形土器の口縁部である。　68．ゆるく外反する口縁でやや肥厚する。内外面とも丹が塗られた痕がみられ、やや粗い刷毛目で調整されている。淡黄褐色を呈し胎土は砂粒を含むも、精製されている。焼成は良好。　69．口縁端をやや欠失するが、ゆるく外反する。外面はなで調整される。赤褐色を呈し、胎土、焼成とも良好。　70（Ｐ179）刻目突帯をもつ甕形土器の口縁部。突帯は口縁端より下がり、刻目は上部より棒状の工具で押し上げぎみに施される。外面は弱い条痕で調整される。暗褐色を呈す。胎土に石英粒を多く含む。焼成はややわるい。夜臼式。　71（Ｐ179）甕形土器の胴部片と思われる。内面に貝殻を原体とする条痕を施す。暗褐色を呈し、胎土に砂粒を多く含む。焼成は良。

参考文献

○　乙益重隆他「縄文時代」日本の考古学Ⅱ　1965

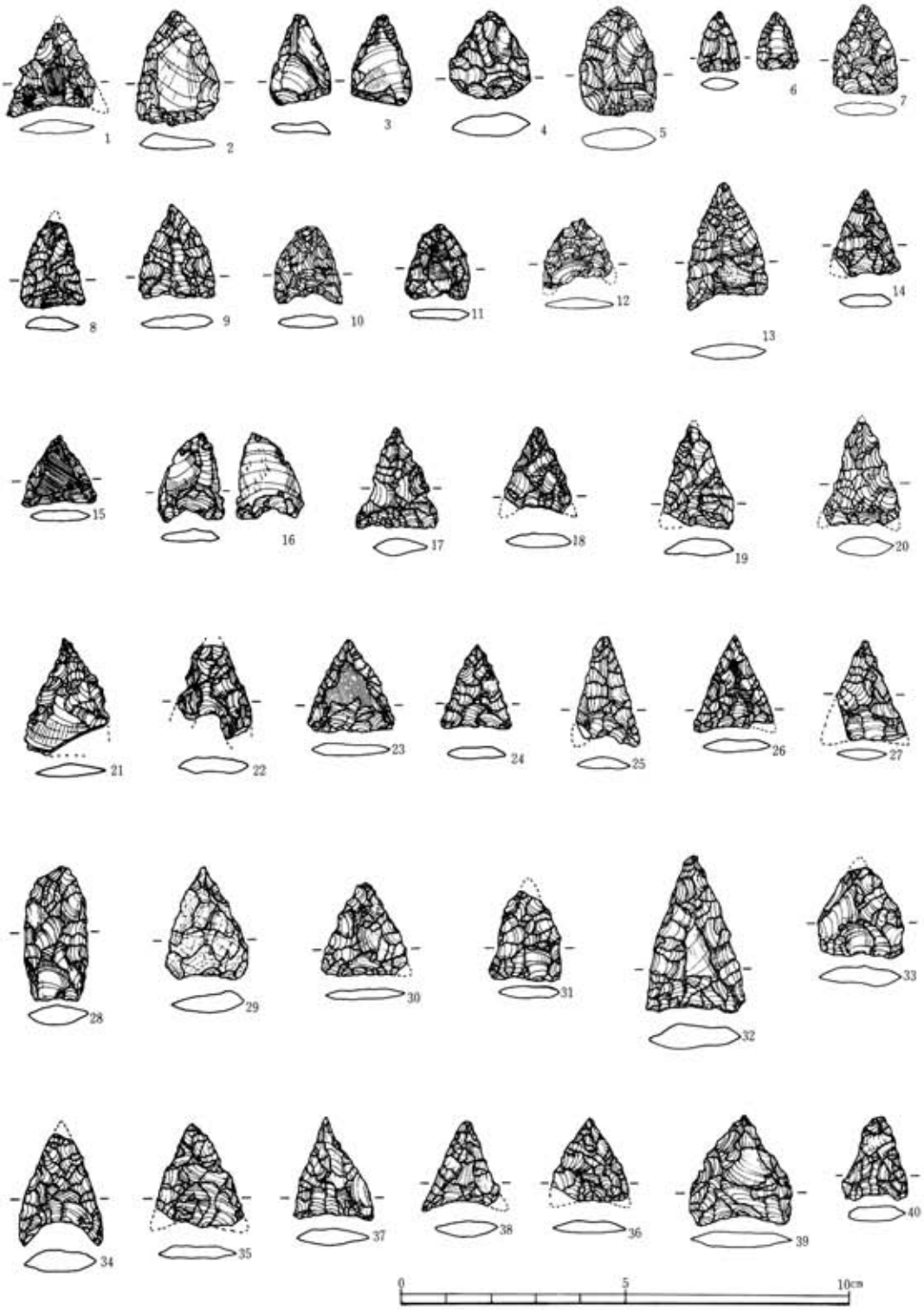
○　森貞次郎他「弥生時代」日本考古学Ⅲ　1965

○　松岡　史「唐津市史・古代」唐津市　1962

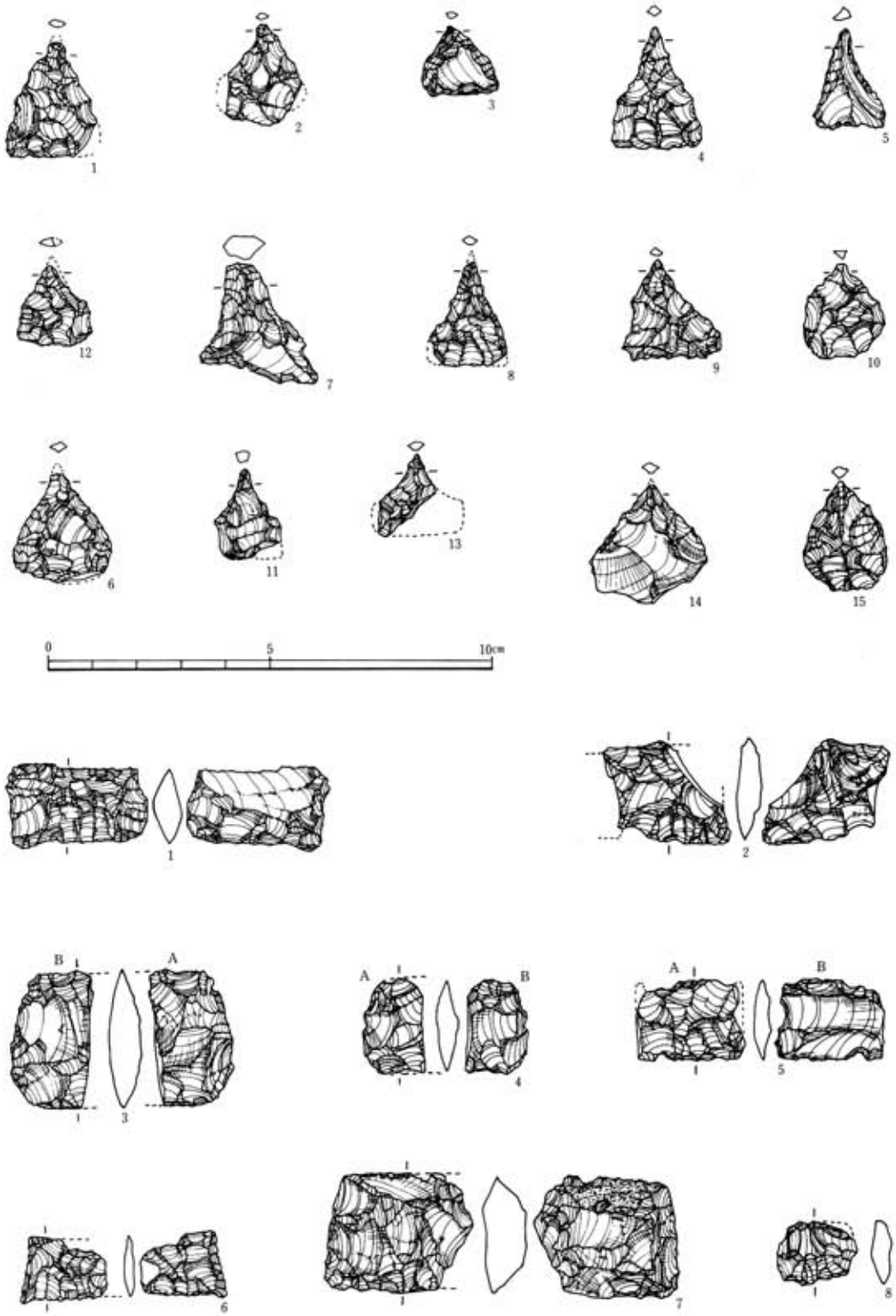
○　呼子丈太郎他「呼子町史・地理篇」呼子町　1978

○　萩原　博文・久原巻二「九州西北部の石鋸・サイドブレイドについて」古代文化27巻４号　1975

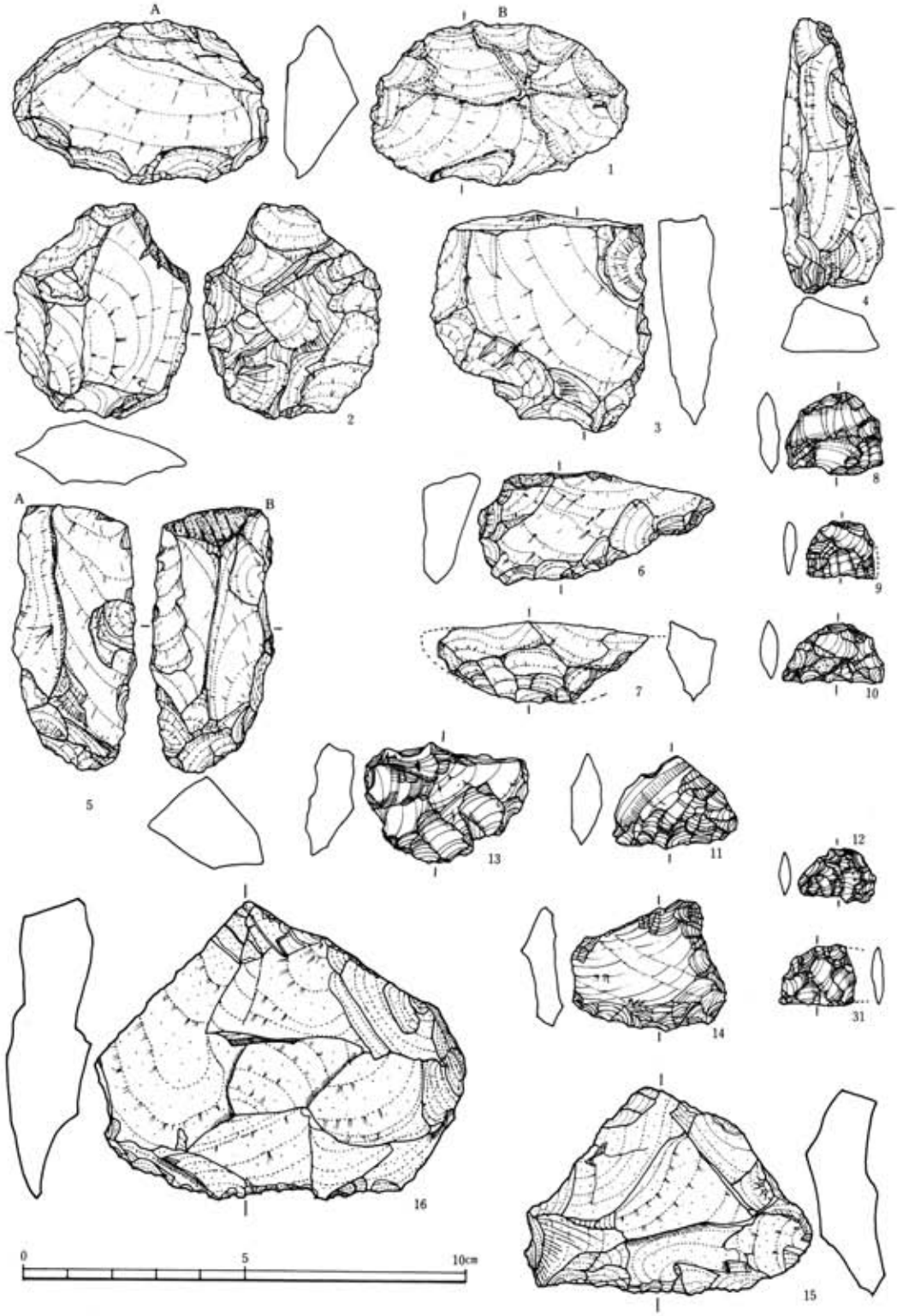
第18－1図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
37
38
36
39
40
0
5
10cm

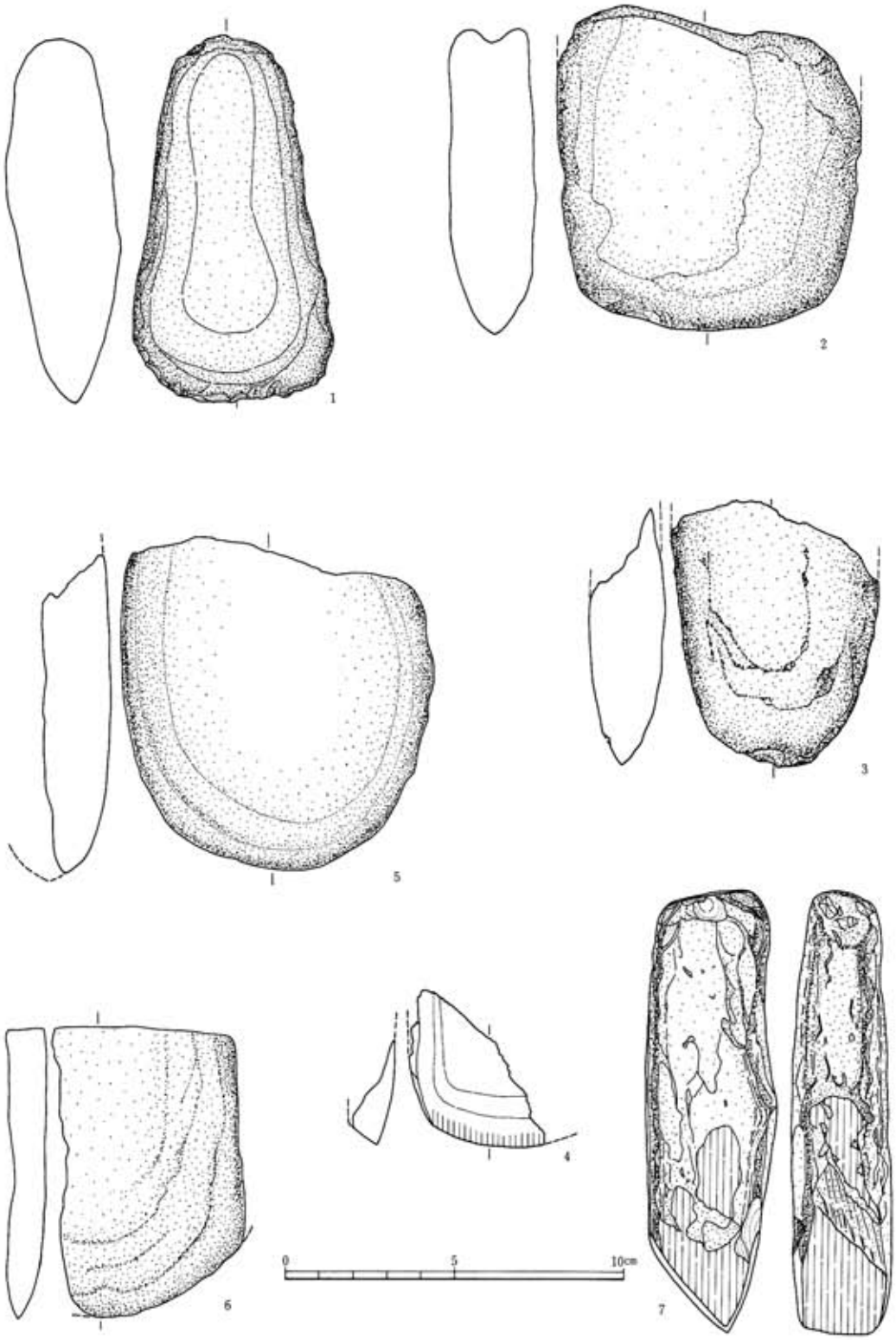
第18－2図　石錐・サイドブレイド実測図



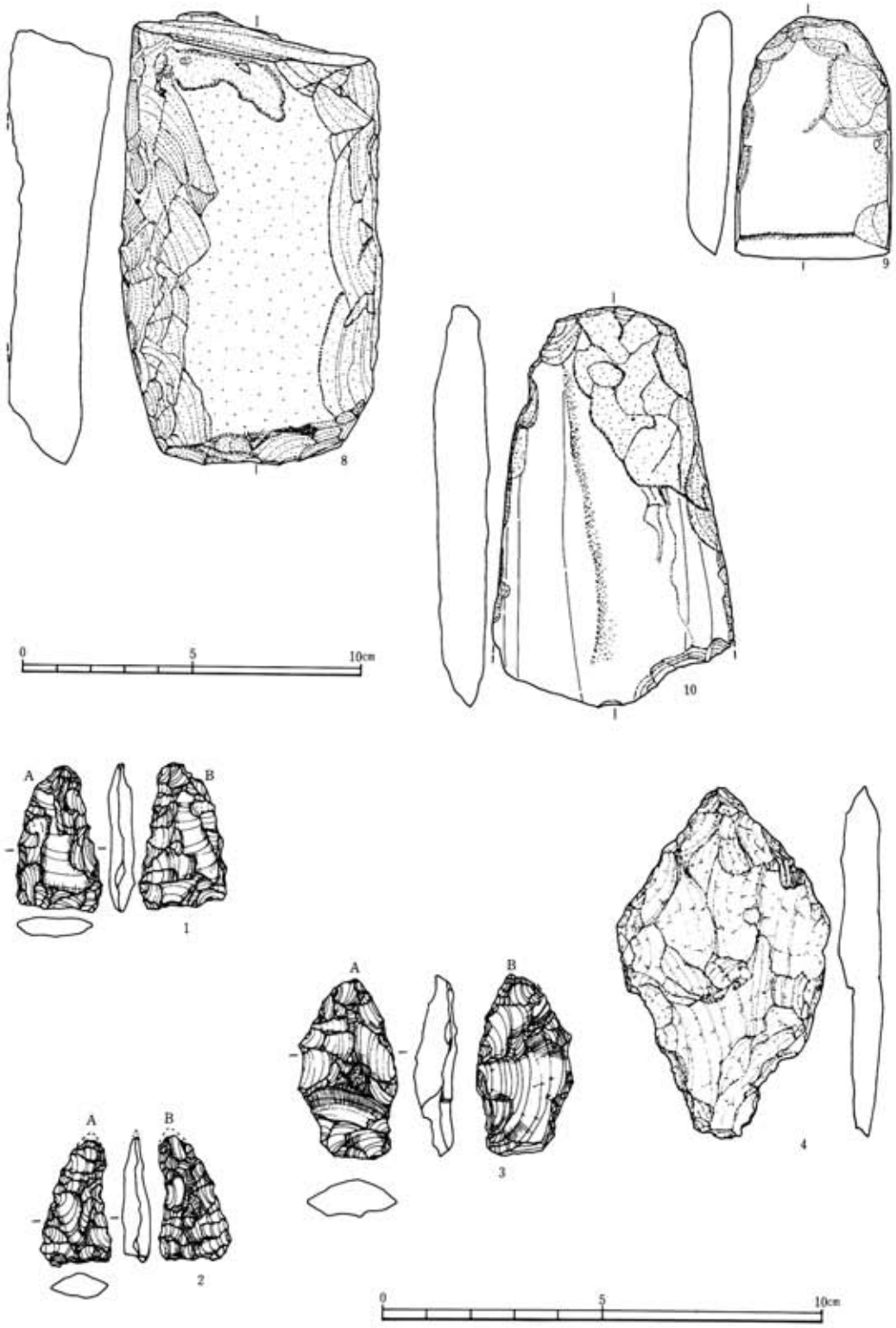
第18－3図　スクレーパー実測図



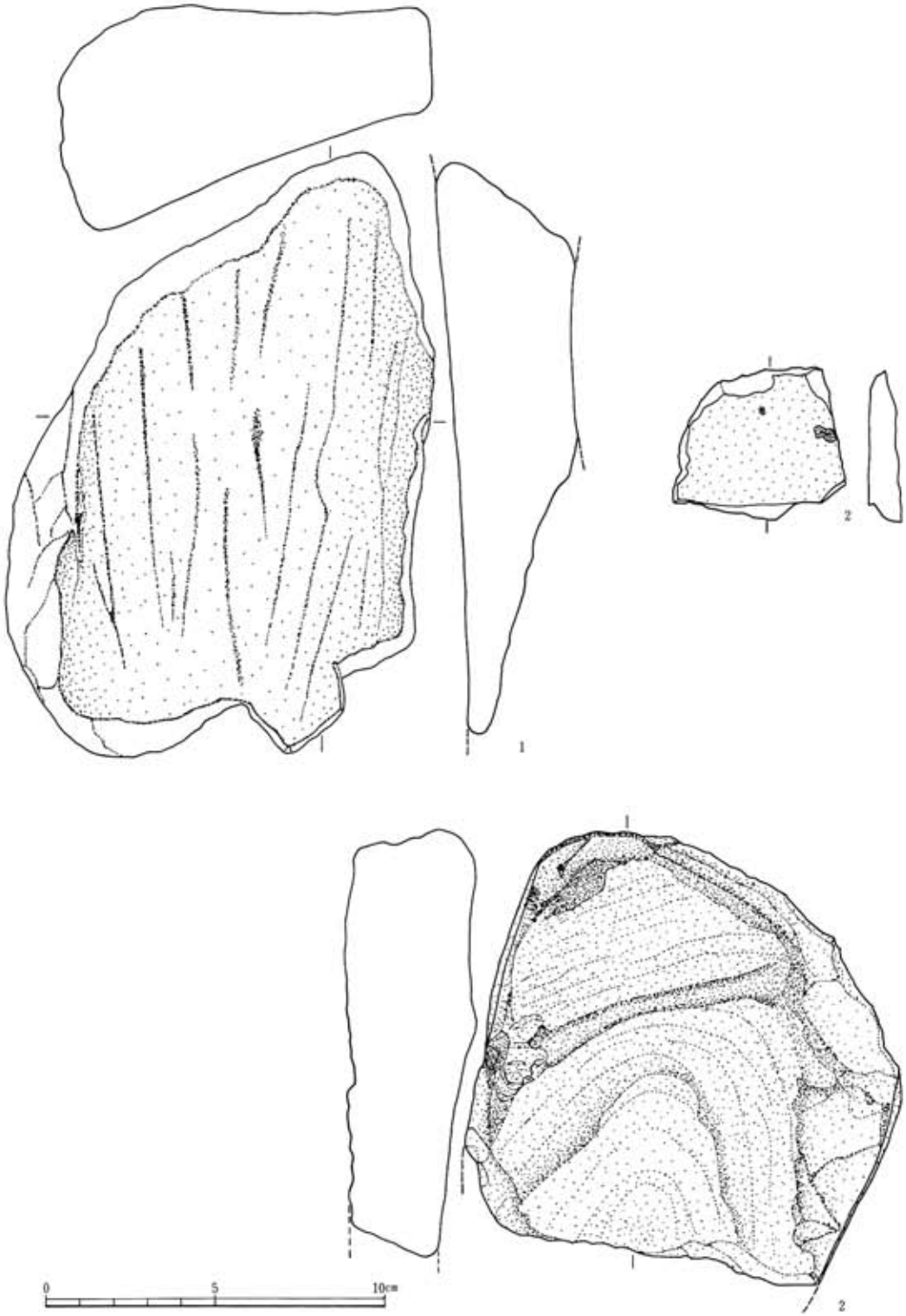
第18－4図　石斧実測図①



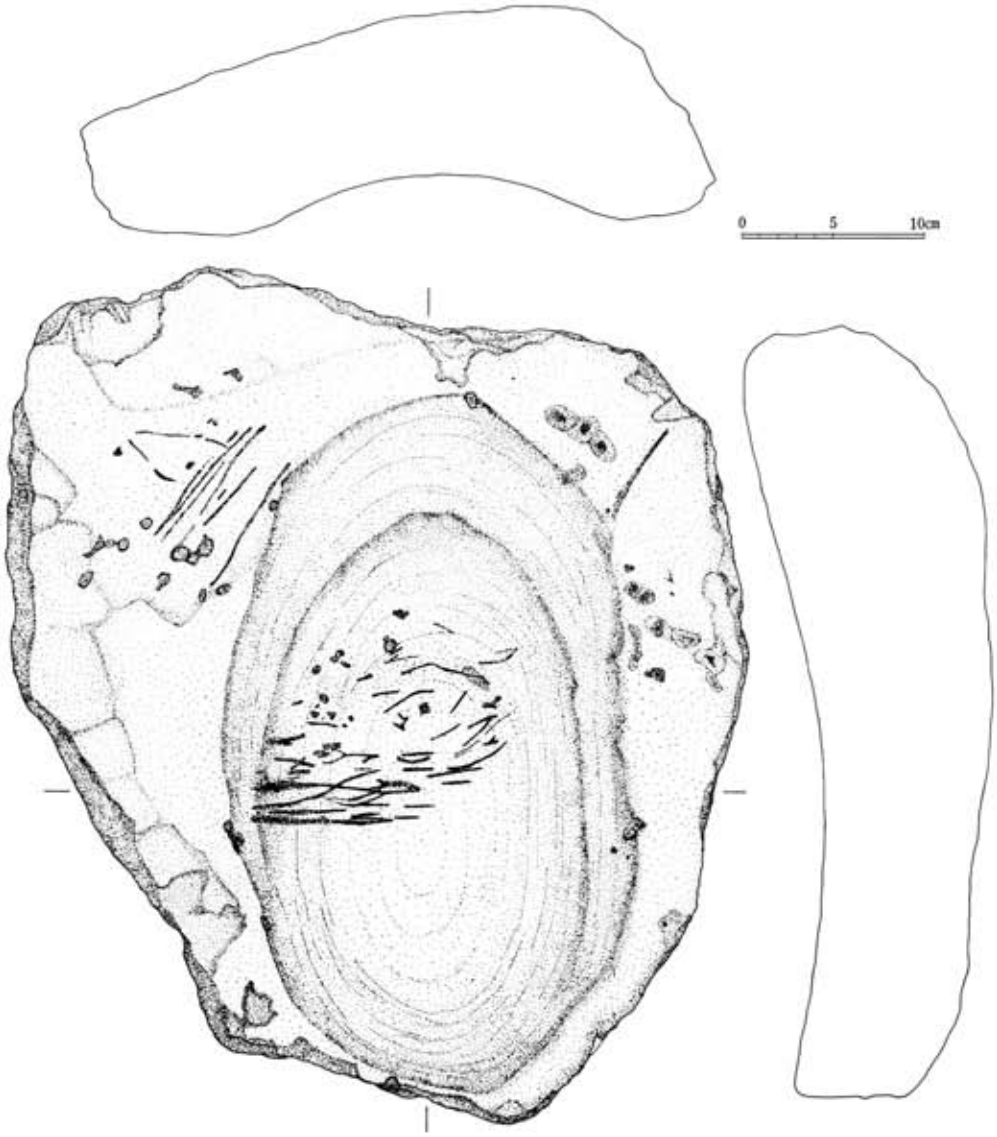
第18－4図　石斧②・尖頭状石器実測図



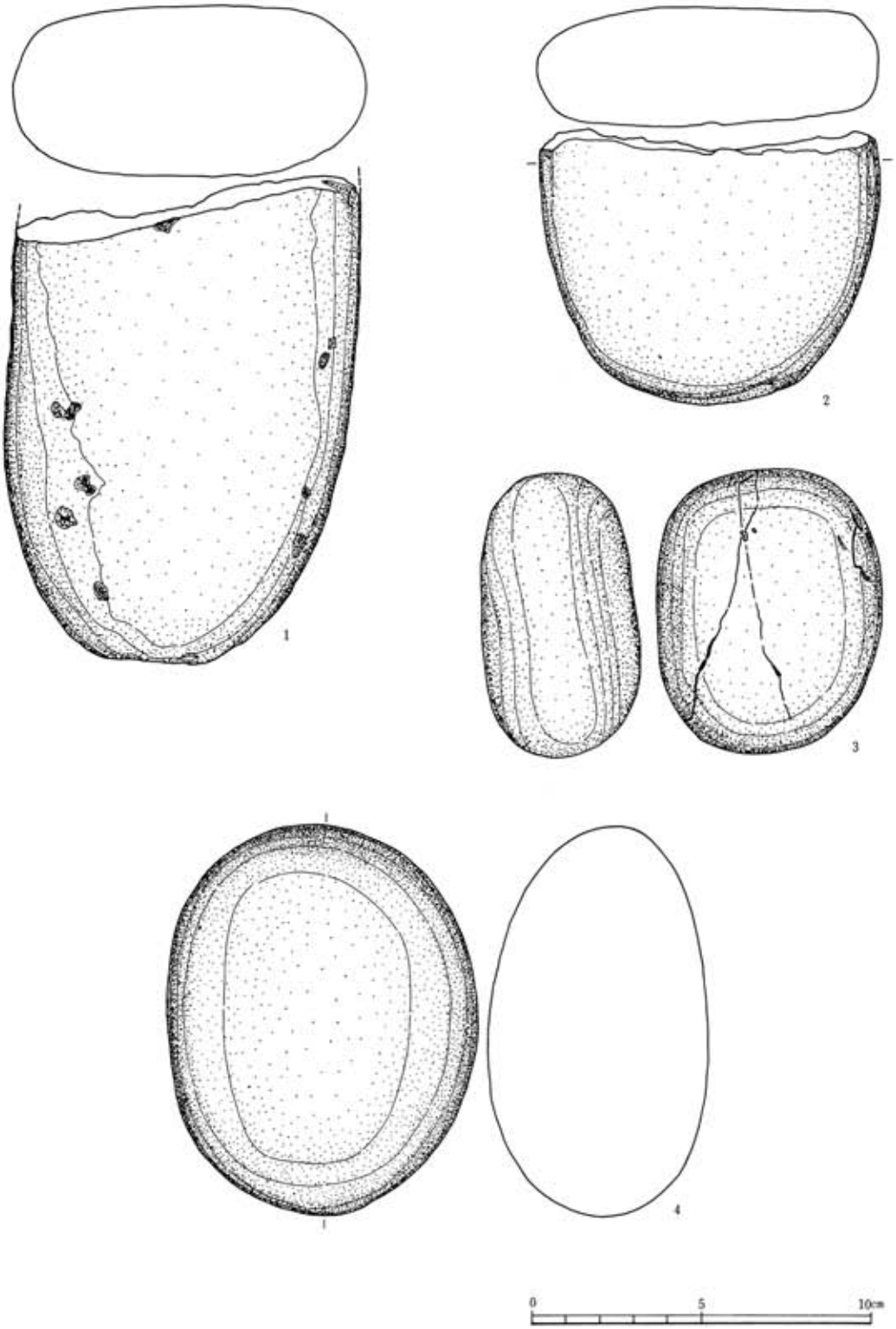
第18－5図　砥石（上）・石皿（下）実測図



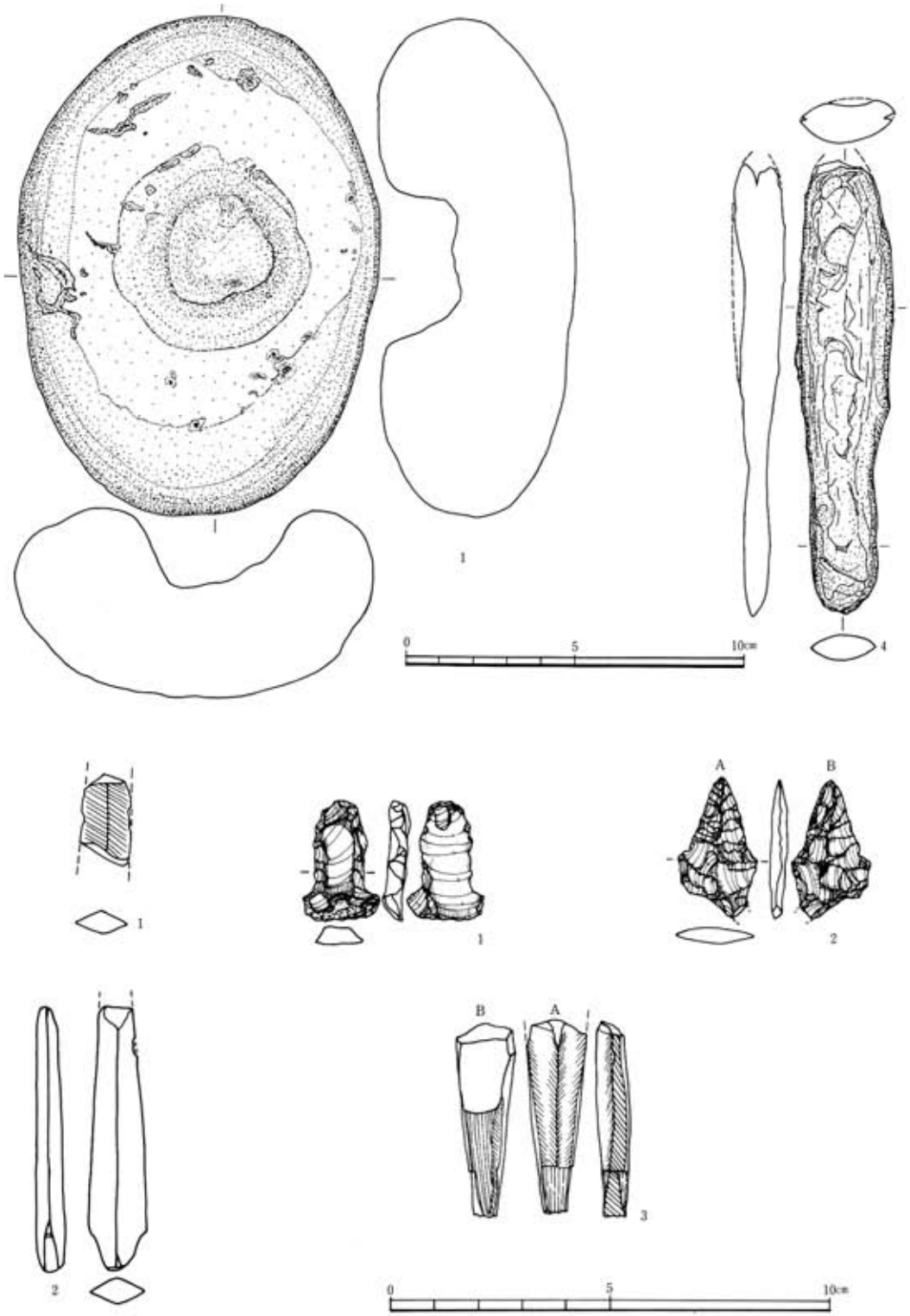
第18－6図　石皿実測図



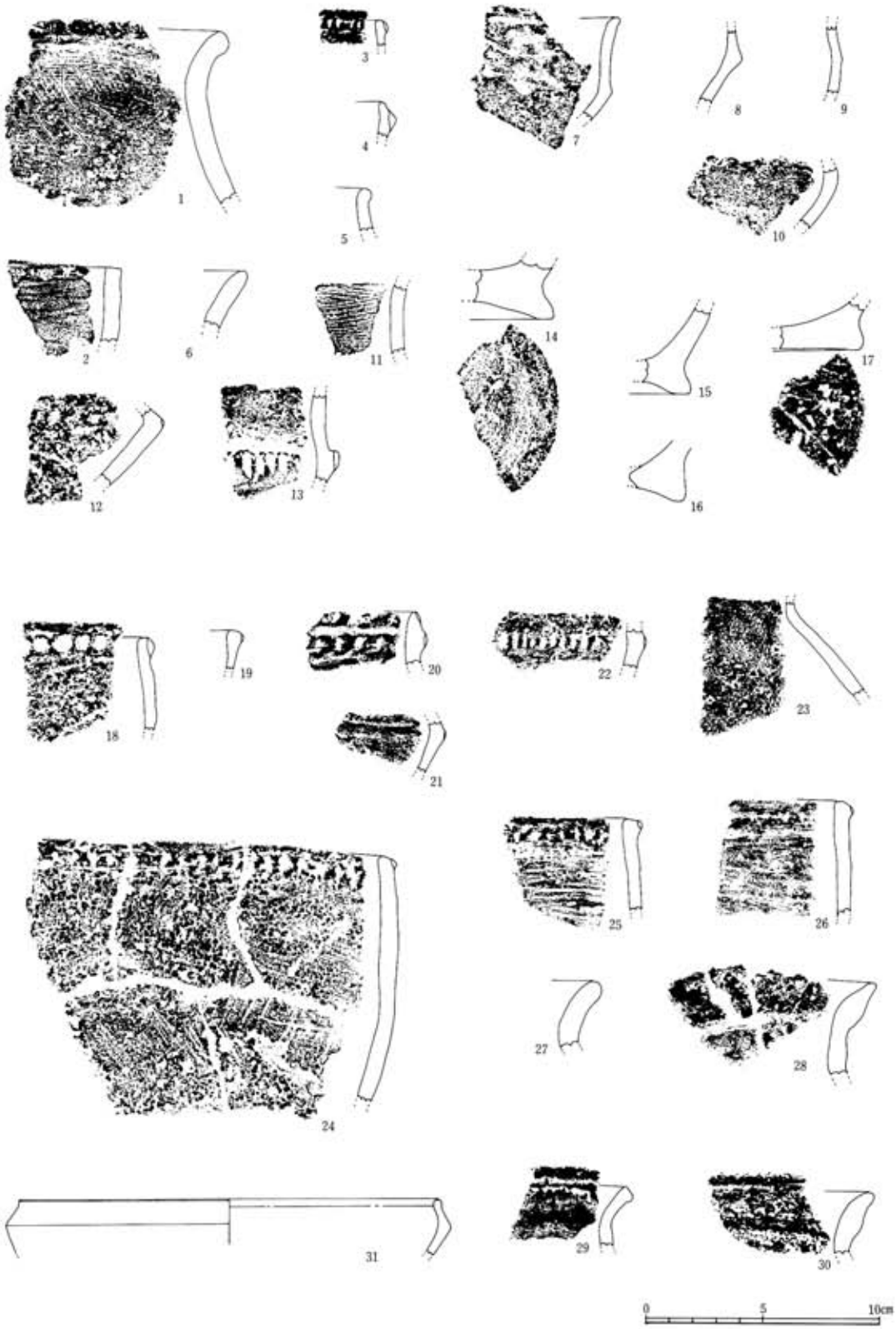
第18－7図　磨石実測図



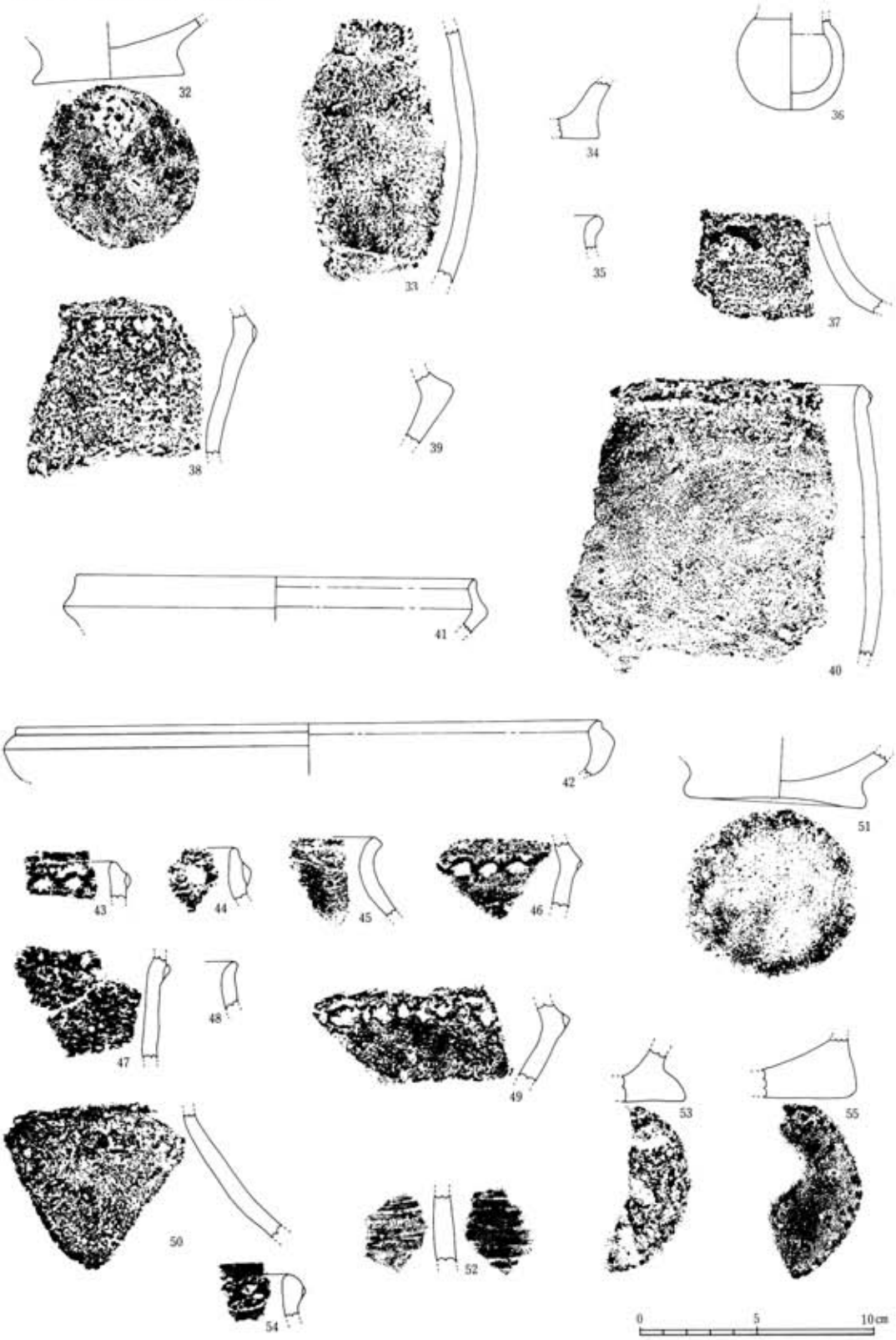
第18－8図　凹石（左上）・有茎磨製石鏃（左下）・その他の石器実測図



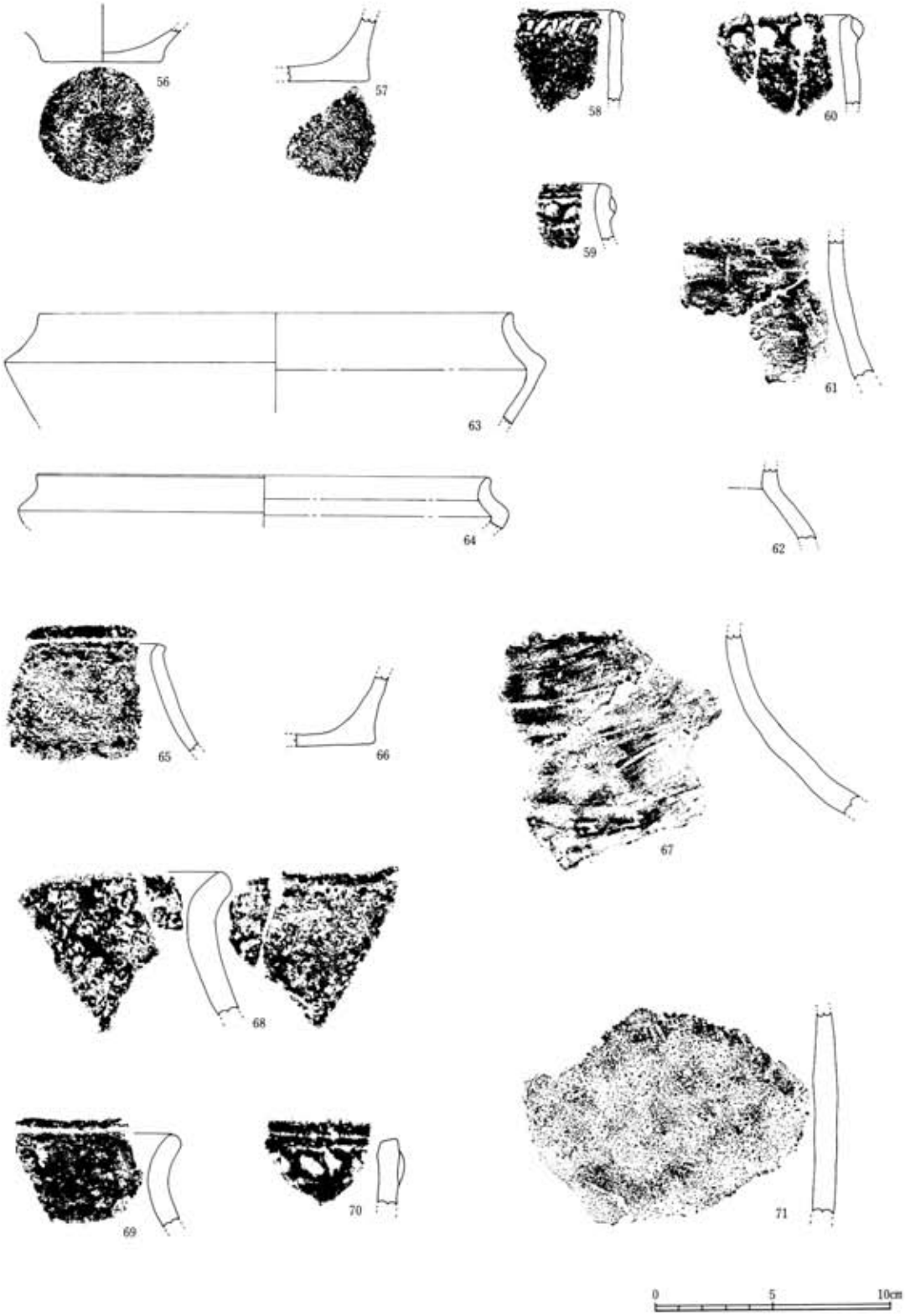
第19図　土器実測・拓影図①



第19図　土器実測・拓影図②



第19図　土器実測・拓影図③



お　わ　り　に

上場地方における縄文晩期の住居址の調査は、枝去木「女山遺跡」についで二例目である。女山では三戸分の柱穴群の平地住居が報告されている。不規則に柱を建てた方形状を呈する形態は、中野の５号建物址と共通する。しかし、これら掘立柱建物址が竪穴住居址であるのが平地式住居であるかは、土面の削平がなされているので即断しがたい。上場地区にはこの時期の遺跡の多いので、今後の調査が進むにつれ縄文晩期の解明もなされていくであろう。

また、弥生時代にはいると生活の舞台は下場地方や海岸線沿いの沖積地に移っていたことは先にも述べたが、中野遺跡は夜臼式土器、板付Ｉ式土器をともなう過渡期の時期の例として注目される。石臼ともいえる大形の石皿の出土は、穀物栽培や、水に悩む上場台地での居住の定着を暗示しているといえよう。

植刃式の組み合わせ石器としての用途が推察されるサイドブレイドは、「原始農耕」か海岸部の遺跡に集中していることから考えられての「漁具」かで意見が分かれているが、それらの研究の一助になれば幸いである。

発掘調査を11月末に終了したため整理も不十分であるので、上場開発事業に伴う一連の調査が終わった時点で総括的に考論したいと思う。

（昭和54年２月28日記）

あ　と　が　き

１．この報告書（第Ｉ・II部）は昭和53年度に国庫補助金を得て実施した上場地区土地改良事業にかかる発掘調査記録である。

２．執筆および編集は堀川義英が担当し、本書の作製は県教育庁文化課文化財調査第二係で行なった。

３．遺物の実測は堀川があたり、田島龍太が協力した。

４．トレースは、堀川、田島があたり、白津トモエが協力した。

５．写真は、堀川が担当した。

６．遺物の整理は堀川があたり、田島龍太、白津トモエ、浦田照千代、白津栄子、隈本鍈子が協力した。

７．富桝憲次、河見哲司、山上龍氏をはじめ山口一秋、前田藤三郎、入船勇、坂本マツ子、前田貞子、松本市治、松本新の各氏の御協力をえた。厚く感謝の意を表したい。

８．牟田辻、中野遺跡出土石器の石質同定一覧表は来年度報告書に掲載したい。

第II部

中　野　遺　跡

図

版

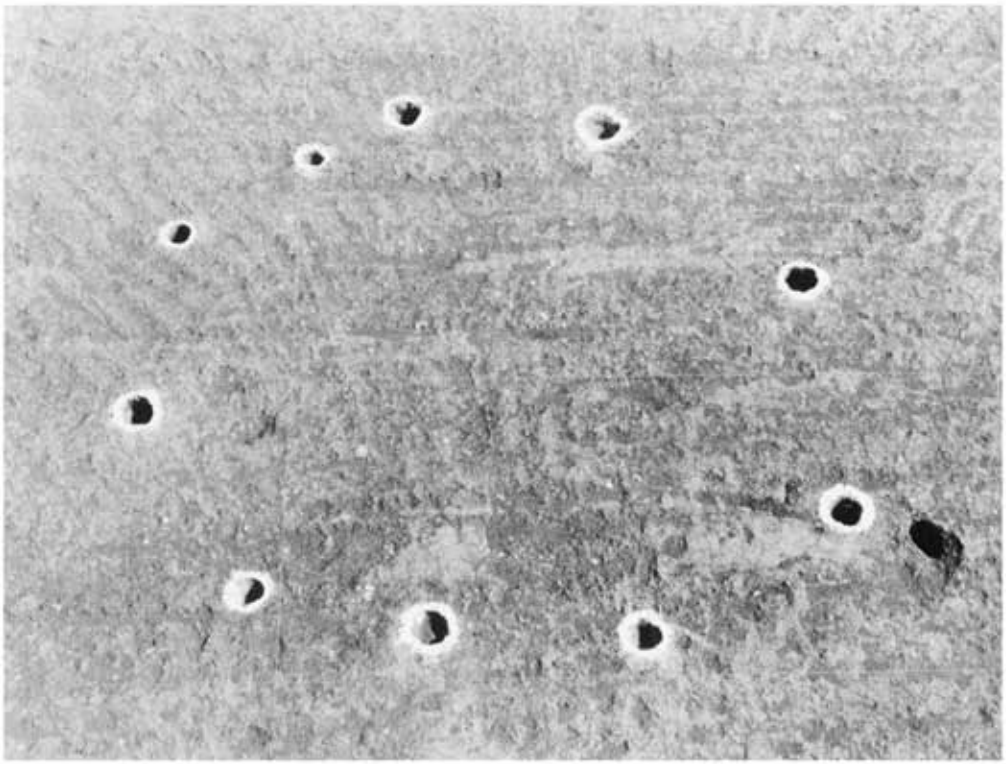
図版１　中野遺跡周辺を空より

図版２－１　遺跡の遠望

図版２－２　中野遺跡の遺構（Ⅰ区）①

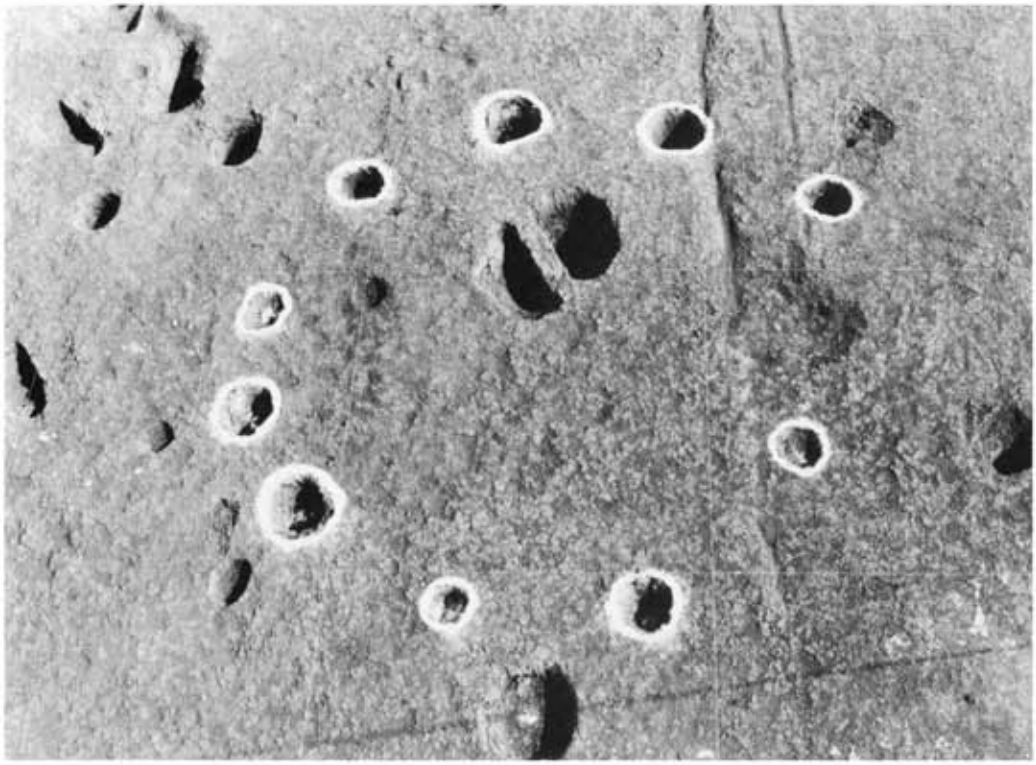
図版３－１　中野遺跡の遺構（II区）②

図版３－２　第１号掘立柱建物址



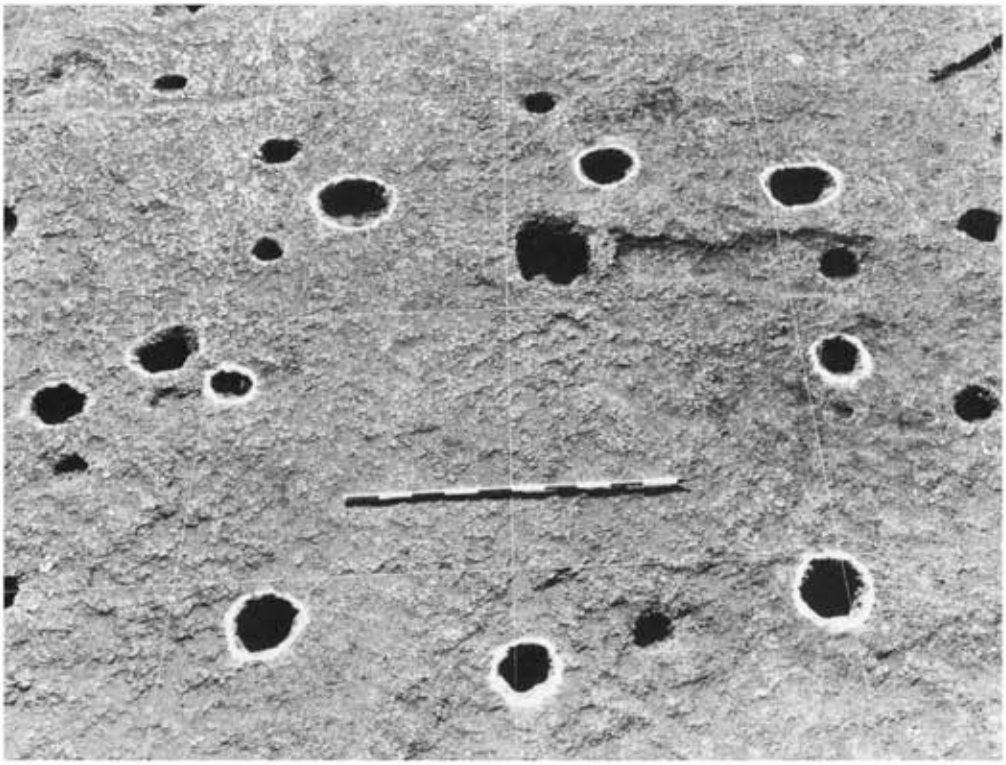
図版４－１　第２号掘立柱建物址

図版４－２　第３号掘立柱建物址



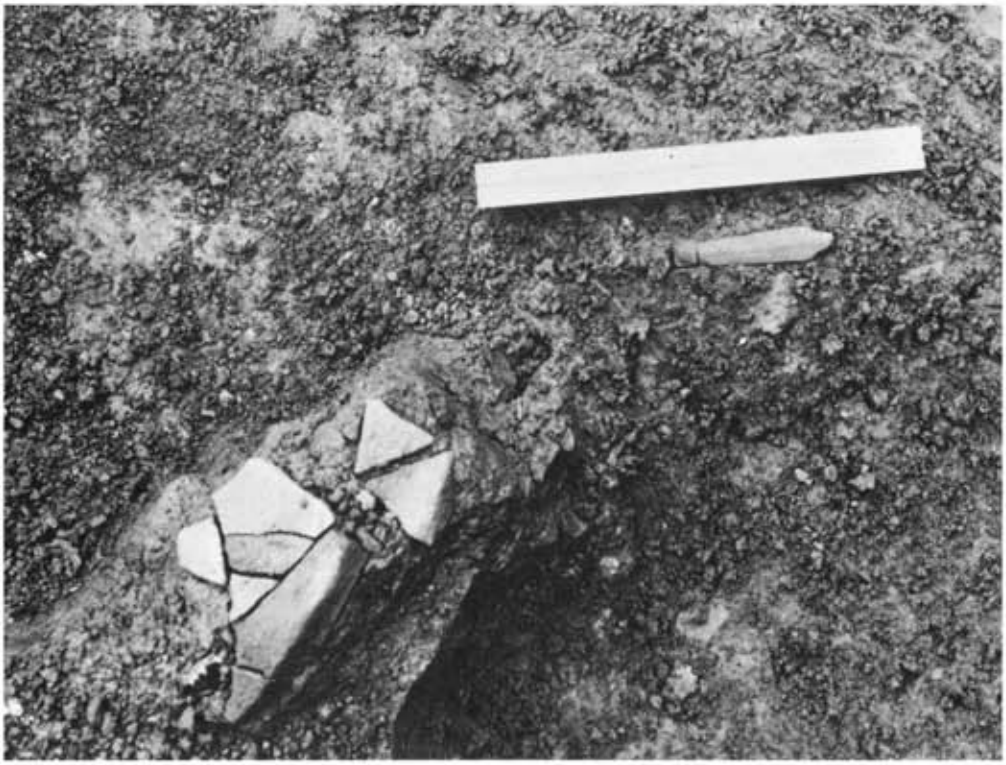
図版５－１　第４号掘立柱建物址

図版５－２　第５号掘立柱建物址

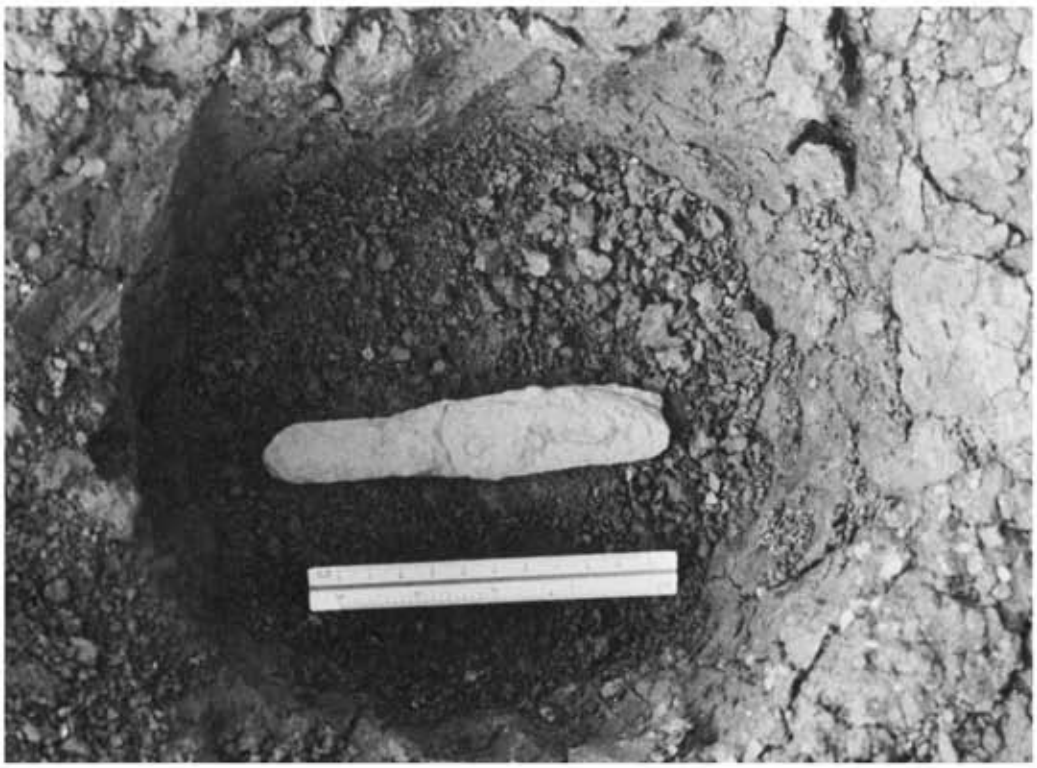


図版６－１　遺物出土状況①（P29）

図版６－２　遺物出土状況②（P29）

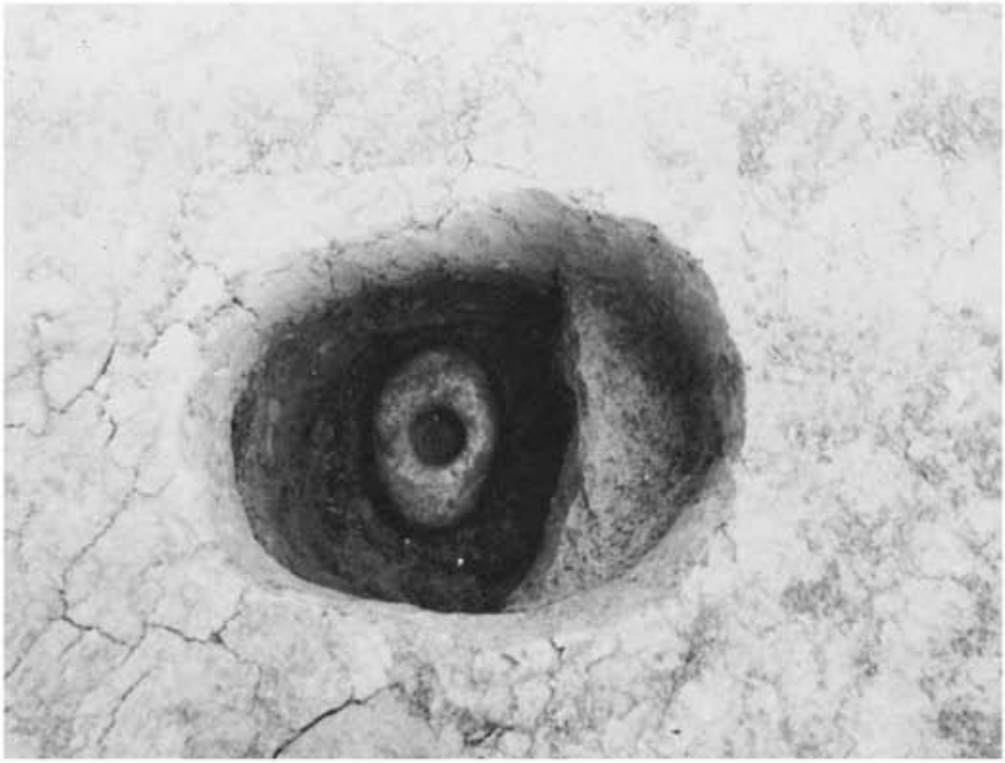


図版７－１　遺物出土状況③（P38）

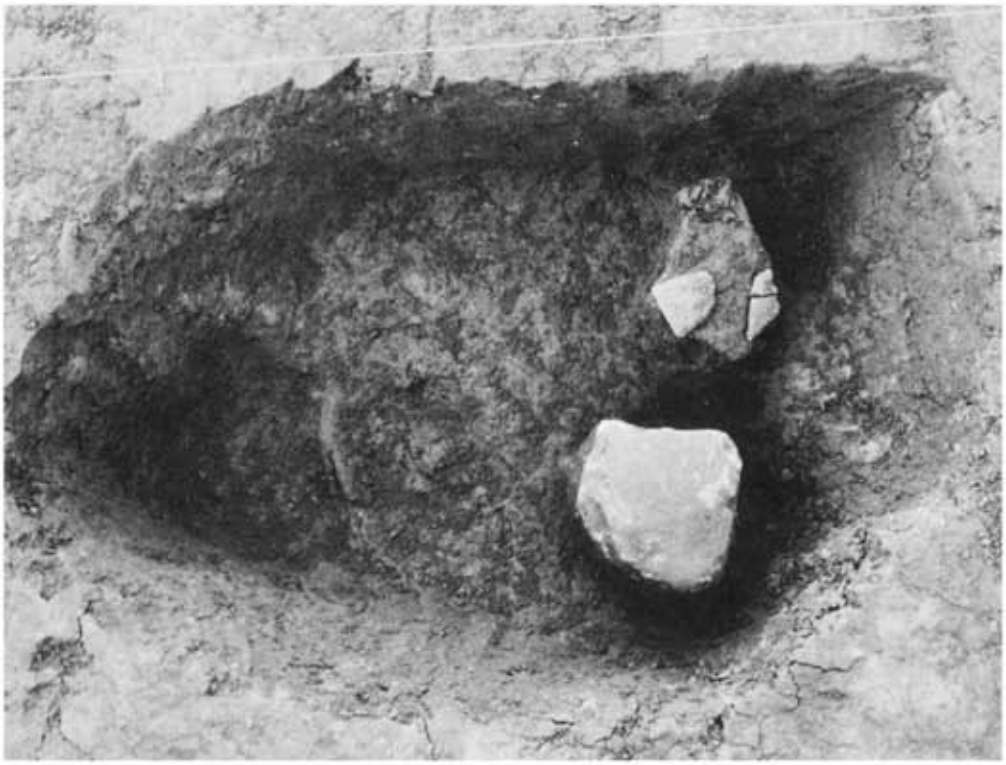


図版７－２　遺物出土状況④（P95）

図版８－１　遺物出土状況⑤（Ｐ131）

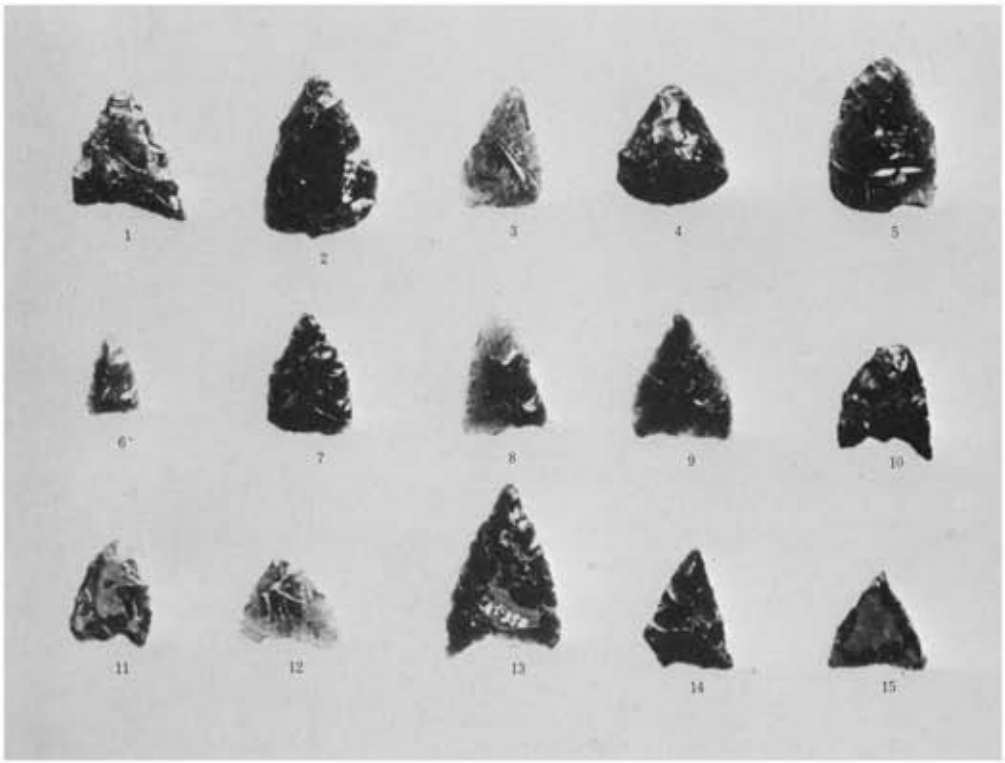


図版８－２　遺物出土状況⑥（Ｐ135）

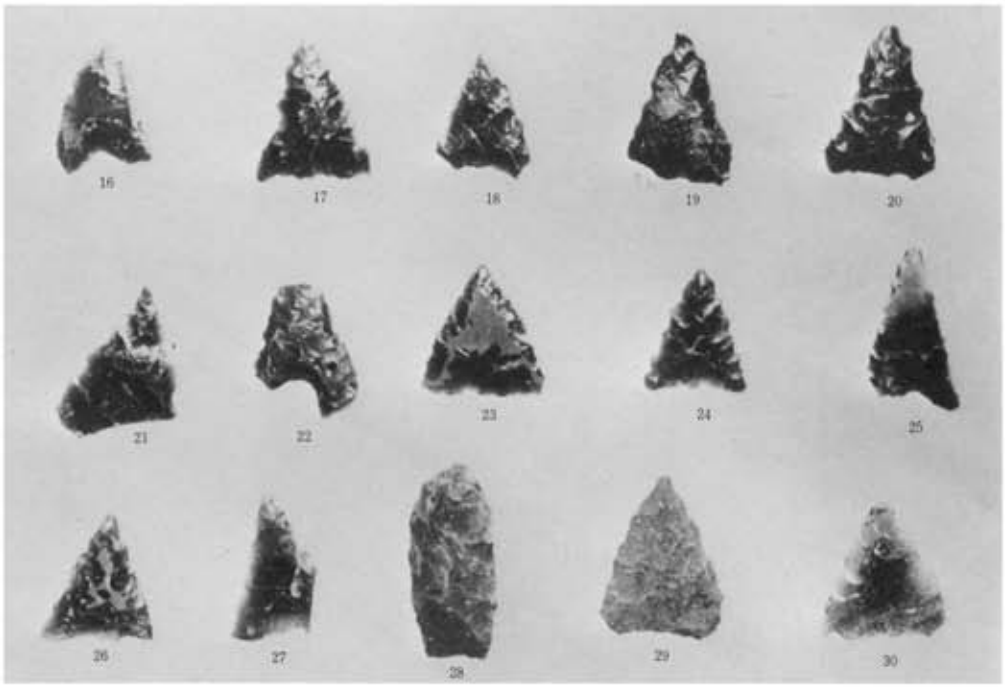


図版９－１　発掘風景

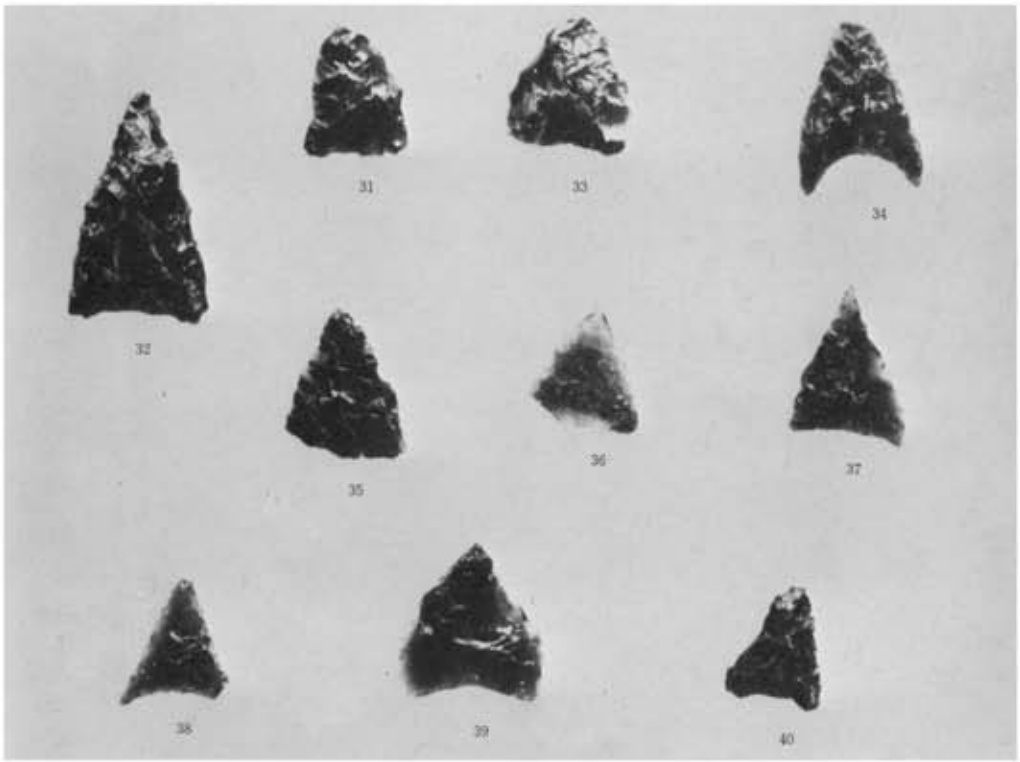
図版９－２　石　　鏃　１



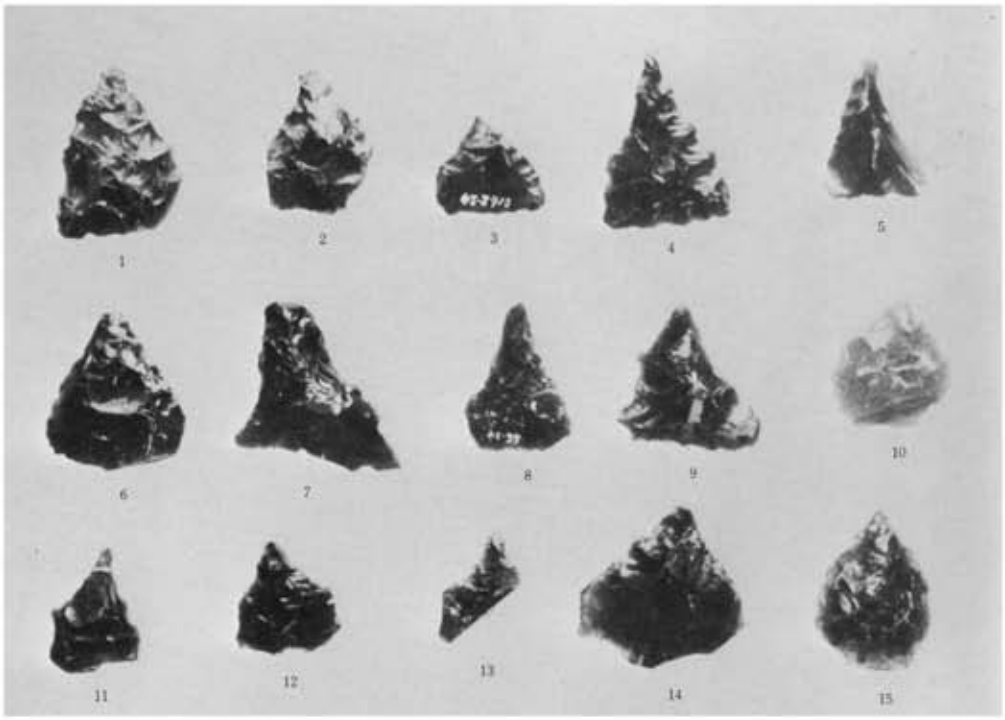
図版10－1　石　　鏃　2



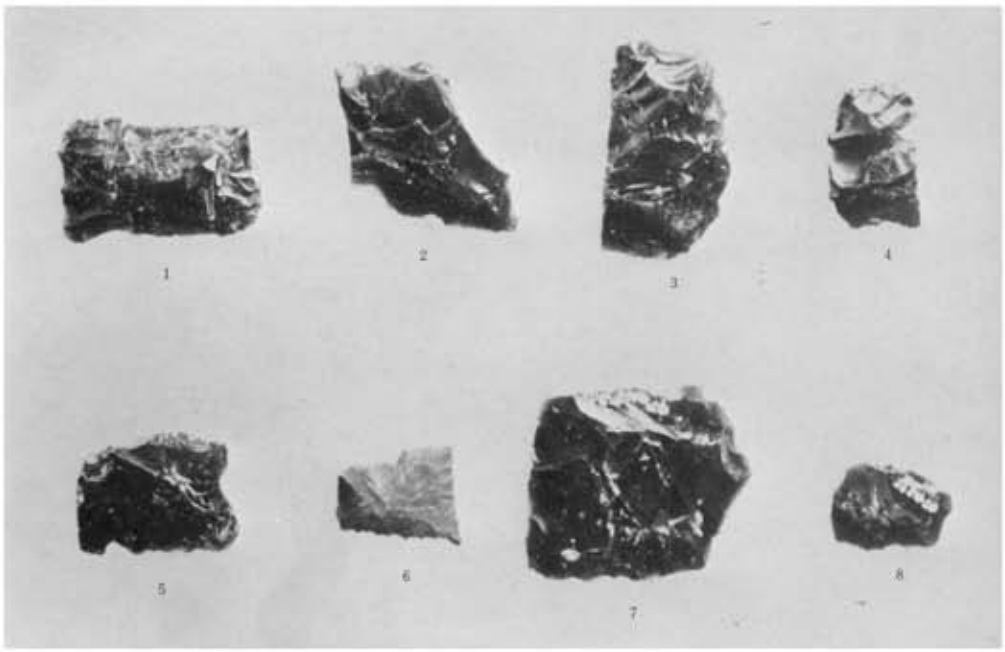
図版10－2　石　　鏃　3



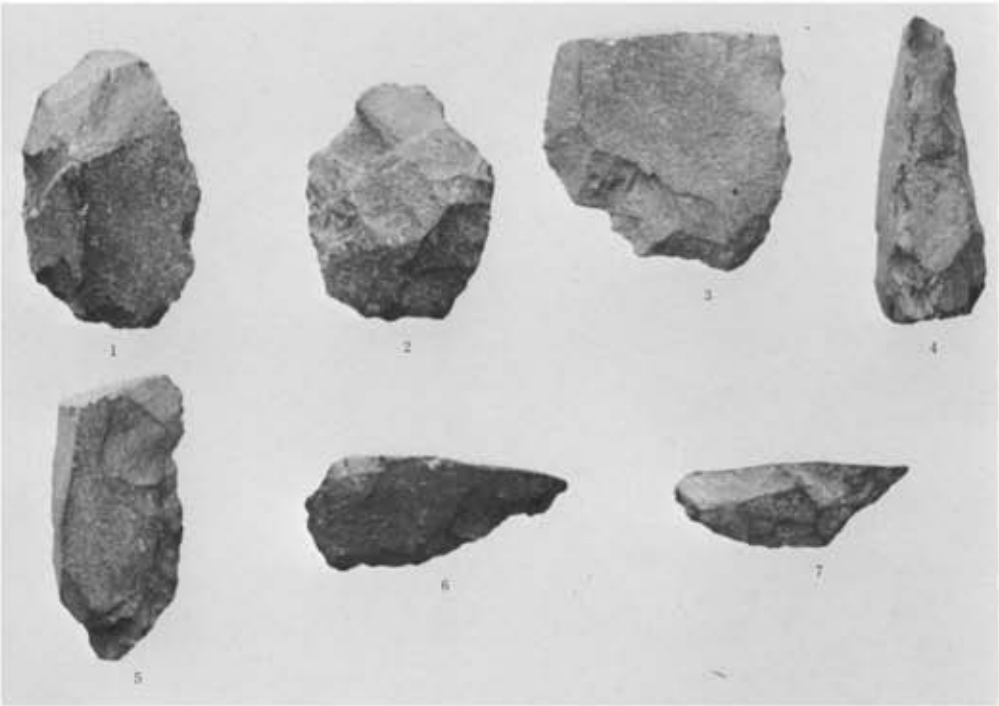
図版11－1　石　　錐



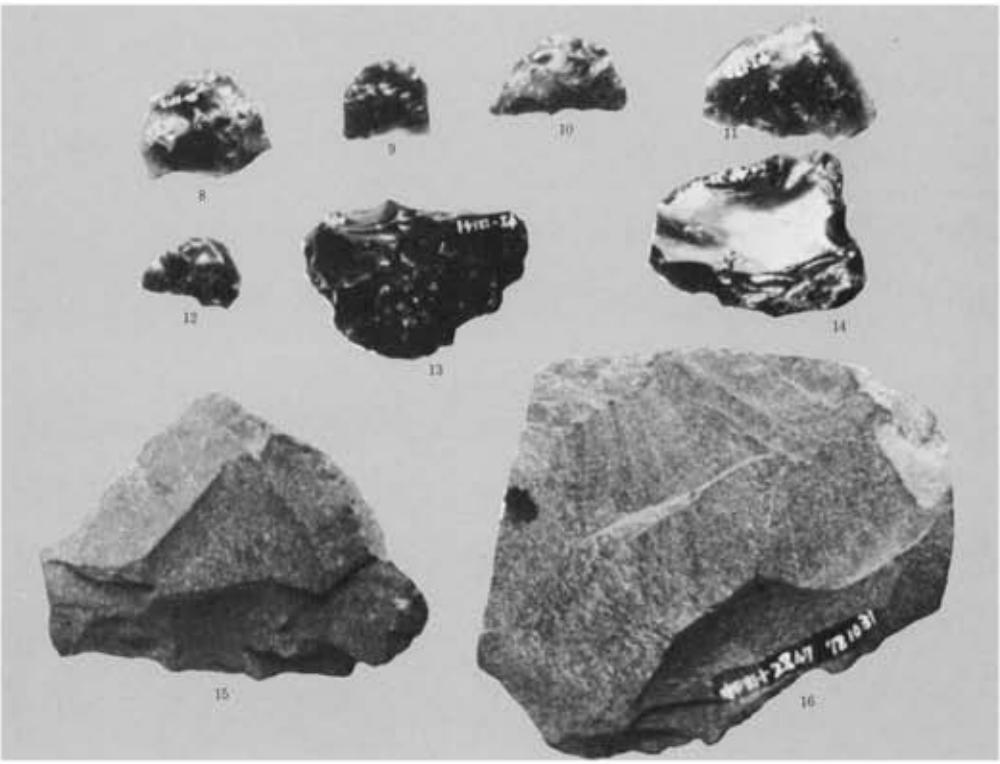
図版11－2　サイド・ブレイド



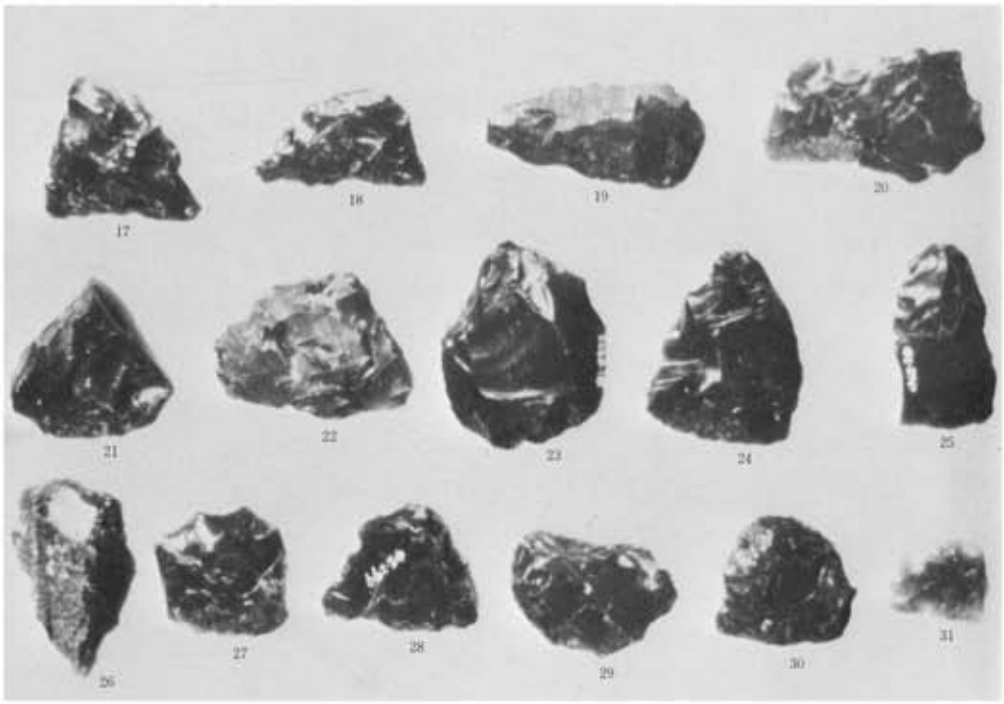
図版12－1　スクレーパー①



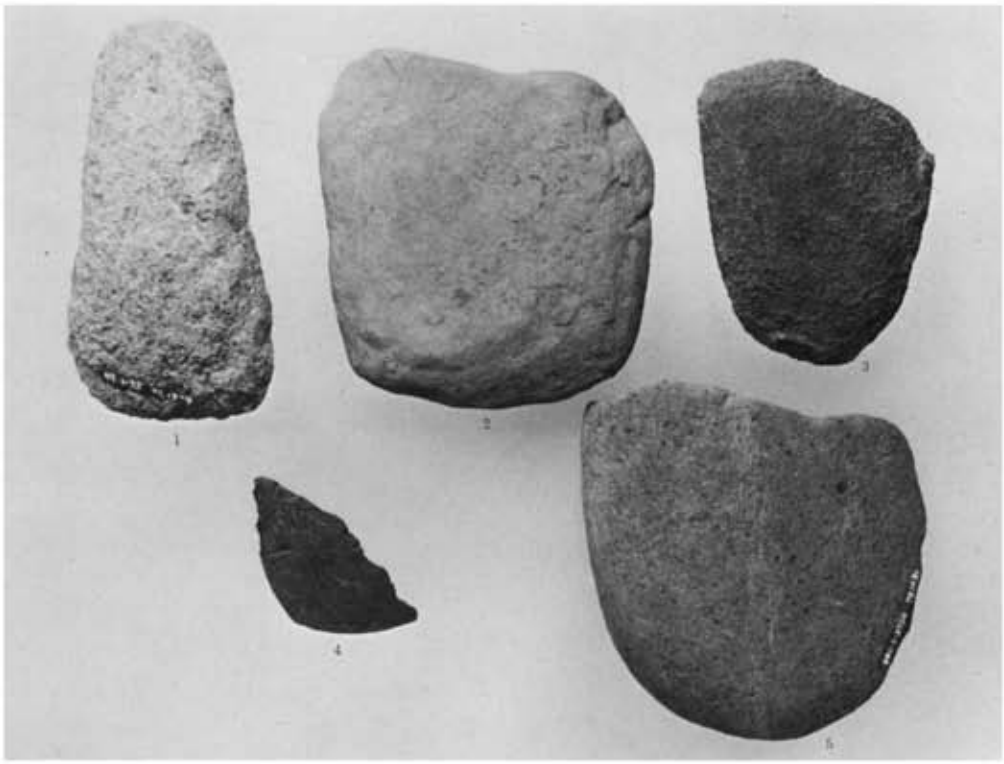
図版12－2　スクレーパー②



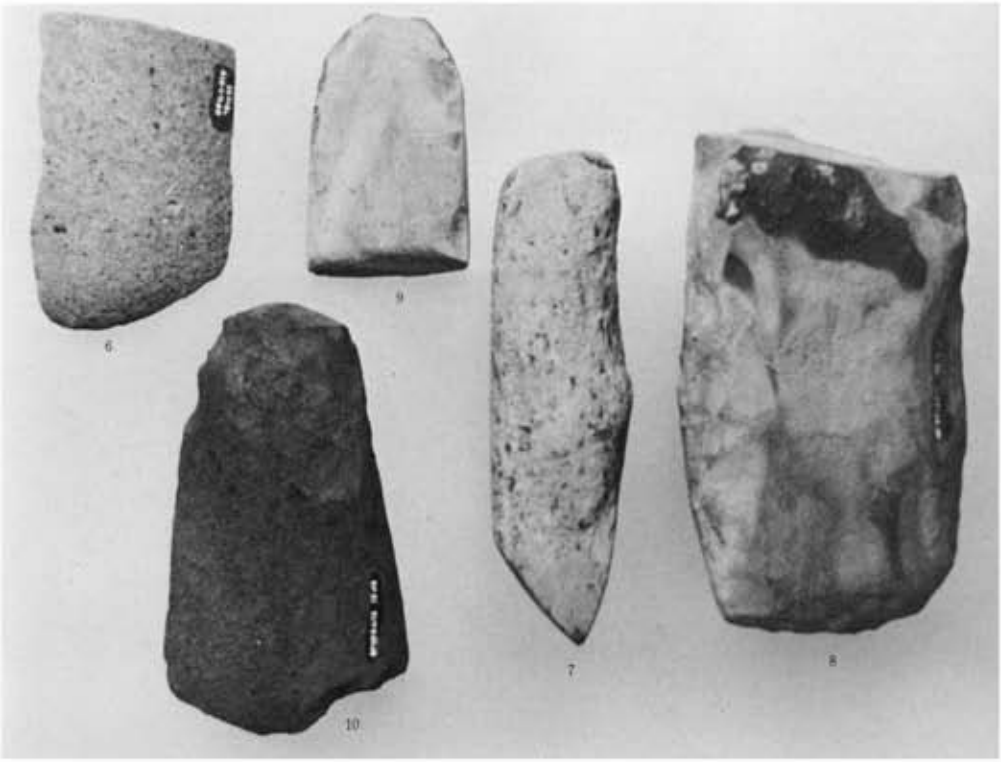
図版13－1　スクレーパー③



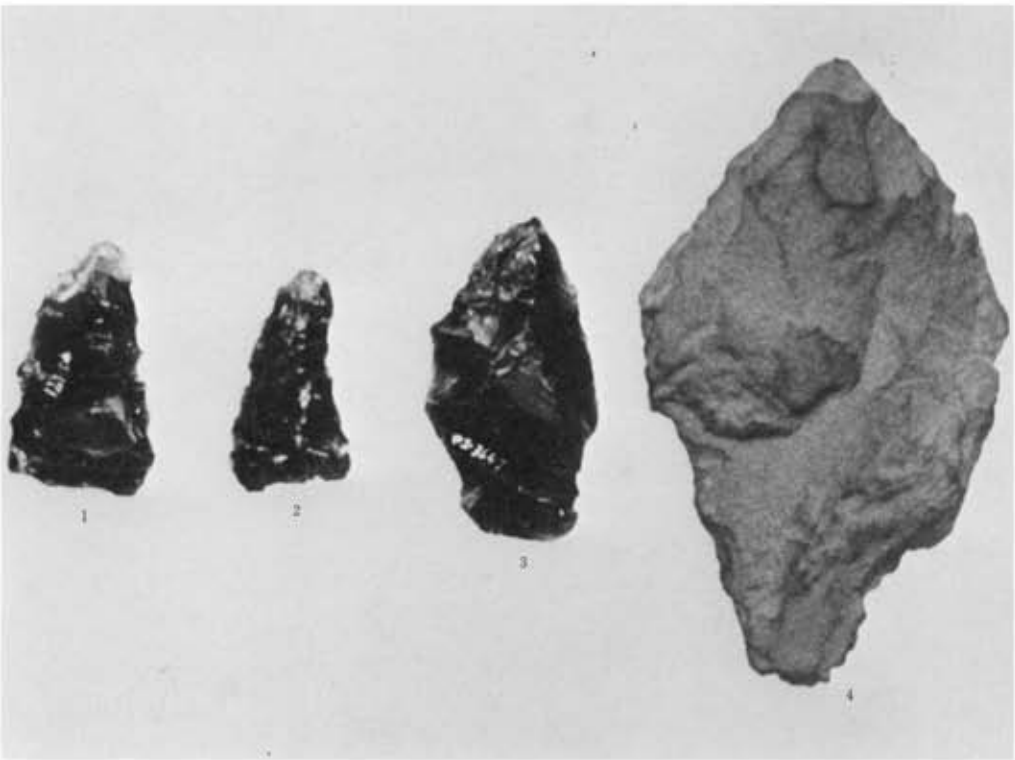
図版13－2　石　　斧　①



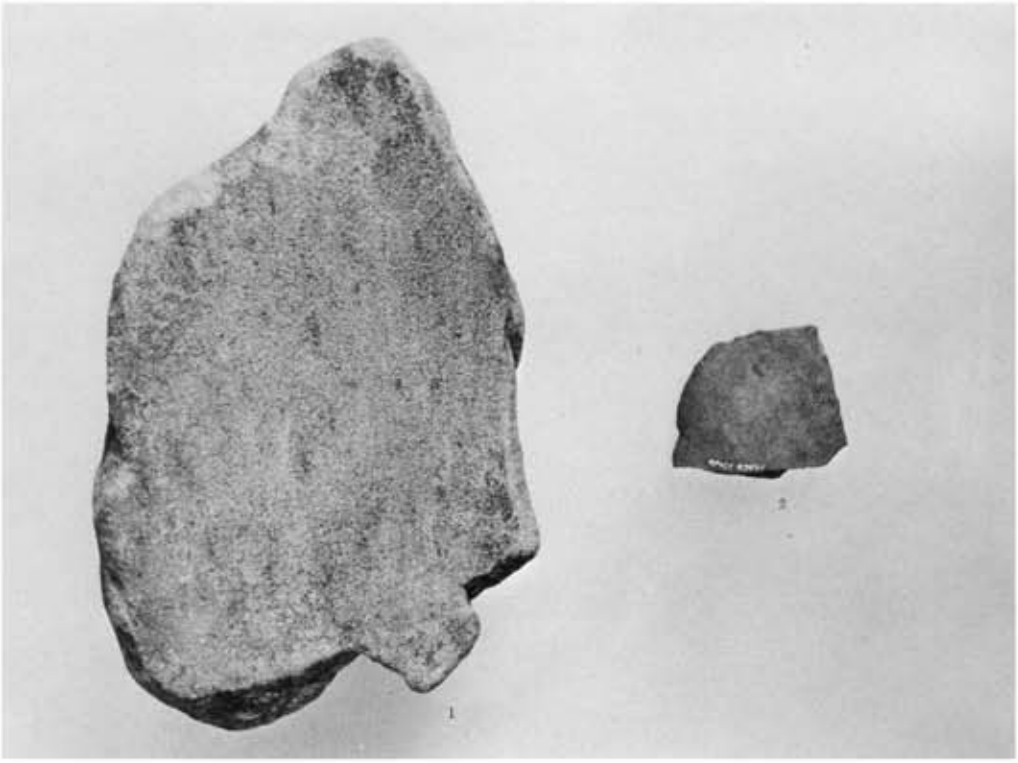
図版14－1　石　　斧　②



図版14－2　尖頭状石器



図版15－1　砥　　石

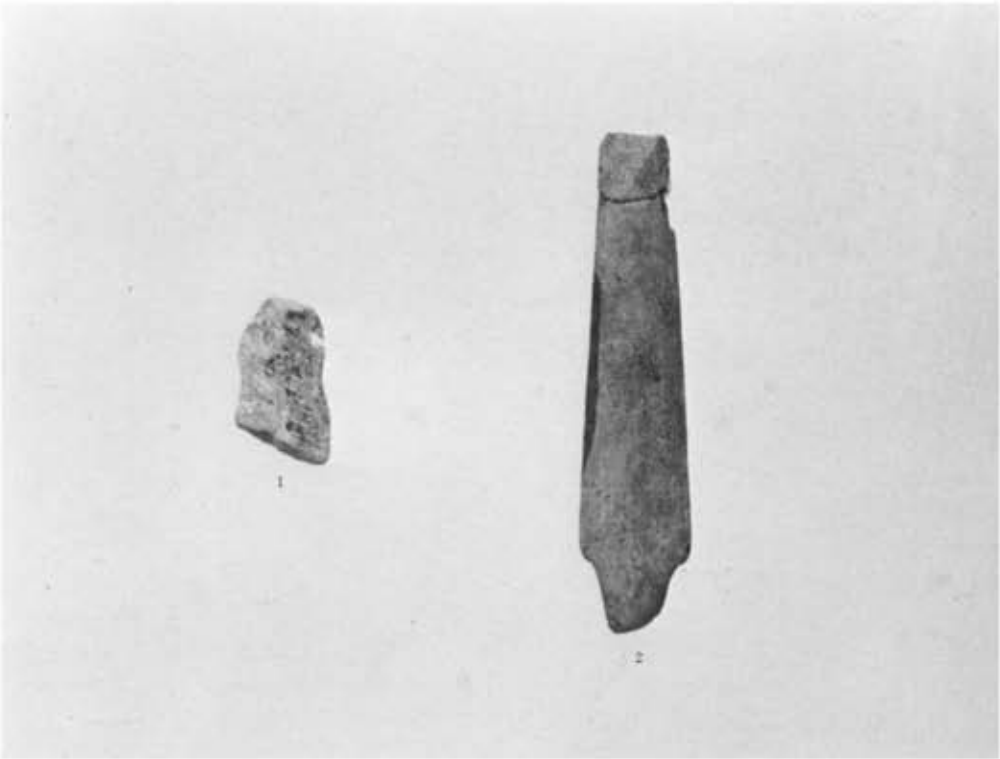


図版15－2　磨　　石

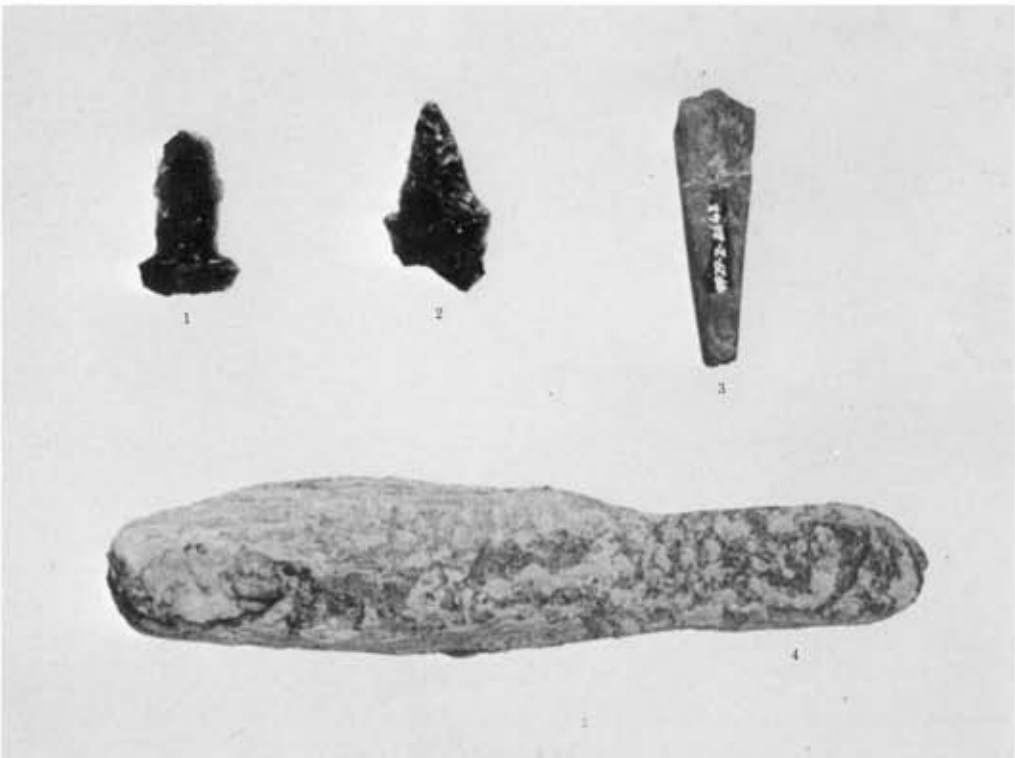
図版16－1　凹石(左)・石皿(右)

図版16－2　石　　皿

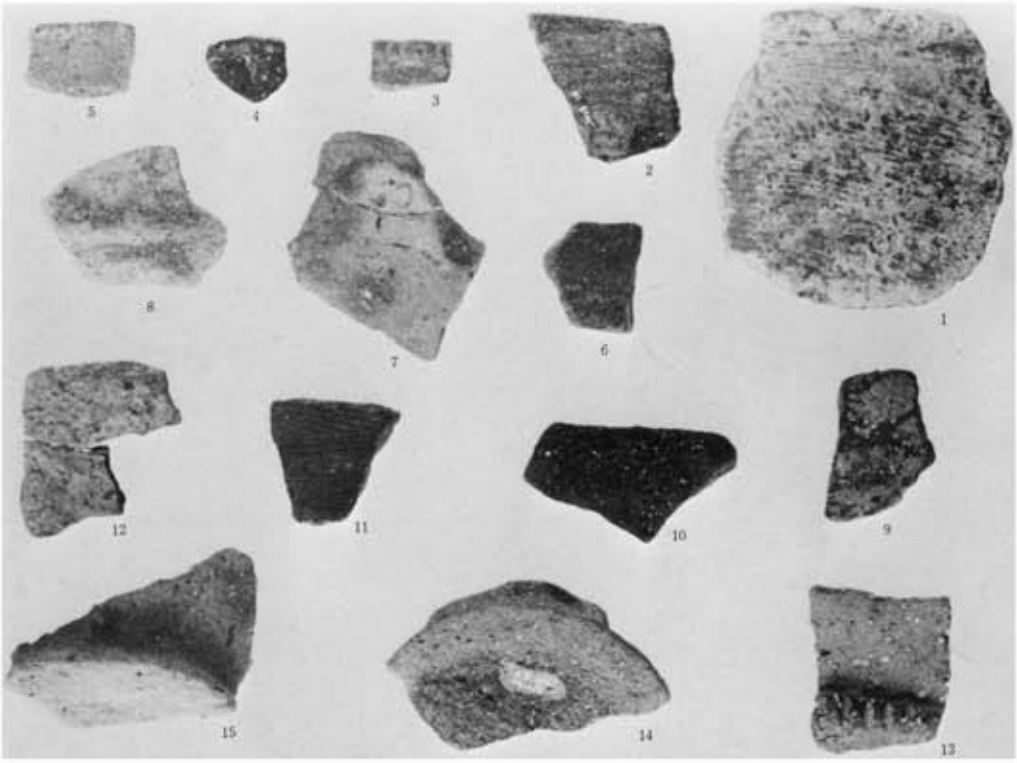
図版17－1　有茎磨製石鏃



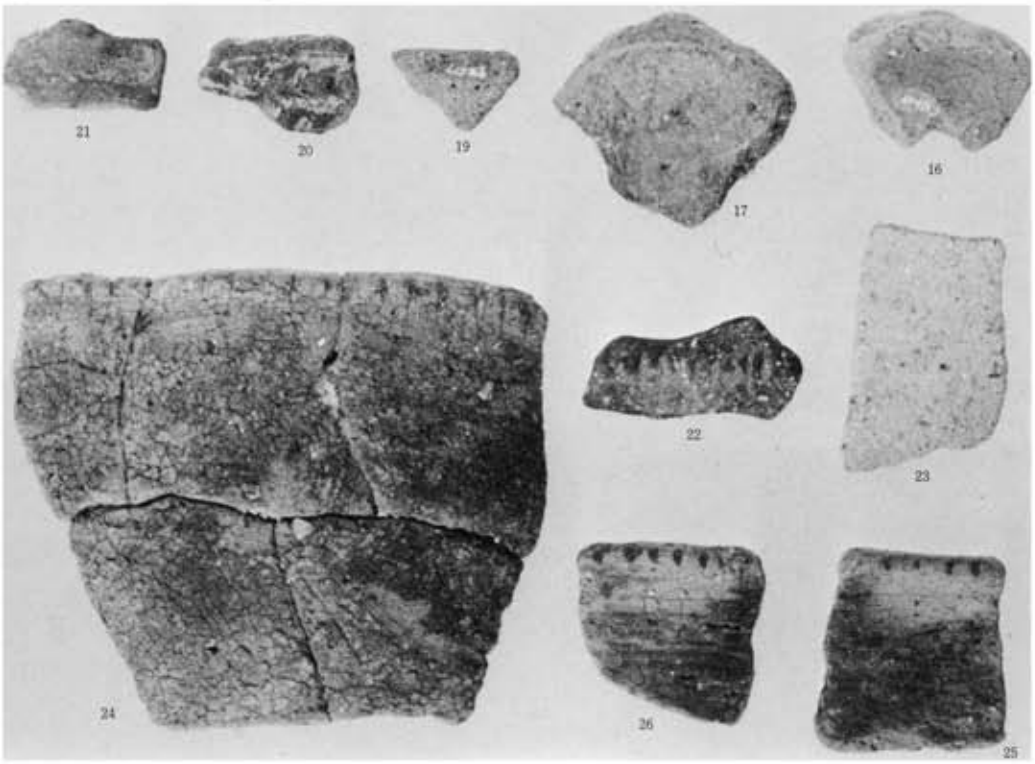
図版17－2　その他の石器



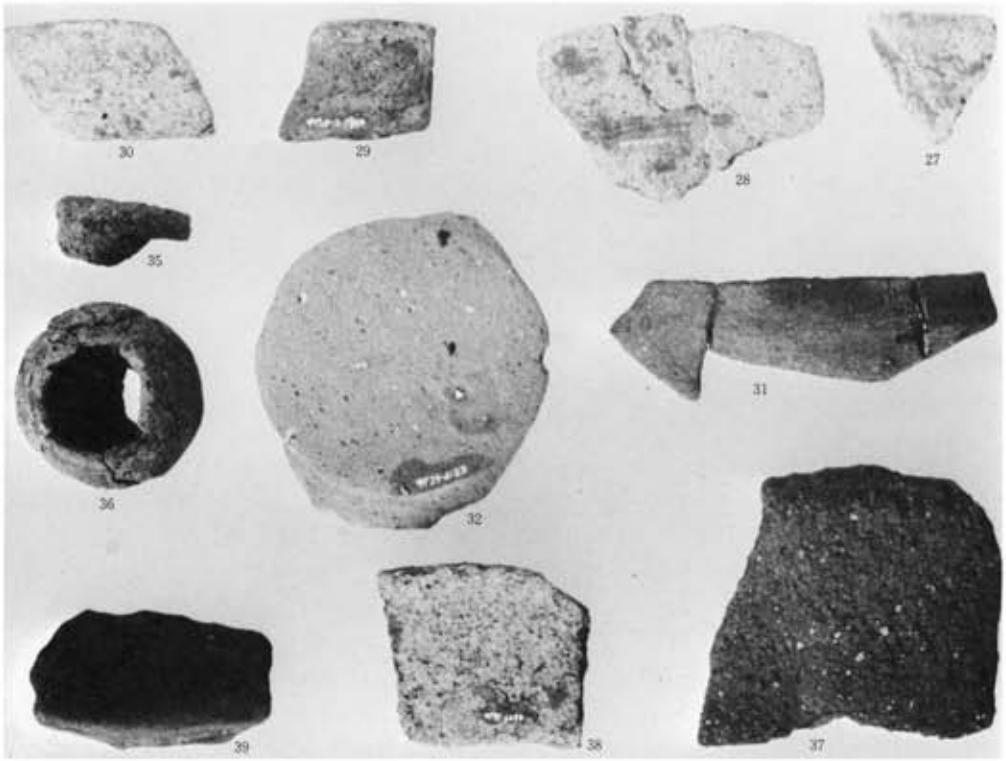
図版18－1　土　　器　①



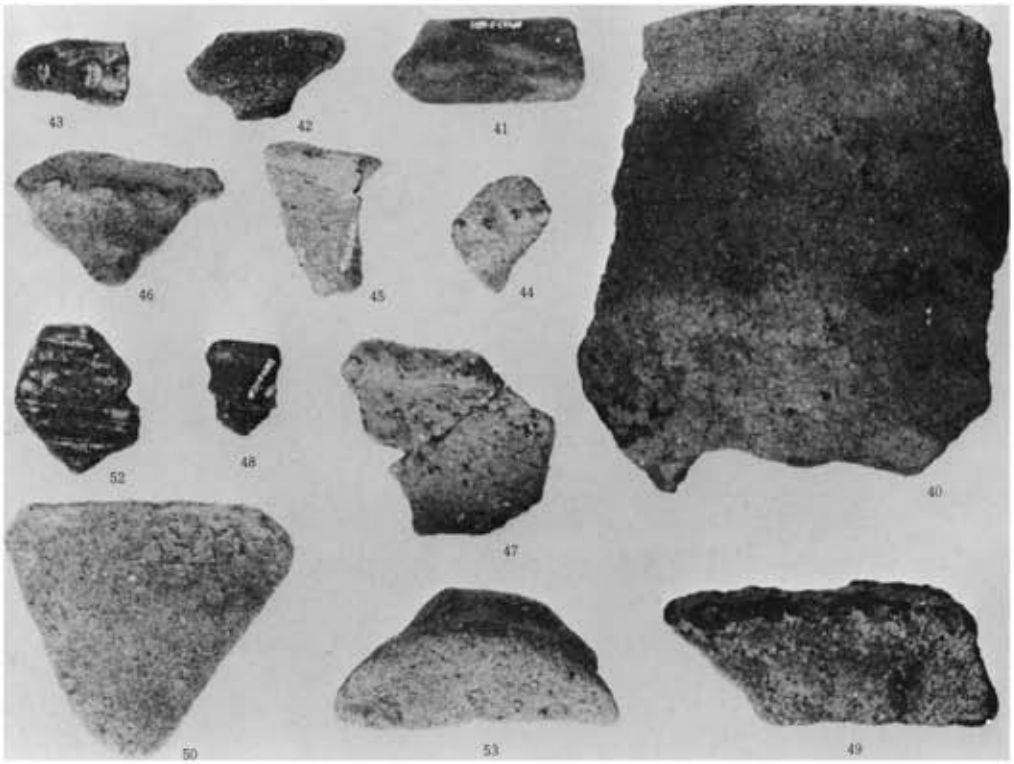
図版18－2　土　　器　②



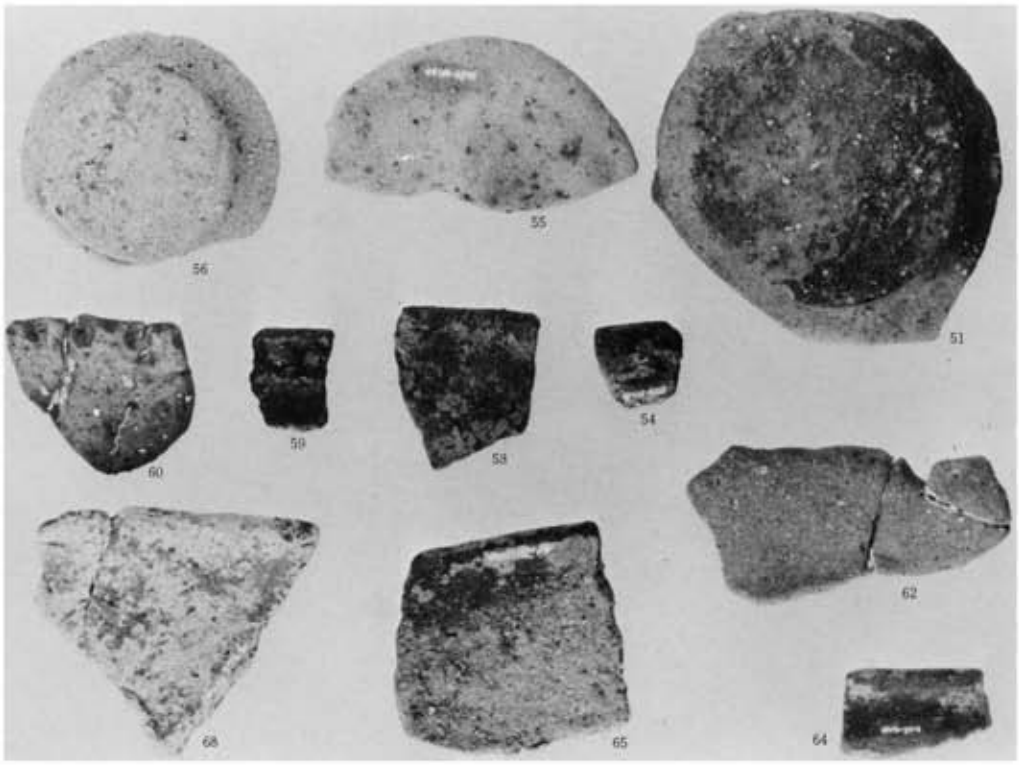
図版19－1　土　　器　③



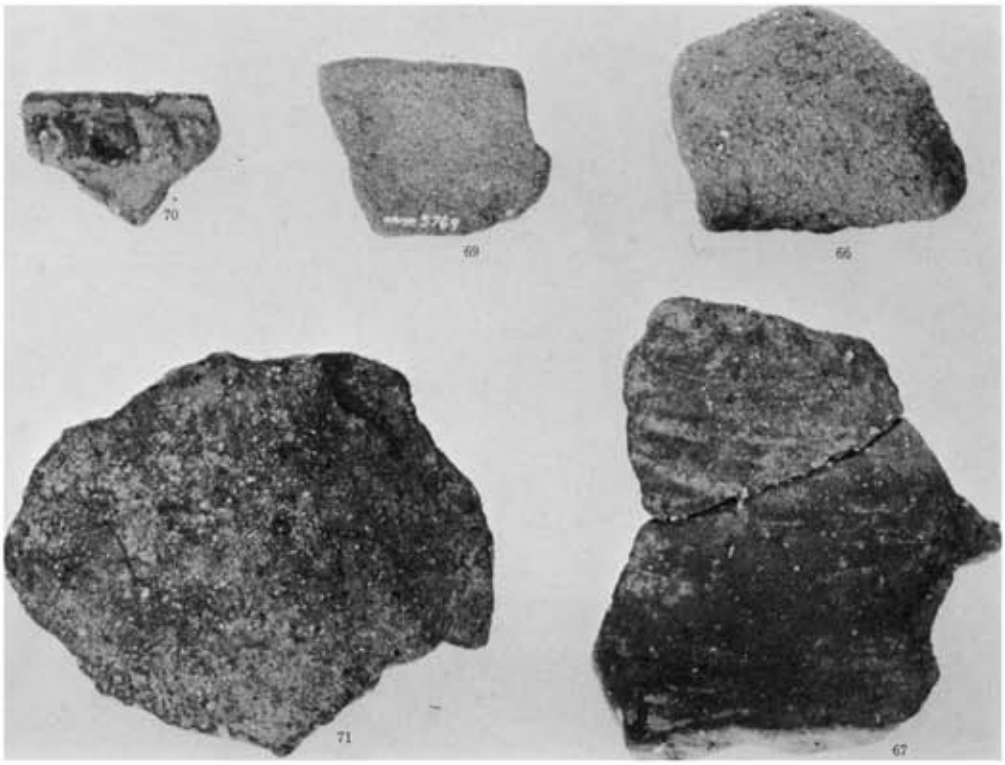
図版19－2　土　　器　④



図版20－1　土　　器　⑤



図版20－2　土　　器　⑥



佐賀県文化財調査報告書第45集

牟田辻・中野遺跡

発行　昭和54年3月31日

編集　佐賀県教育庁文化課

発行　佐賀県教育委員会

印刷　佐賀印刷社